師遺跡·鎌倉遺跡

一関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第28集一

1989

群 馬 県 教 育 委 員 会 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

師遺跡・鎌倉遺跡

一関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第28集一

1989

群 馬 県 教 育 委 員 会 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

		e.	**	

関越自動車道新潟線は、太平洋側の首都東京と日本海側の新潟市を結ぶ高速自動車道として、昭和60年10月1日に開通いたしました。本道路の開通に際しては、数多くの埋蔵文化財が、事前の道路建設工事に先立って調査されました。本県でも58箇所の埋蔵文化財包蔵地が発掘調査され、記録保存されています。

本報告によるところの鎌倉遺跡は、沼田市岡谷町、師B遺跡は利根郡月夜野町師に所在する埋蔵文化財包蔵地であり、前者は昭和55年6月から同年10月、後者は昭和56年6月から同年12月にかけて、当事業団が調査しました。鎌倉遺跡は弥生時代の集落跡、師B遺跡は、古墳時代から平安時代にかけて継続的に営まれた集落跡等が調査され、古代における本県の歴史、特に利根沼田市地方の歴史を知る上での数々の貴重な資料が得られました。これら両遺跡の資料は、昭和62年4月から報告書作成のための整理作業が行なわれ、本年3月にその作業が完了し、報告書を作成することができました。

両遺跡の発掘調査および整理作業にあたっては、日本道路公団東京第二建設局、群馬県教育委員会、沼田市教育委員会、月夜野町教育委員会、地元関係者等多くの方々からのご援助、ご指導、ご協力を賜りました。ここに深く感謝の意を表すとともに、本報告書が県民各位、研究者、教育機関等に活用され、本県の歴史を解明するための資料として、広く活用されることを願い序とします。

平成元年5月31日

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 理事長清水一郎

- 1. 本書は関越自動車道新潟建設に伴う事業名称師B遺跡・鎌倉遺跡の発掘調査報告で文化財保護法とその施行令等に基づいて作成されたものである。
- 2. 発掘調査は事業主体である日本道路公団の委託を受けて(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団が調査主体として実施し、整理作業も同団が行なったものである。
- 3. 調査期間と調査体制
 - ○発掘調査

師 B 遺跡試掘・本調査 昭和56年6月17日~同年12月24日 調査担当 平野進一、調査員 反町正巳 鎌倉遺跡試掘調査 昭和54年10月2日~同年12月14日 本調査昭和55年6月9日~同年8月下旬 調査担当 平野進一、調査員 反田正巳

○事務・接渉 (昭和56年度以降)

白石保三郎、梅沢重昭、松本浩一、井上唯雄、上原啓己、大沢秋良、田口紀雄、平野進一、定方隆史、住谷進、国定均、小林昌嗣、笠原秀樹、須田朋子、吉田有光、柳岡良宏

4. 整理期間と整理体制

期間 昭和62年10月1日~平成元年3月31日 整理担当 大江正行 整理従事者 高橋真樹子、下境マサ江、星野春子、千代谷和子、木暮芳枝、長岡美和子、小池 縁 遺物保存の化学処理 関邦一(技師)、北爪健二(嘱託員)、小材浩一(補助員) 遺物写真撮影 佐藤元彦(技師)

- 5. 本書の作成にあたり、次の調査機関、諸先生、諸兄の教示を受けた。 月夜野町教育委員会、沼田市教育委員会、群馬県工業試験場、県下在住の文化財担当職員および当団職員 胎土分析……花岡紘一氏と化学課の皆さん(群馬県工業試験場)
- 6. 本書の作成・編集は大江正行が担当し、最終責任は大江にある。

石材鑑定……飯島静男(群馬地質研究会々員)

- 7. 本遺跡の記録保存資料および出土遺物は現在、群馬県埋蔵文化財調査センターおよび側群馬県埋蔵文化 財調査事業団に保管、仮管理されている。
- 8. 遺跡名称は事業名称師 B・鎌倉遺跡であったのを、第一篇第2章のとおり師遺跡・鎌倉遺跡とした。また関越自動車道地域新潟遺跡略称は師遺跡が K K 42で、鎌倉遺跡が K K 37で表記され遺物注記、記録図面表記はこの略称が用いられている。
- 9. 本書の凡例は次のとおりである。
 - (1) 遺構方位は国家座標系第IX系の座標を示し、グリットと方位との関係は第2篇第1章に詳しい。
 - (2) 縮少率は住居跡図を1:80、同竈図を1:40としたが図毎に表記してある。遺物実測図は1:3 を原則とし、小さな遺物種については1:2の縮小率とした。
 - (3) 遺物写真はおよそ1:3を原測としたが、小さな遺物種についてはおよそ1:2の縮小率を用いた。 遺構写真については平野進一が撮影した。
 - (4) 細かな凡例は各篇か各章の冒頭で触れているので参照されたい。
 - (10) 本書の作成にあたり、鎌倉遺跡調査担当者としての所感を平野進一(当団 調査研究第一課長)に、同遺跡出土の縄文式土器について桜岡正信(当団 調査研究第一課主任調査研究員)に原稿依頼し、目次は大江を除く執筆者名を明記した。

本文目次

第1篇	発掘調査の経緯と経過 9		A群~H群 155
第1章	発掘調査に至る経緯 9		縄文土器(桜岡正信) 157
第2章	発掘調査の過程 10	第5篇	遺物観察 159
第2篇	調査方法と基本層位 12	第1章	師遺跡 159
第1章	調査方法 12		S J 01~ S J 40 ······· 159~173
第2章	基本層位 13		S J 41~ S J 60 ······ 173~176
第3篇	周辺の環境 14		S J 61~S J 80 ······ 177~181
第4篇	検出された遺構と遺物 16		S J 81~ S J 89 ······· 181~183
第1章	師遺跡 16		特殊遺物 184~185
	住居跡 18	第2章	鎌倉遺跡 186
	S J 01~S J 09 ······ 18~39		SJ01~SJ09・ほか 186~197
	S J 10~ S J 19 ······ 39~49	第6篇	師・鎌倉・後田遺跡出土土器
	S J 20~ S J 29 ······ 49~56		の胎土分析
	S J 30~ S J 39 ······ 56~66		(花岡紘一・大江正行) 198
	S J 40~ S J 49 ······ 66~79	第7篇	まとめ (平野進一) 209
	S J 50~ S J 59 ······ 79~88		
	S J 60~S J 69 ······ 88~99		
	S J 70~ S J 79 ······ 99~108		
	S J 80~ S J 90 ······ 108~117		
	井戸遺構 117		19.2
	S E 01 117		
	墓跡 117		
	S Z 01 117		
	さく遺構 117		
	A群~G群 118~120		
	特殊遺物 120		
第2章	鎌倉遺跡 128		
	住居跡 131		
	S J 01~ S J 05 ······· 131~139		
	S J 06~S J 09 ······ 139~154		
	井戸遺構 154		
	墓跡 154		
	土壙 154		

さく遺構 …………… 154

図 版 目 次

師 遺 跡

Ade	4	Total.	好、然会事是还没上回得 4回	10	第 58	ि जि	e I	992番粉図		E9
44	1		師,鎌倉遺跡標準土層概念図		100 00					
第	2		鎌倉遺跡台地上土層断面		第 59					
第	3	図	鎌倉遺跡低地土層断面	13	第 60				***************************************	
第	4	义	周辺遺跡分布図	15	第 61	义	SJ	26遺構図		53
第	5	図	師遺跡周辺地形と小字界図	17	第 62	図	S J	27遺構図		54
第	6	図	師遺跡遺構全体図 19・	20	第 63	図	SJ	27遺物図	***************************************	54
徳	7	図	S J 01遺構図		第 64	図			***************************************	
	8		S J 01遺物図		第 65					
63.0	9	1250			第 66	i and				
			S J 02遺構図							
	10		S J 02遺物図		第 67	200			***************************************	
	11		S J 02遺物図	23	第 68					
第	12	図	S J 03遺構図	24	第 69	図			\cdots	
第	13	図	S J 03遺物図	24	第 70	図	SJ	31遺構図		58
第	14	図	S J 03遺物図	25	第 71	図	SJ	31遺物図		58
第	15	図	S J 03遺物図	26	第 72	図	S J	31遺物図		59
第	16	図	S J 03遺物図		第 73	図			***************************************	
	17		S J 03遺物図		第 74	図			***************************************	
2400	18		S J 03遺物図		第 75					
	19				第 76					
			S J 04遺構図						A DARFY SUCCESSION OF SUCCESSI	
	20		S J 04遺物図		第 77	10000				
27	21		S J 04遺物図		第 78				***************************************	
第	22	図	SJ05遺構図	32	第 79	図	S J	34遺物図		64
第	23	义	S J 05遺物図	32	第 80	図	S J	35遺構図		64
第	24	図	S J 05遺物図	33	第 81	义	SJ	35遺物図	***************************************	65
第	25	义	S J 06 · 07遺構図 ······		第 82	図	S J	36遺構図		65
第	26	図	S J 05~07遺物図		第 83	図			***************************************	
筆	27	図	S J 08遺構図		第 84					
	28		S J 08遺物図		第 85					
name o										
1201	29		S J 09遺構図		第 86				***************************************	
	30		S J 09遺物図		第 87				***************************************	
	31		S J 09遺物図		第 88				***************************************	
第	32	义	S J 09遺物図	38	第 89	図	S J	38遺物図	***************************************	69
第	33	図	S J 10遺構図	39	第 90	図	S J	39遺構図	$, \ldots, \ldots$	70
第	34	図	S J 10遺物図	39	第 91	図	S J	40遺構図		70
第	35	[2]	S J 11遺構図	40	第 92	図	S J	40遺物図	***************************************	71
第	36	図	S J 11遺物図	40	第 93	図			***************************************	
第	37	図	S J 12 · 90遺構図 ······		第 94	図				
	38		S J 12遺物図		第 95					
	39				第 96					
	40		S J 12遺物図		822					
			S J 13遺構図 ····································		第 97				***************************************	
S.,	41		S J 13遺物図		第 98				***************************************	
第	42	区	S J 14遺構図		第 99				***************************************	
第	43	図	S J 14遺物図 ·······	43	第 100) 図	S J	44遺構図		75
第	44	[2]	S J 15遺構図	44	第 10	1図	S J	45遺構図		76
第	45	図	S J 15遺物図	44	第 102	2 図	S J	46遺構図		76
第	46	図	S J 16遺構図	46	第 10:	3 図	s J	46遺物図		76
第	47	図	S J 16遺物図	46	第 10					
	48		S J 16遺物図		第 10					
	49		S J 17·18·19遺構図	-						
					第 100					
200	50	100	S J 17遺物図		第 107				***************************************	
	51		S J 20遺構図		第 108				***************************************	1655
23%	52		S J 21遺構図		第 109	図	S J	49遺物図	***************************************	79
第	53	図	S J 21遺物図		第 110)図	S J	50遺構図		80
第	54	义	S J 22遺構図	50	第 11	図	S J	50遺物図		81
第	55	义	S J 22遺物図	50	第 112	2 図	S J	51遺構図	***************************************	82
第	56	义	S J 22遺物図	51	第 113	3 図	S J	52遺構図		82
第	57	図	S J 23遺構図	52	第 114	200			***************************************	

第115図	S J 53·54遺	青図	83	第177図	S J 88遺構図	114
第116図	S J 53·54遺4	物図	83	第 178 図	S J 88遺物図	114
第117図	S J 55遺構図		84	第179図	S J 89遺構図	115
第118図	S J 55遺物図		84	第 180 図	S J 89遺物図	116
第119図	S J 56・57遺析	舞図	85	第 181 図	S E 01遺構図	118
第120図	SJ56遺物図		85	第 182 図	さく遺構図	119
第121図	S J 57遺物図		87	第 183 図	須恵器特殊器種	123
第122図	S J 58遺構図		87	第 184 図	小形粗製土師器	123
第123図	S J 58遺物図		87	第 185 図	竈土製支脚と用途不明土製品	124
第124図	S J 59遺構図		87	第 186 図	土 王	124
第125図	S J 59遺物図		87	第 187 図	紡錘車	124
第126図	S J 60遺構図		89	第188図	砥 石	124
第127図	S J 60遺物図		89	第 189 図	到 口	124
第128図	SJ60遺物図		90	第190図	灰釉陶器 ·····	125
第129図	S J 61遺構図		91	第191図	墨書土器	125
第130図	S J 61遺物図		91	第192図	中近世・軟質陶器	125
第131図	S J 62遺構図		92	第193図	近世陶・磁器	125
第132図	S J 62遺物図		92	第194図	石 板	
第 133 図	SJ63遺構図		93	第195図	古 銭	126
第134 図	SJ64遺構図		94	第196図	鉄製品	
第 135 図		***************************************		第197図	石器実測図	126
第 136 図				第 198 図	平野部からの搬入土器とそれに類した胎土の一群」	127
第 137 図						
第 138 図						
第 139 図						
第 140 図				鎌倉	遺跡	
第 141 図				- n-		
第 142 図				第 199 図	鎌倉遺跡周辺地形と小字区界図	129
第 143 図				第 200 図	鎌倉遺跡遺構全体図	
第 144 図				第 201 図	S J 01遺構図	
第 145 図				第 202 図	S J 01遺物図	
第 146 図				第 203 図	S J 01遺物図	
第 147 図				第 204 図	S J 01遺物図	
第 148 図				第 205 図	S J 02遺構図	
第 149 図				第 206 図	S J 02遺物図	
第 150 図		CAMERICAN CONTRACTOR C		第 207 図	S J 02遺物図	
第 151 図				第 208 図	S J 03遺構図	
第 152 図				第 209 図	S J 03遺物図	
第 153 図				第 210 図	S J 03遺物図	
第 154 図				第211図	S J 04遺構図	
第 155 図				第 212 図	S J 04遺物図	
第 156 図				The second second	S J 05遺構図	
第 157 図		***************************************		第 214 図	S J 05遺物図	
第 158 図				第215 図	S J 05遺物図	
第 159 図				第 216 図	S J 06遺構図	
第160図				第 217 図	S J 00遺傳因 S J 06遺物図	
第161図				第 217 区	S J 06遺物図	
第162図				第 210 図	S J 00遺物図 S J 07遺構図	
第 163 図				第 220 図	S J 07遺物図	
第164図	to work and the control of the latest			第 221 図	S J 07遺物図	
第165 図				第 222 図	S J 08遺構図	
第166 図				第 223 図	S J 08遺物図	
第167図				第 224 図	S J 00週初四 S J 09遺構図	
第168図					S J 09遺構図	
第169図	The second second second			第 225 図		
第170図				第 226 図	土壙集成図 SK01~06	
第170 図				第 227 図		
				第 228 図	土壙集成図 S K 15~19	
第 172 図				第 229 図	土壙集成図 S K 20~26	
第 173 図				第 230 図	土壙集成図 SK27~29	
第 174 図				第 231 図	土壙・グリット遺物図	
第 175 図	SERVICE SERVICES	構図		第 232 図	さく遺構図	
第176図	S J 86遺物図		113	第 233 図	縄文土器図	198

写真図版目次

写真図版10 1左 S J 76遺物出土状態 右 S J 79床面状態 2左 S J 80遺物出土状態

師遺	跡				
写真図版1	上	師遺跡と利根川・三国連山		右	S J 84 · 85遺物出土状態
	下	師遺跡と後田遺跡		3左	S J 86遺物出土状態
写真図版 2	上	師遺跡を北上空より望む		右	S J 88遺物出土状態
	下	師遺跡を西上空より望む		4左	S J 89遺物出土状態
写真図版 3	上	師遺跡A区近景		右	S E 01近景
	下	師遺跡B・C区近景	写真図版11		S J 01・02遺物
写真図版 4	1左	S J 01遺物出土状態	写真図版12		S J 03遺物
	右	S J 02遺物出土状態	写真図版13		S J 03遺物
	2左	S J 03遺物出土状態	写真図版14		S J 03遺物
	右	S J 03竈周辺遺物近接	写真図版15		SJ03・04・05遺物
	3左	S J 04遺物出土状態	写真図版16		SJ05・08・09遺物
	右	SJ08竈近景	写真図版17		S J 09遺物
	4左	S J 09·10遺物出土状態	写真図版18		S J 09遺物
	右	S J 09竈近景	写真図版19		S J 09·10·11·12遺物
写真図版 5	1左	S J 11遺物出土状態	写真図版20		S J 12·13·15遺物
	右	S J 12·90床面状態	写真図版21		S J 16遺物
	2左	S J 13遺物出土状態	写真図版22		SJ17・21・22・23・27遺物
	右	S J 15遺物出土状態	写真図版23		S J 27 · 28 · 29 · 30 · 31遺物
	3左	S J 16遺物出土状態	写真図版24		S J 31 · 32遺物
	右	S J 23床面状態	写真図版25		SJ32・33遺物
	4左	S J 29床面状態	写真図版26		SJ34・35・36・37・38遺物
	右	S J 30遺物出土状態	写真図版27		S J 39遺物
写真図版 6	1左	S J 32遺物出土状態	写真図版28		S J 40・41遺物
	右	S J 32竈周辺遺物近景	写真図版29		S J 41·42遺物
	2左	SJ33・34遺物出土状態	写真図版30		SJ42・43・46・49・50遺物
	右	S J 35遺物出土状態	写真図版31		S J 50・52・53・54・55・56遺物
	3左	SJ36・37遺物出土状態	写真図版32		SJ58・59・60・61・62遺物
	右	S J 36竈近景	写真図版33		S J 64・65・66・68・71・72遺物
		S J 38遺物出土状態	写真図版34		S J 74 · 75 · 76 · 77 · 79 · 80遺物
n en electronisco automatica.		S J 38遺物出土状態	写真図版35		SJ80・81・82・85遺物
写真図版 7		S J 39・40遺物出土状態	写真図版36		S J 85遺物
		S J 40 竈周辺遺物近景	写真図版37		S J 85 · 86遺物
		S J 41遺物出土状態	写真図版38		S J 86 · 88 · 89遺物
	100	S J 42遺物出土状態	写真図版39		石器・石・有孔土製品・紡錘車・石板・羽口・砥
		S J 42竈周辺遺物近景	100 00000000000000000000000000000000000		石・鉄製品・古銭
		SJ47床面状態	写真図版40		小形粗製土師器・竈土製支脚・墨書土器
		S J 49遺物出土状態	写真図版41		須恵器特殊器種・灰釉陶器・用途不明土製品・胎
STATEMEN O		S J 49 確近景			土分析試料
写真図版 8	100	S J 50遺物出土状態	写真図版42		中世軟質陶器・近世陶・磁器
		S J 51床面状態			
		S J 48・52遺物出土状態			
		S J 55遺物出土状態			
		S J 56遺物出土状態			
		S J 58床面状態 S J 60遺物出土状態			
	4 左	S J 60竈近景			
写真図版 9		S J 59・72遺物出土状態			
THE WAY		S J 61遺物出土状態			
	450	S J 62遺物出土状態			
		S J 64遺物出土状態			
		S J 65床面状態			
		S J 72竈周辺遺物近景			
		S J 74床面状態			
		S J 75床面状態			
写真図版10		S J 76遺物出土状態			

鎌倉遺跡

写真図版50

写真図版43 上 調査地近景 下 調査地近景 写真図版44 1左 S J 01遺物出土状態 右 S J 01床面状態 2左 S J 02遺物出土状態 右 S J 02床面状態 3左 S J 03遺物出土状態 右 S J 03床面状態 4左 S J 04遺物出土状態 右 S J 04床面状態 写真図版45 1左 S J 04入口の柱穴状態 右 S J 04炉跡近景 2左 S J 05遺物出土状態 右 S J 05炉跡近景 3左 S J 06遺物出土状態 右 S J 06床面状態 4左 S J 06炭化垂木出土状態 右 S J 06入口の柱穴状態 写真図版46 1左 S J 07遺物出土状態 右 S J 07床面状態 2左 S J 07炉跡近景 右 S J 07遺物出土状態 3左 S J 08床面状態 右 S J 08遺物出土状態近景 4左 S J 09遺物出土状態 右 S J 09床面状態 写真図版47 1左 SK01近景 右 SK02近景 2左 SK03近景 右 S K 04近景 3左 SK10近景 右 SK11近景 4左 SK24近景 右 S K 28近景 S J 01 · 02 · 03遺物 S J 04 · 05 · 06遺物 S J 07 · 00 写真図版48 写真図版49

S J 07 · 08 · 09 · S K 1 · 円形土壙遺物

第1篇 発掘調査の経緯と経過

第1章 発掘調査に至る経緯

関越自動車道(新潟線)は東京都練馬区から埼玉県東松山、花園、本庄、児玉を通り、群馬県藤岡、高崎、前橋、渋川、沼田、月夜野町をへて新潟県に至る総延長約300kmの高速道である。このうち東松山一渋川間は、昭和44年1月22日に建設の基本計画が、昭和45年6月9日に整備計画と施行命令が建設省から日本道路公団に出され、以北にある渋川一新潟県六日町間は昭和45年6月18日に基本計画が示されたあと、渋川一月夜野間については昭和46年6月1日に整備計画と施行命令が、さらに月夜野一湯沢間については昭和47年6月20日に整備計画と施行命令が出された。路線発表は、藤岡一渋川間が昭和46年8月、渋川一月夜野間が49年1月、月夜野以北は50年10月であった。

一方、関越自動車道とほぼ同じ段階に上越新幹線、国道17号バイパス(上武国道)の建設計画が公にされ、 群馬県にとってかつて例を見ない大型交通幹線時代を迎えることとなった。

関越自動車道の路線地域は、本県でも遺跡分布の濃密な地域を通過するため当初から埋蔵文化財の保護対策が大きな課題で、事業主体者である日本道路公団は既に昭和42年9月30日に文化財保護委員会(文化庁の前身)との間で締結していた「日本道路公団の建設事業等工事施工に伴う埋蔵文化財包蔵地の取扱いに関する覚書」にもとづき、群馬県教育委員会と昭和46年度より協議を続けてきた。その結果、昭和48年以降、群馬県教育委員会が直営事業で、建設に伴って破壊が予想される埋蔵文化財包蔵地について発掘調査を実施することとなった。係わる埋蔵文化財包蔵地の発掘調査は藤岡一渋川間で22遺跡が該当し、昭和54年度までに前橋インターチェンジ以南の15遺跡の発掘調査が終了し、東松山一前橋インターチェンジ間が開通したのは昭和55年7月17日であった。

県内における開発事業の大規模化、件数の多様化に対し、県教育委員会は昭和47年度に文化財保護室から 文化財保護課へと拡充を計った。しかし東松山一前橋インターチェンジ間の開通時には既に対応能力に限界 が生じていたため県は昭和53年7月に財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団を設立し、従来、県教育委員会 文化財保護課で実施していた現地における発掘調査事業を財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団へ移管する こととした。そして関越道をはじめ、上越新幹線、上武国道等公団、県事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査の 調整等の事務は引続き県教育委員会文化財保護課を窓口として行ない、いわゆる埋蔵文化財行政とその現業 部門の分離が計られるようになった。

当初の計画では前橋インターチェンジまでの現地調査が終了した時点で整理、報告書作成の作業に入り、その作業終了後に前橋以北を対応することとしていたが、次いで昭和58年の赤城国体に合せる開通目途が県政側から出され、整理、報告と調査作業とを並行ないし、断続しながら実施する方向性は変更せざるを得ず計画としては、月夜野インター以南、渋川インター間の沼田工事区内を(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団の実施が予定であった。一方道路建設の進展は上越国境の関越トンネルが最大の難工事と見られていたが、昭和59年には開通予定であることなどから前橋一湯沢間については一度に全面開通をはかる計画であることが明白となり、埋蔵文化財調査が先行しないと建設計画が進歩しない状況となってきた。

前橋以北の埋蔵文化財包蔵地の存在について昭和55年度まで、数次にわたる分布調査の結果、前橋―月夜 野間で26遺跡、月夜野―水上間で17遺跡の多きに達し、および渋川以北の利根川左岸については榛名山二ツ

第1篇 発掘調査の経緯と経過

岳噴出物の堆積があり、表面的な分布調査だけで発掘対象地域を明確化することはできず、該当地域に対し 試掘調査を実施し、流動要素を減じた結果、前橋一月夜野間26遺跡、月夜野一水上間で17遺跡の多きに達し、 総面積は61万㎡が予測された。その面積量は、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団の関越自動車道対応能 力人員20名、従来からの年間実績面積11万㎡をあてはめた場合に、約6年間を有することが明白であった。

それに対応すべく、群馬県教育委員会は、県交通対策課とも連絡をとり、昭和56年度の重要事項として、 10月以降、全庁的な対策会議等を数回に亘って開催し、日本道路公団との協議および関係八ケ市町村の協力 を得て次のような基本方針をとることとなった。だが師遺跡は既に55年度以前の計画に基づいて調査を開始 していた。

- (1) 前橋一月夜野間については県埋蔵文化財調査事業団と関係市町村がそれぞれ調査を分担して実施する。このうち遺跡の大規模なもの計約33万㎡については県埋蔵文化財調査事業団が20人体制で担当し、 比較的小規模でまとまりのある遺跡については市町村(教育委員会)が担当する。
- (2) 関係市町村(群馬町、吉岡村、北橘村、赤城村、昭和村、沼田市、月夜野町は各2人、渋川市は3人)は計17人の調査担当者とし、教職員を県から派遣する。
- (3) 月夜野インターチェンジ以北関越トンネルまでの遺跡の約15万㎡については、月夜野・水上両町に それぞれ遺跡調査会を設立し、千葉県成田市の山武考古学研究所が担当する。
- (4) 県埋蔵文化財調査事業団、関係市町村、調査会とも、現地における発掘調査作業は57、58年度までには終了し、以後の整理、報告書のとりまとめは調査対象面積に応じ1年又は2年とするが、県埋蔵文化財調査事業団については、従来の未整理個所もあるので、総合的な計画の中で消化する。
- (5) 発掘及び整理、事務に要する経費は日本道路公団の負担とし、委託契約については一括して日本道 路公団が群馬県教育委員会に委託したものを、さらに月夜野町、水上町遺跡調査会(会長は何れも町 長)に再委託する。

このようにして群馬県としては未曽有の埋蔵文化財調査体制がとられ、目下未曽有の整理が進行している さ中である。その記録保存資料、永久保存遺物についての帰属は未だ定まっておらず今後を考える時、文化 財における関越道新潟線の終点は将来の課題となっている。

第2章 発掘調査の過程

両遺跡の存在は昭和38年度、昭和46年度に刊行された『群馬県の遺跡』、B群馬県遺跡台帳 I (東毛編) に記載はなく、昭和46年度に関越自動車道の計画に伴なって実施された分布調査のおり師遺跡は「No311月 夜野町師」として小字青岳をあげ包蔵地とされた。小字青岳に所在した包蔵地は関越道の発掘調査時に師A 遺跡という事業名称があたえられ、小字師に位置する散布地を師B 遺跡と仮称された。師A 遺跡は位置からすると昭和46年度の『群馬県遺跡台帳 I (東毛編)』ではNo3293後田集落跡として既周知された遺跡であるので整理時点で改めて後田遺跡と正式名称があたえられ、師B 遺跡は小字千沢と師分に存在するが大字師一帯が大集落であるためそのまま師を冠し、師遺跡とした。鎌倉遺跡は、昭和46年度刊の『関越自動車道地域埋蔵文化財分布調査報告書』でNo386、沼田市岡谷町「薄根川北岸の河岸段丘上の標高約400m付近の旧薄根村に続く一帯の畑中にわたって土器片の散布が見られる。」記載に一致の遺跡である。鎌倉遺跡の事業名称は小字名称が用いられ、整理結果からしても小字名称が相応と考えられたため事業名称鎌倉遺跡をそのまま引継ぐこととした。

渋川インター以北の関越道に係わる遺跡認知は、既周知のほか、遺跡範囲や調査前の流動要素が個々の遺跡に介在しているため昭和54~56年度にかけ県教育委員会により試掘調査が実施された。昭和54年度は沼田一月夜野インターチェンジ直前までの間に存在する沼田市横塚A・B、鎌倉、諏訪神社、戸神諏訪、善桂寺、大釜A・B、原、字楚井(各事業名称)が、昭和55年度に月夜野インターチェンジにかかる月夜野町師A(後田遺跡)、師B(師遺跡)が、昭和56年度には榛名山二ツ岳軽石が堆積し、不確定要素のある勢多郡北橘村間の分郷八崎、竹之原、房谷戸、三原田城、三原田団地、中畦、諏訪西、見立溜井、勝保沢中山、中棚、糸井宮前の12遺跡が実施された。この渋川インターチェンジ以北においての一連の試掘調査が終了するに先立ち、県埋蔵文化財調査事業団は県教育委員会の委託を受け昭和55年度に鎌倉・大釜遺跡を、翌56年度には金山古墳群、師A・B遺跡について、本調査に入った。本調査入りは試掘結果から出された対象面積61万㎡、およそ30遺跡に対処すべくなされた県の方策に先立つ段階であり、関越道本来の調査計画に基づいていた。その理由は大規模遺跡は難航が予測されたため早期着手するという事業実施の合理観および建設工程からである。

師遺跡と鎌倉遺跡の試掘概要は次のとおりであるが師Bは試掘から直接本調査入りしている。

試掘 (概報を要約)

師B遺跡 所在地—利根郡—月夜野町大字師、発掘期間—昭和56年6月17日~同年12月24日。

調査担当一平野進一(調査研究員)、反町公己(嘱託員)。調査対象面積-18、100 m^2 。トレンチ -1.5×7.5 m で39本。発掘面積-438.75 m^2 。遺構分布範囲-18、100 m^2 。発見された遺構- 古墳時代住居址・土壙・溝など。

鎌倉遺跡 所在地—沼田市岡谷町小字鎌倉。発掘期間—昭和54年10月~同年12月14日 調査担当—平野進一(調査研究員)、反町公己(嘱託員)。調査対象面積—9、600㎡。トレンチ —1.5×6~8㎡で26本。発掘面積—182㎡。遺構分布範囲—60×160㎡。発見された遺構—弥生 時代住居跡、土壙、小溝多数。

鎌倉遺跡の本調査は昭和55年6月9日より始められ同年8月下旬に終了している。調査担当者および調査 員は試掘時と同じである。報告書作成のための整理は昭和62年10月1日より始められ、平成元年3月31日を もって終了した。

⁽¹⁾ 森田秀策「調査に至るまでの経過」『関越自動車道 (新潟線) 月夜野町埋蔵文化財発掘調査報告書』(月夜野遺跡調査会・群馬県教育委員会) 1985を基として作成した。

^{(2) (}群馬県教育委員会)『関越自動車道地域埋蔵文化財調査報告書』1972

^{(3) (}群馬県教育委員会・群馬県遺跡台帳作成委員会)『群馬県の遺跡』1963

^{(4) (}群馬県教育委員会)『群馬県遺跡地図』1973

^{(5) (}群馬県教育委員会)『関越自動車道 (新潟線) 地域埋蔵文化財試掘調査報告 (沼田地区)』プリント1979

^{(6) (}財群馬県埋蔵文化財調査事業団)『関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査概報』プリント1980

^{(7) (}財群馬県埋蔵文化財調査事業団)『関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査概報』プリント1981

第2篇 調査方法と基本層位

第1章 調 查 方 法

師遺跡

調査区の設定は日本道路公団関越道路新潟線中心杭を用いた 2 m / U ッドである。師遺跡の位置は月夜野第一インターチェンジ内の、ループ状に大きく弧を描いた個所にある。そのため中心杭には本線で用いられた新潟線杭通番は用いられておらず月夜野第一インターチェンジ番号が用いられている。師遺跡のグリット杭は $No\ 0$ 杭と $No\ 2$ 杭の $200\ m$ 間を視準して設定された。 $No\ 0$ 杭は/ リッド番号 $30\ C\ 10$ で、 $No\ 2$ 杭は/ リッド番号 $30\ A\ 20$ である。グリッドは国家座標と結合されていないが、方位角を公団現形図 1:1,000 から求めると、グリッド南北ラインは東偏しおよそ $N\ 15^\circ$ Eを指す。本遺跡のグリッド番号の呼称法は(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団が行なう新潟線調査の一般型を用いた。

本遺跡のグリッドは東京側に若い番号を、新潟側に若い数字を配しているため呼称点は北東隅部をさして呼び、50グリッド毎に東からA・B・Cの大区分がある。呼称法は39B20で例えるなら0点より39グリッド西に進み、0点よりさらに西にB20グリッド北に進んだ位置にあると云った具合である。

水準は新潟線中心杭から引照して用いた標高値で、本報告書中の数値はそれである。

遺構名称は略称とし、SJ=住居跡、SE=井戸跡、SK=土壙、Pは小土壙をあらわし、本文中と、遺構平面にそれらを用いた。

遺構重複の認定は発掘調査では困難であったとのことであり、事実、なされていないか、遺物認定については、現場所見を尊守したが、現場写真と比較して、現場所見が危ぶまれる場合は本文中に理由と扱い方を図示の遺物図番号・遺物観察表中に示した。詳しくは P.16を参照されたい。

測図はグリッド杭を使用し、作図は基本的には1:20図を用い、平板実測の図化である。

写真は 6×9 cm判のモノクローム、35mmのモノクローム、カラー・リバーサルフィルムを用いて記録された。

鎌倉遺跡

調査区の設定は師遺跡と同様で、(財)群馬県埋蔵文化調査事業団が行なう新潟線調査の一般型を用いた。 視準した基軸中心杭はNo221 (20 A 10)とNo222+20 (20 B 00)である。呼称法は師遺跡の場合と同様である。 グリッドと方位角の関係はグリッドが座標北より約 N 14°30′W傾く。

水準は新潟線中心杭から引照して用いた標高値で、本報告書中の数値はそれである。

遺構名称は略称とし、師遺跡の場合と同様である。

遺構重複は発掘調査時において困難であったとは聞いていないが、遺跡地内における遺構重複はそう多くなく、全体図として示した第200図は、新・古の関係に基づいて作成することができた。遺物認定については現場所見を尊守したが、現場所見が危ぶまれる場合は理由と扱い方を本文、図中、遺物観察表中に示した。測図はグリッド杭を使用し、作図は基本的には1:20図を用い、平板実測の図化である。

写真は 6×9 cm判のモノクローム、35mmのモノクローム、カラー・リバーサルフィルムを用いて記録された。

第2章 基本層位

師遺跡

群馬県における紀元後の主要火山灰のうち、師遺跡で確認されているのは榛名山二ツ岳噴源によるFP (6世紀後半頃)であるが、本遺跡内住居跡の中で順堆積はなく、少なからず汚れた状況であったと聞いている。住居跡埋土の注記中にそうした内容が見える。

標準土層について良好な順堆積の図、写真はなく第 1 図は合成の概念である。

I層。黒色土。耕作土または表土層。粗質で黒色土 味は強いが粗質である。乾燥し易い土壌である。

Ⅱ層。榛名山給源のFPを多く含む黒色土。粗質で 有機分強く、FPは純層ではない。

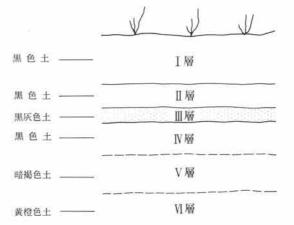
Ⅲ層。榛名山給源のFP層。隣接の後田遺跡内SJ 60(住居跡)埋土に認められている。

IV層。黒色土層。旧表土に相当し、火山軽石粒を わずかに含む。粘性にとみ、有機質。

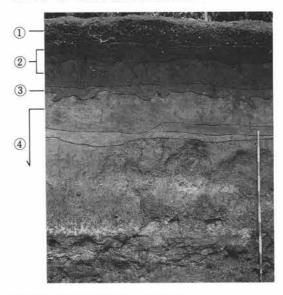
V層。ローム層と黒色土層との漸移層。場所によっては軟らかで暗褐色を呈す。下方にしたがい黄色土味を増し、硬くなる。 VI層がローム層。地山の大石はV層の堆積前である。

鎌倉遺跡

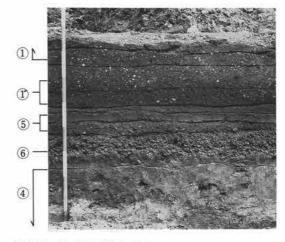
土層概念は師遺跡と同様である。調査時点で堆積土層観察が台地上と南側低地部分でなされた。①は、I層 ①'はII層、②はIV層、③はV層、④はVI層に相当し、師遺跡とそれらは共通する。鎌倉遺跡で問題とされたのは⑤である。⑤は灰色の粘土層をはさみ上・下に砂質層がある。その質感は浅間山噴源のC軽石層(4世紀頃)にやや似ていたそうであるが確証は得られず、弥生時代住居跡にその堆積は見られず、むしろ流出の砂層ではないかと考える要素の方が多かったそうである。⑥は流出の小礫層である。



第1図 師·鎌倉遺跡標準土層概念図



第2図 鎌倉遺跡台地上土屠断面



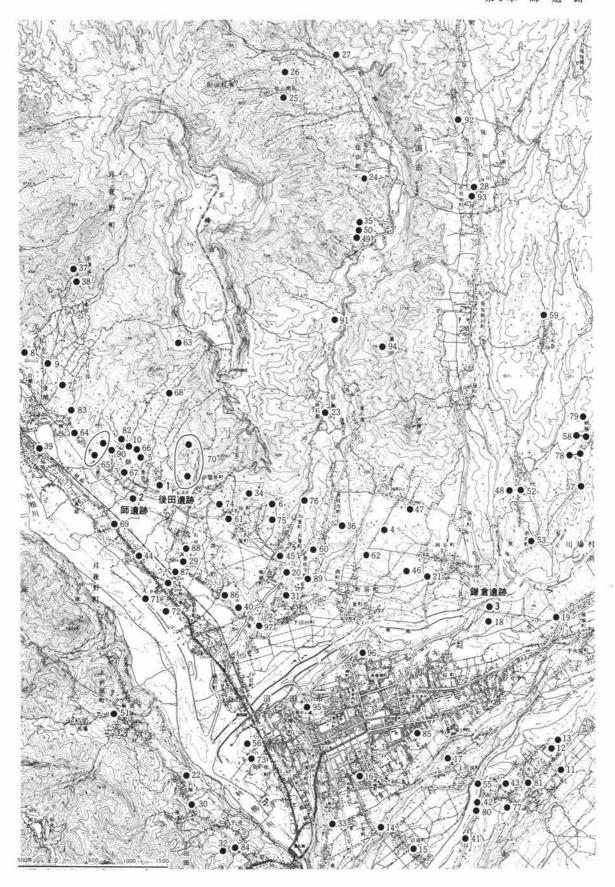
第3図 鎌倉遺跡低地土層断面

第3篇 周辺の環境

遺跡環境については、第4図と次表に分布状態を示した。通史的な内容については「第4篇周辺の環境」 『後田遺跡』(脚群馬県埋蔵文化財調査事業団)1988、大江正行「古代利根郡の歴史的背景について」『群馬 文化 第214号』1988に詳しいので参照されたい。

番号	名 称	種 別	時 代
1	後田遺跡	集落・包蔵地	旧・古~平安
2	師遺跡	集落	古墳
3	鎌倉遺跡	集落	弥生
4	戸神諏訪遺跡	集落・包蔵地	旧石器
5	三峰神社裏遺跡	散布地	旧·古~平安
6	大釜遺跡	集落・包蔵地	旧・古~平安
7	門前A遺跡	包蔵地	古代一平安
8	前原遺跡	包蔵地	縄文
9	門前B遺跡	包藏地	縄文
10	善上遺跡	包藏地	縄文
11	大貫原遺跡	包蔵地	縄文
12	宮ノ前縄文遺跡	包藏地	縄文
13	滝谷遺跡	包藏地	縄文
14	Lanceron Protestina (Const.)	包蔵地	縄文
15		包蔵地	縄文
16		包蔵地	縄文
17		包藏地	縄文
18		包蔵地	縄文
19		包藏地	縄文
20		包藏地	縄文
21		包藏地	縄文
22		包藏地	縄文
23		包蔵地	縄文
24		包藏地	縄文
25		包蔵地	縄文
26		包蔵地	縄文
27		包蔵地	縄文
28		包蔵地	縄文
29		包蔵地	縄文
30		包蔵地	縄文·弥生·古墳
31		包蔵地	縄文·弥生·古墳
32		包蔵地	縄文・弥生
33		包蔵地	縄文・弥生
34		包蔵地	縄文・弥生
35		包蔵地	縄文・弥生
36	石墨遺跡	集落・包蔵地	縄~古・平安
37	八束脛洞窟遺跡	包蔵地	縄文~奈良
38	豆窪遺跡	包藏地	弥生
39	後閑駅構内遺跡	散布地	弥生
40	諏訪平遺跡	包蔵地	弥生
41	下阿曾遺跡	包蔵地	弥生
42	吹張遺跡	包蔵地	弥生
43	宿遺跡	包蔵地	弥生
44	ID AS #VI	包藏地	弥生
45		包蔵地	弥生
46		包蔵地	弥生
47		包蔵地	弥生
48		包蔵地	弥生
49		包蔵地	弥生

番号	名 称	種 別	時 代
50		包藏地	弥生
51		包蔵地	弥生
52		包藏地	弥生
53		包蔵地	弥生・古墳
54		包藏地	古墳
55	吹張土師遺跡	包蔵地	古墳
56		包蔵地	古墳
57		包蔵地	古墳
58		包蔵地	古墳
59		包蔵地	古墳
60		包藏地	古墳・弥生
61	原町「経塚」	経塚	縄文・弥生
62	土塔原遺跡	寺院関連	平安
63	寺院跡伝承地	寺院跡	鎌倉·室町
64	稗田古墳群	墳墓	古墳
65	大沢田古墳群	墳墓	古墳
66	狐塚古墳	墳墓	古墳
67	丸山古墳群	墳墓	古墳
68	トリクソ古墳	增墓	古墳
69	真庭・政所・古墳群	墳墓	古墳
70	金山古墳群	墳墓	古墳
71	恩田古墳群	墳墓	古墳
72	薄根 2 号古墳	墳墓	古墳
73	塚田古墳群	墳墓	古墳
74	字楚井・原町古墳群	墳墓	古墳
75	大釜古墳群	增慕	古墳
76	大釜漏1号古墳	墳墓	古墳
77	常木古墳群	墳墓	古墳
78	秋塚古墳群	墳墓	古墳
79	天神古墳群	墳墓	古墳
80	八日市遺跡	墳墓	古墳
81	糸井古墓	增墓	鎌倉
82	大友館跡遺跡	城館跡	旧・縄文・平安
83	明徳寺城址	城館跡	室町
84	下川田城跡	城館跡	室町
85	沼須城跡	城館跡	室町
86	関口城跡	城館跡	室町
87	井上上屋敷	城館跡	室町
88	荘田城址	城館跡	室町
89	小沢城跡	城館跡	室町
90	善正寺館跡	城館跡	室町
91	石墨館跡	城館跡	室町
92	発知館跡	城館跡	室町
93	木内館跡	城館跡	室町
94	高王山城跡	城館跡	安土・桃山
95	沼田城跡 (倉内城)	城館跡	江戸
96	幕岩城跡	城館跡	江戸
97	内藤陣屋跡	城館跡	江戸



第4図 周辺遺跡分布図

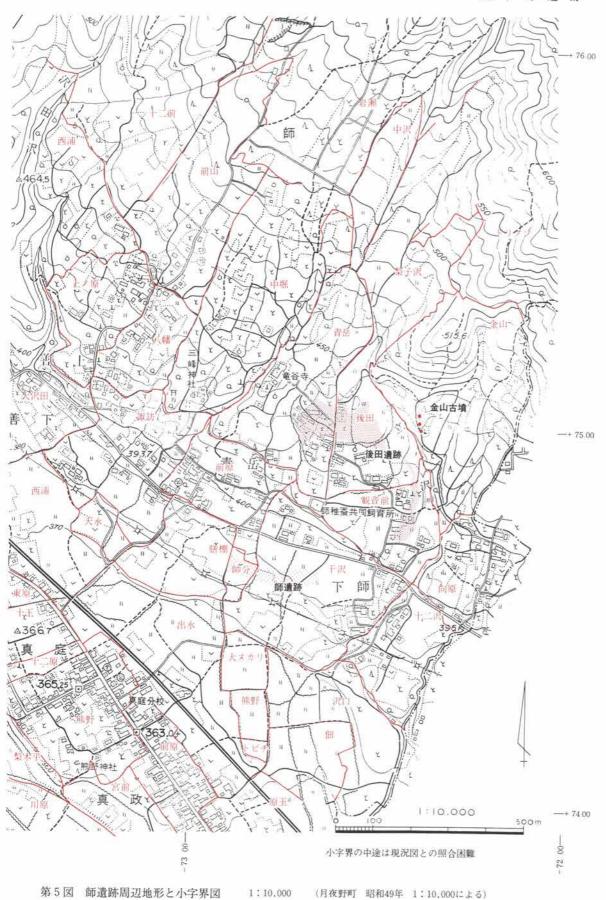
1:50,000

第4篇 検出された遺構と遺物

第1章 師 遺 跡

師遺跡は三峰山裾と利根の間に生じた上位段丘・中位段丘・下位段丘面のうち、下位段丘面に位置してい る。遺物散布は上位段丘面までの広域にあり、三峰山麓の地形勾配が急となり山林に覆われる直前の畑地か ら、段丘端まで散布していた。散布状況は、隣接地にある後田遺跡の調査終了間際に実施した分布調査から すれば、粗な状態で後田・師遺跡を含む台地全面にわたり、古墳時代から平安時代まで存在していた。時期 区分をしっかり行なわなかったが、余りにも広域にわたるための集落密度は地区毎で時期別に異なると考え られる。後田遺跡(第12図)は中位段丘面にあり、古墳時代から平安時代まで約250棟の住居跡が検出され ている。師遺跡とは小谷地を挟んだ位置関係にあるので、直接的な繋がりでは捉えづらいが巨視的に見れば、 後田遺跡・師遺跡周辺は利根地方において有数の古墳群(第8図)地帯を周辺にひかえており後田・師遺跡 などがある程度まとまった形で古代利根郡の中心的な一集落となっていたものと推測される。古墳と集落と の関連は、隣接の金山古墳群(第9図)調査の際に、同古墳群の被葬者は後田遺跡側に存在していた家父長 であったとする所見は、師・後田遺跡の集落規模と両者の立地からしても妥当性がある。北西側に存在する トリクソ古墳周辺は、本遺跡とは近接地であるので関係はより直接的であったと考えられる。また後田遺跡 に近接した位置関係は両遺跡との関連を思わせる。要するに後田・師遺跡の周辺に関連性が高いと考えられ る古墳が多く存在する。昭和10年の県下一斉調査時に古馬牧村として97基が数えられ、利根郡内の町村中で は最も多い。後田遺跡に伴う生産跡(水田)は西側の低地に想定されたが、調査では、検証されなかった。 しかし利根郡全体の古墳群と集落の立地傾向からすれば谷水田を想定せざるを得ず、当然水田活用地であっ たと考えられ、師遺跡においても、南と北側に存在する谷地形に生産基盤があったものと考えられる。

次に検出遺構と遺物に触れるが、実測図についての凡例・例言を触れたい。掘方図は、発掘調査時点では 捉えられておらず、床面平面を基本図として掲げた。出土遺物は仮りに埋土出土遺物であっても住居跡壁上 棚から落下した場合もあり得るので記入してある。遺物の中で石は点描、土器は線描を用いて区分した。柱 穴は明らかな時はP1、P4などの番号を略記してあり、Pはピットの意味である。貯蔵穴は当遺跡の6~ 10世紀までの例を通じて見た場合、貯蔵機能を果すためであったか疑わしいが、おおむね位置は竈脇に見ら れ、出土土器もその周辺に片寄って存在する、そうした土壙には貯と記入した。竈図は廃棄時を捉えて図示 してある。住居平面図、竈平面図中のトーンは、灰、焼土、粘土を示し、各図中に例記してある。また重複 遺構は、重複の認定調査時点では、困難であったとのことであり、明記できた場合は少ない。したがって重 複遺構の輪郭線があり、遺構名があった場合でも重複実態ではなく、掘り上りの状態である。その中でSJ は竪穴住居跡、Pは小土壙、SDは溝遺構を現わす。出土土器は破片個体で回転実測の個体は中軸を一点鎖 線で、直接実測した場合は実線を用いている。一点鎖線は多かれ、少なかれ、大破があり、各住居跡出土遺 物の中で遺構共存がやや危まれる。土器番号が○で囲まれているのは現場確認された個体で床面出土を表わ し、埋は埋没土中、貯は貯蔵穴内、カとあるのは竈から、未記入は認定困難な場合を示している。トーンは 黒色処理を表わす。なお、整理作業をへて、現場所見と不一致の出土状態が認められた場合には、遺物番号 の後に△記号を附した。たとえばSJ3-④△は、SJ3住から出土し、遺物番号4で丸印は調査時点で床 面からと判断され、△印は整理時に写真照合の結果、床面とは認められない意味を示す。また、貯・カ・埋 については現場・整理の両者の結果をふまえ、読者に対しある程度推薦し得る状況を現わした。



17

第4篇 検出された遺構と遺物

住 居 跡

S J 01

遺構 位置は31~34 (37~39で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複はなく、住居跡群の閑散とした一角にある。平面形は方形気味で、主軸は南東壁でN54°Eを測る。規模は南東壁下で4.7m、北東壁下で4.5m、立ち上がりは遺存のよい北東壁下で22cmを残す。柱穴は4箇所に検出され、P1は径38cm、深さは床面から44cm、P2は径38cm、深さ36cm、P3は径62cm、深さ42cm、P4は径60cm、深さ27cmであった。貯蔵穴は東寄りに検出され、径47cm、深さ36cmを測る。

竈 竈は南西壁下のやや南西寄りにあり、調査による検出状況はよくない。袖材は暗褐色の粘性土でローム層粒を混じえている。

遺物 $1 \sim 8$ があり、4 は中破のある個体で、 $5 \cdot 6$ は脚部を失なっている。遺物の出土は貯蔵穴内とその周辺に $1 \cdot 2 \cdot 3 \cdot 7$ の出土があり、 $2 \cdot 3$ は床面から離れているもののその因果関係において本住居跡に供伴した可能性が強い。また $4 \cdot 5 \cdot 6 \cdot 8$ は遺存率の高さから本住居に伴なう可能性があり、 $4 \cdot 5 \cdot 6 \cdot 8$ は床面出土である。

S J 02

遺構 位置は36~39 C 29~32で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複住居はなく住居群の閑散とした一角にある。床面に後世の土壙が重複してある。平面形は隅のやや丸い方形気味で、主軸は北東壁で N 31°W を測る。規模は北西壁下で5.6 m、立ち上がりは遺存のよい北西壁下で30cmを残す。柱穴は4箇所に検出され P 1 は径28cm、深さは床面から52cm、P 2 は径29cm、深さ35cm、P 3 は径42cm、深さ47cm、P 4 は径20cm、深さ85cmであった。貯蔵穴は南隅部に検出され、径85cm、深さ37cmを測る。

竈 竈は南西壁下の中央寄りにあり、袖材は暗褐色の粘性土である。

遺物 $1\sim10$ を掲げた。そのうち $1\cdot3\cdot4\cdot5\cdot7\cdot8$ が貯蔵穴とその周辺から出土し、いずれも貯蔵穴上面、床面とは離れているものの因果関係において本住居跡に供なう可能性は高い。9は床面からの出土である。 $2\cdot6$ も同個所で出土しているが遺存量が少ないため、本住居との供伴関係の意味あいは薄い。

S J 03

遺構 位置は $10\sim13\,B\,35\sim39$ で北上がり勾配の微傾斜地にある。重複は閑散とした一角にあり認められなかった。なお完掘のために調査地の拡張が行なわれた。平面形はやや隅丸方形気味で、主軸は南東壁でN $54^{\circ}E$ を測る。規模は北東壁下で $4.46\,\mathrm{m}$ 、立ち上がりは遺存のよい北東壁下で $22\,\mathrm{cm}$ を残す。柱穴は4 箇所に検出され、P1 は径 $38\,\mathrm{cm}$ 、深さは床面から $44\,\mathrm{cm}$ 、P2 は径 $38\,\mathrm{cm}$ 、深さ $36\,\mathrm{cm}$ 、P3 は径 $62\,\mathrm{cm}$ 、深さ $42\,\mathrm{cm}$ 、P4 は径 $60\,\mathrm{cm}$ 、深さ $27\,\mathrm{cm}$ であった。貯蔵穴は当遺跡の可成りが壁際に設けているのに対し、P1 とP4 との間に類似形状の土壙が検出され、径 $46\,\mathrm{cm}$ 、深さ $36\,\mathrm{cm}$ を測る。またP4 の南東側と、P3 とP4 との間の西寄りに扁平な $40\,\mathrm{cm}$ 大の河原石が据えられて存在していた。

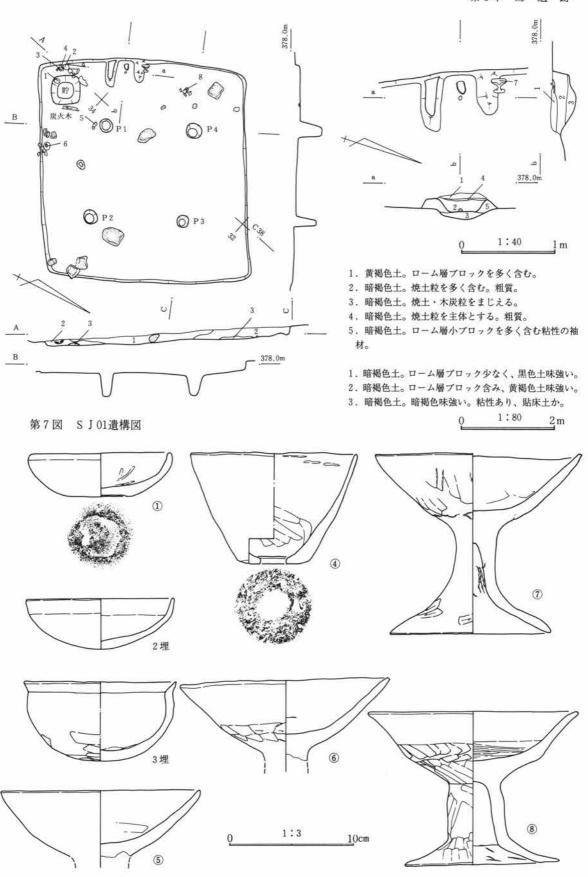
竈 竈は北東壁下の中央やや東寄りにあり、袖材は暗褐色の粘性土で木炭粒、焼土粒を含み再築の可能性がある。

遺物 多量で、しかも完存に近い土器個体と特殊遺物が多く、 $1 \sim 48$ を掲げた。 $1 \sim 5$ は小形粗製土師器 とそれに類した個体で、 $7 \sim 9$ が竈支脚である。支脚は大量な存在であるが $7 \cdot 8 \cdot 9$ は埋没土出土である。 発掘時点での床面出土土器は $4 \sim 6 \cdot 13 \sim 21 \cdot 23 \cdot 24 \cdot 26 \cdot 27 \cdot 29 \sim 35 \cdot 37 \cdot 48$ であるが、調査時点の写真 を見ると明らかに床より離れている個体が多く、あえて床面出土としえる個体は $6 \cdot 13 \cdot 17 \cdot 22 \cdot 23 \cdot 25 \sim 12$

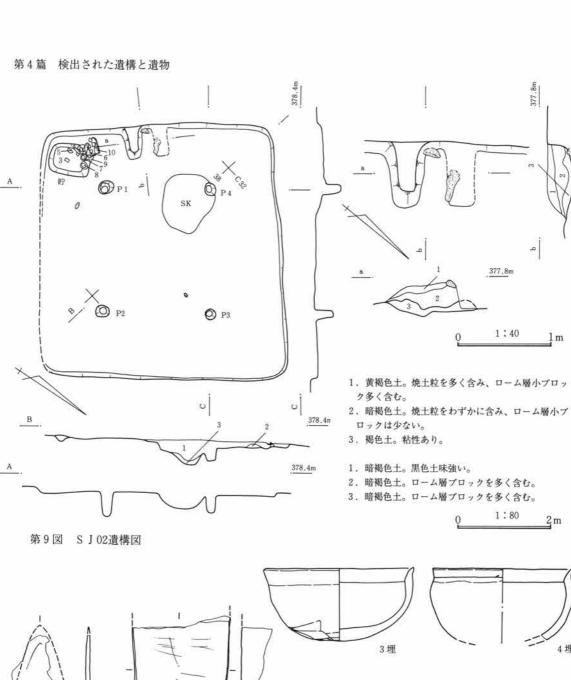


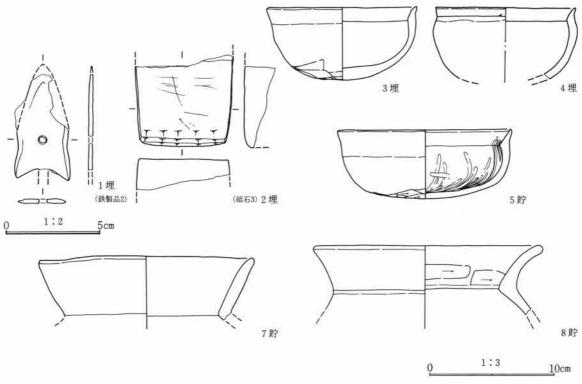
第6図 師遺跡遺構全体図

第1章 師 遺 跡

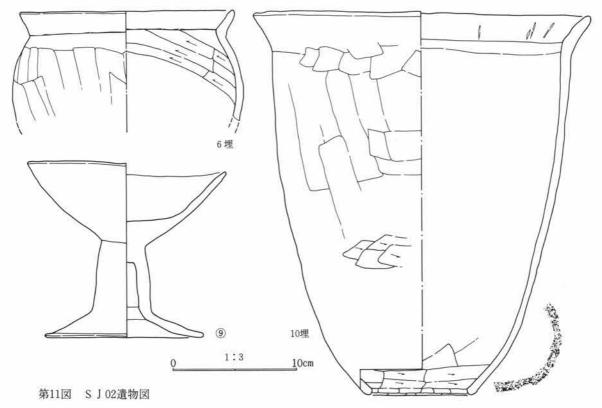


第8図 SJ01遺物図





第10図 S J 02遺物図



27・29・33・44である。このうち22・25は調査で埋土出土とされたが明らかに床面に接して出土している。 また床面から多少浮いていて、調査時点で床面とされた個体の中で単に投込みなどということではなく、本 住居跡の廃棄と直結していた可能性が高い個体がある。それについて、竈跡・貯蔵穴周辺を見ると、壁側か ら床面側に落下したと見られる個体に35・37~39・43があり個体の遺存も良く、竈跡・貯蔵穴との因果関係 を考えざるを得ない。そのほか18・19・24・30・34・36・48は竈跡や貯蔵穴とは距離があり関係はやや薄い と考えられる。

S J 04

遺構 位置は $12\sim16\,B\,33\sim36$ で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時に $S\,J\,20$ と重なっていたが、重複確認はできなかった。 $S\,E\,01$ とは平面確認され $S\,E\,01$ が後出する。平面形は各辺ともわずか膨んだ方形気味で、主軸は北東壁で $N\,53^\circ$ Wを測る。規模は南東壁下で $4.9\,\mathrm{m}$ 、南西壁下で $4.8\,\mathrm{m}$ 、立ち上がりは遺存のよい南西壁下で $16\,\mathrm{cm}\,\mathrm{e}$ 残す。柱穴は $4\,\mathrm{bm}$ に検出され、 $P\,1$ は径 $26\,\mathrm{cm}$ 、深さは床面から $54\,\mathrm{cm}$ 、 $P\,2$ は径 $28\,\mathrm{cm}$ 、深さ $55\,\mathrm{cm}$ 、 $P\,3$ は径 $30\,\mathrm{cm}$ 、深さ $56\,\mathrm{cm}$ 、 $P\,4$ は径 $30\,\mathrm{cm}$ 、深さ $44\,\mathrm{cm}\,\mathrm{cm}$ った。貯蔵穴は東隅に検出され、 $200\,\mathrm{cm}$ 、深さ $37\,\mathrm{cm}\,\mathrm{e}$ 測る。

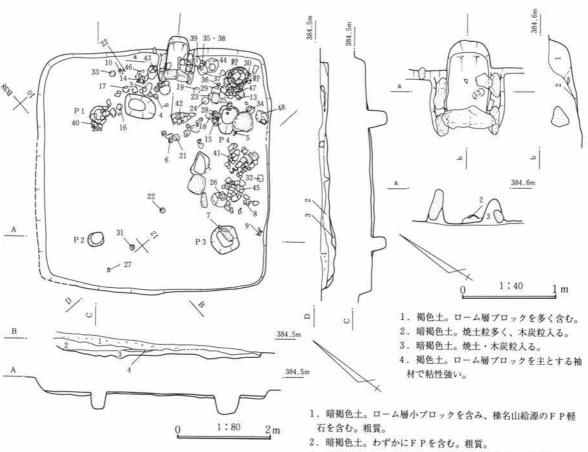
竈 竈は北東壁下のほぼ中央にあり、長大で特徴的な竈であった。袖材は暗褐色の粘性土で部分的に架構されて石材が、袖芯にも石材が存在していた。

遺物 $1\sim7$ を掲げたが、 $4\cdot6$ が破片個体である。図示した $2\cdot6$ を除く5 点は本住居の床面より離れているので、貯蔵穴に近い位置であっても明らかに埋没土層を置いているため廃棄時点より後出して廃棄された遺物と見なされ、扱いは埋没土出土である。4 は竈内の埋土中である。 $1\sim7$ の各々は距離的な隔たりがあり、全体での一括性の可能性は薄い。

S J 05

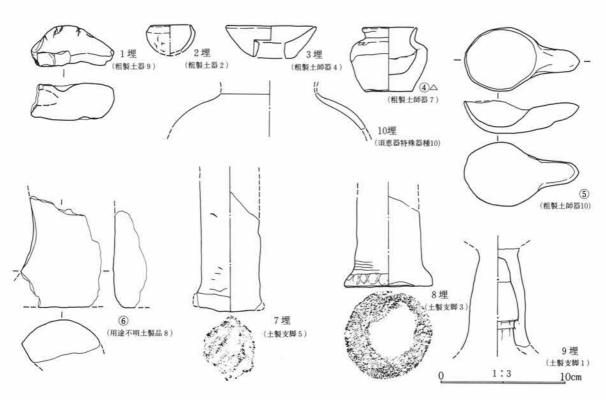
遺構 位置は13~16 B 38~41で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時に S J 07・31と重

第4篇 検出された遺構と遺物



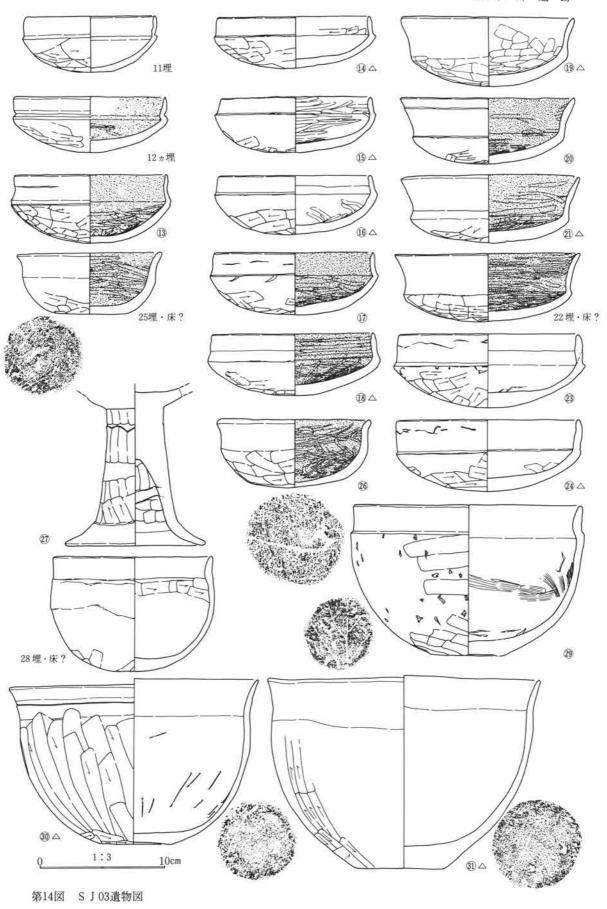
第12図 S J 03遺構図

- 3. 暗褐色土。ローム層ブロックを含み、粘性あり。貼床か。
- 4. 貼床。床面として硬くなった個所。

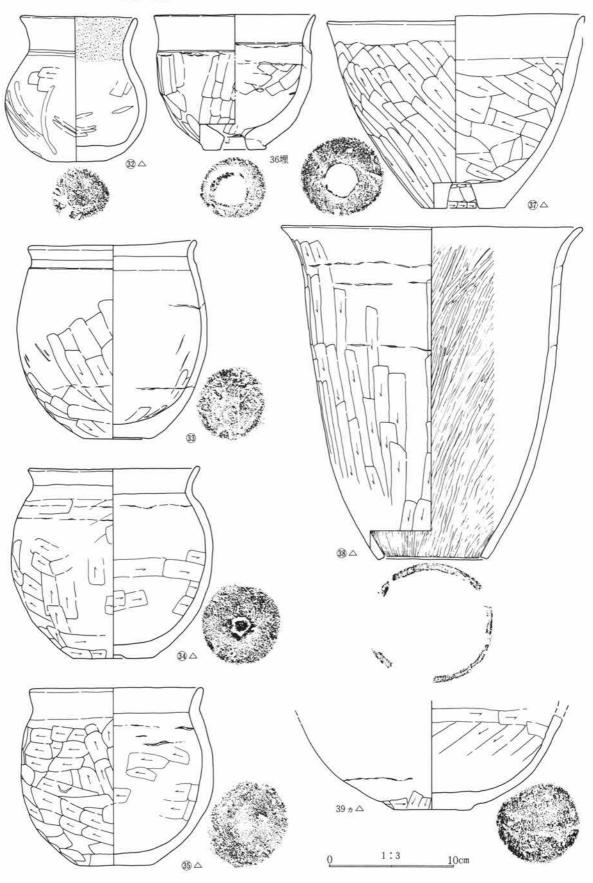


第13図 S J 03遺物図

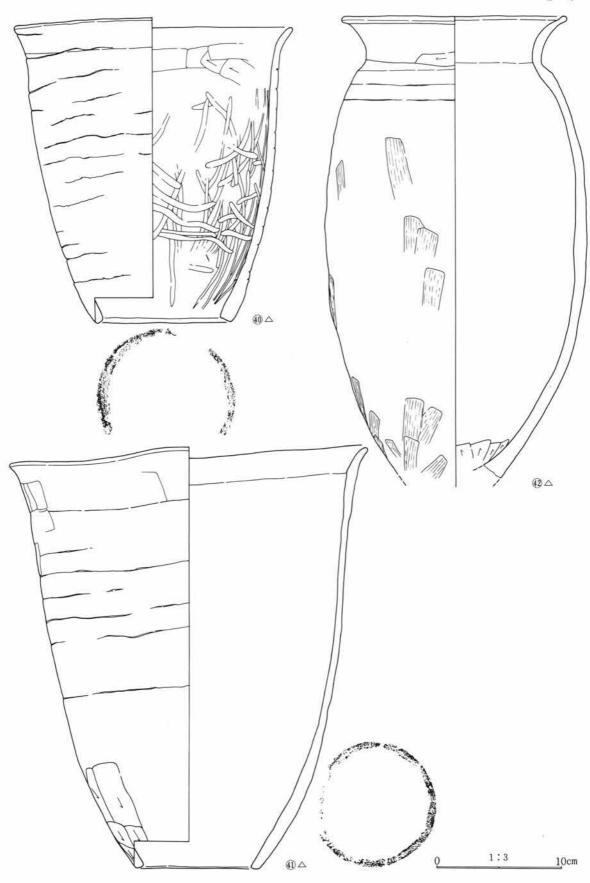
第1章 師 遺 跡



第4篇 検出された遺構と遺物

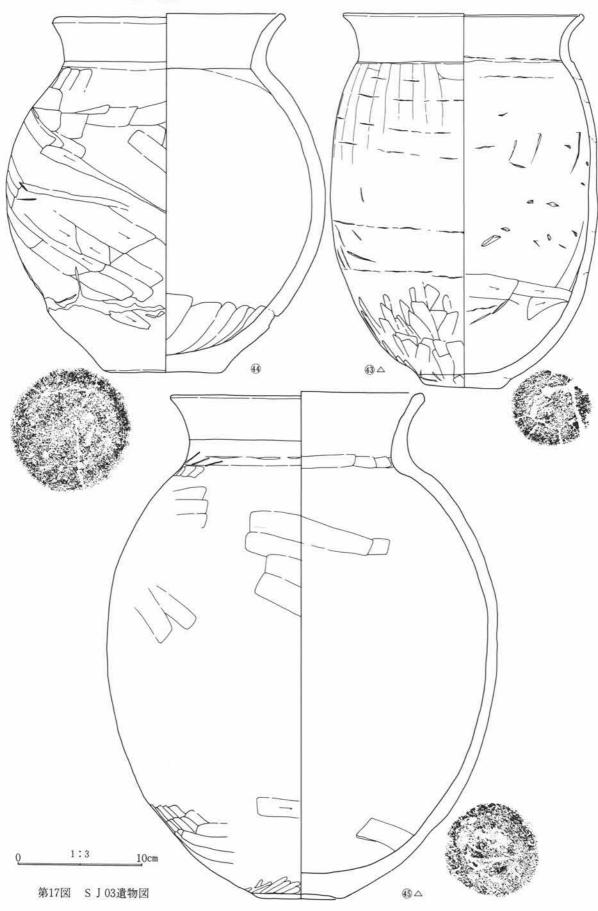


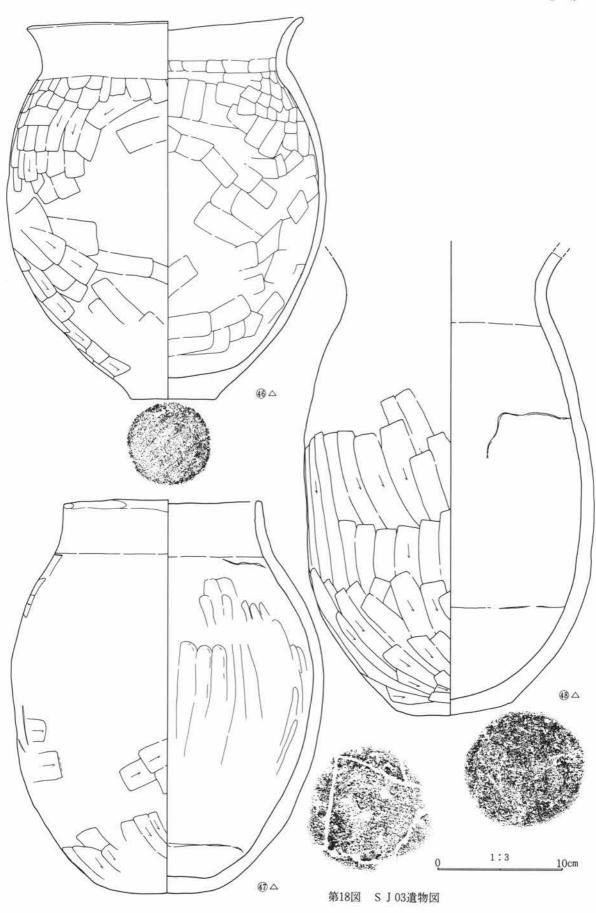
第15図 S J 03遺物図



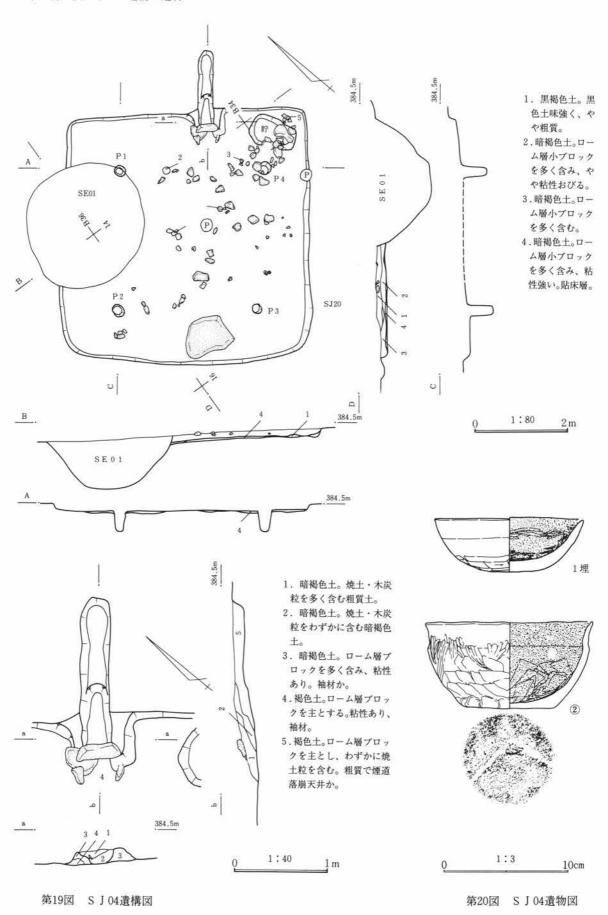
第16図 S J 03遺物図

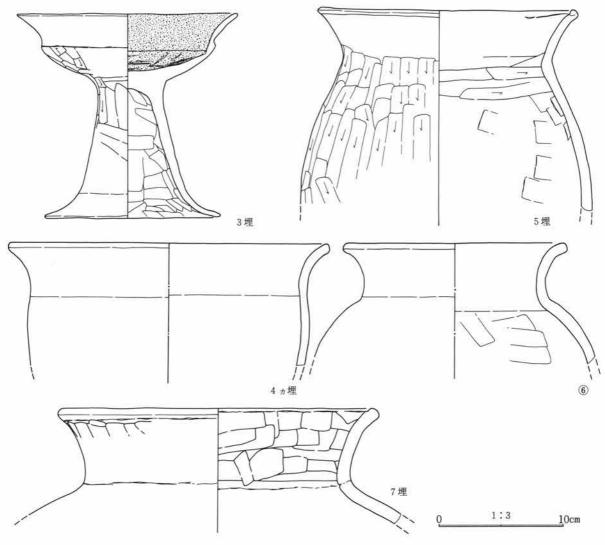
第4篇 検出された遺構と遺物





第4篇 検出された遺構と遺物





第21図 S J 04遺物図

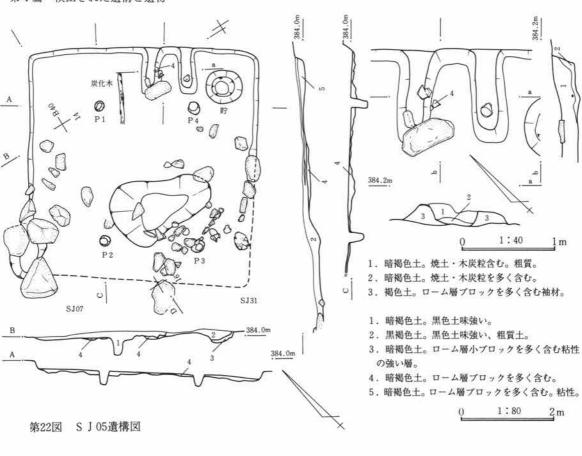
なってたが、新・古の関係は明らかにできなかった。平面形は方形気味で、主軸は北西壁で N 46° E を測る。規模は北東壁下で4.7 m、北西壁下4.5 m、立ち上がりは遺存のよい北東壁下で26cmを残す。柱穴は 4 箇所に検出され、P 1 は径22cm、深さは床面から32cm、P 2 は径24cm、深さ34cm、P 3 は径32cm、深さ26cm、P 4 は径28cm、深さ24cmであった。貯蔵穴は東寄りに検出され、径80cm、深さ47cmを測る。なお竈左傍に炭化材が存在している。

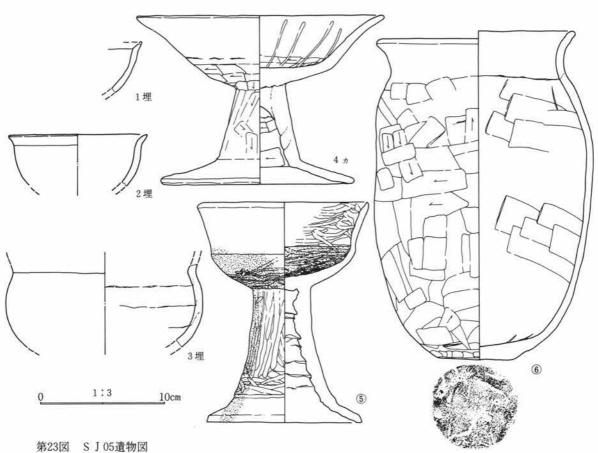
竈 竈は北東壁下の南寄りにあり、その前方に用材と見られる大石が存在していた。

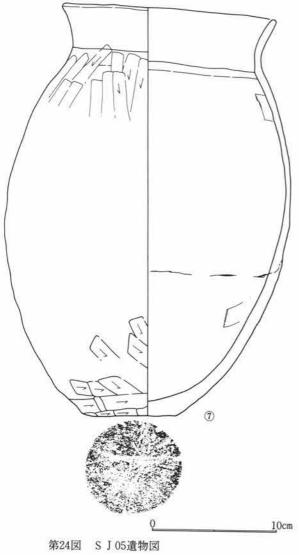
遺物 $1\sim7$ を掲げた。 $1\sim3$ は破片個体であるため本住居との一括性は薄い。4 は完存に近い個体で竈内から出土し、本住居跡との共存を認めてよい個体であり、また $5\cdot6\cdot7$ も遺存の割合が高く、調査時も床面出土を認め本住居跡との共存の可能性は高い。

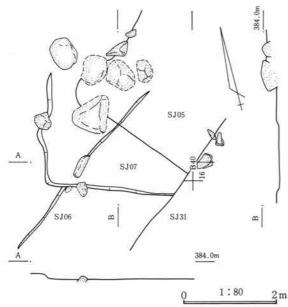
S J 06

遺構 位置は $16 \cdot 17\,B\,40 \cdot 41$ で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時に $S\,J\,05 \cdot 07 \cdot 31$ と重なっていたが重複関係を明らかにすることができなかった。平面形は掘り方に近い面での検出で形状は明確でない。主軸は北東壁で $N\,54^\circ E$ を測る。規模は北東壁下で $4.3+\alpha_m$ 、立ち上がりは遺存のよい南西壁下で $5\,cm$ を残す。柱穴、周溝、貯蔵穴は検出されていない。









第25図 S J 06 · 07遺構図

竈 竈は検出されていない。

遺物 本住居跡の床に伴なっての遺物はないが、第 25図にSJ06・07の両住居の埋土から出土した特徴的 な個体を選んで図示した。

S J 07

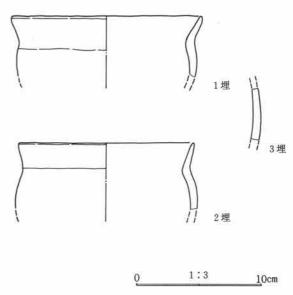
遺構 位置は $14\sim16\,B\,40\cdot41$ で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時に $S\,J\,05\cdot06\cdot31$ と重なっていたが、新・古の関係を明瞭にすることはできなかった。平面形は南西隅部しか検出されず、明瞭でない。主軸は北西壁で $N\,18^\circ\,E$ を測る。規模は北西壁下で $2.3+\alpha\,m$ 、南西壁下で $2.7+\alpha\,m$ 、立ち上がりは遺存のよい北西壁下で $10\,cm\,e$ 残す。柱穴、周溝、貯蔵穴は検出されていない。

竈 竈は検出されていない。

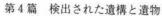
遺物 本住居跡の床面に伴っての遺物はないが第25 図1~3にSJ06・07の両住居跡の埋土中から出土した特徴的な破片個体を図示した。

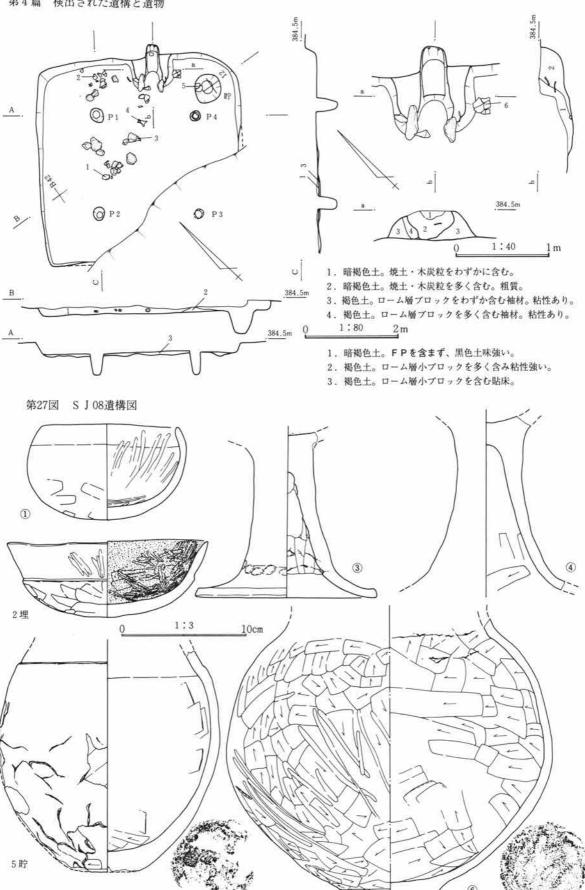
S J 08

遺構 位置は10~13 B 39~42で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複はない。平面形は東隅がやや丸く北と西隅が直に曲る方形気味の形で、主軸は北西壁でN45°Eを測る。規模は北東壁下で3.9m、北西壁下で3.8m、立ち上がりは遺存のよい北西壁下で32cmを残す。柱穴は4箇所に検出され、P1は径34cm、深さは



第26図 S J 05~07遺物図





第28図 S J 08遺物図

床面から46cm、P 2 は径28cm、深さ40cm、P 3 は径20cm、深さ51cm、P 4 は径24cm、深さ50cmであった。貯蔵穴は東寄りに検出され、径66cm、深さ52cmを測る。

竈 竈は北東壁下の中央やや東寄りに検出された。袖材は褐色の粘性土でローム層を主として囲い、袖に 石材が使用され、前面に石材が散乱し、廃棄時の破壊状況が偲ばれる。

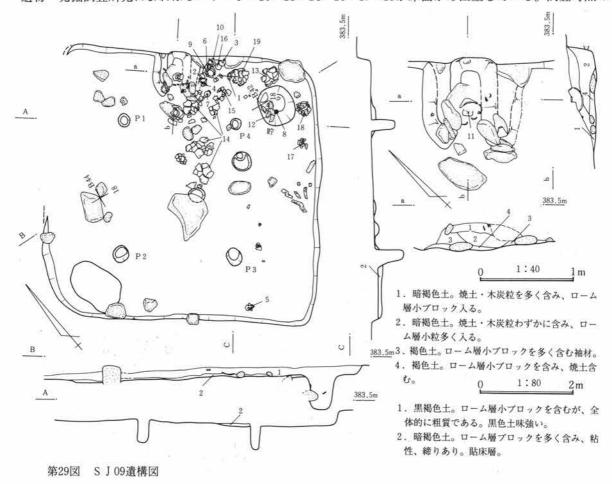
遺物 $1 \sim 6$ までの 6 点を図示したが、 $1 \cdot 3 \cdot 4 \cdot 6$ が床から出土している。 2 は完器に近い個体であるが埋土出土である。 5 は貯蔵穴から出土しているが、埋土中からである。 6 は竈傍から出土しているが欠損部が多い。

S J 09

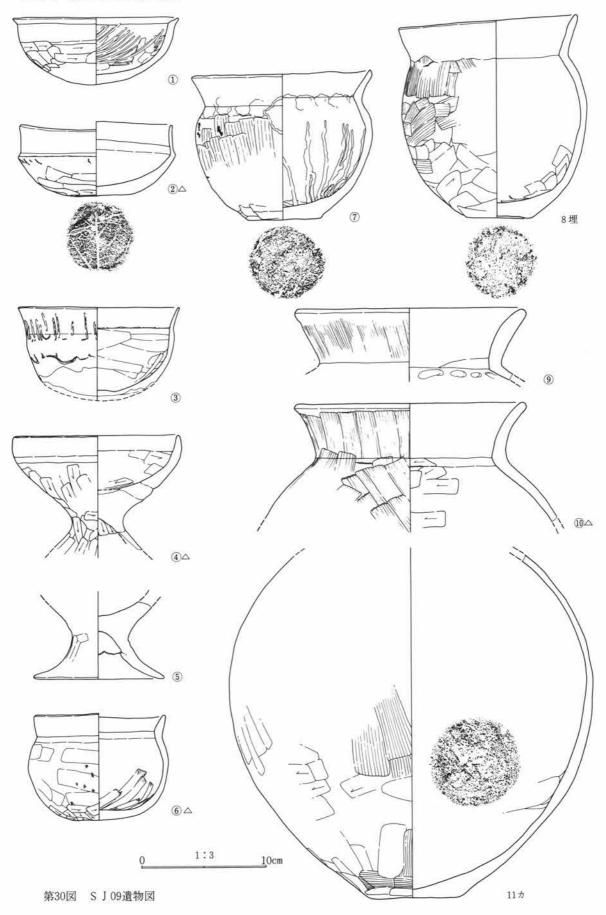
遺構 位置は $16\sim20\,B41\sim44$ で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時に $S\,J\,10$ と重なっていたが、新・古の関係を明らかにすることはできなかった。平面形は方形気味で、主軸は北西壁で $N\,47^\circ\,E$ を測る。規模は南西壁下で $5.1\,m$ 、南東壁下で $5.1\,m$ 、立ち上がりは遺存のよい南東壁下で $30\,cm$ を残す。柱穴は $4\,$ 箇所に検出され、 $P\,1\,$ は径 $30\,cm$ 、深さは床面から $46\,cm$ 、 $P\,2\,$ は径 $40\,cm$ 、深さ $62\,cm$ 、 $P\,3\,$ は径 $38\,cm$ 、深さ $62\,cm$ 、 $P\,4\,$ は径 $24\,cm$ 、深さ $52\,cm$ であった。貯蔵穴は東寄りに検出され、径 $90\,cm$ 、深さ $79\,cm$ を測る。なお位置関係から平面図左下の土壙は $S\,J\,10\,on$ 貯蔵穴と考えられる。

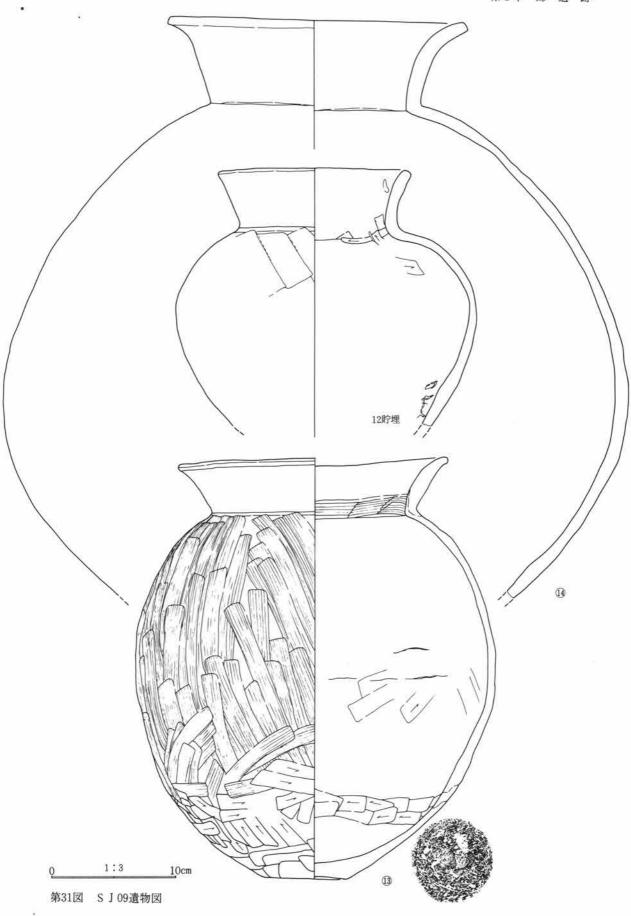
竈 竈は北東壁下のほぼ中央にあり、前方に用材が散乱し廃棄時の破壊状況を偲ばせていた。袖材は褐色のローム層を主体とした粘性土で、焼土粒を含み再築の可能性がある。竈内中央から11が据えられたような状態で出土している。

遺物 発掘調査所見によれば1~7・9・10・13・14・16・17・19が床面から出土している。調査時点の

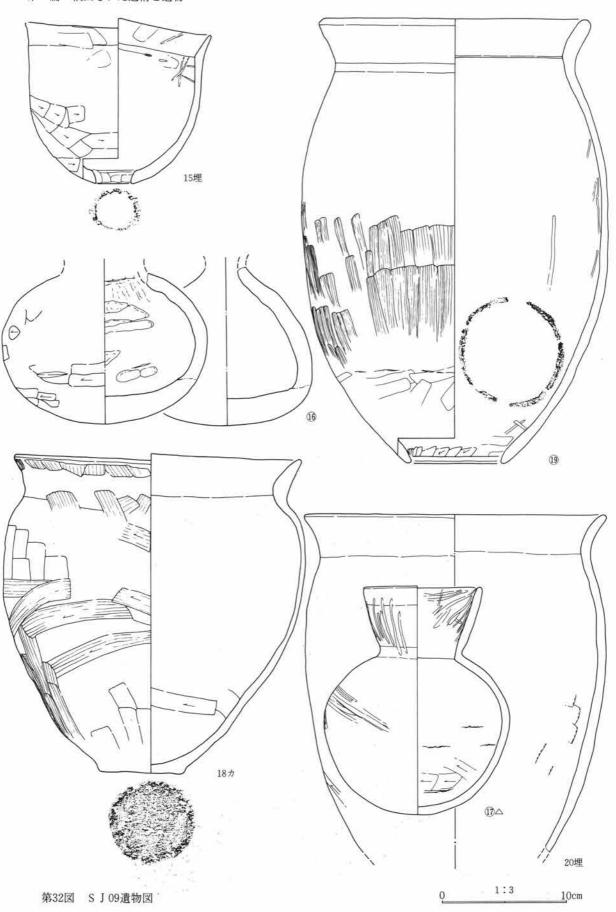


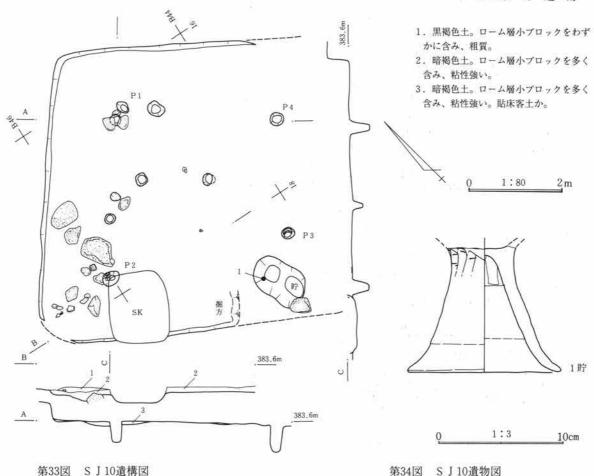
第4篇 検出された遺構と遺物





第4篇 検出された遺構と遺物





写真を見ると3・4・6・10・17は床から離れており、床面出土とすることはできない。しかし3・4・6・10の出土状況は竈に近接した位置関係にあるため住居跡の壁上方からの流入も考えられる条件下にある。17は竈や貯蔵穴から離れているため、因果関係は薄いと考えられる。床面出土とされる大多数については、竈跡、貯蔵穴とに接近しており、因果関係は濃いと考えられる。

S J 10

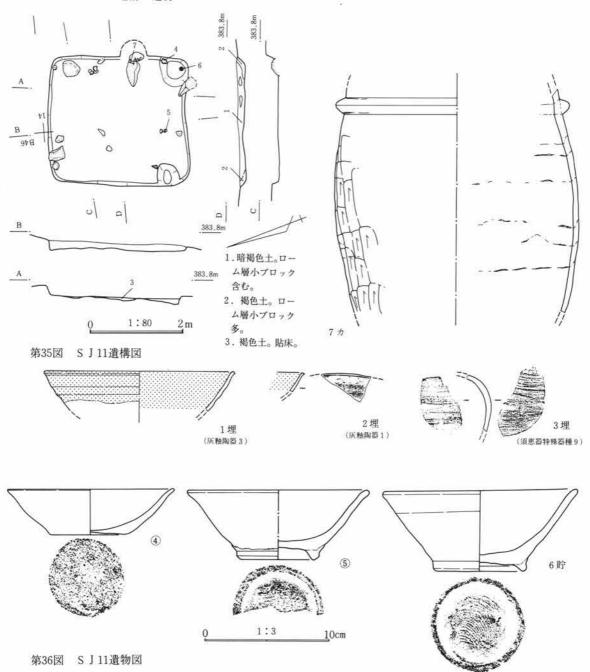
遺構 位置は15~19 B 44~46で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時に S J 09と重なっていたが、新・古の関係を明らかにすることはできなかった。平面形は一辺の長い長方形気味で、主軸は北西壁で N 50° E を測る。規模は北西壁下で5.7 m、北東壁下で4.2 + α m、立ち上がりは遺存のよい北東壁下で46cmを残す。柱穴は 4 箇所に検出され、 P 1 は径24cm、深さは床面から46cm、 P 2 は径41cm、深さ38cm、 P 3 は径26cm、深さ38cm、 P 4 は径30cm、深さ58cmであった。貯蔵穴は南寄りに検出され、径120cm、深さ64cmを測る。 P 3 は 4 柱穴方形の対応関係からすると不一致であるが、南西壁の方向性は P 2 ・ P 3 とを結ぶ線とほぼ平行の関係にある。

竈 竈は検出されていない。

遺物 出土遺物は少なく1点を掲げた。1は調査時点で床と注記されていたが貯蔵穴出土である。

S J 11

遺構 位置は14・15 B 45・46で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複はない。平面形は方形気味の小形で、主軸は東壁で N 20° E を測る。規模は西壁下で2.7 m、北壁下で2.4 m、立ち上がりは遺存のよい北壁下で22cmを残す。周溝・柱穴は検出されていない。貯蔵穴は南西隅に検出され、径72cm、深さ17cmを測る。な



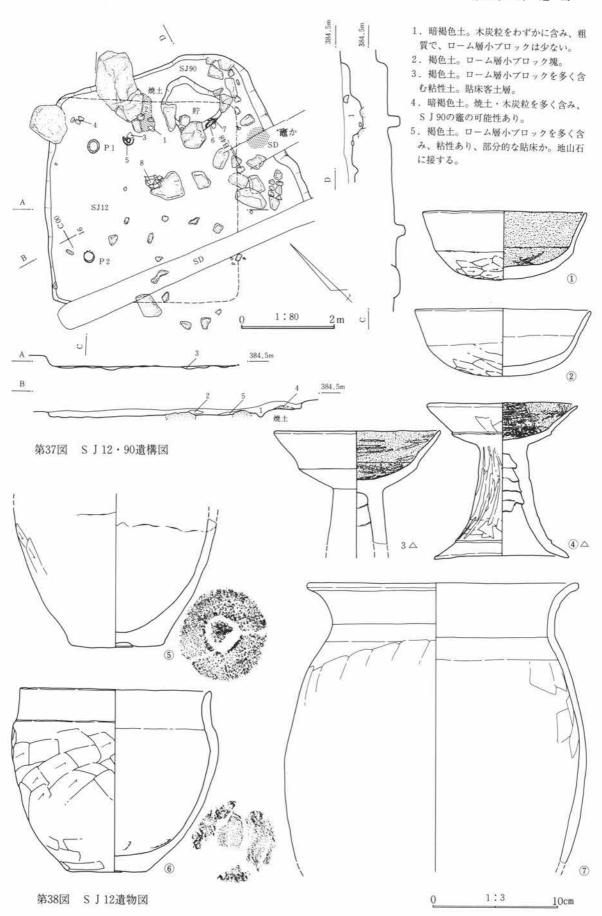
お南西隅の小土壙については本住居跡に伴なうかは不明である。

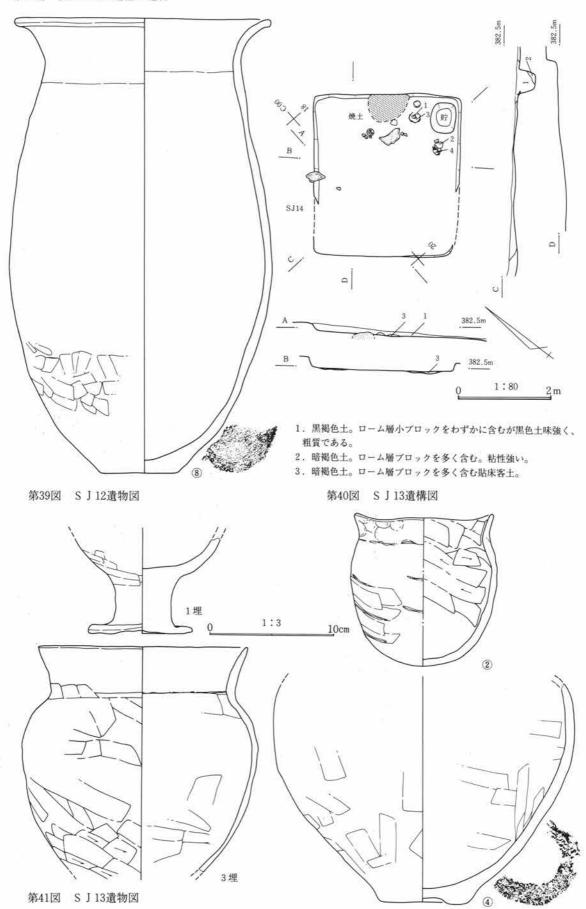
竈 竈は東壁下の中央にあるが、調査時点の実測図が行方不明で図化できなかった。

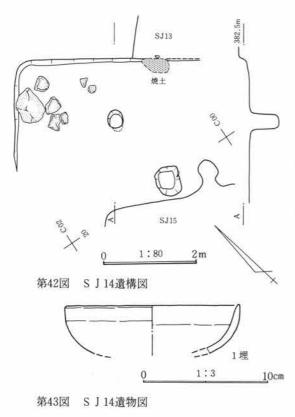
遺物 7個体を掲げたが1~3は埋土出土である。いずれも破片個体で住居との供伴、関連は薄い。灰釉 陶器1・2は作行から同一個体と考えられる。4・6は貯蔵穴内とそれに近接して出土している。両例とも に遺存率が高く、本住居の供伴とし得る。5は床面からの出土であるが半欠品であるので供伴関係はやや薄い。7は竈内から出土しているが遺存率は悪いが竈との因果において本住居に供伴した可能性は強い。

S J 12

遺構 位置は $14\sim16\,B\,47\sim49$ で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は $S\,J\,90$ と重なっていたが平面確認できなかった。整理時に図面合成した結果、 $S\,J\,12$ の竈が $S\,J\,90$ 内に喰込んで存在したことから $S\,J\,90$ が古く、 $S\,J\,12$ が新しいと考えられた。遺物との比較は、 $S\,J\,90$ の床面から出土遺物がないため明瞭でない。







平面形は推定では方形気味で、主軸は北西壁でN45°Eを測る。規模は北西壁下で4.1m、立ち上がりは遺存のよい北西壁下で22cmを残す。柱穴は2箇所に検出され、P1は径26cm、深さは床面から26cm、P2は径22cm、深さ24cmであった。貯蔵穴は東隅に土器類が近接する状態で検出され、径140cm、深さ36cmを測るが極端に大きく、また推定される住居域を越えているため、調査時点での掘り過ぎの可能性がある。調査中の写真によれば径60cmぐらいの大きさでその経過が写されている。

竈 竈は北東壁下の中央にあったと推定される。調 査実測図に焼土粒を混じえた範囲の記載がある。仔細 は竈図がないので不明である。

遺物 7点を掲げた。調査では3・4を除き床面出 土とされているが、写真照合すると3・4ともに床面 と見られる。4を除き竈・貯蔵穴周辺に近接している ので本住居と供伴の可能性は高いと考えられる。

S J 13

遺構 位置は $18\sim20\,B\,49\cdot50$ で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時に $S\,J\,14$ と重なっていたが明確にできなかったという。 $S\,J\,14$ からは、床面出土遺物がなく、遺物比較において、新・古の関係は計りかねる。住居跡の平面形からも残念ながら $S\,J\,14$ が部分残存であるので比較がむずかしい。平面形は方形気味の小形の住居跡である。主軸は北西壁で $N\,55^{\circ}E$ を測る。規模は北東壁下で $3.0\,\mathrm{m}$ 、北西壁下で推定 $2.2+\alpha\,\mathrm{m}$ 、立ち上がりは遺存のよい北東壁下で $24\,\mathrm{cm}$ を残す。柱穴は検出されていない。貯蔵穴は東隅に検出され、径 $70\,\mathrm{cm}$ 、深さ $52\,\mathrm{cm}$ を測る。

竈 竈は調査実測図に該当記載があり、北東壁と考えられるが、竈記録図はない。現場写真によると竈前と見られる位置に石材があり、2つに割れ被熱を思わせ、しかも長いことから天井架材かも知れない。

遺物 4 点を掲げたが $2 \cdot 4$ が床とあり、写真からもその点は確認できる。 $1 \cdot 3$ は埋土の下層出土である。 $1 \cdot 3$ は同一個体の可能性があり、台付甕かも知れない。

S J 14

遺構 位置は $18 \cdot 19\,B\,50 \sim C\,02$ で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時に $S\,J\,13 \cdot 15$ と重なっていたが、新・古の確認はできなかった。平面形は大半を失い明瞭ではない。主軸は北西壁で $N\,55^\circ\,E$ を測る。規模は北西壁下で $2.2+\alpha\,m$ 、北東壁下で $3.7+\alpha\,m$ 、立ち上がりは遺存のよい北東壁下で $16\,cm\,e$ 残す。柱穴はなし。貯蔵穴なし。

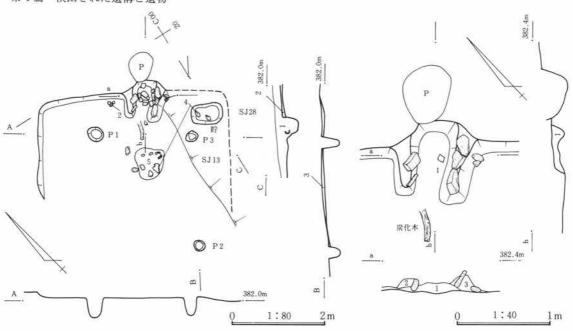
竈 竈は現場実測図によると東壁下に焼土粒の記載があり、そう考えられるが、竈実測図はないので明瞭でない。

遺物 遺物は現場で床面出土とされる例はなく、写真照合の結果も見られなかった。

S J 15

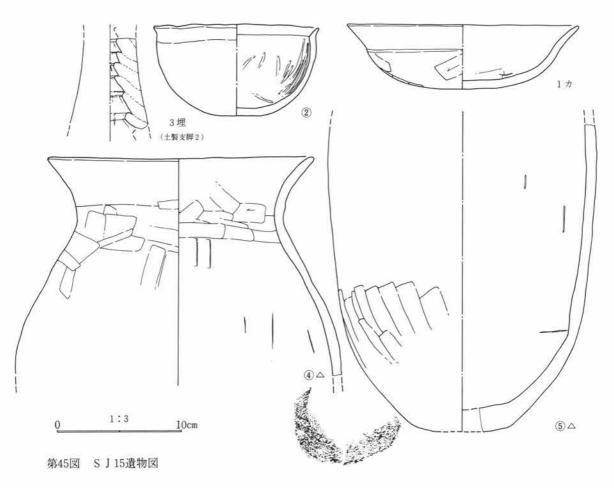
遺構 位置は20~22 B 49~ C 02で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時に S J 28と重なっ

第4篇 検出された遺構と遺物



- 1. 黒褐色土。ローム層小ブロックをわずかに含み黒色土味が強く、 細質
- 2. 暗褐色土。ローム層の漸移層的な土層で軟らか。木炭粒わずか に入る。
- 3. 暗褐色土。ローム層小ブロックを多く含む客土層。
- 1. 暗褐色土。ローム層小ブロック・焼土・木炭粒を多く含み、粗 質である。
- 2. 黄褐色土。ローム層小ブロックを多く含む袖材。粘性。
- 3. 黄褐色土。ローム層小ブロックを多く含む袖材。粘性。

第44図 S J 15遺構図



ていたが、新・古の関係は得られなかった。出土遺物からすると本住居跡が先行したと考えられる。平面形は南西半を失なっており明瞭でない。主軸は北東壁で $N50^\circ$ Wを測る。規模は北東壁下で $3.2+\alpha$ m、南東壁下で推定 $2.4+\alpha$ m、立ち上がりは遺存のよい北西壁下で12cmを残す。柱穴は3箇所に検出され、P1は径38cm、深さは床面から42cm、P2は径28cm、深さ26cm、P3は径30cm、深さ40cm、P4に相当する位置で柱穴の検出はない。貯蔵穴は東隅に検出され、径68cm、深さ34cmを測る。

竈 竈は北東壁下の中央にある。袖材は暗褐色の粘性土で木炭粒を含み、再築の可能性がある。

遺物 5点を掲げた。床面に伴なうとされたのは2・4・5であるが、写真を見ると4・5は床面より若干離れており、埋土下層出土と考えられるが、遺存率さらに竈や貯蔵穴に近いことの因果関係からは、供伴したかも知れない。1は竈内埋土、3は埋土出土である。

S J 16

遺構 位置は17~21 C 06~09で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複はない。平面形はやや歪んだ方形で、主軸は北西壁でN70°Eを測る。規模は北西壁下で3.7m、南西壁下で3.4m、立ち上がりは遺存のよい北西壁下で28cmを残す。柱穴は4箇所に検出され、P1は径24cm、深さは床面から28cm、P2は径38cm、深さ36cm、P3は径32cm、深さ50cm、P4は径28cm、深さ34cmであった。貯蔵穴は東隅に検出され、径72cm、深さ70cmを測る。掘方調査時に別住居跡の可能性もある貯蔵穴が検出されている。

竈 竈は北東壁下の中央にあり、部分的に石材を用いて、それが残されていた。焚口周辺には横架材と見られる石材があった。袖材はローム層を多用した粘性土である。

遺物 11点を掲げた。調査時点で床面とされたのは $2 \cdot 3 \cdot 4 \cdot 5 \cdot 7 \cdot 9 \cdot 10 \cdot 11$ であるが写真照合の結果、 $4 \cdot 5 \cdot 10$ は床面から若干、離れている。しかし、個体の遺存率からすれば $4 \cdot 5$ は高くまた10の下半部も遺存が良いため、近接して出土した $4 \cdot 5 \cdot 10$ と合せ相互の供伴関係は成立しえると考えられる。 $1 \cdot 6 \cdot 8$ は埋土出土である。

S J 17

遺構 位置は $15\sim17\,B\,30\sim33$ で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は $S\,J\,18\cdot19$ と重なっていたが確認できなかった。土層断面 C 図からすると $S\,J\,19$ の床面が $S\,J\,17$ 上に乗る。平面形は隅丸の方形気味で、主軸は北西壁で $N\,45^\circ$ Wを測る。規模は南西壁下で $4\,m$ 、立ち上がりは遺存のよい北西壁下で $20\,cm$ を残す。柱穴は $4\,$ 箇所に検出され、 $P\,1\,$ は径 $40\,cm$ 、深さは床面から $52\,cm$ 、 $P\,2\,$ は径 $48\,cm$ 、深さ $38\,cm$ 、 $P\,3\,$ は径 $34\,cm$ 、深さ $48\,cm$ 、 $P\,4\,$ は径 $26\,cm$ 、深さ $49\,cm$ であった。貯蔵穴は不明瞭であった。

竈 竈は検出されていない。

遺物 8点を掲げた。調査時点で床面出土とされたのは3である。しかし遺物出土状態写真がなく照合できない。その他は埋土出土である。3については重複関係SJ17・18・19の間で明らかにされていないので確実にSJ17に伴なうか、疑問が持たれる。

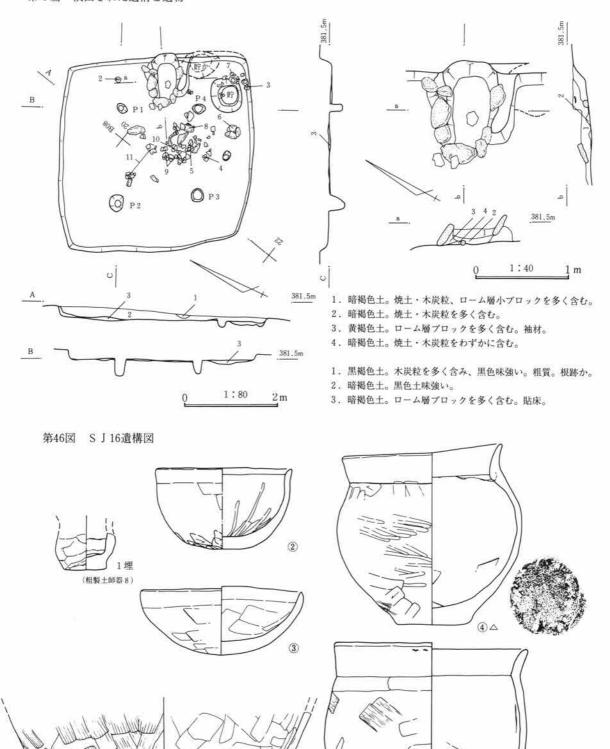
S J 18

遺構 位置は14~16 B 30~32で北東上がりの勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時に S J 17・19と重なっていたが確認できなかった。平面形は推定では方形気味で、主軸は北西壁で N 43°W を測る。規模は北東壁下で3.0 m、北西壁下で2.9 m、立ち上がりは遺存のよい北東壁下で35cmを残す。貯蔵穴は不明瞭である。

竈 竈は検出されていない。

遺物 床面出土の遺物はない。現場写真との照合からも同様であった。

S J 19



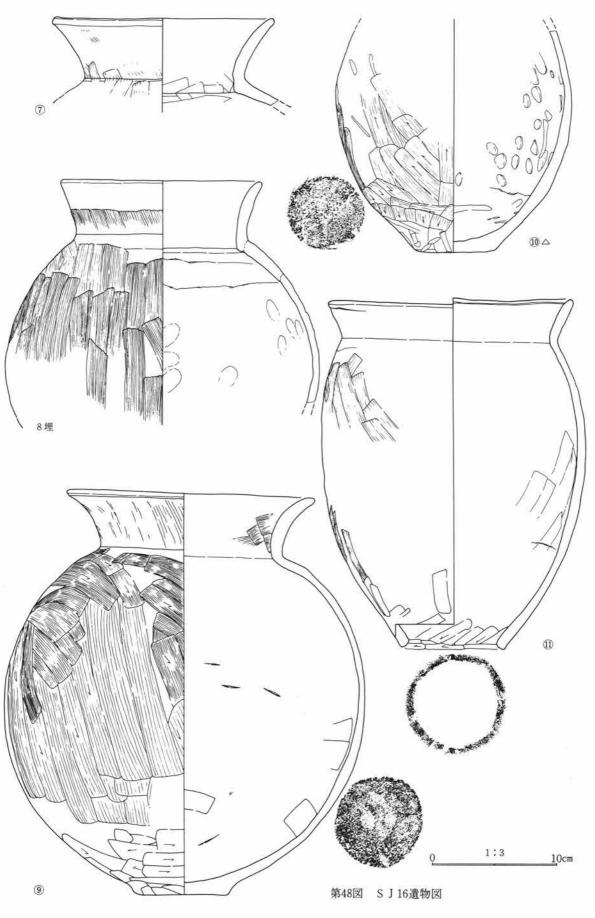
1:3

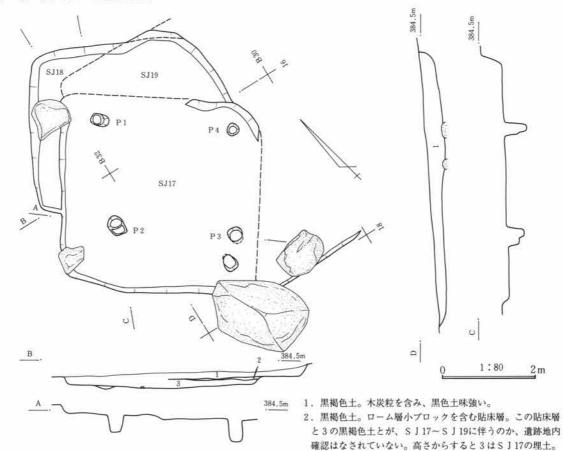
10cm

第47図 S J 16遺物図

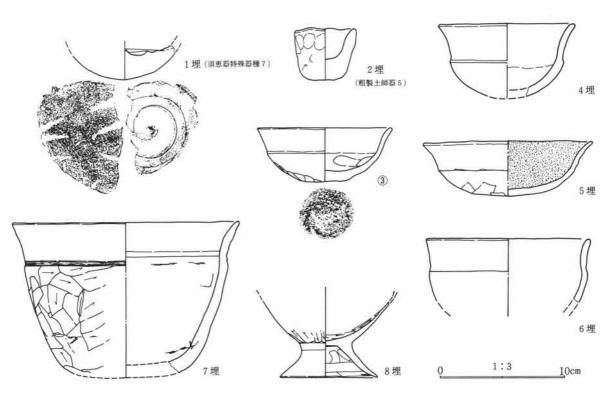
6埋

第1章 師 遺 跡





第49図 S J 17・18・19遺構図



第50図 S J 17遺物図

第1章 師 遺 跡

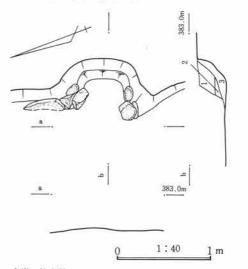
遺構 位置は14~16 B 30~32で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時に S J 17・18と重なっていたが確認できなかった。土層断面 C 図からすると S J 19の床面が S J 17上に乗る。平面形は部分調査のため不明瞭。主軸は北壁で N 75°W を測る。規模は北壁下で推定2.6+ α m、北西壁下で推定0.3+ α m を測る。貯蔵穴は明らかにされていない。

竈 竈は検出されていない。

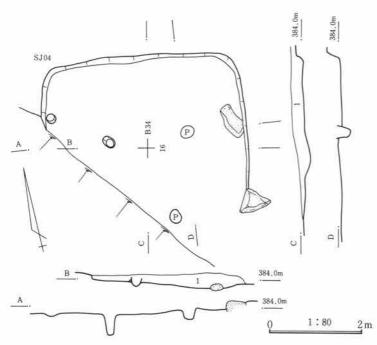
遺物 床面出土の遺物はない。現場 写真との照合からも同様であった。

S J 20

遺構 位置は15・16 B 32~35で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時に S J 04と重なっていたが、明瞭にできなかった。平面形は隅丸方形気味で、主軸は北壁で N 83°Wを測る。規模は北壁下で3.7m 東壁下で2.8m、立ち上がりは遺存のよい北壁下で32cmを残す。柱穴は認められていない。貯蔵穴は認められてていない。

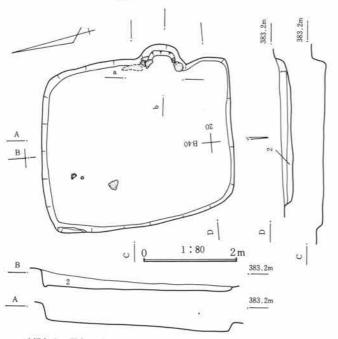


- 1. 暗褐色土。木炭・焼土粒、ローム層小ブロックを多く含み粗質。
- 2. 暗褐色土。1と同様であるが、焼土粒はやや多い。
- 3. 暗褐色土。木炭・焼土粒含み、ローム層小ブロック入る。焼土粒が入ることから再築か。



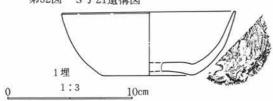
1、暗褐色土。焼土・木炭粒を含む。粗質である。

第51図 S J 20遺構図

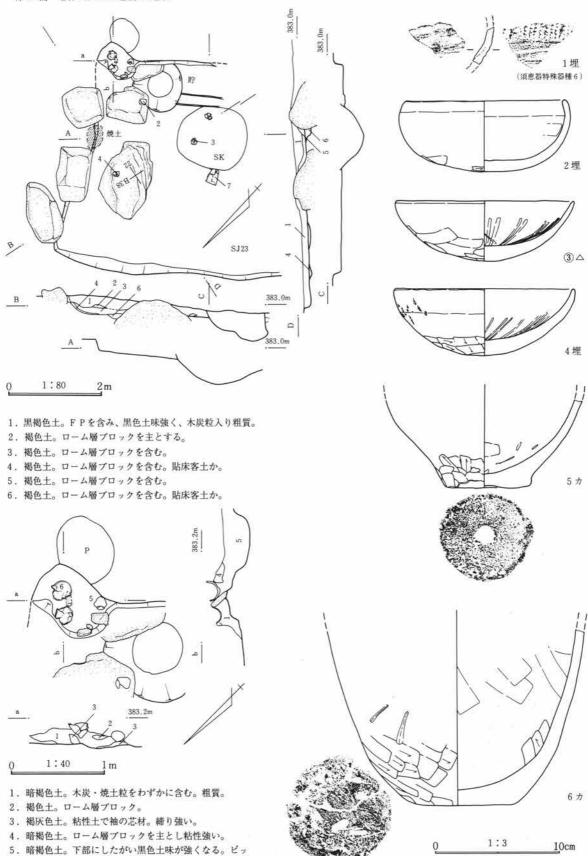


- 1. 暗褐色土。黒色土味強い。FP入る。
- 2. 暗褐色土。ローム層小ブロックを含み、やや粘性あり。

第52図 S J 21遺構図



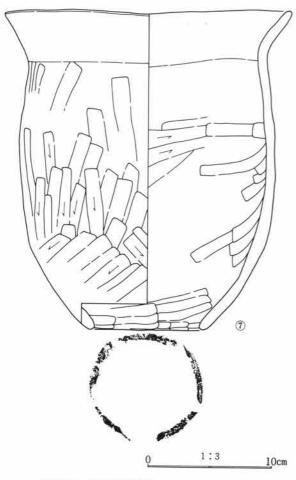
第53図 S J 21遺物図



第54図 S J 22遺構図

トと竈との、新・古の関係は明らかにされていない。

第55図 S J 22遺物図



第56図 S J 22遺物図

竈 竈は検出されていない。

遺物 床面出土の遺物はない。現場写真との照合からも同様であった。

S J 21

遺構 位置は32~35 B 39・40で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は認められなかった。平面形はひずんだ小形の隅丸方形で、主軸は北壁でN80°Wを測る。規模は西壁下で3.5m、北壁下で2.9m、立ち上がりは遺存のよい北壁下で38cmを残す。柱穴は検出されていない。貯蔵穴は検出されなかったが平面図を見ると東南隅がわずか張り出しその可能性を幾分考えることができる。

竈 竈は東壁下の中央寄り南側に片寄ってあり、袖 に石材を使用している。袖材は断面図がなく不明瞭で ある。

遺物 1点を掲げた。1は埋土出土の半欠片である。 SJ22

遺構 位置20~23 B 36~39で北東上がり勾配の微傾 斜地にある。重複は平面確認時に S J 23と重なってい たが明確にできなかった。出土遺物からすると S J 23 が先行し、S J 22が後出した可能性がある。平面形は

地山石が多いのと S J 23と同時調査をしたため不明瞭箇所が多い。主軸は北東壁で N 30°W を測る。規模は 北西壁下で4.7+ α m、北東壁下で4.0m、立ち上がりは遺存のよい北西壁下で16cmを残す。柱穴は認められ なかった。貯蔵穴は東隅に検出され、径110m、深さ37cmを測り、少し大き過ぎるきらいがある。

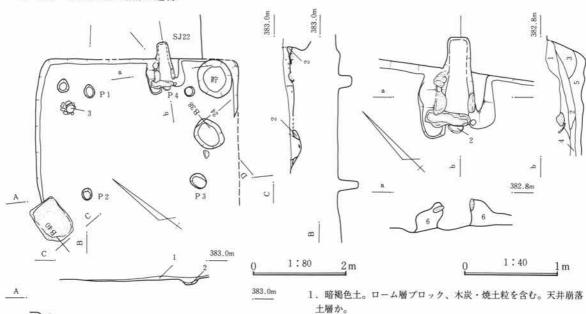
竈 竈は北東壁下の中央に焼土粒を含んだ箇所があり、竈と考えられる。発掘調査で竈とされた遺構は写真によると、本住居の床面よりもはるかに高い位置にあり疑問視される。

遺物 7点を掲げた床面出土とされたのは3・7であるが3は、後世の土壙中から出土しており、床面出土ではない。5・6は竈内出土とされているが、前述の通り別住居の遺物であろう。埋土から1・2・4の出土がある。

S J 23

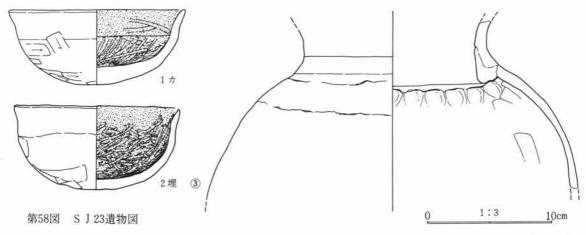
遺構 位置は22~25 B 37~40で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時に S J 22と重なっていたが明確に出来なかった。出土遺物からすると、 S J 23が先行し S J 22が後出した可能性がある。平面形は南西半を失うが、柱穴の存在からほぼ方形と考えられた。主軸は北西壁で N 58° E を測る。規模は北東壁下で3.9 m、北西壁下で2.9 + α m、立ち上がりは遺存のよい北東壁下で10cmを残す。柱穴は 4 箇所に検出され、P 1 は径28cm、深さは床面から30cm、P 2 は径24cm、深さ44cm、P 3 は径36cm、深さ44cm、P 4 は径22cm、深さ29cmであった。貯蔵穴は東隅に検出され、径84cm、深さ39cmを測る。また別住居の貯蔵穴と思われる土壙が P 3・P 4 の間で検出された。

竈 竈は北東壁下のやや南寄りにあり、袖を天井に石材を残す。袖材は褐色の粘性土である。



- 1. 暗褐色土。黒色土味強い。粗質である。下方にしたがい粘性を 増す。
- 2. 褐色土。ローム層ブロックを多く含み、締り強い。部分的に木 炭粒入る。
- 2. 暗褐色土。ローム層小ブロックをまじえ、木炭・焼土粒を多く 含む。粗質である。
- 3. 暗褐色土。ローム層小ブロックを多くまじえ、焼土・木炭粒を 含む。
- 4. 暗褐色土。ローム層小ブロックをわずかまじえ、焼土・木炭粒 を含む。
- 5. 暗褐色土。ローム層小ブロック少なく、焼土・木炭粒含む。
- 6. 褐色土。ローム層ブロックを主とする袖材。

第57図 S J 23遺構図

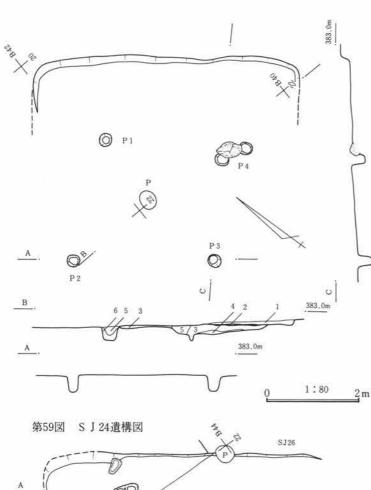


遺物 3点を掲げた。床面出土とあるのは3である。1は竈内埋土、2は埋土である。1は遺存率が高く 竈出土という因果を認めれば本住居に供伴した可能性は高い。

S J 24

遺構 位置は20~22 B 39~42で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時に S J 26と重なって いたが明確にできなかった。平面形は4柱穴から見て方形と考えられた。主軸は北東壁でN35°Wを測る。 規模は北東壁下で5.4m、立ち上がりは遺存のよい北東壁下で18cmを残す。柱穴は4箇所に検出され、P1 は径28cm、深さは床面から52cm、P 2 は径26cm、深さ36cm、P 3 は径32cm、深さ32cm、P 4 は径32cm、深さ 30cmであった。貯蔵穴は不明瞭であった。

竈 竈は検出されていない。

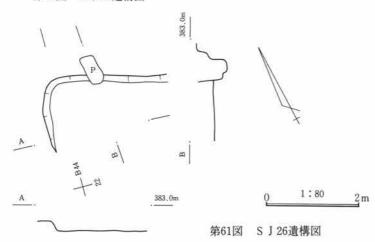


第60図 S J 25遺構図

0

トレンチ

SJ30



382.5m

1:80

- 1. 暗褐色土。ローム層小ブロック多い。粗質。
- 2. 暗褐色土。ローム層小ブロックを含む貼床。
- 3. 暗褐色土。ローム層ブロックを含む床下土壙埋土。
- 4. 暗褐色土。ローム層ブロック多い。
- 5. 黒褐色土。黒色土味強い。
- 6. 暗褐色土。ローム層ブロックやや多い。 遺物 床面出土の遺物はない。

S J 25

遺構 位置は21~23 B 43~46で北東 上がり勾配の微傾斜地にある。重複は S J 26・30と重複してもよい位置関係 にあるが各住居の残存状況が悪く確認 されなかった。平面形は部分的な残存 で明瞭でない。主軸は北東壁でN41° Wを測る。規模は北東壁下で5.7+ αm、北西壁下で1.1+αm、立ち上 がりは遺存のよい北西壁下で24cmを残 す。貯蔵穴は明瞭でない。

竈 竈は検出されなかった。 遺物 床面出土の遺物はない。

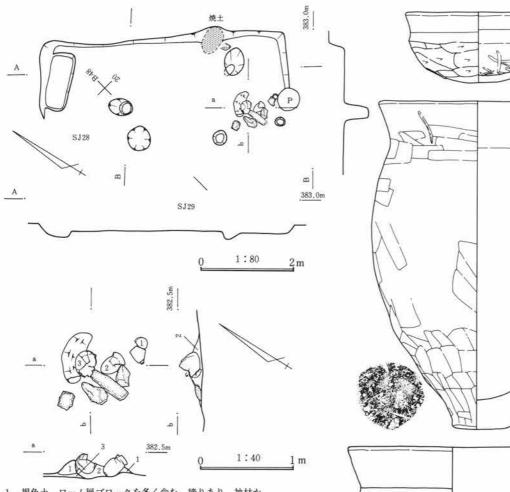
S J 26

遺構 位置は21 B 43・44で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は S J 25・30としてもよい位置関係にあるが、各住居の遺存状況が悪く確認されなかった。平面形は部分的な残存で明瞭でない。主軸は北西壁で N 58°Wを測る。規模は北西壁下で2.4+ α m、南西壁下で1.4+ α m、立ち上がりは遺存のよい南西壁下で24cmを残す。貯蔵穴は明瞭でない。

竈 竈は検出されなかった。 遺物 床面出土の遺物はない。

S J 27

遺構 位置は19~21 B 46~48で北東 上がり勾配の微傾斜地にある。重複は 平面確認時に S J 28・29と重複してよ い位置関係にあるが、各住居の遺存状 況が悪く不明瞭であった。平面形は部 分的な遺存で明瞭でない。



- 1. 褐色土。ローム層ブロックを多く含む。締りあり。袖材か。
- 2. 暗褐色土。木炭・焼土粒を含む。ローム層ブロックを含み、粗
- 3. 褐色土。ローム層ブロックを多く含む。

第62図 S J 27遺構図

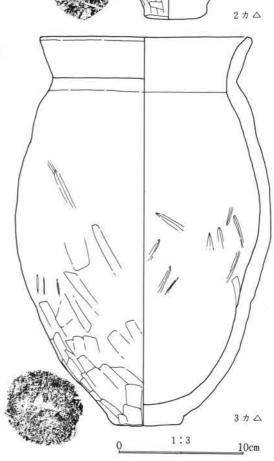
主軸は北東壁でN34°Wを測る。規模は北東壁下で 4.8m、南東壁下で1.0+αm、立ち上がりは遺存のよ い北東壁下で34cmを残す。貯蔵穴は明瞭でない。

竈 竈は北東壁下にあり、調査時点の平面図には焼 土粒の多い範囲として、記載されている。本住居の竈 とされた遺構は、竈の廃棄に伴なう竈材の集石と考え られる。竈図の記録はない。

遺物 3点を掲げた。いずれも竈内出土とあるが集 積内からの出土である。2・3は床面から出土してい る。

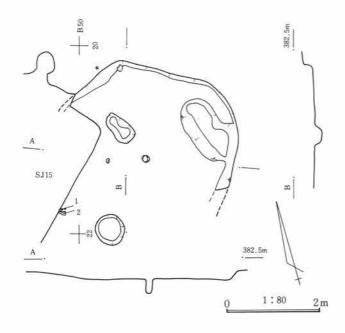
S J 28

遺構 位置は20・21 B 48~50で北東上がり勾配の微 傾斜地にある。重複は平面確認時にSJ15と重なって いたが明確にできなかった。

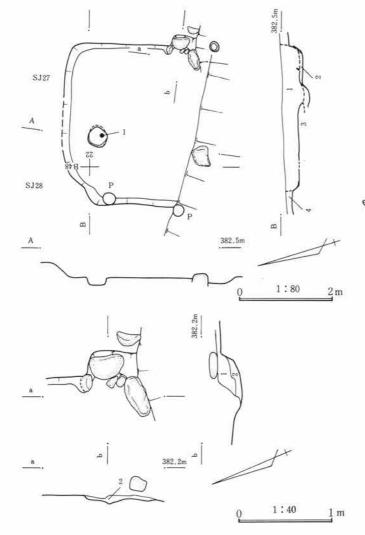


第63図 S J 27遺物図

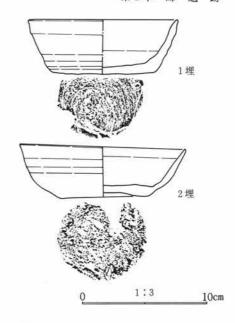
第1章 師 遺 跡



第64図 S J 28遺構図

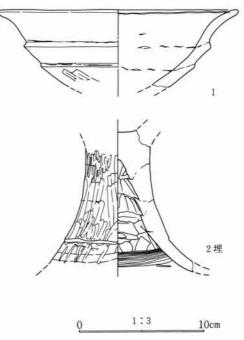


第66図 S J 29遺構図



第65図 S J 28遺物図

- 1. 黒褐色土。ローム層ブロックを多く含みFP多 く入る。粗質。
- 2. 暗褐色土。ローム層ブロックを多く含み、締り あり。
- 3. 暗褐色土。ローム層ブロックを含む貼床層。
- 4. 褐色土。ローム層ブロックを多く含む。
- 1. 暗褐色土。ローム層ブロックを多く含み木炭・ 焼土粒入る。粗質。
- 2. 暗褐色土。ローム層ブロックを含み、木炭・焼 土粒を多く含む。粗質。



第67図 S J 29遺物図

平面形は不明瞭箇所が多くはっきりしない。主軸は南東壁で $N32^{\circ}E$ を測る。規模は北東壁側で約2.6m、南東壁下で $1.5+\alpha m$ 、立ち上がりは遺存のよい北東壁下で22cmを残す。貯蔵穴は明瞭でない。なお北東部の床下には小土壙が存在している。

竈 竈は明瞭でない。

遺物 2点を掲げた。1・2は埋土出土である。2は遺存率が高く、本住居との関連が考えられる。

S J 29

遺構 位置は $21-23\,B\,48-50$ で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時に $S\,J\,27\cdot28$ と重複してもよい位置関係にあるが、各住居の残存が少なく、明確にされなかった。平面形は南半を削り取られるが、隅丸の長方形と想定される。主軸は東壁で $N\,18^\circ E$ を測る。規模は北壁下で $2.8\,m$ 、東壁下 $2.5+\alpha\,m$ 、立ち上がりは遺存のよい西壁下で $24\,cm$ を残す。貯蔵穴は検出されていない。

竈 竈は東壁下にあり袖と天井部に石材が残る。

遺物 2点を掲げた。1は西側にあるピット内から出土し、2は埋土出土である。2点とも遺存量が少な く、本住居との関連性は危ぶまれる。

S J 30

遺構 位置は $23 \cdot 24\,B\,44 \sim 46$ で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は $S\,J\,25 \cdot 26$ と重複してもよい位置関係にあるが各住居の残存状況が悪く確認されなかった。平面形は残存箇所が少なく、明瞭でない。主軸は北東壁で $N\,31^\circ$ Wを測る。規模は北東壁下で $1.6+\alpha_m$ 、立ち上がりは遺存のよい北東壁下で $8\,cm$ を残す。貯蔵穴は不明瞭である。

竈 竈は明確ではない。

遺物 床面出土とされたのは、 $6\cdot 7\cdot 8\cdot 10\cdot 12$ である。調査時点の写真を見ると、12は床から離れている。また $7\cdot 8\cdot 10$ は残存率が少なく、供伴関係を認めるには危ぶまれる。その他埋土出土として、 $1\cdot 2\cdot 3\cdot 4\cdot 5\cdot 9\cdot 11$ がある。 $1\sim 3$ は完器に近く、本住居の上面に8 世紀頃の別住居があったのかも知れない。 $4\cdot 5$ もその頃の遺物である。

S J 31

遺構 位置は15~18 B 37~40で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時に S J 05・06・07と重なっていたが、新・古の関係は明瞭にできなかった。平面形は長方形気味で、主軸は北西壁 N 46°E を測る。規模は北西壁下で4.4 m、北東壁下で3.9 m、立ち上がりは遺存のよい北西壁下で8 cmを残す。柱穴は3箇所に検出され、P 1 は径56cm、深さは床面から48cm、P 2 は径72cm、深さ64cm、P 3 は径44cm、深さ56cmを測るが南西側の一穴は明瞭でない。貯蔵穴は東隅に検出され、径90cm、深さ40cmを測る。

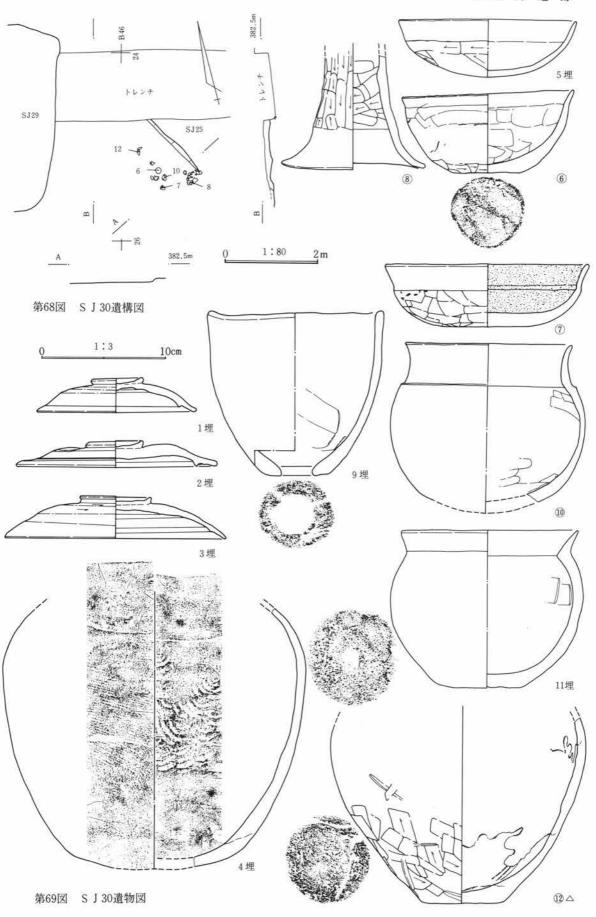
竈 竈は北東壁下の中央にあり、竈前に天井石材が落下して存在し廃棄時の破壊状況を偲ばせていた。袖 材は褐色の粘性土で石材を多用していた。

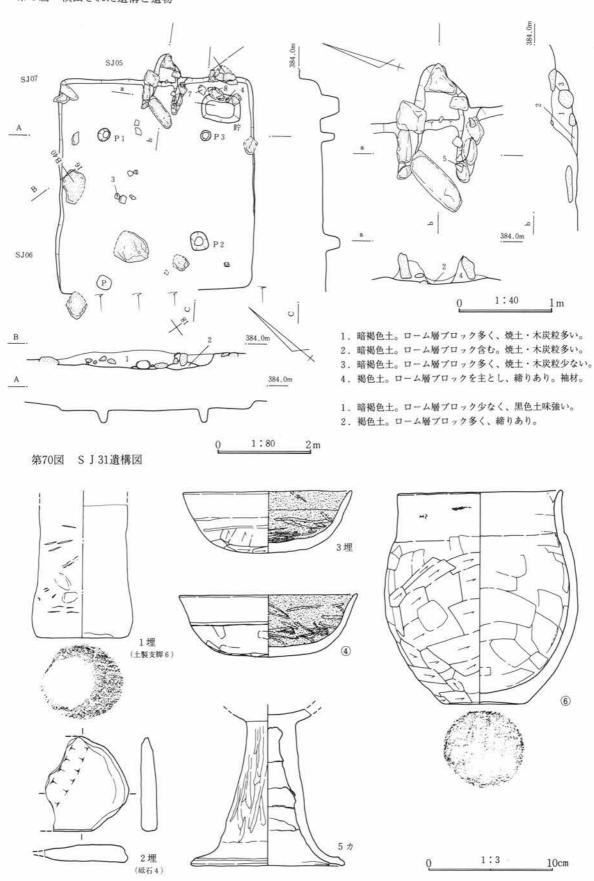
遺物 8点を掲げた。そのうち床面出土とされたのは4・6・7・8である。4・7・8は貯蔵穴際から出土しており本住居との因果と合わせ供伴した可能性は強いと考えられる。5は竈内埋土の出土である。1・2・3は埋土出土である。

S J 32

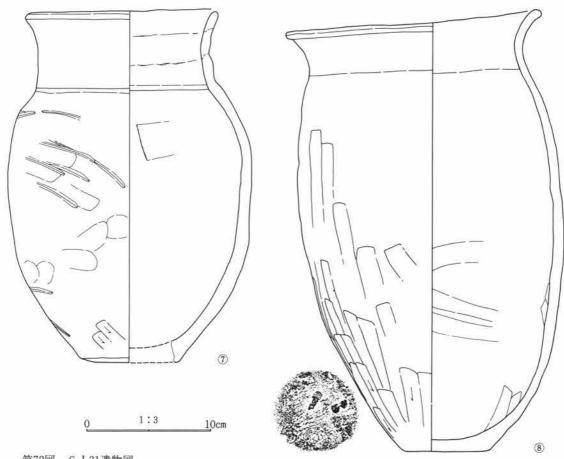
遺構 位置は14~18 A 32~36で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複はなく一部が後世溝に切られる。 平面形は各辺がわずかはらむ方形気味で、主軸は北東壁で N 33°W を測る。規模は北東壁下で6.1 m、北西壁下で5.2 m、立ち上がりは遺存のよい北西壁下で60cm を残す。施設として東側に周溝を施し、柱穴は4箇所

第1章 師 遺 跡





第71図 S J 31遺物図



第72図 S J 31遺物図

に検出され、P1は径30cm、深さは床面から50cm、P2は径30cm、深さ49cm、P3は径25cm、深さ36cm、P 4 は径20cm、深さ50cmであった。貯蔵穴は東隅に検出され、径94cm、深さ36cmを測る。

竈 竈は北東壁下の中央よりやや南寄り竈前に石材が散乱し廃棄時の破壊状況を偲ばせていた。袖材は褐 灰色の粘土で、石材を袖に用いている。

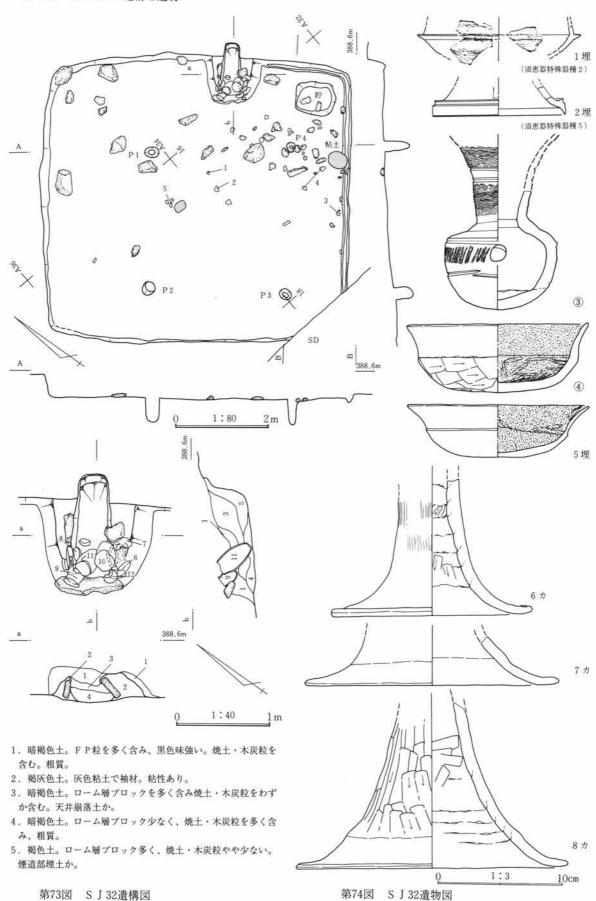
遺物 12点を掲げた。床面とされたのは3・4であり、調査時点の写真を見ると共に床面出土である。竈 内から6・7・8・9・10・11・12がある。そのうち6・7・8は脚部のみであるが、9・10・11は遺存率 が良く、本住居と供伴した可能性は強い。

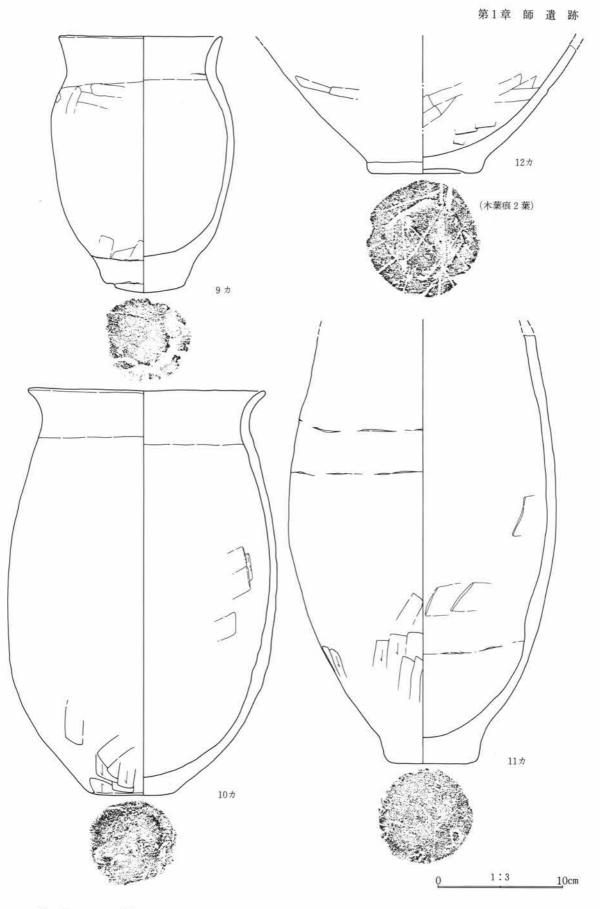
S J 33

遺構 位置は23~25 A 28~32で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時に S J 34と重なって いたが確認できなかった。土層断面図からするとSJ34が古くSJ33が新しい。平面形は方形気味で、主軸 は東壁でN15°Wを測る。規模は東壁下で5.7m、北壁下で5.5m、立ち上がりは遺存のよい北壁下で21cmを 残す。施設として北西壁下に部分的に周溝を施し、柱穴は3箇所に検出され、P1は径22cm、深さは床面か ら41cm、P2は径20cm、深さ50cm、P3は径32cm、深さ46cmであった。貯蔵穴は東隅に検出され長径160cm、 深さ52cmを測るが、少し大き過ぎるきらいがある。

竈 竈は東壁下の中央より南寄りにあり、袖材は暗褐色の粘性土で木炭粒・焼土粒を多く含み、再築の可 能性がある。

遺物 7点を掲げた。床面出土とされたのは1・3・4・5・7である。2・6は貯蔵穴内出土である。 このうち6は破片個体であるので本住居との供伴の意味はやや薄らぐであろう。写真照合の結果は床面につ





第75図 S J 32遺物図

いて現場所見と同様であった。

S J 34

遺構 位置は23~26 A 28~31で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時に S J 33と重なっていたが、新・古の関係は確認できなかった。土層断面図からすると S J 34が古く S J 33が新しい。平面形は推定長方形気味で、主軸は北西壁で N 62° E を測る。規模は北西壁下で4.1 m、北東壁下で2.2 + α m、立ち上がりは遺存のよい北西壁下で40cmを残す。柱穴は 2 箇所に検出され、P 1 は径21cm、深さは床面から30cm、P 2 は径30cm、深さ48cmであった。貯蔵穴は検出されていない。

竈 竈は検出されていない。

遺物 1点を掲げた。1は床面とされているが破片個体であり、本住居との供伴関係は危ぶまれる。

S J 35

遺構 位置は27~30 A 31~34で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時に S J 36・38と重なるが、新・古の関係は明瞭でない。平面形は柱穴からすれば方形気味で、主軸は南東壁で N 33°W を測る。規模は北東壁下で5.1 m、南東壁下で4.8 m、立ち上がりは遺存のよい北東壁下で30cmを残す。柱穴は 4 箇所に検出され、P 1 は径25cm、深さは床面から41cm、P 2 は径28cm、深さ41cm、P 3 は径28cm、深さ40cm、P 4 は径30cm、深さ42cmであった。貯蔵穴は南隅に検出され、径106cm、深さ56cmを測る。

竈 竈は南西壁側に存在したと考えられるが後世の攪乱を受け明瞭でない。

遺物 3点を掲げた。1・2が床面から3が埋土出土である。写真照合の結果も同様であった。

S J 36

遺構 位置は $24\sim28\,A\,34\sim36$ で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時に $S\,J\,35$ と重なるが新・古の関係は明確でない。平面形は欠損部分が多く明瞭でない。主軸は北東壁で $N\,30^\circ$ Wを測る。規模は北東壁下で $6.8\,\mathrm{m}$ 、北西壁下で $1.2+\alpha\,\mathrm{m}$ 、立ち上がりは遺存のよい北西壁下で $31\,\mathrm{cm}$ を残す。柱穴は $2\,\mathrm{箇所}$ に検出され、 $P\,1$ は径 $30\,\mathrm{cm}$ 、深さは床面から $50\,\mathrm{cm}$ 、 $P\,2$ は径 $38\,\mathrm{cm}$ 、深さ $45\,\mathrm{cm}$ を測る。貯蔵穴は $2\,\mathrm{穴}$ が重なるようにして南東隅に検出され、 $2\,\mathrm{cm}$ を発行。たべき $2\,\mathrm{cm}$ を測る。

竈 竈は北東壁下の中央にあり竈前に石材が散乱し廃棄時の破壊状況を偲ばせていた。袖材は褐色の粘土である。

遺物 5点を掲げた。竈内埋土から3・4・5が出土し、3点とも大形破片個体である。2は竈左袖外面に接して出土し欠損が少ない個体であるため、本住居との供伴の可能性は高い。1は埋土である。

S J 37

遺構 位置は26~28 A 34~36で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時に S J 36・38と重なるが、新・古の関係は明瞭にでない。平面形は不明瞭で、主軸は北東壁で N 24°W を測る。規模は北東壁下で推定5.9 m、北西壁下で0.4+ a m、立ち上がりは遺存のよい北東壁下で10cmを残す。貯蔵穴は不明瞭。

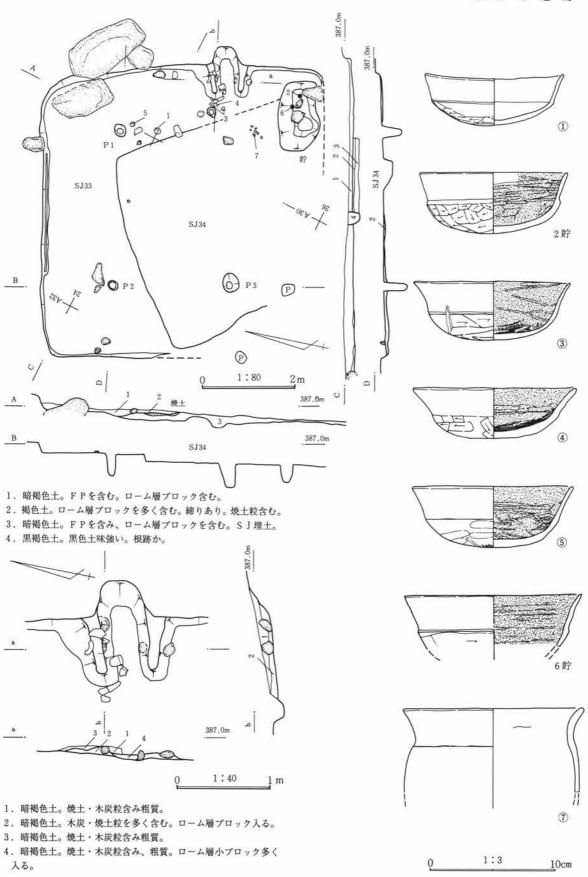
竈 竈は東壁下にあり、調査し得たのは袖のみである。

遺物 2点を掲げた。ともに欠損の少ない個体で床面出土である。

S J 38 A . B

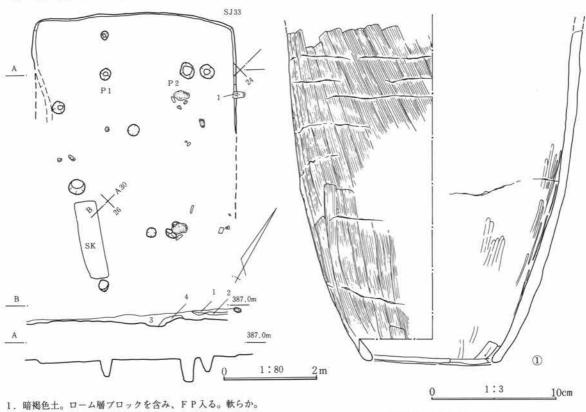
遺構 位置は $28\sim31\,A\,33\sim36$ で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にSJ39と重なっていたが、新・古の関係は明瞭でない。整理作業の過程でSJ38は新・旧2つの住居が北東壁を合わせたような形で存在したものとわかった。8世紀頃と6世紀初頭頃の2棟で前者をAとし後者をBとした。図中のA・Bはそれを示す。平面形は西半を欠くため明瞭でない。主軸はAの北東壁でN 31° Wを測る。規模はAの北

第1章 師 遺 跡



第76図 S J 33遺構図

第77図 S J 33遺物図

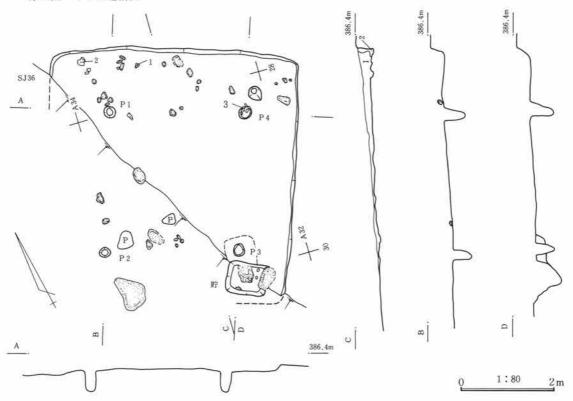


- 2. 暗褐色土。ローム層ブロックを主とし、締りあり。焼土入る。
- 3. 暗褐色土。ローム層ブロックわずかに含む。
- 4. 暗褐色土。焼土・木炭粒を多く含む個所。

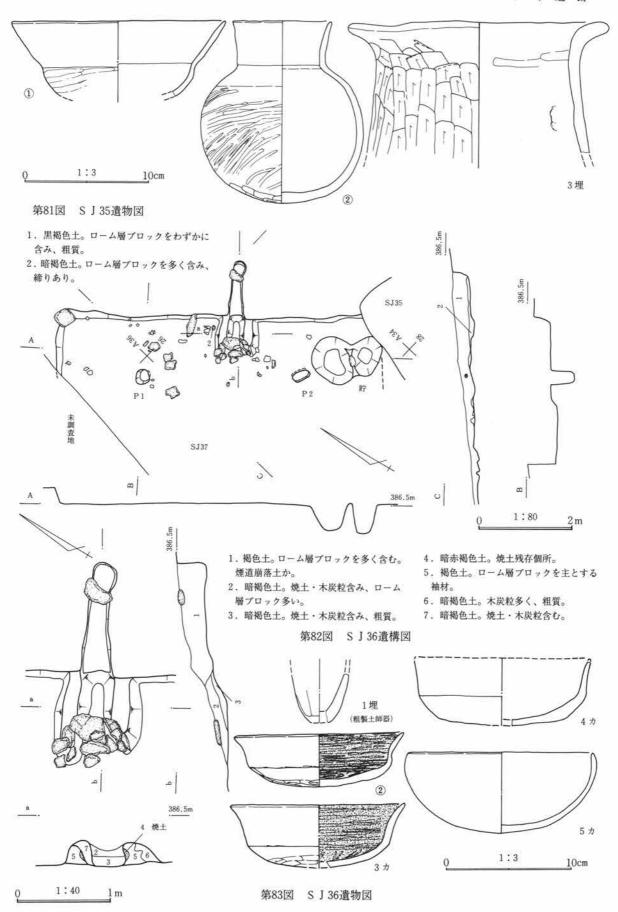
第78図 S J 34遺構図

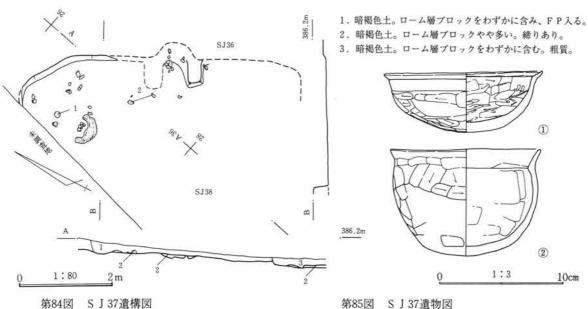
第79図 S J 34遺物図

- 1. 暗褐色土。木炭・焼土粒・FP入り、軟らか。
- 2. 暗褐色土。ローム層ブロック含む。



第80図 S J 35遺構図





第85図 S J 37遺物図

東壁下で推定4.24m、南東壁下で3.0+αm、立ち上がりは遺存のよい北西壁下で15cmを残す。Bの主軸は N31°Wで規模は南西壁で3.08+ a mである。柱穴は4箇所にあるがどちらの住居に伴なうか、または別の 住居に伴なうのか判然としない。 P 1 は径31cm、深さは床面から40cm、 P 2 は径27cm、深さ38cm、 P 3 は径 27cm、深さ40cm、P 4 は径25cm、深さ45cmであった。貯蔵穴は北東隅に検出され、径55cm、深さ41cmを測る。

⑥ Aの竈は北東壁下にあり竈前には多量の石材が散乱し廃棄時の破壊状況を偲ばせていた。また石材の 南端が住居跡の南壁の可能性もあるので図中に破線を加えておいた。袖材は暗褐色の粘性土で右袖には石材 が残されていた。Bの竈は北東壁にあり袖材は褐色の粘性土であった。

遺物 Aの遺物は竈内埋土と左袖上から1・2・4が出土している。3・5は床面出土である。2・5は 半欠品であるため本住居との供伴関係はやや危ぶまれる。Bの遺物は15点を示した。床面出土は6・8・9・ 12・13・15・17・18・19・20があり、埋土中に7・10・11・14・16がある。この中で11・12・18は破片個体 である。このため本住居との供伴関係はやや危ぶまれるがBの貯蔵穴周辺と竈周辺に6・8・9・12・13・ 15・16・17・18があり、何らかの形で住居とのかかわりを考える事ができ、供伴の可能性がある。

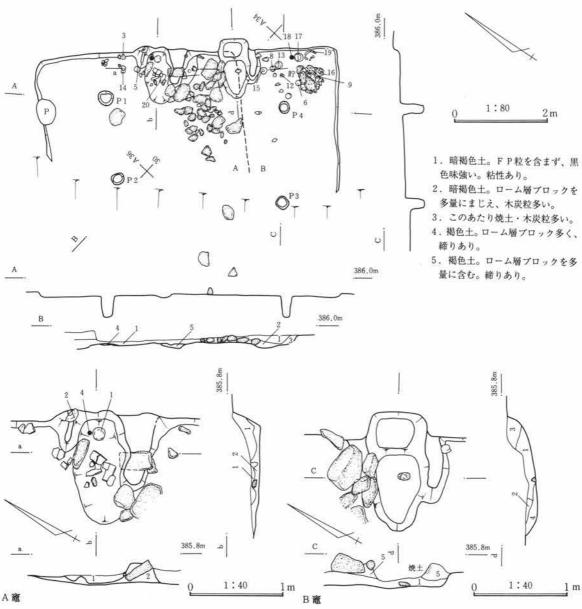
S J 39

遺構 位置は31~34 A 32~34で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時に S J 40と重なって いたが、新・古の関係は明瞭でない。平面形は隅丸長方形と考えられ、主軸は北西壁でN61°Eを測る。規 模は短辺で4.2m、立ち上がりは遺存のよい北東壁下で14cmを残す。貯蔵穴は南西隅に検出され、長径70cm、 深さ22cmを測る。

竈 竈は現場図面では南西壁中央と考えられる位置に焼土粒の分布があり本住居の竈跡と考えられる。 遺物 床面に伴う土器類はなく、写真照合の結果も同様であった。

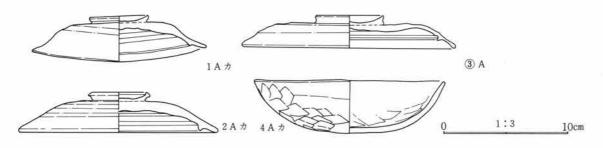
S J 40

遺構 位置は32~35 A 31~35で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時に S J 39・44と重なっ ていたが、新・古の関係は明瞭でなかった。本住居跡はさらに2つの住居が重なり、あたかも1棟の住居と して調査されたと考えらる。というのは貯蔵穴と考えられる土壙が2箇所にあり、更に北東壁は竈部分の食 い違いを見せるなどの理由による。主軸は北東壁でN40°Wを測る。規模は北東壁下で6.2m、北西壁下で 4.7m、立ち上がりは遺存のよい北西壁下で18cmを残す。北東の貯蔵穴は径96cm、深さ42cmを測る。



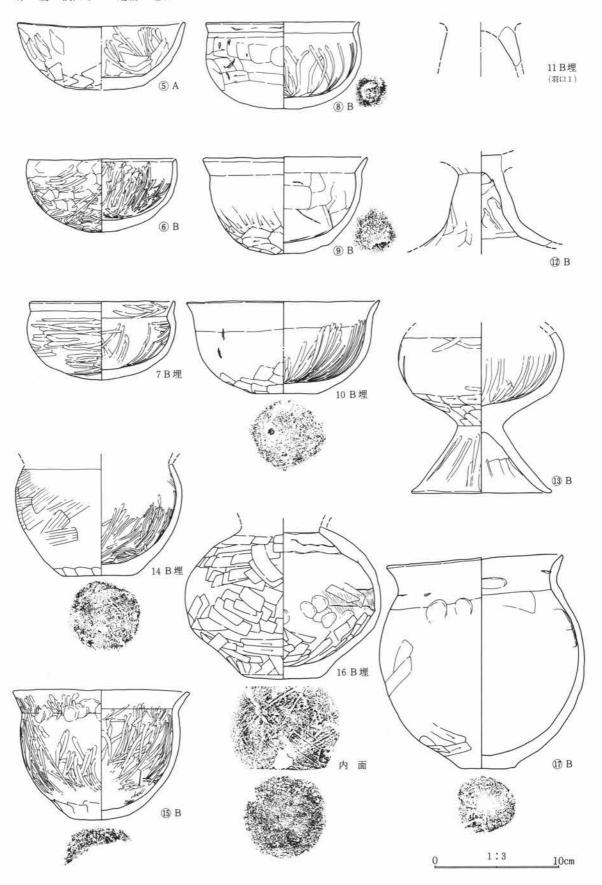
- 1. 暗褐色土。ローム層ブロックを多く含み、焼土・木炭粒多い。 焚口右前に石材が多く散乱し、廃棄時の破壊を思わせる。
- 2. 暗褐色土。ローム層ブロックを主とし、焼土・木炭粒を含む。 そのことは再築か。
- 1. 暗褐色土。ローム層ブロックをわずかに含み、木炭・焼土粒入 る。
- 2・3.1に同じ。4.褐色土。ローム層小ブロックを含み、木炭・焼土粒多い。
- 5. 褐色土。ローム層を主体とした袖材。

第86図 S J 38遺構図

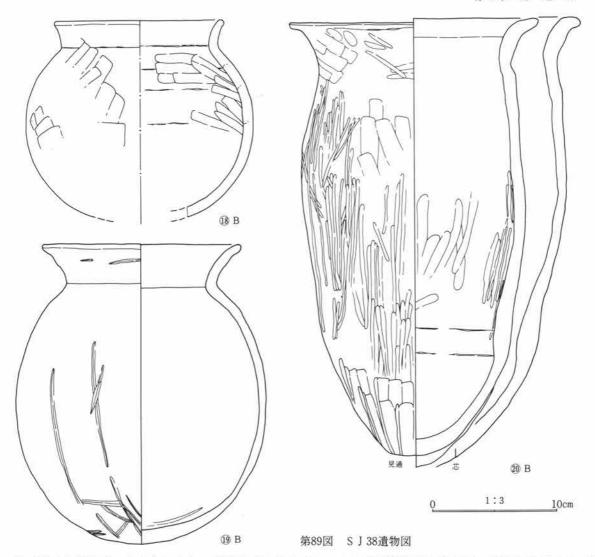


第87図 S J 38遺物図

第4篇 検出された遺構と遺物



第88図 S J 38遺物図



竈 竈は北東壁下の南寄りにあり、竈前東方に粘土ブロックや石材が散乱し廃棄時の破壊を偲ばせる。袖 材は褐色の土である。

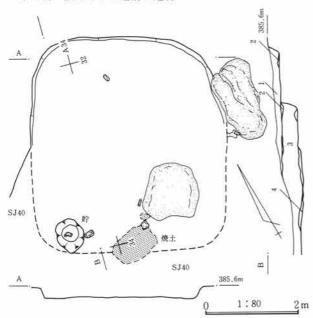
遺物 13点を掲げた。床面出土とされているのは $2 \cdot 8 \cdot 13$ である。竈内からは 7 の出土がある。埋土からは $1 \cdot 3 \cdot 4 \cdot 5 \cdot 6 \cdot 9 \cdot 10 \cdot 11 \cdot 12$ がある。埋土出土の一群は大半が貯蔵穴周辺から出土しているが、写真照合の結果、床面から大きく離れているため、 $4 \cdot 8 \cdot 11 \cdot 12$ 相互での組合は考えられても本住居跡との直接の関連性はやや薄いであろう。

S J 41

遺構 位置は $32\sim34\,A\,35\sim37$ で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時に $S\,J\,42$ と重なっていたが、新・古の関係は明確にならなかった。平面形は長方形気味で、主軸は東壁で $N\,37^{\circ}E$ を測る。規模は東壁下で $4.0+\alpha$ m、北壁下で $2.9\,\mathrm{m}$ 立ち上がりは遺存のよい北壁下で $40\,\mathrm{cm}$ を残す。貯蔵穴は南寄りに検出され、径 $46\,\mathrm{cm}$ 、深さ $51\,\mathrm{cm}$ を測る。

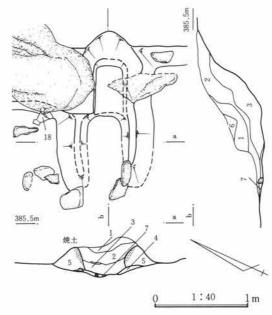
竈 竈は東壁下にあったと考えられ、土層断面注 4 に、焼土・木炭粒が見え、竈が後世土壙に削られた可能性があるであろう。

遺物 6 点を掲げた。床面とされた例には $3 \cdot 4 \cdot 5 \cdot 6$ があり、埋土中から $1 \cdot 2$ がある。写真照合の結果、4 は床面、5 は貯蔵穴に接しており、本住居跡との直接的な係わりは認められるがともに破片個体で

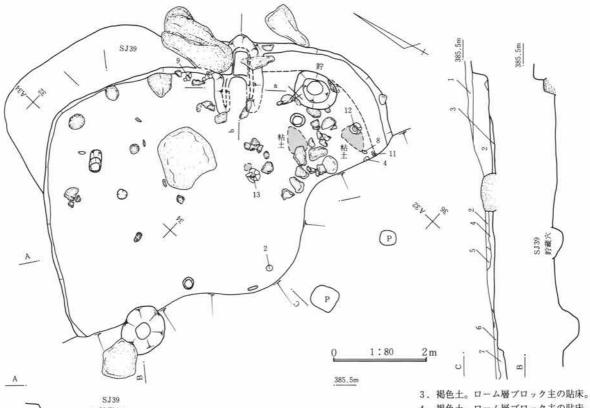


- 1. 暗褐色土。ローム層ブロックを多く含み、木炭・焼土粒入り、 FPわずかに含む。
- 2. 褐色土。ローム層ブロックを主体とする貼床層。
- 3. 暗褐色土。ローム層ブロック少なく。焼土・木炭粒入る。FP 微弱である。
- 4. 褐色土。ローム層ブロックを主とする貼床層。

第90図 S J 39遺構図

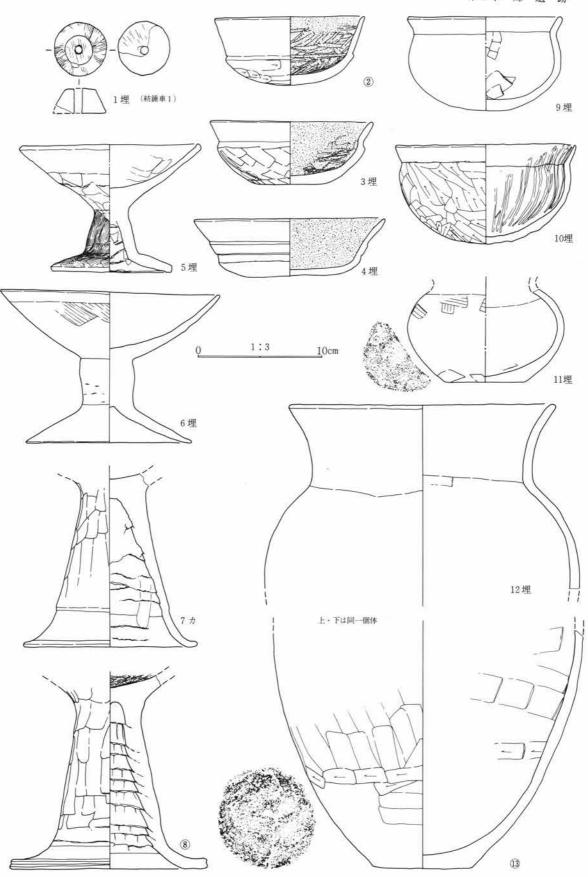


- 1. 暗褐色土。ローム層小ブロック含み、焼土・木炭粒多く含む。
- 2. 暗褐色土。ローム層小ブロック含み、焼土粒多く、木炭粒入る。
- 3. 暗褐色土ローム層小ブロック含み、焼土・木炭粒多く含む。
- 4. 褐色土。ローム層ブロックを主体とする。粘性、締りあり。
- 5. 褐色土。ローム層プロックを主体とする袖材。
- 6. 褐色土。ローム層ブロックを主とし、焼土・木炭粒含む。
- 7. 暗褐色土。焼土・木炭粒を多く含む。

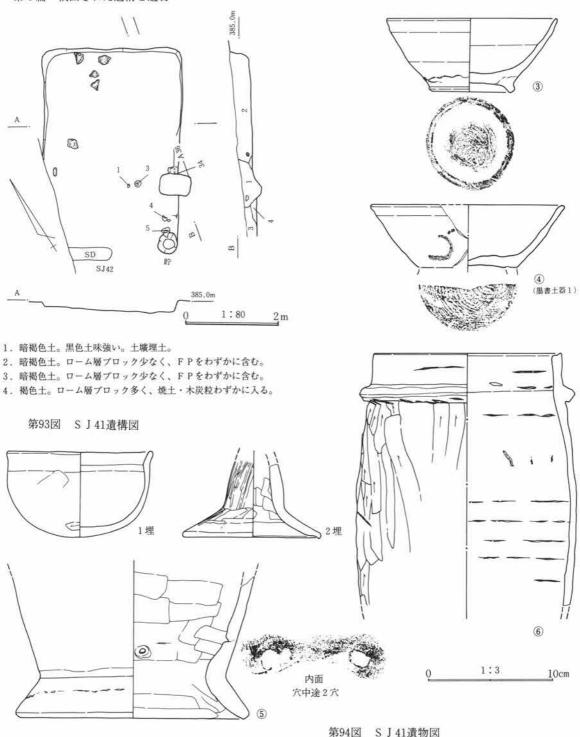


第91図 S J 40遺構図

- 1. 暗褐色土。ローム層ブロック含む。
- 2. 暗褐色土。ローム層ブロック含む。
- 4. 褐色土。ローム層ブロック主の貼床。
- 5. 黒褐色土。黒色土味強い。
- 6. 暗褐色土。ローム層ブロック含む。
- 7. 褐色土。ローム層ブロック多い。



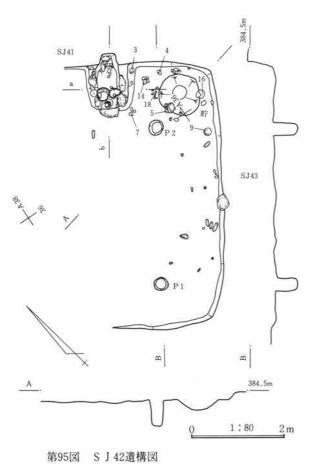
第92図 S J 40遺物図



ある。

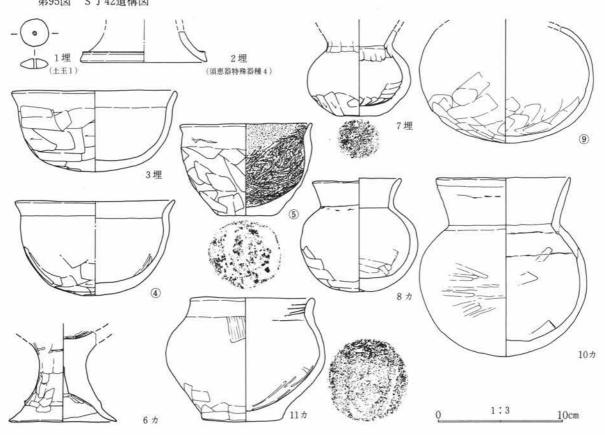
S J 42

遺構 位置は $34\sim37\,A\,35\sim37$ で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時に $S\,J\,43$ と重なっていたが、新・古の関係は捉えられなかった。出土遺物からすると $S\,J\,42$ が6世紀代、 $S\,J\,43$ が10世紀代であるので $S\,J\,42$ が先行する。平面形は推定隅丸方形気味で、主軸は南東壁で $N\,47^{\circ}E$ を測る。規模は南東壁下で $5.1\,\mathrm{m}$ 、北東壁下で $3.1+\alpha\,\mathrm{m}$ 、立ち上がりは遺存のよい北東壁下で $54\,\mathrm{cm}$ を残す。柱穴は2箇所に検出され、 $P\,1$ は径 $30\,\mathrm{cm}$ 、深さは床面から $50\,\mathrm{cm}$ 、 $P\,2$ は径 $30\,\mathrm{cm}$ 、深さ $51\,\mathrm{cm}$ であった。貯蔵穴は北東隅に検出され、 $20\,\mathrm{cm}$



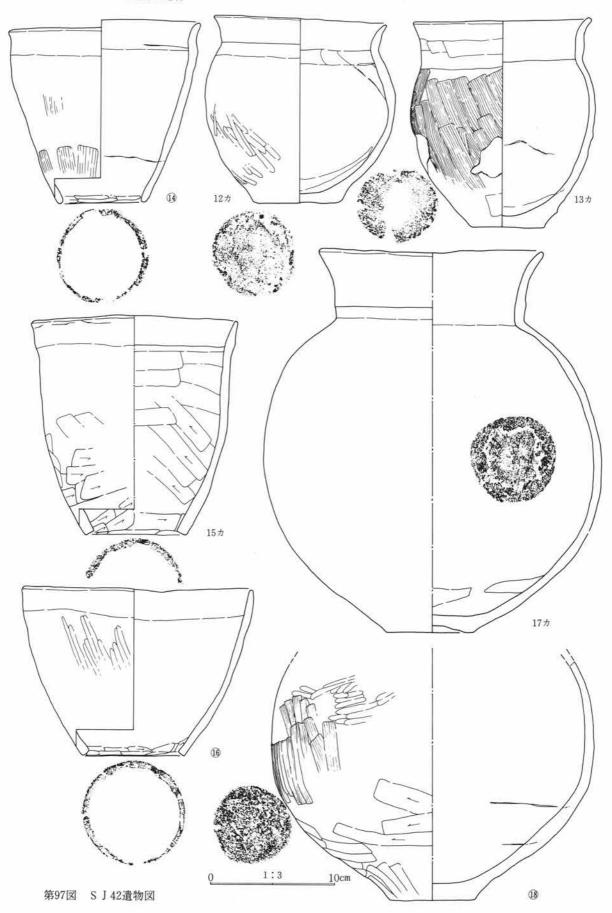
1:40 1 m

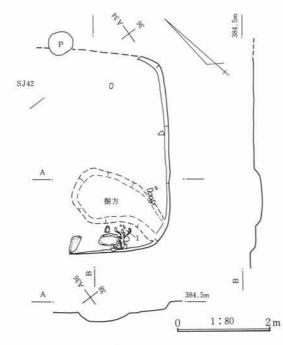
- 1. 褐色土。ローム層ブロック多い。天井崩落土か。
- 2. 暗褐色土。ローム層ブロック含み、焼土・木炭粒多い。粗質。
- 3. 暗褐色土。焼土・木炭粒を含み、ローム層ブロックの多い袖材。
- 4. 暗褐色土。焼土・木炭粒を多く含み、ローム層ブロック入る。
- 5. 褐色土。ローム層ブロックを多く含む袖材。
- 6. 褐色土。ローム層ブロックを多く含む袖材。
- 7. 暗褐色土。焼土・木炭粒を多く含み、粗質。



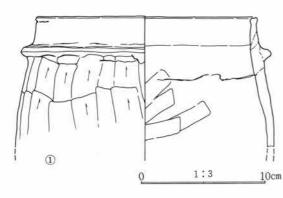
第96図 S J 42遺物図

第4篇 検出された遺構と遺物





第98図 S J 43遺構図



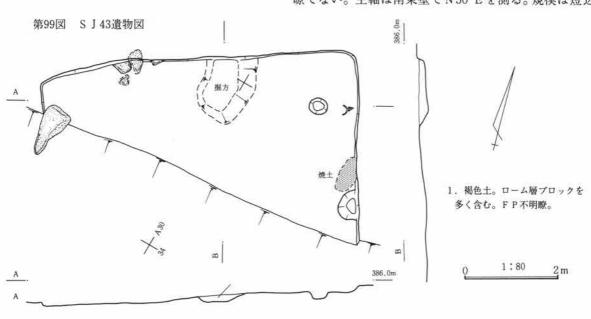
深さ40cmを測る。

竈 竈は北東壁下にある。廃棄時の破壊状況を偲ばせていた。袖材は暗褐色の粘性土で木炭粒・焼土粒を多く含み、再築の可能性がある。袖には石材が用いられ焚口には天井架構石材があり、竈内には3個体の土器が置かれたような状態で出土している。ほか5個体の出土がある。

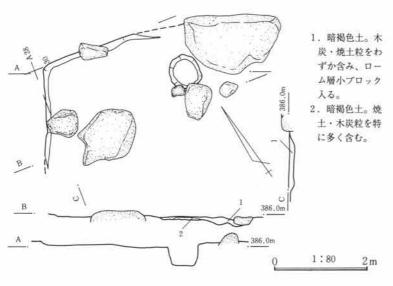
遺物 18点掲げた。調査時点で竈から6・8・10・11・12・13・15・17がある。床面から4・5・9・14・16・18がある。埋土から1・2・3がある。そのうち4・6・15・17・18については欠損がある。写真照合においては竈内出土の一群は、まとまりがあり、6・15・17については大きな欠損があるため供伴の意味あいはやや危ぶまれるが、そのほかについては供伴関係は成立すると見られる。また床面出土個体の多くが貯蔵穴周辺から出土しているのでその因果において供伴の可能性は高いであろう。

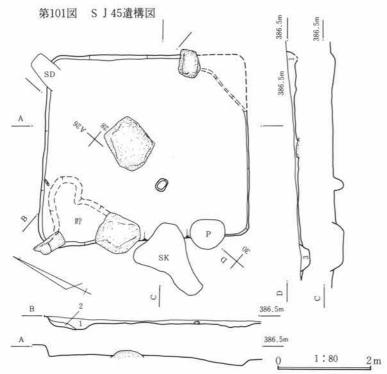
S J 43

遺構 位置は35~37 A 33~34で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時に S J 42と重なっていたが、新・古の関係は捉えられなかった。出土遺物からすると S J 42が6世紀代、S J 43が10世紀代であるので S J 43が後出する。平面形は欠失個所が多く明瞭でない。主軸は南東壁で N 50° E を測る。規模は短辺



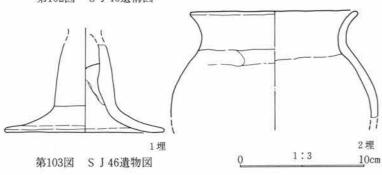
第100図 S J 44遺構図





- 1. 暗褐色土。ローム層ブロックを多く含み、木炭・焼土粒入る。
- 2. 褐色土。ローム層ブロックを多く含み、締りあり。
- 3. 黒褐色土。黒色味強い。

第102図 S J 46遺構図



で3.8m、立ち上がりは遺存のよい 北東壁下で25cmを残す。貯蔵穴は掘 方調査時に南東隅に土壙が検出され ている。その土壙の規模は214cm、 深さ42cmを測る。

竈 竈は検出されていない。

遺物 1点を掲げた。1は床面と ある。

S J 44

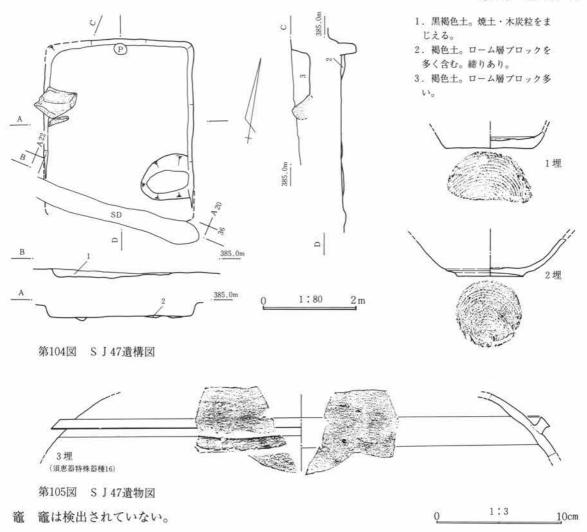
遺構 位置は31~33 A 28~31で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複はない。平面形は南半が欠損し不明瞭であるが長方形と思われる。主軸は東壁でN 17°Wを測る。規模は北壁下で6.7m、東壁下で3.9+ a m、立ち上がりは遺存のよい東壁下で10cmを残す。貯蔵穴は不明瞭であるが焼土粒の多い箇所が東壁にあり、それに南接して小さな土壙があり、貯蔵穴かと考えられる。

竈 竈は東壁下にあり、焼土の多 い箇所があり竈かと考えられるが竈 実測図は作成されていない。

遺物 掲げてないが現場実測図平 面に土器 1 点が記載されているが、 取り上げ番号がなく個体照合ができ なかった。

S J 45

遺構 位置は30・31 A 26~28で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複はない。平面形は大半を失っているため不明瞭。主軸は西壁でN 36°Eを測る。規模は北壁下で2.5+ α m、西壁下で2.0+ α m、立ち上がりは遺存のよい西壁下で6 cmを残す。貯蔵穴は東側に自然石の山石があり、その直下に径約40cm、深さ約15cmの土壙があり、貯蔵穴かも知れない。



遺物 床面出土とされる個体はない。

S J 46

遺構 位置は27~30 A 24~27で北上がり勾配の微傾斜地にある。重複はない。平面形は方形気味で、主軸は西壁でN 32°Wを測る。規模は西壁下で4.3 m、北壁下で3.9 m、立ち上がりは遺存のよい東壁下で20cmを残す。貯蔵穴は調査時に西隅に小土壙が検出され、貯蔵穴かと思われる。その規模は径156cm、深さ29cmを測る。

竈 竈は検出されていない。

遺物 2点を掲げた。 $1 \cdot 2$ とも埋土出土である。2は破片個体で1も坏部を失っているため、本住居との供伴の可能性は極めて薄い。

S J 47

遺構 位置は34~36 A 20~22で北上がり勾配の微傾斜地にある。重複はない。平面形は長方形気味で、主軸は東壁で N 9 °W を測る。規模は東壁下で推定3.6 m、北壁下で2.9 m、立ち上がりは遺存のよい西壁下で22cm を残す。貯蔵穴は南東隅に小土壙があり、径約52cm、深さ8 cmである。それが貯蔵穴とも考えられる。

竈 竈は検出されない。

遺物 3点を掲げた。3点ともに埋土から出土している。いずれも破片個体であるが埋土中から出土した 個体の多くが8世紀以後である点と重複住居がない点から3点ともに本住居と関連した可能性がある。

S J 48

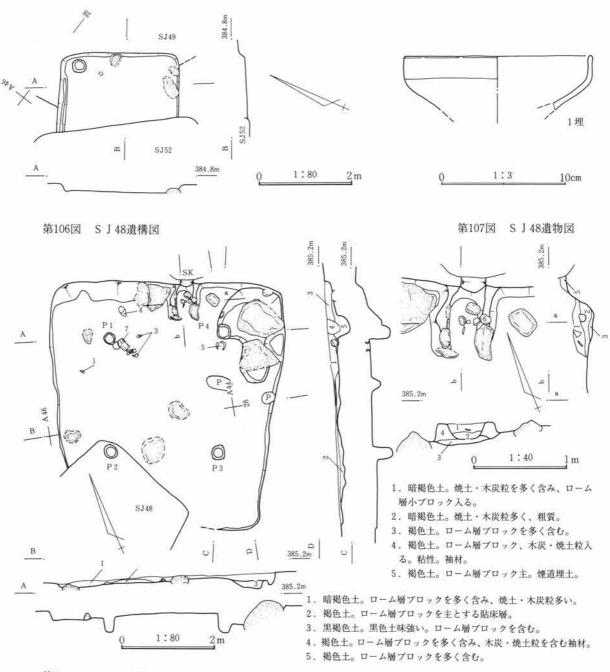
遺構 位置は $28 \cdot 29 \, A \, 44 \sim 46$ で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時に $S \, J \, 49 \cdot 52$ と重なっていたが明瞭でなかった。出土遺物から見ると遺物量が少なく明言できない。平面形は西半を欠くため明瞭でない。主軸は東壁で $N \, 27^\circ W$ を測る。規模は東壁下で $2.4 \, m$ 、立ち上がりは遺存のよい東壁下で $35 \, cm$ を残す。貯蔵穴は北隅に径約 $25 \, cm$ 、深さ約 $8 \, cm$ の小土壙があり、貯蔵穴と考えられる。

竈 竈は検出されない。

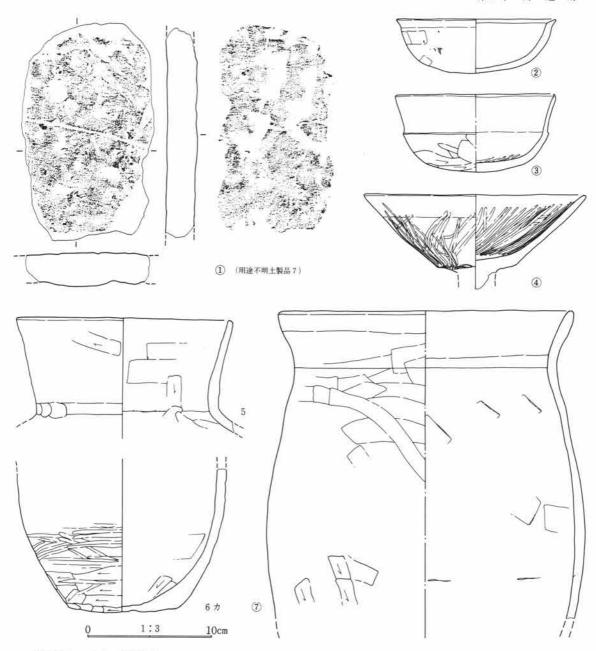
遺物 1点を掲げた。1は埋土中からの出土である。

S J 49

遺構 位置は26~29 A 43~45で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にSJ48と重なるが



第108図 S J 49遺構図



第109図 S J 49遺物図

明確にできなかった。平面形は一辺の短かい逆台形気味で、主軸は東壁で N 29°W を測る。規模は東壁下で $4.8\,\mathrm{m}$ 、北壁下で $4.8\,\mathrm{m}$ 、立ち上がりは遺存のよい西壁下で $20\,\mathrm{cm}$ を残す。柱穴は 4 箇所に検出され、 P 1 は径 $26\,\mathrm{cm}$ 深さは床面から $30\,\mathrm{cm}$ 、 P 2 は径 $30\,\mathrm{cm}$ 、 深さ $39\,\mathrm{cm}$ 、 P 3 は径 $31\,\mathrm{cm}$ 、 深さ $34\,\mathrm{cm}$ 、 P 4 は径 $30\,\mathrm{cm}$ 、 深さ $42\,\mathrm{cm}$ で あった。 貯蔵穴はあいまいであるが、北東隅側が凹んで写真に見える。

竈 竈は北壁下のほぼ中央に山石を避けるようにして存在した。袖材は褐色の粘性土で石材を多用している。

遺物 7点を掲げた。調査時点に床面とされたのは $1 \cdot 2 \cdot 3 \cdot 4 \cdot 5 \cdot 7$ である。6 は竈埋土とある。 写真照合の結果 $1 \cdot 2 \cdot 3 \cdot 4 \cdot 5 \cdot 7$ について床面から出土し、本住居に伴なうと考えられた。しかし $3 \cdot 7$ については大きく欠損があり供伴の可能性はやや落ちる。

S J 50

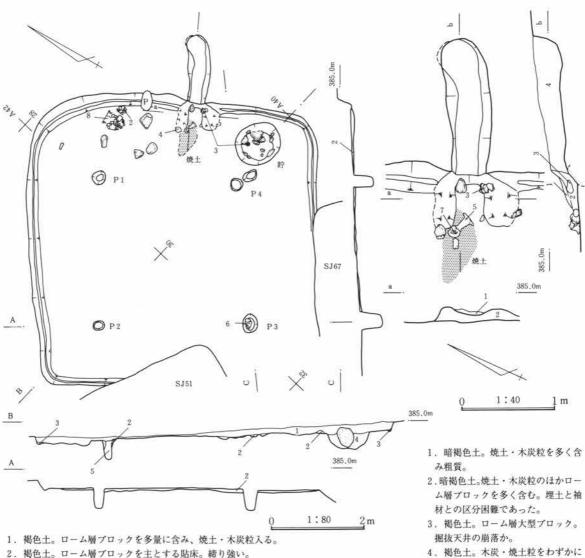
遺構 位置は28~31 A 40~43で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 51・57と重複 しているが明瞭でない。平面形は隅丸方形気味で、主軸は北東壁でN25°Wを測る。規模は北東壁下で5.5m、 北西壁下で5.0m、立ち上がりは遺存のよい北西壁下で10cmを残す。施設としてはめずらしく周溝が全周し ている。柱穴は4箇所に検出され、P1は径30cm、深さは床面から29cm、P2は径25cm、深さ38cm、P3は 径40cm、深さ41cm、P 4 は径32cm、深さ41cmであった。貯蔵穴は東寄りに検出され、径100cm、深さ40cmを測る。

竈 竈は北東壁下のほぼ中央にあり、煙道部をよくとどめる。袖材は褐色の粘性土である。

遺物 8点を掲げた。調査時点で床面とされたのは2・4・8で、竈内から1・5・7が、竈内と貯蔵穴 から出土した3が接合関係にある。貯蔵穴から6の出土がある。写真照合の結果、床面出土個体については 床面と確認でき、竈出土の5・7についても底面に近く存在していた。供伴関係は3に大きな欠損があり、 やや危ぶまれるが、他については供伴の可能性は高いであろう。

S J 51

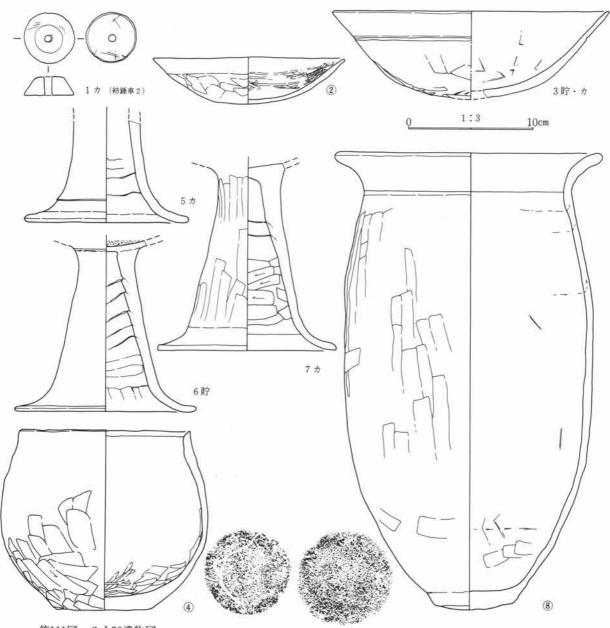
遺構 位置は30~33 A 42~45で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時に S J 55・56と重



- 2. 褐色土。ローム層ブロックを主とする貼床。締り強い。
- 3. 暗褐色土。ローム層小ブロッを含むが、黒色土味強く、軟らか。周壁溝の埋土。
- 4. 暗褐色土。ローム層ブロックを多く含む。5. 暗褐色土。やや黒色土味強い。柱穴埋土。

含み、ローム層ブロックを主体とす る。煙道崩落土か。

第110図 S J 50遺構図



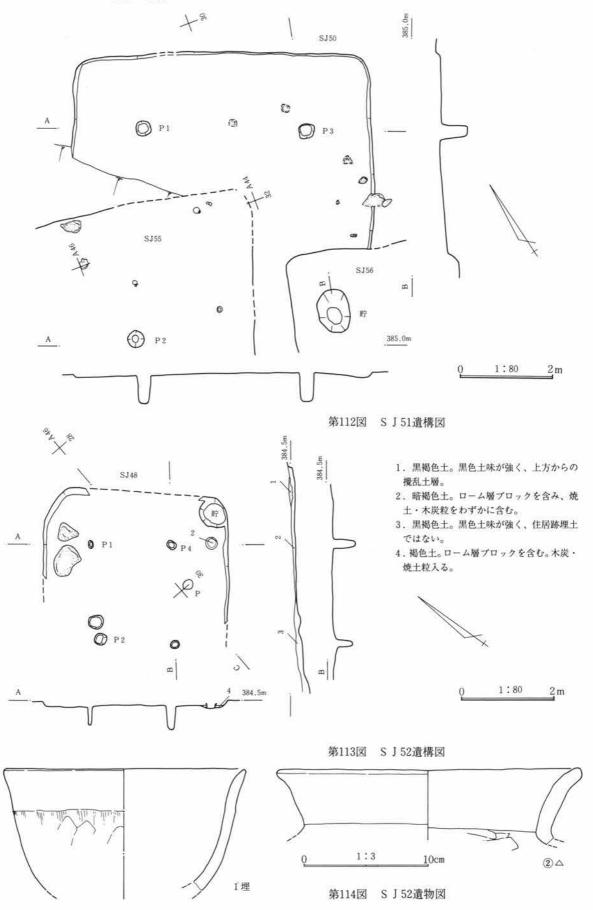
第111図 S J 50遺物図

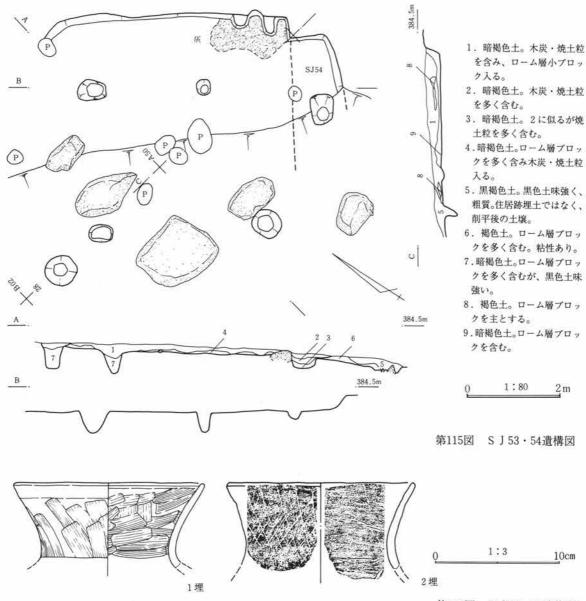
なっていたが明確でない。平面形は柱穴から推定して方形気味で、主軸は北西壁で N 43°E を 測る。規模は 北東壁下で $6.1\,\mathrm{m}$ 、南東壁下で $4.0+\alpha\,\mathrm{m}$ 、立ち上がりは遺存のよい北西壁下で $80\,\mathrm{cm}$ を残す。柱穴は 3 箇所に 検出され、P 1 は径 $31\,\mathrm{cm}$ 、深さは床面から $60\,\mathrm{cm}$ 、P 2 は径 $45\,\mathrm{cm}$ 、深さ $51\,\mathrm{cm}$ 、P 3 は径 $31\,\mathrm{cm}$ 、深さ $60\,\mathrm{cm}$ であった。貯蔵穴は南隅に検出され、径約 $94\,\mathrm{cm}$ 、深さ $56\,\mathrm{cm}$ を測る。

竈 竈は検出されていないが貯蔵穴との関連から南壁か東壁のどちらかに存在したと考えられる。 遺物 床面出土とされた遺物はない。

S J 52

遺構 位置は $28\sim30\,A\,43\sim47$ で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時に $S\,J\,48$ と重複していたが明確でなかった。平面形は柱穴から考えれば長方形気味で、主軸は北西壁で $N\,37^\circ$ Wを測る。規模は北西壁下で $4.8\,\mathrm{m}$ 、南東壁下で $2.6+\alpha\,\mathrm{m}$ 、立ち上がりは遺存のよい南西壁下で $15\,\mathrm{cm}$ を残す。柱穴は $4\,\mathrm{箇所}$ に検出され、 $P\,1$ は径 $10\,\mathrm{cm}$ 、深さは床面から $35\,\mathrm{cm}$ 、 $P\,2$ は径 $25\,\mathrm{cm}$ 、深さ $34\,\mathrm{cm}$ 、 $P\,3$ は径 $18\,\mathrm{cm}$ 、深さは $30\,\mathrm{cm}$ 、P





第116図 S J 53·54遺物図

4 は径20cm、深さ50cmであった。貯蔵穴は東隅に検出され、径70cm、深さ37cmを測る。

竈 竈は検出されない。

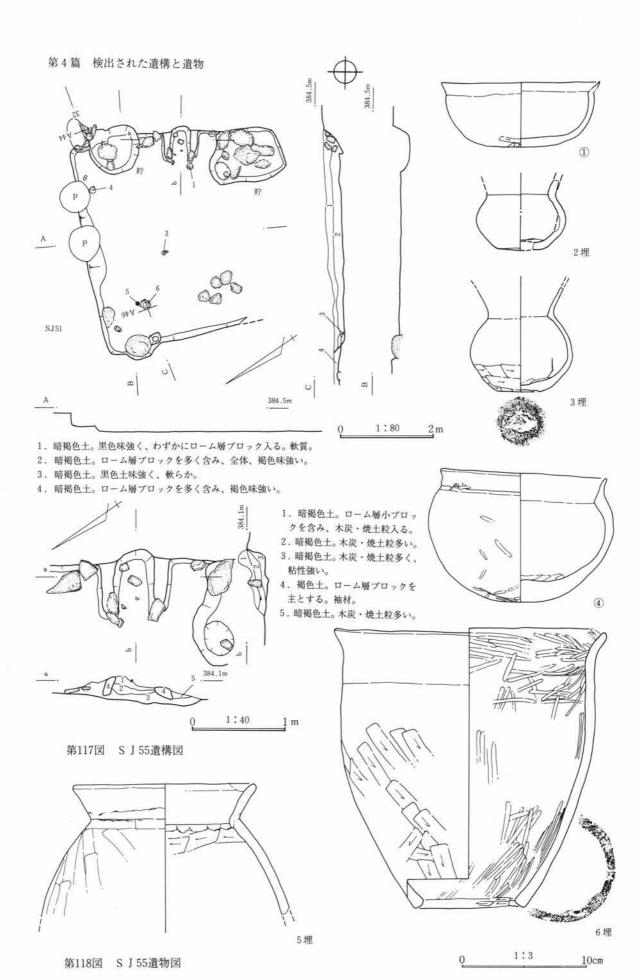
遺物 2点を掲げた。床面から2が、埋土から1がある。写真照合の結果、2は床面よりわずか離れているので床面出土とは認めがたい。しかし口縁部が一周する個体であるので遺存の上から本住居とのかかわりを考えることができる。

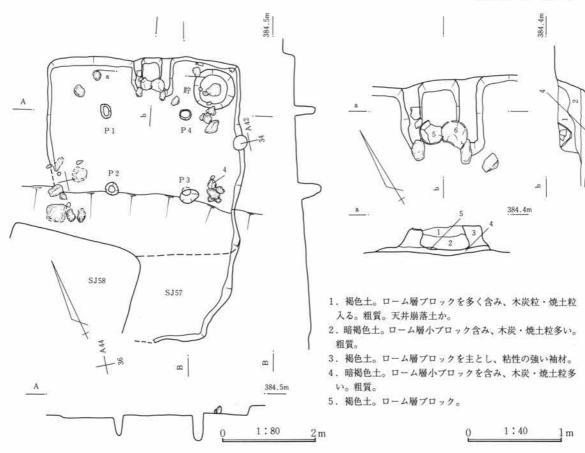
S J 53

遺構 位置は $26\sim28\,A\,48\sim B\,00$ で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時に S J 54と重なっていたが、新・古の関係は明瞭でない。平面形は西半を失っており明瞭でない。主軸は北西壁で N 37° W を 測る。規模は北西壁下で $5.0\,\mathrm{m}$ 、南東壁下で $0.5+\alpha\,\mathrm{m}$ 、立ち上がりは遺存のよい北西壁下で $29\,\mathrm{cm}$ を残す。貯蔵穴は明瞭でない。

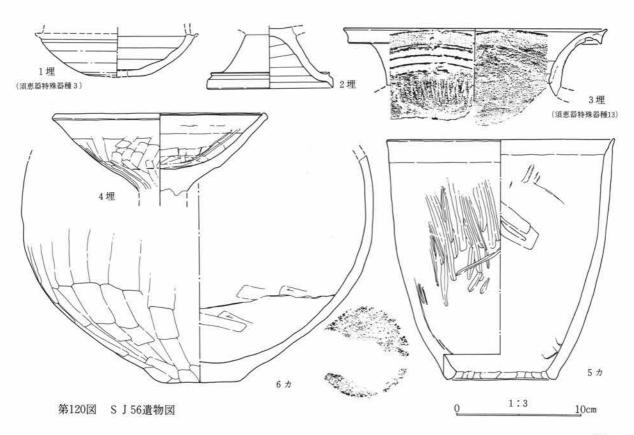
竈 竈は南東隅にあり、袖材は褐色の粘性土で竈前に多量の木炭粒と灰が存在していた。

遺物 2点を掲げた。床面とされた遺物はなく1・2とも埋土出土であり、SJ53・54のどちらに関連す





第119図 S J 56·57遺構図



るかはわからない。

S J 54

遺構 位置は28・29 A 47・48で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時に S J 53と重なっていたが、新・古の関係は明瞭でない。平面形は S J 53とその多くが重なるため明瞭でない。主軸は北西壁で N 40°Wを測る。規模は北西壁下で0.7+ α m、南西壁下で1.2+ α m、立ち上がりは遺存のよい南西壁下で20cm を残す。貯蔵穴は明瞭でない。

竈 竈は検出されない。

遺物 床面出土の遺物はない。

S J 55

遺構 位置は31~33 A 44~46で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時に S J 51と重なっていたが、新・古の関係は明瞭でない。出土遺物からは、S J 51に出土遺物がなく明瞭にできない。平面形は一辺の長い台形気味で、主軸は西壁で N 22° E を測る。規模は北壁下で4.2 m、東壁下で4.2 m、立ち上がりは遺存のよい東壁下で27cmを残す。貯蔵穴は竈の左右にそれと考えられる小土壙があり、北側は径110cm、深さ36cm、南側は径160cm、深さ33cmを測る。

竈 竈は東壁下の中央にあり、南側の小土壙中に竈用材と考えられる石材が散乱していた。袖材は暗褐色の粘性土で木炭粒・焼土粒を多く含み、再築の可能性がある。

遺物 床面とされたのは1・4である。埋土中から2・3・5・6がある。2は破片個体、3は上半、5は下半を失い遺存率という面から本住居との供伴の可能性を考えれば薄いであろう。

S J 56

遺構 位置は32~35 A 42~44で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時に S J 57・58と重なっていたが、新・古の関係は明瞭でない。平面形は南半を失っているが柱穴で考えれば方形と考えられる。主軸は南東壁で N 30° E を測る。規模は北東壁下で4.0 m、北西壁下で3.9 + α m、立ち上がりは遺存のよい北東壁下で60cmを残す。柱穴は 4 箇所に検出され、P 1 は径24cm、深さは床面から36cm、P 2 は径28cm、深さ38cm、P 3 は径30cm、深さ43cm、P 4 は径24cm、深さ51cmであった。貯蔵穴は東隅に検出され、径90cm、深さ22cmを測る。

竈 竈は北東壁下の中央にあり、竈前に石材が散乱していた。袖材は褐色の粘性土である。

遺物 6点を掲げた。床面出土とされた遺物はないが、竈内から $5 \cdot 6$ の出土がある。 $5 \cdot 6$ は竈内にあたかも据えられた様な形で出土し本住居との供伴の可能性は極めて高い。 $1 \cdot 2 \cdot 3 \cdot 4$ は埋土中の出土である。 $1 \cdot 3$ は破片個体である。

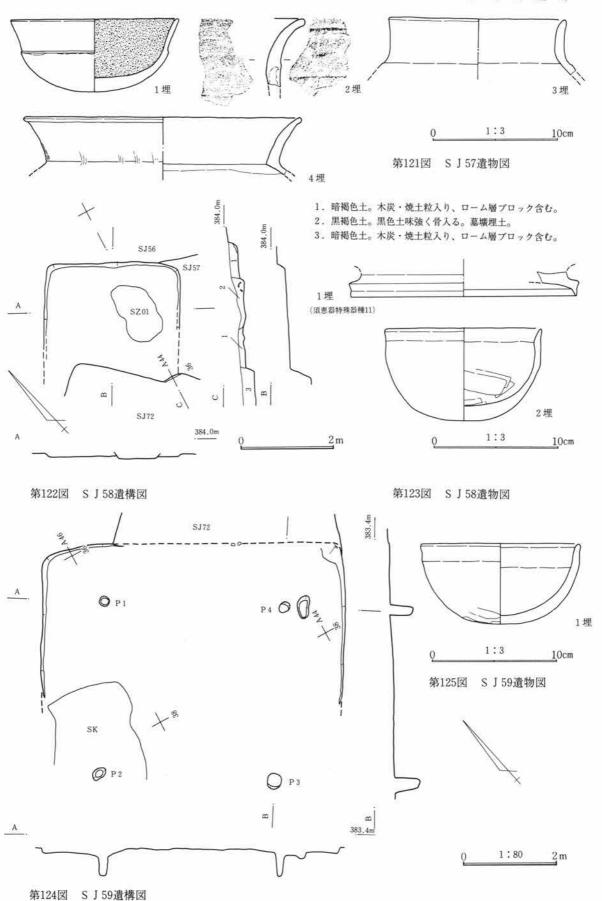
S J 57

遺構 位置は35 A 42・43で北東上り勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時に S J 56・58と重なっていたが、新・古の関係を明瞭にすることは出来なかった。平面形は重複のため不明瞭で、南隅部を残すに過ぎない。主軸は東壁で N 44° E を測る。規模は東壁下で $2.1+\alpha$ m、立ち上がりは遺存のよい東壁下で 5 cm を残す。床面は傾斜地のため失われ掘方を残すのみである。貯蔵穴は明瞭でない。

竈 竈は検出されていない。

遺物 掘方のみの遺存のため、床面出土遺物は調査地内グリットからの出土遺物を4点上げた。いずれも破片個体のため本住居と直結するかは明瞭でない。

S J 58



遺構 位置は $34 \cdot 35 \text{ A} 43 \sim 45$ で北東上がり勾配の微傾斜地がある。重複は平面確認時に S J $56 \cdot 72$ と重なっていたが、新・古の関係は明瞭でない。平面形は欠損が著しく明瞭でない。主軸は南東壁で N 45° E を 測る。規模は北東壁下で $2.7\,\mathrm{m}$ 、北西壁下で $1.4+\alpha\,\mathrm{m}$ 、立ち上がりは遺存のよい北東壁下で $25\,\mathrm{cm}$ を残す。貯蔵穴は不明瞭である。

竈 竈は検出されていない。

遺物 2点を掲げた。ともに埋土出土であるが、2は部分的に小欠損があるものの遺存率は高く、本住居 との関連性がわずかながら持たれる。

S J 59

遺構 位置は35~38 A 43~47で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重復は平面確認時に S J 72と重なっていたが、新・古の関係は明瞭でない。平面形は柱穴からすれば方形気味で、主軸は南東壁で N 29° E を測る。規模は北東壁下で $6.2\,\mathrm{m}$ 、北西壁下で $2.9+\alpha\,\mathrm{m}$ 、立ち上がりは遺存のよい西壁下で $10\,\mathrm{cm}$ を残す。柱穴は 4 箇所に検出され、 P 1 は径 $21\,\mathrm{cm}$ 、深さは床面から $38\,\mathrm{cm}$ 、 P 2 は径 $30\,\mathrm{cm}$ 、深さ $33\,\mathrm{cm}$ 、 P 3 は径 $32\,\mathrm{cm}$ 、深さ $51\,\mathrm{cm}$ 、 P 4 は径 $21\,\mathrm{cm}$ 、深さ $41\,\mathrm{cm}$ であった。貯蔵穴は不明瞭である。

竈 竈は検出されていない。

遺物 1点を掲げた。1は埋土中からの出土であるが、遺存率が高く本住居との関連性がわずかながら考えられる。

S J 60

遺構 位置37~41 A 40~43で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時に S J 69と重なっていたが、新・古の関係は明瞭でない。平面形は方形気味で、主軸は南西壁で N 30°W を測る。規模は北西壁下で5.3 m、北東壁下で5.1 m、立ち上がりは遺存のよい北西壁下で55cmを残す。施設として北西壁下より南西壁下に周溝があり、柱穴は 4 箇所に検出され、P 1 は径52cm、深さは床面から51cm、P 2 は径41cm、深さ46cm、P 3 は径40cm、深さ42cm、P 4 は径60cm、深さ58cmであった。貯蔵穴は東隅に検出され、径106cm、深さ35cmを測る。

竈 竈は北東壁下のほぼ中央にある。袖材は褐色土で部分的に石材を用いている。

遺物 5点を掲げた。床面出土とされたのは3のみであるが、調査時点の写真を見ると、竈内から4・5が据えられた様な状況で出土しており、また1も竈内とされている。2は埋土出土である。

S J 61

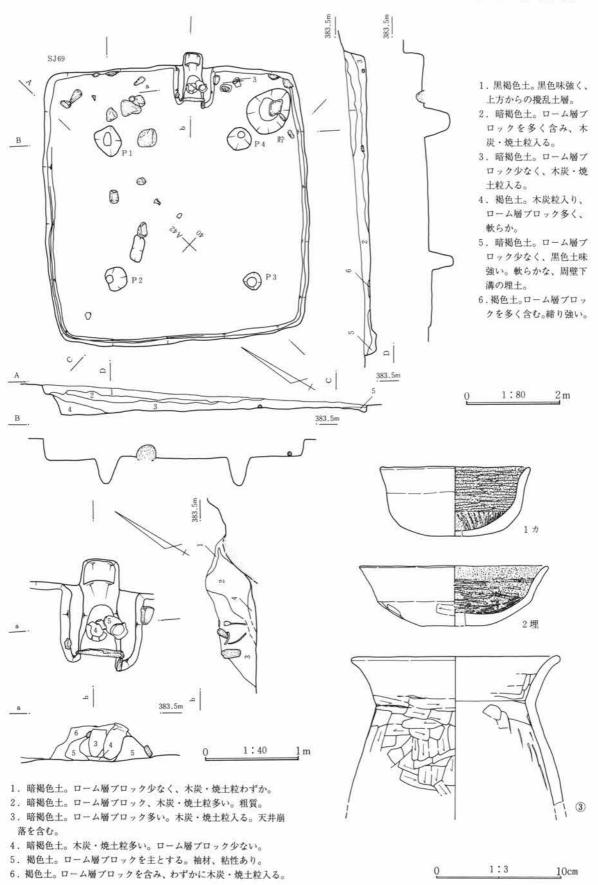
遺構 位置は39~43 A 42~47で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時に S J 62・73・74と重複していたが、新・古の関係は明瞭でない。平面形は南半部が未調査地に入るため明確にはできないが、柱穴からすれば方形気味で、主軸は南東壁で N 35°E を測る。規模は北東壁下で7.7 m、南東壁下で4.1+ α m、立ち上がりは遺存のよい北西壁下で36cmを残す。施設として北東壁下に周溝があり、柱穴は 3 箇所に検出され、P 1 は径50cm、深さは床面から42cm、P 2 は径45cm、深さ30cm、P 3 は径65cm、深さ46cmであった。貯蔵穴は東隅に検出され、径68cm、深さ18cmを測る。

竈 竈は北西壁の延長側でSJ62上に焼土塊があり、SJ61の竈の可能性が持たれる。

遺物 3点を掲げた。床面から出土したのは2のみである。1・3は埋土中からの出土である。

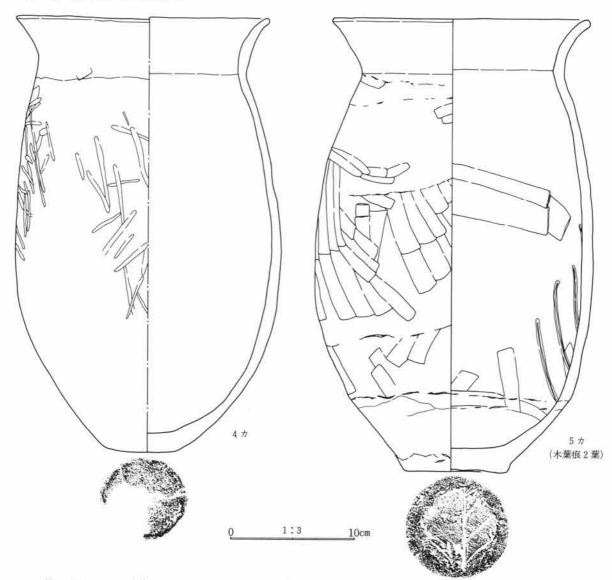
S J 62

遺構 位置は40~42 A 46~ B 00で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時に S J 61と重なっていたが、新・古の関係は明瞭でない。平面形は南半部が未調査地に入り不明瞭であるが、柱穴からすれば



第126図 S J 60遺構図

第127図 S J 60遺物図



第128図 S J 60遺物図

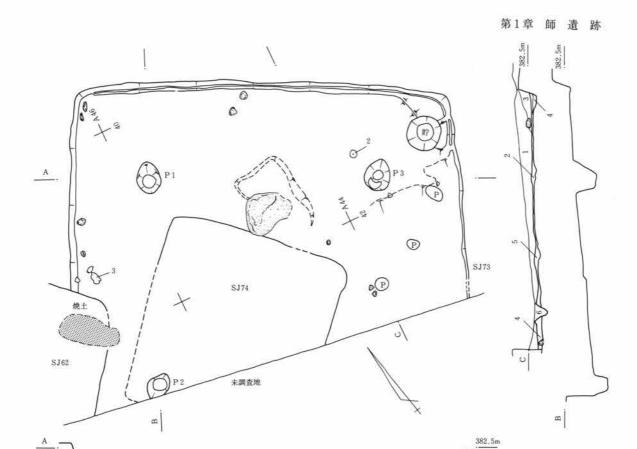
方形気味で、主軸は北東壁でN39°Eを測る。規模は北東壁下で $4.5\,\mathrm{m}$ 、北西壁下で $3.8+\alpha\,\mathrm{m}$ 、立ち上がりは遺存のよい北東壁下で $60\,\mathrm{cm}$ を残す。施設として調査された壁下全体に周溝がある。柱穴は $3\,\mathrm{箇所}$ に検出され、P1は径 $16\,\mathrm{cm}$ 、深さは床面から $50\,\mathrm{cm}$ 、P2は径 $18\,\mathrm{cm}$ 、深さ $48\,\mathrm{cm}$ 、P3は径 $20\,\mathrm{cm}$ 、深さ $32\,\mathrm{cm}$ であった。貯蔵穴は明瞭でない。

竈 竈は南東壁上にSJ61の竈の可能性のある焼土塊が乗る。

遺物 10点を掲げた。床面出土とされたのは10のみである。 $1 \sim 9$ は埋土中の出土である。調査時点の写真を見ると住居跡の中央に土器群の集中した個所がある。 $2 \cdot 3$ がそこから出土している。2 は 9 世紀、3 は 5 世紀後半の遺物でありその点から本住居の埋没土中には数次にわたり小遺構の重複が考えられる。

S J 63

遺構 位置は33・34 A 47・48で北上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時に S J 64と重なっていたが、新・古の関係は明瞭でない。平面形は部分的な検出で明瞭でない。主軸は北東壁で N 47°W を測る。規模は北東壁下で2.5+ α m、南東壁下0.84+ α m、立ち上がりは遺存のよい北東壁下で31cm を残す。貯蔵穴は東隅に検出され、径120cm、深さ38cmを測る。



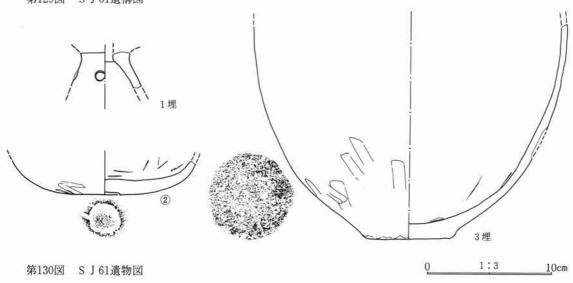
- 1. 暗褐色土。木炭・焼土粒・ローム層小ブロックを含む。粗質。
- 2. 褐色土。ローム層小ブロックを多く含む。締りあり。
- 3. 黒褐色土。ローム層ブロック少なく、黒色土味強く、軟らか。
- 4. 褐色土。ローム層ブロック多く、焼土粒含む。
- 5. 暗褐色土。黒色土味強く、焼土粒含む。軟らか。

1:80

2 m

6. 暗褐色土。黒色土味強く、軟らか。

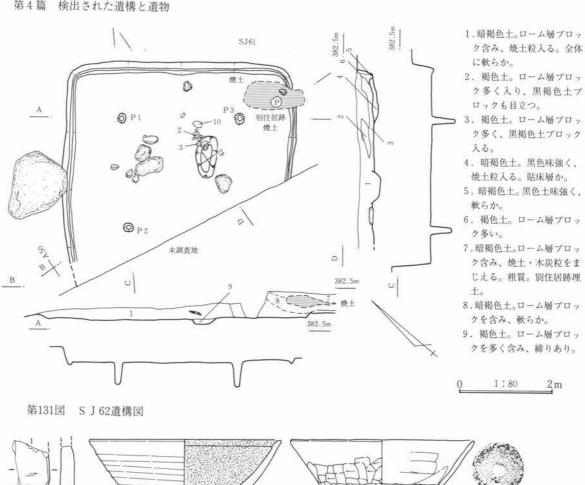


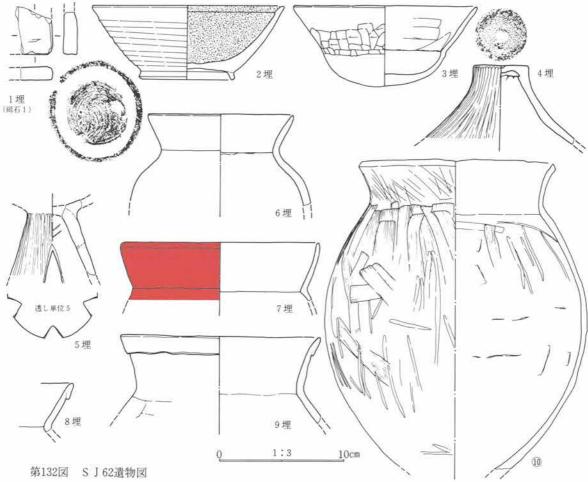


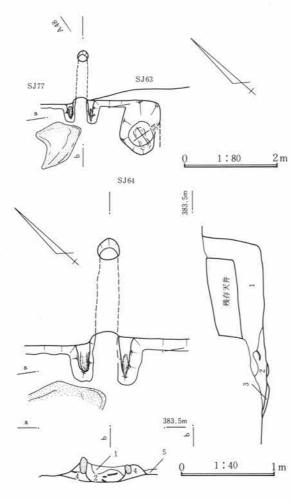
竈 竈は北東壁下の北寄りにあり、煙道部の地山天井を残す遺存のよい竈であった。袖材は褐色の粘性土で両袖に石材を用いている。

遺物 床面出土とされた遺物はない。

S J 64







- 1. 暗褐色土。ローム層ブロック多く、焼土・木炭粒入る。
- 2. 暗褐色土。焼土・木炭粒多く、全体に粗質。
- 3. 暗褐色土。ローム層ブロック含み、焼土・木炭粒多く粗質。
- 4. 褐色土。ローム層ブロックを主体とする袖材。
- 5. 暗褐色土。ローム層ブロック少なく、焼土・木炭粒を含む。

第133図 S J 63遺構図

の粒性土でわずか石材を用いていた。

遺物 3点を掲げた。2のみが貯蔵穴内から出土し、 $1 \cdot 3$ は埋土中からの破片個体である。そのため本住居との関連性は2のみにもたれる。

S J 66

遺構 位置は35~38 B 01~04で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複はない。平面形は南半部を失なうため明瞭でない。主軸は南東壁でN 29°Eを測る。規模は北東壁下で5.9 m、南東壁下で2.2+ a m、立ち上がりは遺存のよい北東壁下で22cmを残す。施設として北東壁下に部分的に周溝があり、柱穴はない。貯蔵穴は明瞭でないが、削平された南半中に径110cm、深さ43cmを測る小土壙がありそれと目される。

竈 竈は検出されていない。

遺物 6点を掲げたが、いずれも埋土出土遺物である。このうち2・4・5は遺存率が高く本住居とある 程度の関連性を考える事ができる。

S J 67

遺構 位置は31~33 A 39~42で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時に S J 71と重なって

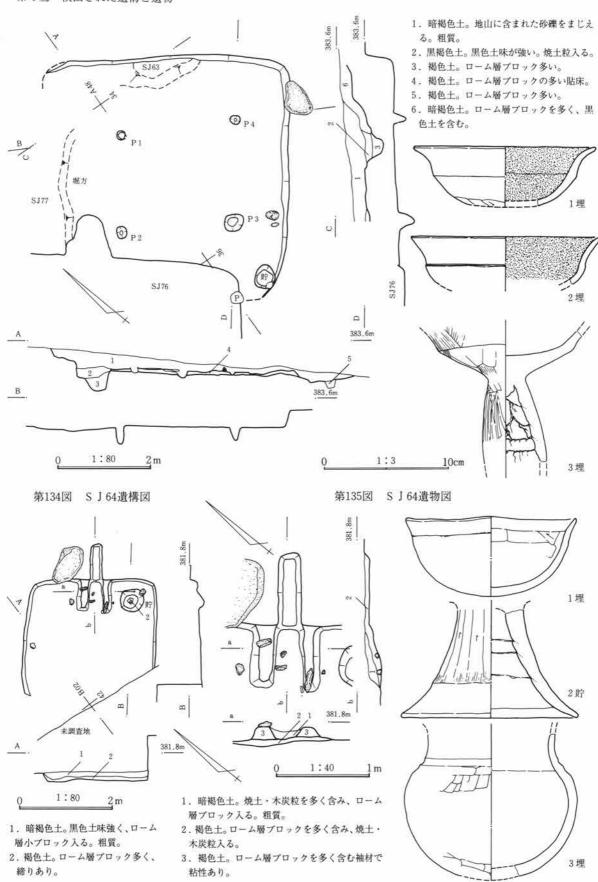
遺構 位置は33~36 A 46~49で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時に S J 63・76・77と重なっているが、新・古の関係は明瞭でない。平面形は部分的に欠損するが柱穴からすると各辺がわずか胴張の方形で、主軸は南東壁で N 55° E を測る。規模は北東壁下で5.1 m、南東壁下で4.6 m、立ち上がりは遺存のよい北東壁下で60cmを残す。柱穴は4箇所に検出され、P 1 は18cm、深さは床面から35cm、P 2 は径21cm、深さ34cm、P 3 は径40cm、深さ32cm、P 4 は径18cm、深さ28cmであった。貯蔵穴は南隅に検出され、径50cm深さ43cmを測る。

竈 竈は検出されないが、貯蔵穴と思える小土壙の 位置からすればSJ76との重複部分である南西壁に存 在した可能性が持たれる。

遺物 3点を掲げたが、いづれも埋土出土である。 S J 65

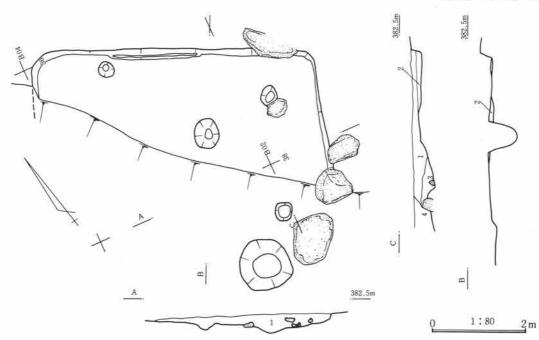
遺構 位置は40~42 B 00~02で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複はない。平面形は傾斜地のため南半部を失う。残存現況では長方形気味で、主軸は南東壁でN55°Eを測る。規模は北西壁下で2.2+ α m、北東壁下で2.1m、立ち上がりは遺存のよい北西壁下で25cmを残す。貯蔵穴は東隅に検出され、径52cm、深さ21cmを測る。

竈 竈は北東壁下のほぼ中央にある。煙道部天井は 落下していたが、掘方の遺存はよかった。袖材は褐色



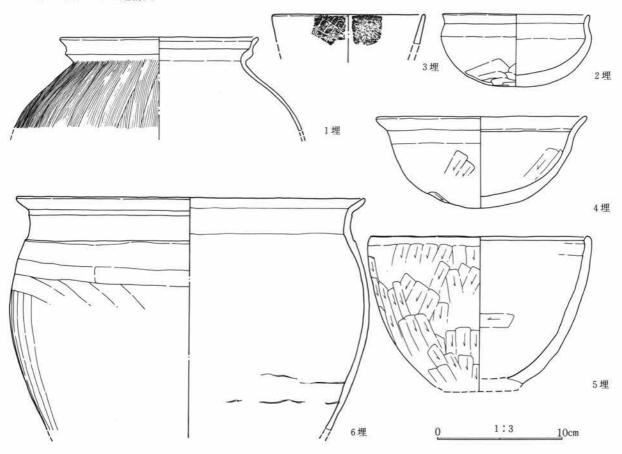
第136図 S J 65遺構図

第137図 S J 65遺物図

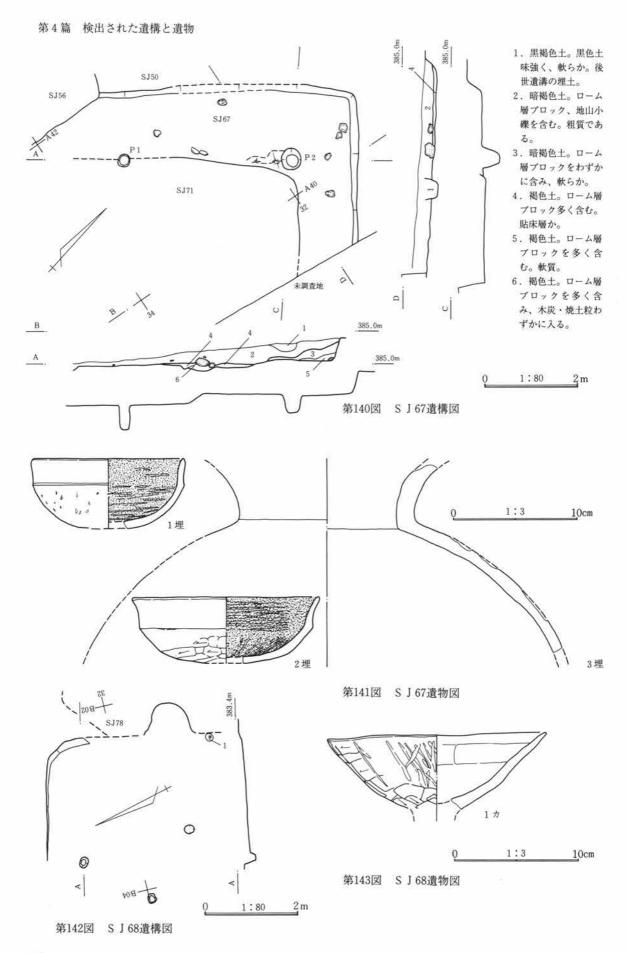


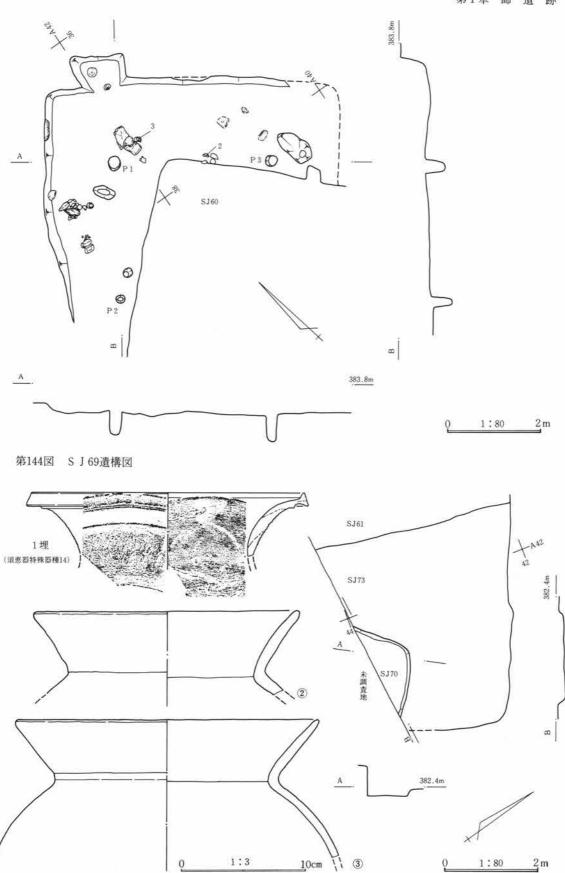
- 暗褐色土。軽石粒はほとんど含まれていない。ローム層ブロックを多く含み、焼土・木炭粒わずかに入る。全体的に粘性強い。
- 2. 褐色土。ローム層ブロック多く含み、木炭・焼土粒をわずかに 含む。締りあり、貼床か。
- 3. 暗褐色土。黒色土味強い。この土層中に人頭大の礫が入り、土 層は軟らか。
- 4. 黒褐色土。削平後に堆積した黒色土味の強い土層。

第138図 S J 66遺構図



第139図 S J 66遺物図

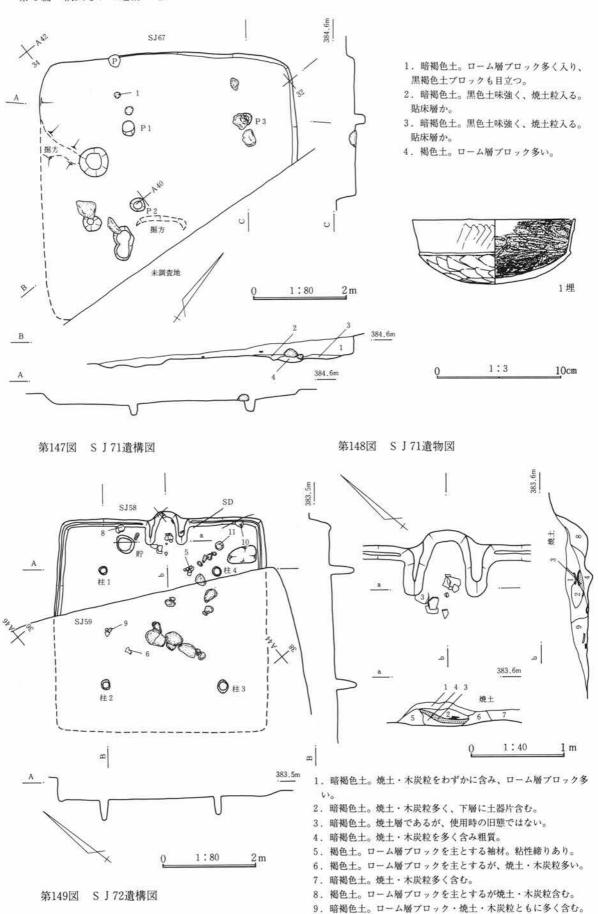




第146図 S J 70遺構図

第145図 S J 69遺物図

97



いたが、新・古の関係は不明瞭である。平面形は南半をS J 71が重複するため明瞭でない。主軸は北東壁で N 46°W を測る。規模は北西壁下で5.3 m、北東壁下で3.1 + α m、立ち上がりは遺存のよい北東壁下で50cm を残す。柱穴は2箇所に検出され、P 1 は径40cm、深さは床面から38cm、P 2 は径24cm、深さ51cmであった。 貯蔵穴は明瞭でない。

竈 竈は明瞭でない。

遺物 3点を掲げたが、いずれも埋土中から出土した破片個体である。

S J 68

遺構 位置は $31\sim33\,B\,02\cdot03$ で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時に $S\,J\,78$ と重なっていたが、新・古の関係は明瞭でない。平面形は西半が削平されており明瞭でない。主軸は南東壁で $N\,29^\circ\,E$ を測る。規模は南東壁下で $0.6+\alpha\,m$ 、北東壁下で $2.2+\alpha\,m$ 、立ち上がりは遺存のよい南東壁下で $9\,cm\,e$ 残す。貯蔵穴は明瞭でない。

竈 竈は南東壁下にあるが、調査時点の竈図がないため不明瞭である。

遺物 1点を掲げた。1は竈右袖側外面から出土し、破片個体である。そのため本住居とのかかわりはや や薄い。

S J 69

遺構 位置は36~39 A 40~43で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にSJ60と重なっているが、新・古の関係は明瞭でない。平面形はSJ60と重なっているため南半を失う。主軸は北東壁でN58°Wを測る。規模は北東壁下で推定6.0 m、北西壁下で4.6 + α m、立ち上がりは遺存のよい北西壁下で18cmを残す。柱穴は3箇所に検出され、P1は径28cm、深さは床面から48cm、P2は径20cm、深さ40cm、P3は径23cm、深さ52cmであった。貯蔵穴は東隅にそれらしき土壙があり径88cm、深さ25cmを測る。

竈 竈は検出されていない。

遺物 3点を掲げた。2・3が床面から、1は埋土から出土している。いずれも破片個体で本住居との係わりはやや危ぶまれる。

S J 70

遺構 位置 $43\,A\,41\cdot42$ で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時に $S\,J\,61\cdot73$ と重複していたが、新・古の関係は明瞭でない。平面形は北東隅部しか検出されず不明瞭である。主軸は北東壁で $N\,56^\circ$ Wを測る。規模は北東壁下で $1.4+\alpha$ m、北西壁下で $1.2+\alpha$ m、立ち上がりは遺存のよい北西壁下 $20\,cm$ を残す。

竈 竈は検出されていない。

遺物 床面から検出された遺物はない。

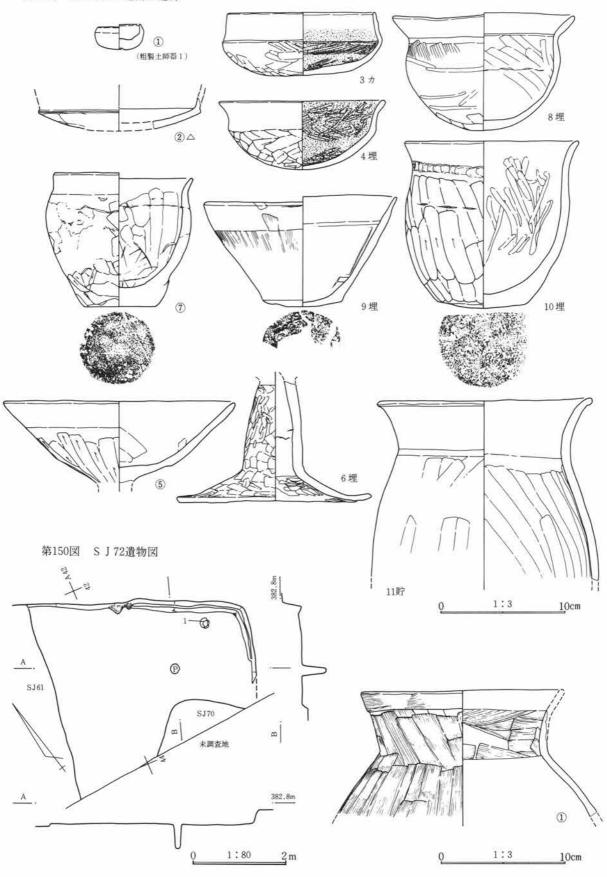
S J 71

遺構 位置は31-35A39-41で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にSJ67と重なっていたが、新・古の関係は明瞭でない。平面形は柱穴位置からすると隅丸方形気味である。主軸は北東壁でN37°Wを測る。規模は北東壁下で5.4m、南東壁下で $2.1+\alpha$ m、立ち上がりは遺存のよい南東壁下で15cmを残す。柱穴は3箇所に検出され、P1は径28cm、深さは床面から20cm、P2は径30cm、深さ21cm、P3は径23cm、深さ20cmであった。貯蔵穴は不明瞭である。

竈 竈は検出されていない。

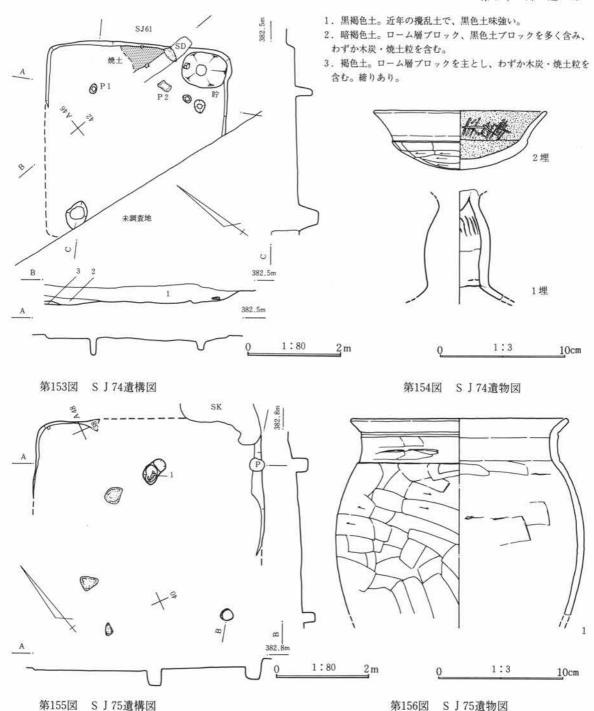
遺物 埋土から1の出土があり、欠損はあるものの遺存はよく本住居とのかかわりを若干考えさせられる。 S J72

第4篇 検出された遺構と遺物



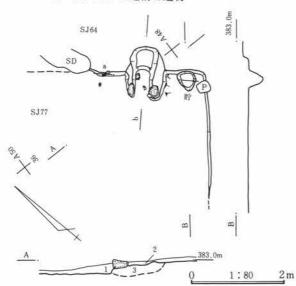
第151図 S J 73遺構図

第152図 S J 73遺物図



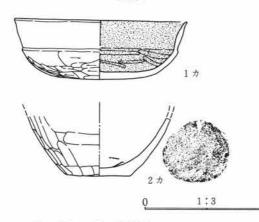
遺構 位置は35~38 A 43~46で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時に S J 58・59と重なっていたが、新・古の関係は不明瞭である。平面形は方形気味で、主軸は北東壁で N 35°W を測る。規模は北東壁下で4.1 m、北西壁下で2.8 + α m、立ち上がりは遺存のよい北西壁下で50cmを残す。施設として 3 壁に周溝が認められ、柱穴には 4 箇所に検出され、 P 1 は径18cm、深さは床面から42cm、 P 2 は径21cm、深さ42cm、 P 3 は径22cm、深さ30cm、 P 4 は径14cm、深さ40cmであった。貯蔵穴は竈西側に検出され、径42cm、深さ23cmを測る。

竈 竈は北東壁下のほぼ中央にあり、袖材は褐色の粘性土で右袖材には木炭粒・焼土粒が多く入り、再築の可能性がある。



- 1. 暗褐色土。ローム層ブロックを多く含む。焼土・木炭粒入る。
- 2. 暗褐色土。ローム層ブロック少なく、黒色土味強い。
- 3. 窯と関連土層。

第157図 S J 76遺構図



第158図 S J 76遺物図

a 383.0m

0 1:40 1m

- 1. 暗褐色土。焼土・木炭粒を多く含み、ローム層ブロック多い。
- 2. 暗赤褐色土。焼土を主とし、木炭粒入る。ブロック状焼土塊。
- 3. 褐色土。ローム層ブロックを主とする袖材。

遺物 11点を掲げた。床面出土とされたのは 1・2・5・7である。そのうち2は破片個体で本住居との関連が危ぶまれる。竈内から完器に近い出土がある。 貯蔵穴内から11の出土がある。埋土中から 4・6・8・9・10の出土があり、いずれも残存率が高く本住居との関連性が考えられる。

S J 73

遺構 位置は41~43 A 40~42で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時に S J 61・70と重 10cm なっていたが、新・古の関係は明瞭でない。平面形は重複と未調査地のため明瞭でない。主軸は南東壁下で N

35°Eを測る。規模は北東壁下で $4.4+\alpha$ m、南東壁下で $1.8+\alpha$ m、立ち上がりは遺存のよい南東壁下で36cm を残す。施設として東隅部に周溝があり、貯蔵穴は検出されてない。

竈 竈は検出されてない。

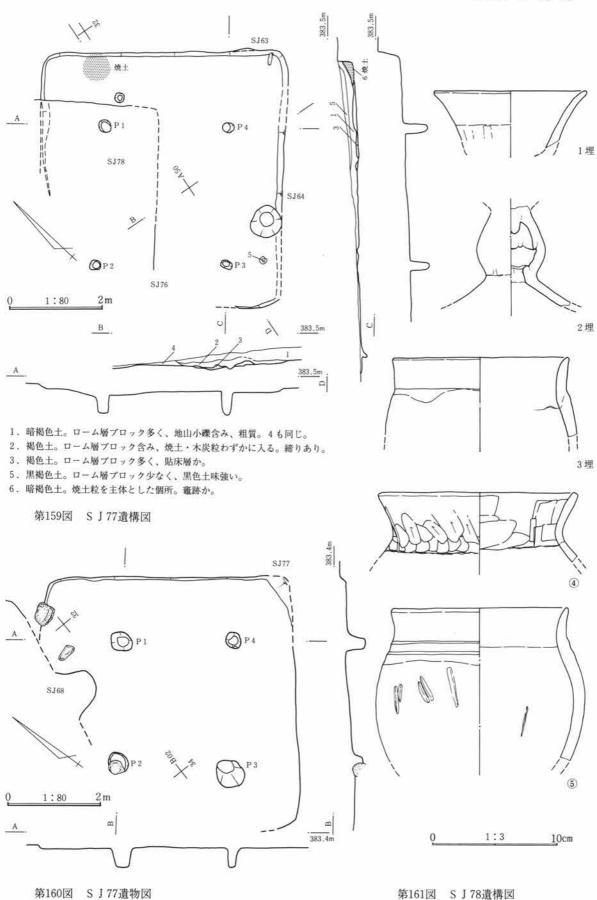
遺物 床面出土として1がある。調査時点の写真でもそのことが確認される。1は上半部のみの個体で下半を欠損するが欠損部と床面は接しているため、欠損状態で機能していたのであろう。

S J 74

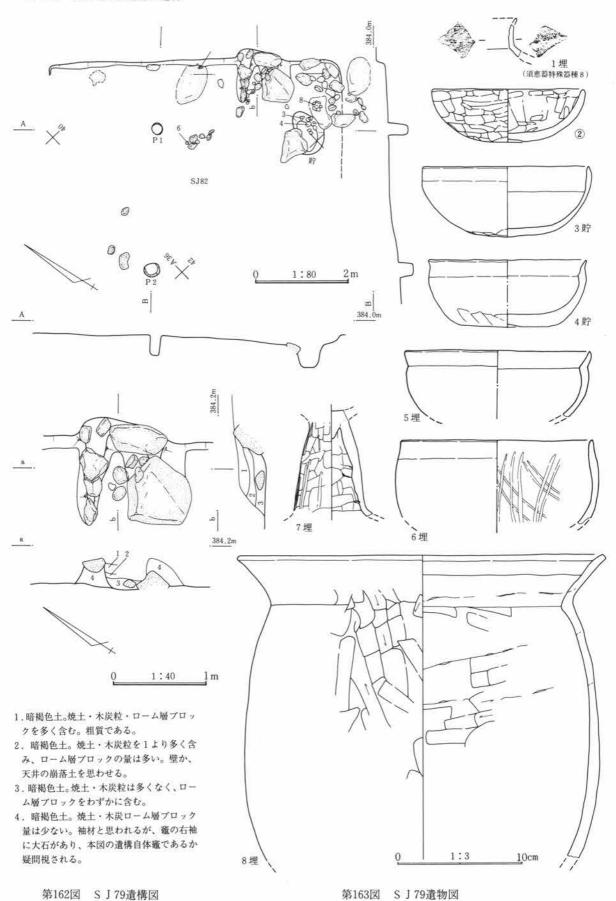
遺構 位置は41~43 A 44~47で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時に S J 61と重なるが、新・古の関係は不明瞭である。平面形は長方形気味で、主軸は北東壁で N 35°W を測る。規模は北東壁下で3.7m、北西壁下で推定3.9m、立ち上がりは遺存のよい北東壁下で18cmを残す。柱穴はあまり明瞭でないが、それに類した小穴が 2 箇所に検出され、P 1 は径13cm、深さは床面から35cm、P 2 は径18cm、深さ18cmであった。貯蔵穴は東隅に検出され、径100cm、深さ51cmを測る。

竈 竈は北東壁下のほぼ中央にあったが竈実測図がなく明瞭でない。

遺物 2点を掲げた。ともに埋土出土である。



103



S J 75

遺構 位置は37~40 A 46~49で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複はない。平面形は南半の削平化が 顕著で明瞭でない。主軸は南東壁でN41°Eを測る。規模は北東壁下で4.4m、南東壁下で3.1+ a m、立ち 上がりは遺存のよい北西壁下で10cmを残す。貯蔵穴は検出されていない。

竈 竈は検出されていない。

遺物 1点を図示した。住居内中央の小穴から1が出土している。

S J 76

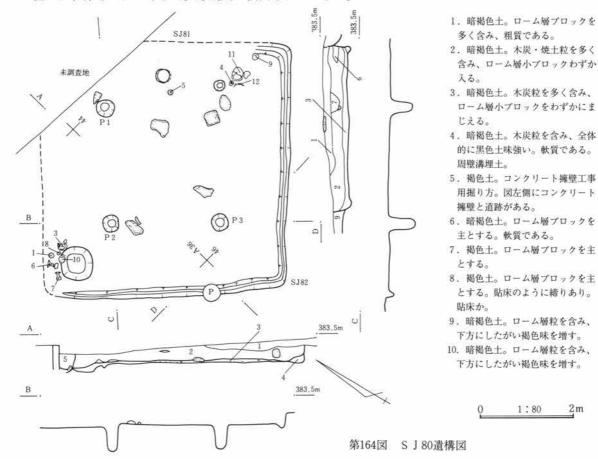
遺構 位置は34~37 A 47~49で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時に S J 64・77と重 なっていたが、新・古の関係は不明瞭である。平面形は削平化が顕著で明瞭でない。主軸は北東壁でN47° Wを測る。規模は北東壁下で3.8+αm、南東壁下で2.9+αm、立ち上がりは遺存のよい北東壁下で12cmを 残す。貯蔵穴は東隅に検出され、径45cm、深さ23cmを測る。

竈 竈は北東壁下の東寄りにあり、袖材は褐色の粘性土で部分的に石材を用いている。

遺物 2点を掲げた。2点とも竈内から出土した破片個体である。

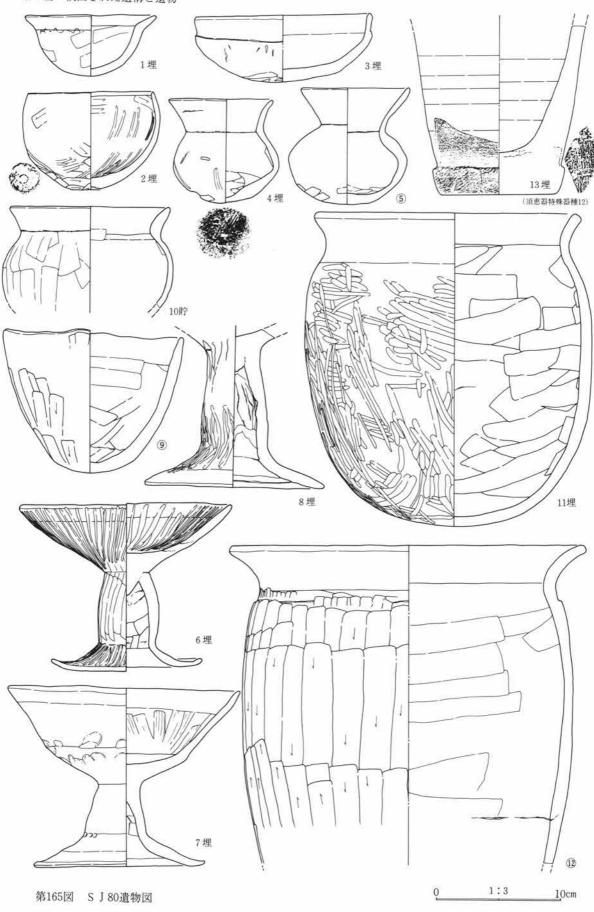
S J 77

遺構 位置は32~35 A 48~B 00で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にS J 64・76・78 と重なり、SJ78が新しく、SJ64・76・77が古い。平面形は方形気味で、主軸は北東壁でN50°Wを測る。 規模は北東壁下で4.9m、南東壁下で5.0m、立ち上がりは遺存のよい北東壁下で15cmを残す。柱穴は4箇所 に検出され、P1は径28cm、深さは床面から36cm、P2は径22cm、深さ43cm、P3は径20cm、深さ35cm、P 4 は径23cm、深さ42cmであった。貯蔵穴は検出されていない。

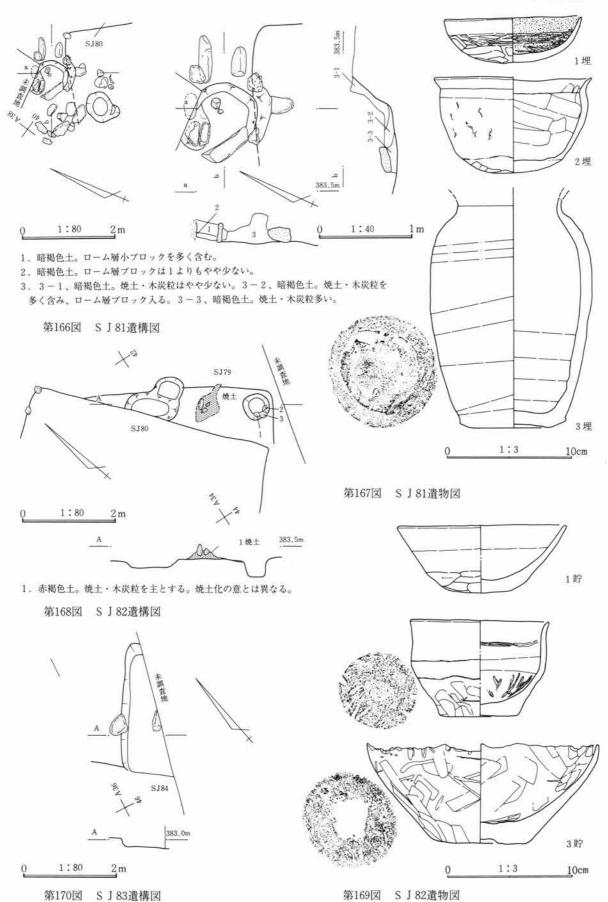


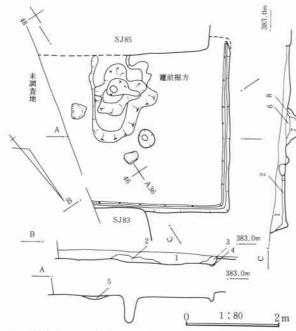
2m

第4篇 検出された遺構と遺物



第1章 師 遺 跡





- 1. 暗褐色土。ローム層ブロック多く、焼土・木炭粒含む。
- 2. 褐色土。焼土・木炭粒入り、ローム層ブロックを主とする。
- 3. 褐色土。2に似るが、黒色土ブロックわずかに入る。
- 4. 黒褐色土。黒色味強く、焼土・木炭粒入る。周壁溝埋土。軟質。
- 5. 褐色土。ローム層ブロック多く焼土・木炭粒わずかに入る。
- 6. 褐色土。ローム層ブロック多く、焼土・木炭粒を含む。
- 7. 暗褐色土。ローム層ブロック多く含み、黒色土味強い。
- 8. 褐色土。ローム層ブロック多く含む。

第171図 S J 84遺構図

竈 竈は検出されていない。

遺物 5点を掲げた。床面出土とされているのは 4・5である。1・2・3は埋土中である。4・5は 床面出土であるが現場写真がなく床面出土遺物の照合ができない。

S J 78

遺構 位置は31~35 A 49~B 03で北東上がり勾配の 微傾斜地にある。重複は平面確認時に S J 68・77と重 なっているが、新・古の関係は不明瞭である。平面形 はほぼ方形気味で、主軸は北東壁で N 52°W を測る。 規模は北東壁下で5.0 m、南東壁下で5.2 m、立ち上が りは遺存のよい北東壁下で20cmを残す。柱穴は 4 箇所 に検出され、P 1 は径42cm、深さは床面から38cm、P 2 は径40cm、深さ18cm、P 3 は径60cm、深さ36cm、P 4 は径23cm、深さ40cmであった。貯蔵穴は明瞭でない。

竈 竈は検出されていない。

遺物 床面出土とされた遺物はない。

S J 79

遺構 位置は39~42 A 33~35で北東上がり勾配の微 傾斜地にある。重複はない。平面形は削平化が著しく

不明瞭である。主軸は北東壁でN34°Wを測る。規模は北東壁下で6.1 m、南東壁下で $2.3 + \alpha \text{m}$ 、立ち上がりは遺存のよい北東壁下で18 cmを残す。柱穴は2箇所に検出され、P1は径25 cm、深さは床面から41 cm、P2は径30 cm、深さ30 cmであった。貯蔵穴は南東寄りに検出され、径100 cm、深さ35 cmを測る。

竈 竈は北東壁下の東寄りにあるが、竈実測図を見ると石袖に地山の大石があり、本図の遺構自体竈であるか疑問視される。

遺物 8点を掲げた。床面出土とされたのは2である。貯蔵穴内から3・4の出土がある。埋土中から1・5・6・7・8がある。

S J 80

遺構 位置は $41\sim45\,A\,35\sim38$ で北上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時に S J $81\cdot82$ と重なっているが、新・古の関係については不明瞭である。平面形は方形気味で主軸は北東壁で N 33° W を測る。規模は南東壁下で $4.9\,\mathrm{m}$ 、北東壁下で $4.6\,\mathrm{m}$ 、立ち上がりは遺存のよい北東壁下で $30\,\mathrm{cm}$ を残す。施設として北東から南東にかけて周溝を施し、柱穴は 3 箇所に検出され、P 1 は径 $35\,\mathrm{cm}$ 、深さは床面から $45\,\mathrm{cm}$ 、P 2 は径 $32\,\mathrm{cm}$ 、深さ $55\,\mathrm{cm}$ 、P 3 は径 $32\,\mathrm{cm}$ 、深さ $50\,\mathrm{cm}$ であった。貯蔵穴は南隅に検出され、径 $80\,\mathrm{cm}$ 、深さ $58\,\mathrm{cm}$ を測る。

竈 竈は明瞭でない。

遺物 13点を掲げた。床面から出土した遺物は $5 \cdot 9 \cdot 12$ がある。貯蔵穴内から10、貯蔵穴周辺の床から少し離れた状態で $1 \cdot 3 \cdot 6 \cdot 7 \cdot 8$ の出土がある。その5 個体は貯蔵穴との因果において本住居に供伴した可能性が持たれる。 $2 \cdot 4 \cdot 11 \cdot 13$ は埋土出土である。

S J 81

遺構 位置は $43\cdot 44$ A $37\cdot 38$ で北上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時にSJ80と重なっていたが、新・古の関係は不明瞭である。平面形は未調査地と接しており不明瞭である。主軸は東壁でN30°Eを測る。規模は東壁下で $1.3+\alpha$ m、北壁下で $0.5+\alpha$ m、立ち上がりは遺存のよい東壁下で40cmを残す。貯蔵穴は南側に検出され、径55cm、深さ18cmを測る。

竈 竈前に用材が散乱し、廃棄時の破壊状況を偲ばせていた。袖材は淡褐色の粘性土で木炭粒・焼土粒を含む。

遺物 3点を掲げた。3点ともに埋土出土であるが、遺存がよく本住居との関連を考える必要がある。

S J 82

遺構 位置は $42\sim44\,A\,35\cdot36$ で北上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時に $S\,J\,80$ と重なっていたが、新・古の関係は不明瞭であった。平面形は $S\,J\,80$ と重複するため不明瞭である。主軸は南東壁で $N\,49^{\circ}E$ を測る。規模は北東壁下で $4.0+\alpha$ mを測る。貯蔵穴は南東隅に検出され、 $\mathcal{E}60$ cm、深さ41cmを測る。

竈 竈は東壁下に焼土粒の多い箇所があり、竈跡と考えられる。

遺物 3点を掲げた。ともに貯蔵穴の埋土から出土しており、本住居との係わりを考えることができる。 SJ83

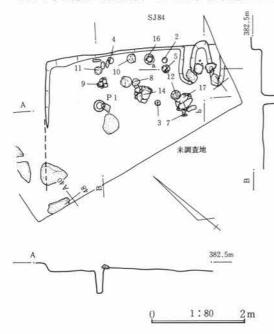
遺構 位置は44・45 A 35で北上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時に S J 84と重なっていたが、新・古の関係は明瞭でない。平面形は東半に未調査地があり明瞭でない。主軸は北西壁で N 48° E を測る。規模は北西壁下で2.42+ α m、北東壁下0.20+ α m、立ち上がりは遺存のよい北西壁下で20cmを残す。

竈 竈は検出されていない。

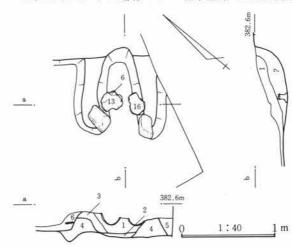
遺物 床面出土とされた遺物はない。

S J 84

遺構 位置は45~47 A 35~37で北上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時に S J 83・85と重なっていたが、新・古の関係は明瞭でない。平面形は未調査地が東半にあり明瞭でない。主軸は北東壁で N 45° Wを測る。規模は北西壁下で3.5 m、北東壁下で2.7+ a m、立ち上がりは遺存のよい北東壁下で40cmを残す。

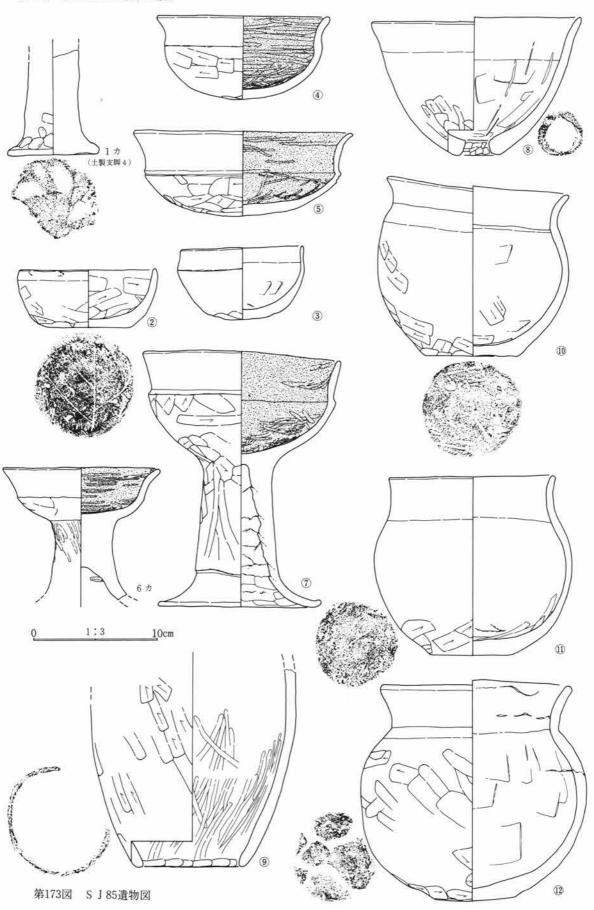


第172図 S J 85遺構図



- 1. 暗褐色土。ローム層ブロックを含み、焼土・木炭粒入る。
- 2. 暗褐色土。焼土・木炭粒多く入り、上方にしたがいローム層ブ ロック多くなる。粗質。
- 3. 暗褐色土。焼土・木炭粒多く入る。左袖側が残存壁面か。
- 4. 褐色土。ローム層ブロックを主とする。袖材。粘性あり。
- 5. 暗褐色土。ローム層ブロックを多く含む。粘性あり。
- 6. 暗褐色土。ローム層ブロック少なく、焼土・木炭粒含む。

第4篇 検出された遺構と遺物



施設として北東から北西にかけて周溝がある。

竈 竈は検出されていないがその掘方と考えられる土壙がある。

遺物 床面出土の遺物はない。

S J 85

遺構 位置は $46\sim48\,A\,35\sim38$ で北上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時に $S\,J\,84$ と重なっていたが、新・古の関係は明瞭でない。平面形は未調査地に多くかかり明瞭でない。主軸は北東壁で $N\,46^\circ$ Wを測る。規模は北東壁下で $3.6+\alpha$ m、北西壁下で $2.55+\alpha$ m、立ち上がりは遺存のよい北東壁下で $22\mathrm{cm}$ を残す。柱穴と考えられる小土壙は1箇所に検出され、 $P\,1$ は径 $20\mathrm{cm}$ 、深さは床面から $43\mathrm{cm}$ であった。貯蔵穴は検出されていない。

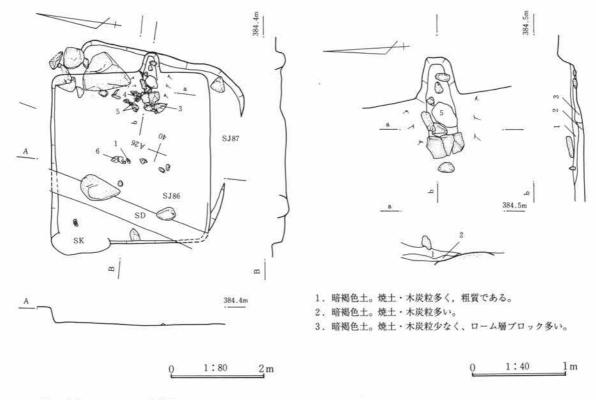
竈 竈は北東壁下にあり、廃棄時の破壊状況を偲ばせていた。袖に褐色の粘性土で石材を部分に用いる。 遺物 17点を掲げた。床面とされたのは $2\cdot 3\cdot 4\cdot 5\cdot 7\cdot 8\cdot 9\cdot 10\cdot 11\cdot 12\cdot 14\cdot 15\cdot 17$ があり、 竈内から $1\cdot 6\cdot 13\cdot 16$ がある。

S J 86

遺構 位置は38~40 A 25~27で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時に S J 87と重なっていたが、新・古の関係は不明瞭であった。平面形は長方形気味で、主軸は西壁で N 9°Wを測る。規模は北壁下で3.3m、東壁下で3.1m、立ち上がりは遺存のよい北壁下で30cmを残す。貯蔵穴は不明瞭である。

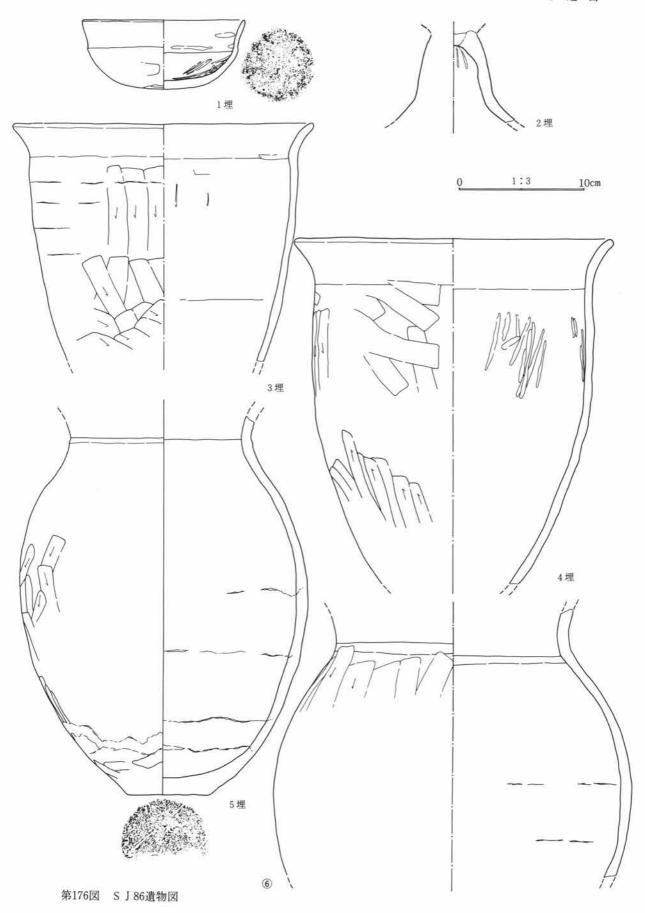
竈 竈は東壁下の南寄りにあり、竈前に石材が散乱し廃棄時の破壊状況を偲ばせていた。袖材は暗褐色の 粘性土である。

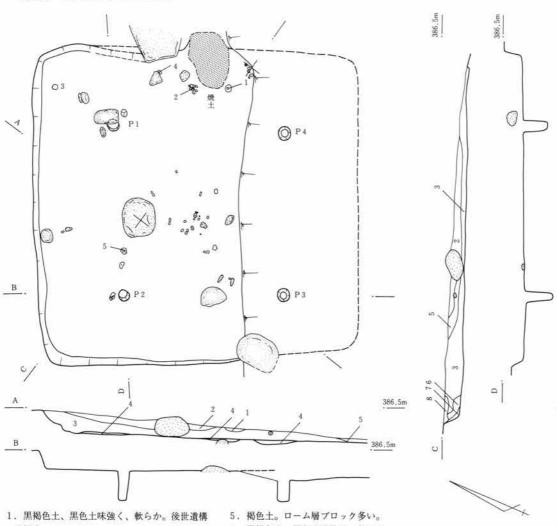
遺物 6点を掲げた。床面とされたのは6である。竈付近から出土した個体に1・3・4・5があり、竈との因果において本住居との関連性が考えられる。



第175図 S J 86 · 87遺構図

第1章 師 遺 跡

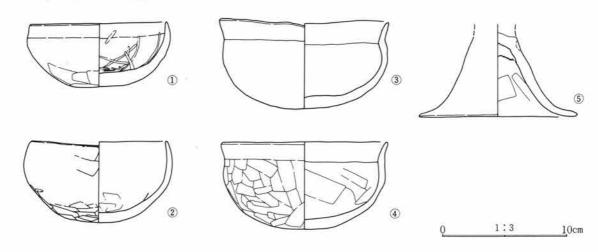




- の埋土。
- 2. 暗褐色土。上方、左側にしたがいローム層ブ ロック多くなる。軟らか。
- 3. 暗褐色土。ローム層ブロック多く、FP少。
- 4. 褐色土。ローム層ブロックを多く含む多く、 貼床層か。
- 6. 黒褐色土。黒色土味強く、軟らか。
- 7. 褐色土。ローム層ブロック多い。
- 8. 黒褐色土。ローム層ブロックを少なく、黒色 土味強く、軟らか。

1:80 2 m

第177図 S J 88遺構図



第178図 S J 88遺物図

S J 87

遺構 位置は38~40 A 25~27で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複は平面確認時に S J 86と重なっていたが、新・古の関係は不明瞭である。平面形は隅丸方形と考えられ、主軸は東壁で N 4°E を測る。規模は東壁下で3.9 m、立ち上がりは遺存のよい東壁下で12cmを残す。貯蔵穴は検出されていない。

竈 竈は検出されていない。

遺物 大半がSJ86と重なるため本住居の床面として取り上げられた遺物はない。

S J 88

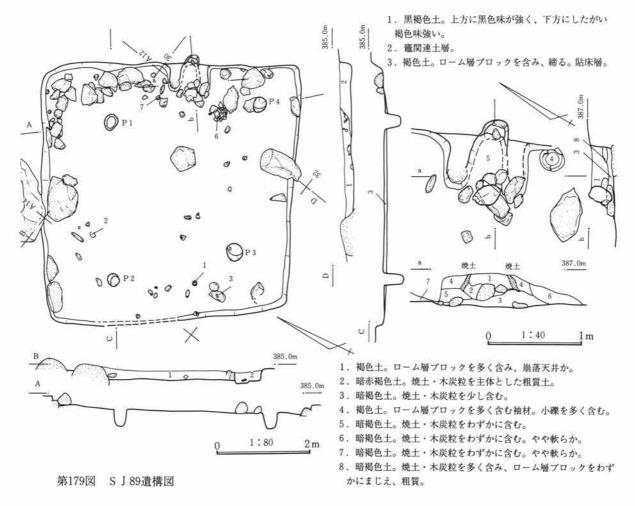
遺構 位置は $22\sim26\,A\,11\sim15$ で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複はない。平面形は方形気味で、主軸は南西壁で $N\,26^\circ$ Wを測る。規模は北西壁下で $6.1\,\mathrm{m}$ 、南西壁下で $3.9+\alpha\,\mathrm{m}$ 、立ち上がりは遺存のよい南西壁下で $40\,\mathrm{cm}$ を残す。柱穴は $4\,\mathrm{箇所}$ に検出され、 $P\,1\,\mathrm{ti}$ 径 $25\,\mathrm{cm}$ 、深さは床面から $48\,\mathrm{cm}$ 、 $P\,2\,\mathrm{ti}$ 径 $22\,\mathrm{cm}$ 、深さは $58\,\mathrm{cm}$ 、 $P\,3\,\mathrm{ti}$ 径 $25\,\mathrm{cm}$ 、深さ $42\,\mathrm{cm}$ 、 $P\,4\,\mathrm{ti}$ 径 $26\,\mathrm{cm}$ 、深さ $51\,\mathrm{cm}$ であった。貯蔵穴は東半が削平されているため不明瞭である。

竈 竈は焼土粒の多い箇所が北東壁の中央にあり竈痕と考えられる。しかし竈実測図がないため不明瞭である。

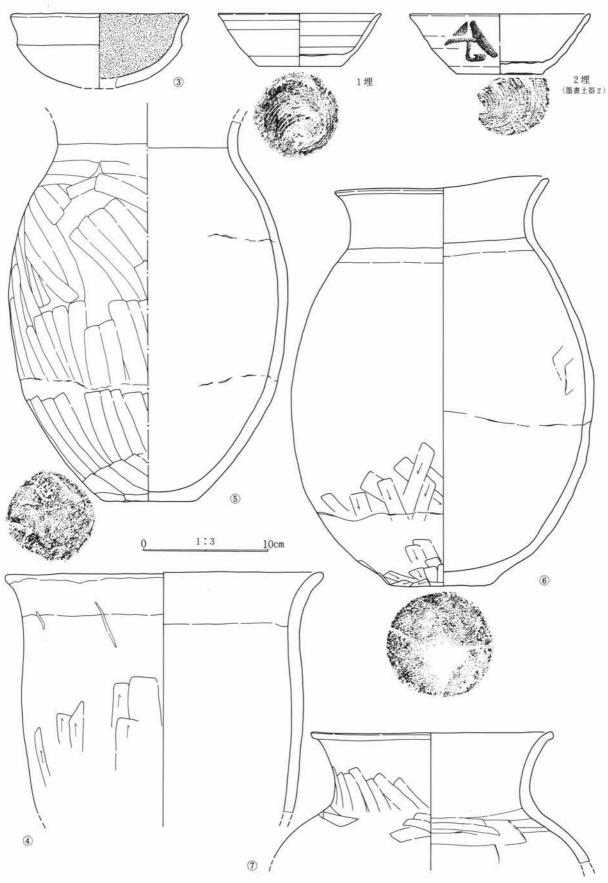
遺物 5点を掲げた。5を除き遺存率がよく、本住居との供伴が考えられる。

S J 89

遺構 位置は29~32 A 11~14で北東上がり勾配の微傾斜地にある。重複はない。平面形は方形気味で、主



第4篇 検出された遺構と遺物



第180図 S J 89遺物図

北東壁で $N25^{\circ}E$ を測る。規模は北東壁下で52m、北西壁下で5.1m、立ち上がりは遺存のよい北東壁下で25cmを残す。柱穴は4箇所に検出され、P1は径28cm、深さは床面から32cm、P2は径24cm、深さ41cm、P3は径35cm、深さ50cm、P4は径30cm、深さ30cmであった。貯蔵穴は不明瞭であった。

竈 竈は北東壁下のほぼ中央にあり、竈前に石材が散乱し廃棄時の破壊状況を偲ばせていた。袖材は褐色 の粘性土で木炭粒・焼土粒を含み、再築の可能性がある。

遺物 7点を掲げた。床面出土は $3\sim7$ である。写真照合の結果からも床面と認められ本住居との供伴を考える事が出来る。 $1\cdot2$ は埋土出土であり9世紀頃の別遺構の存在を思わせる。

S J 90

遺構 位置は $16 \cdot 17\,B\,47 \sim 50$ で北東上がり勾配の微傾斜地にある。調査で住居番号は付されていない。重複は平面確認時に $S\,J\,12$ と重なっていたが、新・古の関係は不明瞭。整理時に図面合成した結果、 $S\,J\,12$ の竈が $S\,J\,90$ 内に喰込んで存在したことから $S\,J\,90$ が古く、 $S\,J\,12$ が新しいと捉えられた。遺物との比較は $S\,J\,90$ の床面から出土した遺物がないため明瞭でない。平面形は方形気味で、主軸は北西壁で $V\,45^\circ W\,8$ 測る。規模は北西壁下で $V\,2$ 0.2+ $V\,2$ 0 m、立ち上がりは遺存のよい北壁下で $V\,2$ 1 で加速では調査時点で図面記入はないが、写真に東壁南端にそれらしき凹みが写っている。推定竈跡が東壁と考えられるので南東隅に貯蔵穴の存在が考えられる。

竈 竈は東壁下に焼土粒を含んだ箇所が、調査時図面に記入されており、位置からして竈跡と考えられる。 遺物 床面から出土したとされる遺物はない。

井 戸 遺 構

S E 01

位置は $13\sim14\,B\,35\sim36$ に位置する。重複は $4\,$ 号住居と重なり、平面確認時に、新・古の関係は得られなかったが、土層断面から $S\,J\,04$ が古く、 $S\,E\,01$ が後出と確認されている。規模は最大径 $1.72\,m$ 、深さは発見面から $1.1\,m\,$ を測る。出土遺物は得られていない。埋土の質感は調査担当によれば粗質で住居跡を埋めていた様な古い堆積土ではなかったと言う。井戸とする根拠は井筒部底に小穴が設けられ、それが野井戸に似ているためである。したがって現地で井戸と認定されなかった以上、機能を究めての遺構名称ではない。

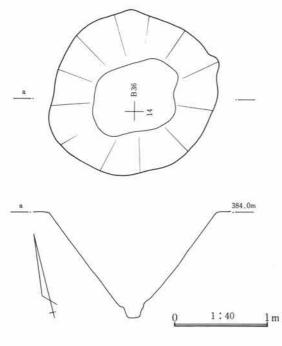
墓 跡

S Z 01

位置は34A44に位置する。重複はSJ58と重なり、SZ01が後出する。規模は長さ135cm、幅75cm、深さは発見面より25cmを測る。調査の際、人骨が出土している。さらに寛永通宝の出土がある。(第195図古銭 $1\sim6$)

さく遺構

全体で7群のさく状遺構が検出されている。各群はそれぞれ6条以上の単位を持ち、その平面観は畑のさく単位のあり方と同様であるため各群とも畑作に伴うさく痕と見なされる。出土遺物については遺構検出の時点において、遺構としての扱いを受けていなかったので取り上げられなかった。出土遺物のうち中・近世



第181図 S E 01遺構図

遺物を見ると1点だけ15世紀の後半頃と考えられる鍋片 (第192図1) があるほか、まったく認められなかった。そして近世になっての遺物が増加するのは18世紀 以後であるので、そのことから推して調査地内の場所が畑地となったのは現在の師の集落が定着する江戸時代中期以後のことと推測された。

A群

A群は14~22 C 00~08までの間にある大・小合わせて13条の溝からなり、方向性はN 81°W(N 9°E)を測る。規模は長い溝で13.8 mを測る。現在の耕地との関連からでは現(調査前)地境内におさまる。東にはS D 01が接し、A・B 群との地境の観を呈して存在する。S D 01と現地境との関連は現農道がさらに東に1 m程寄って存在し不一致である。そのため A群・S D 01とが関連して設けられたとすれば現在の耕作とは別の時点の所産と考えられる。

B群

B群は17~26 B 42~ C 01までの間に大小合せて12条の溝から成る。方向は N 74°W(N 16°E)である。発掘調査では北側に 7条、南側に約5 m の空間を置き 5条の単位がある。方向性は両者ほぼ同じ方向性で N 71°W を 測る。隣接した遺構として西側に S D 01がありさらに A 群と続く。現地境との関連は B 群の北から 2条目の溝が農道下に入る。 B 群の南北東西の端を単位としてとらえると現畑地よりも単位が小さいため B 群と現耕作とは異なる次元の所産と考えられる。また S D 01に画され A 群と接している平面の状況はほぼ同じ次元の所産を思わせる。

C群

C群は $14\sim18\,B\,34\sim39$ にあり6条の単位からなる。方向性は $N\,64^\circ W$ をとる。現地境との関連では重複はないがB群との方向性は異なり別区画の畑作を考えることができる。そのため現耕作とは別の次元の所産と考えられる。またA群・B群等と同様であるが溝群の東西南北端を畑地の限界を示唆する単位とすれば現畑地単位よりも小区画である点が特徴であろう。

D群

D群は $30\sim41\,A\,25\sim28$ にあり、断続的ではあるが $4\sim5\,$ 条の単位からなる。方向性は他の群とは異なり N $12^{\circ}E$ を測る。現地境との関連では重複はないが溝の四方向の端までを単位としてとらえれば現耕作と異なる別区画の畑地を考えることができる。そのため D群も現耕作とは別の次元の所産と考えられる。

E群

E 群は24~26 A 15~17にある。大小9条の単位からなり、方向性はN 89°Wをとる。現地境との関連は重複はなく、溝の四方向の端までを単位として捉えればE 群の方が明らかに小単位で別の次元の所産と考えられる。

F群

F群は28~37 A 13~21にあり、大小11条以上の溝からなる。F群を仔細に見ると大・小4群があるように





も見え、1つは28~30 A 20と、2 つ目は33~34 A 14、3 つ目31~37 A 15~17、4 つ目33~35 A 19~21の以上 4 つである。方向性は各々多少異なっており、3 つ目をとらえると N 84°Wを測る。現耕作地の地境とは 3 つ目、4 つ目が重複しており現耕作とは別の次元の所産を思わせる。

G群

G群も北の一群と南の一群とからなり、 $11\sim20\,A\,32\sim35$ に位置する。南の一群は $N\,63^\circ$ W、北の一群は $N\,60^\circ$ Wを測り相互に $6\,m$ の空間を置く、現地境とは重複していないが溝の $4\,$ 方の端を畑地の区画単位として捉えればG群は現在より遙に小さい区画であり別の次元の所産と考えられる。

特殊遺物

特殊遺物は古代の竪穴住居跡出土遺物ばかりでなく、中・近世遺物も含みそれらを通史的に掟える意味で 当遺跡出土遺物の総てを実見したうえで抽出した。古代遺跡のうち竪穴住居跡出土例は、本節と前節の両節 に掲げ、利用の便に供した。特殊遺物は種によって総てを掲げた場合と、そうではない場合とがある。また 小形種の古銭・鉄製鏃・石器について縮小率を変え1:2とした。

須恵器特殊器種 (第183図)

師遺跡出土須恵器は本書中に掲げた個体39点、未掲載資料の破片数97点が総てであり、大甕・甕片を除き古墳時代の須恵器はその一切を掲げた。第183図の中で5・6世紀代の須恵器はそう多くはなく、1~8・10・13~15があり、そのほか住居跡出土を加えても16点に過ぎない。9・11・12・16は8世紀以降の須恵器で11・12・16は月夜野窯跡群製と見られる須恵器である。1・9は本県の製品に見えないち密な胎土で県外からの搬入製品と思わせた。古墳時代の須恵器類について胎土分析と胎土の肉眼観察の結果、平野部にある太田金山窯跡群から多く供給されていたと推定され、当集落出土の古墳時代須恵器が思いのほか遠距離から運ばれたと考えられる。特殊器形としては第167図の3があり、本県を中心として5世紀終末頃から現われた特殊長胴壺の後出器形と考えられる。2・3は坏部の高さが浅く体部が底部先端側に向け直線的になっており、地域的特色でもある。6に見る列点刺突文と沈線2本を用いその間を巾広の隆帯状に見せる手法もそうである。12の鉢の底部粘土板の側部に見られる平行叩目は月夜野窯跡群中の沢入A支群中にその類例がある。

小形粗製土師器 (第184図)

小形粗製土師器は11点を掲げたが当遺跡の総てである。3は11点の中で最も精作で胎土も一種独特で平野部からの搬入が考えられる個体である。11は当遺跡出土例中、唯一の大形粗製であるので、この種にあえて含めた。9は未成物で粘土を押しつぶした個体で近接地での生産が示唆される。出土地の多くは古墳時代住居からでSJ03から2・4・7・9・10が出土したほかまとまった例はなくそれぞれ単独の出土である。小形粗製土器の類例は平野部の西毛・東毛地区よりも北毛地域に多く長野一群馬北部一福島に至る物質文化圏の一端を感じさせる。ひいては信仰の祭式表現が同一文化圏の流れにのっていたとも考えられるが同じ祭式用種の石製模造品の出土例が当遺跡では全くなく(隣接の後田遺跡では少量の出土があるので地域的に見て全く存在しないのではない)。祭式表現の形が福島県地方、信州地方が同様であったとするにはなおの検討の必要があろう。

竈土製支脚と用途不明土製品 (第185図)

土製支脚については6点を掲げた。3~6は当初から土製支脚として製作された個体でその全てを掲げた。

 $1 \cdot 2$ は高坏脚部片であるが高温を受けた個所があり支脚片と考えられる。このほか高坏脚部を二次利用した場合も多くあったと考えられるが調整時点で確認作業がなされなかったので実態は不明である。 $7 \cdot 8$ は用途不明の土製品である。7 は粘土板で指頭圧痕が目立つ。焼上りの質は土師器で二次的被熱ははっきりしない。7 に類した個体は隣接の『後田』遺跡』 P.526-56、57にも認められる。8 の機能も不明で竈支脚とするには横断面形が異なるのと顕著の被熱がないので支脚ではないと考えた。1 - 8 までの胎土は沼田盆地または月夜野地域に多く見られる白色鉱物粒を多く含み重みのある土味で在地製と考えられる。

土玉 (第186図)

1の焼上りは土師器である。この種の土玉は分布調査の表面採集や表土層出土の例で時折見られるが同僚 職員に住居跡の床面から出土したのを直接目視した例があるか聞いたところ無く、近世以降の所産とも考え られる。器面は全体に擦れが認められ、胎土はこの地域の土味である。穴は一方向の焼成前穿孔である。

紡錘車 (第187図)

紡錘車は出土の全てを掲げた。2点とも蛇紋岩製で滑石に似て極めて軟質である。ともに整形時の擦痕を 残す。2は竈内から出土し、1は住居跡埋土からの出土である。

砥石 (第188図)

砥石は出土の全てを掲げた。1は流紋岩製で小口・側部を除き表裏が使用面となっている。石質はやや細かく中砥または名倉砥の荒く軟かい級に相当するであろう。1は埋土出土であり、小口を見ると砥石成形時の削痕が見られ中世以降の所産かも知れない。2は使い込みが甘く小口面は原石面である。そのため古代の砥石の可能性が持たれる。3は流紋岩製の砥石で小口側部ともに丁寧に成形・整形がなされ中世以降の砥石の可能性がある。質は中砥または名倉級の荒く軟かい級に相当するであろう。4は安山岩製で表裏面のみの使用で側部小口ともに原石面で図左側を欠失する。原石面を残すため古代の所産であろう。質は荒く、荒砥または大村砥よりさらに荒い級に相当するであろう。

羽口 (第189図)

土師器高坏の脚部片であり、磨耗・風化のため割口は丸味をおびている。図の天側に強い被熱部分があり 還元質の個所が認められるため羽口としたかあるいは竈支脚として高坏脚部を二次利用したものかも知れない。胎土はこの土地の土味である。

灰釉陶器 (第190図)

出土の全てを掲げた。 $1 \cdot 2 \cdot 3$ ともに外面側にも灰釉が施されいずれも口縁端部をわずかに外反する特色を持つ。 $1 \cdot 3$ は胎土、釉調ともに共通し同一個所の可能性が高い。3 点はいずれも9世紀後半頃の虎渓山 1 号窯の古様に相当する器形である。

墨書土器 (第191図)

2点ともに判読困難な墨書である。ともにわずか酸化気味の焼成で墨書を施された時点ではコントラストがあり強い印象で映じたであろう。文字は判読困難であったが文字または記号が大きいため文字であっても記号的な意味あいが強いと考えられる。そのことは2点の坏が個人別けのためではなく、何らかの形で作業工房または共同作業の中での使いわけのために墨書されたとも考えられる。

中·近世軟質陶器 (第192図)

出土の全てを掲げた。1は内耳鍋形の口縁耳部片である。断面図の破線は耳の接合面を示し、穴の向側の 細線は見通しの高まりを示す。形状は体部側がわずかに外面に膨むため当地域の序例観すれば15・16世紀の 所産である。15・16世紀とした場合、国産施釉陶器・焼締陶器や中国陶磁器が他に出土している訳ではない

ので調査地内における生活は極めて薄かったと考えられる。2は近世18世紀以降の箱物の破片である。1の胎土は平野部の前橋・高崎市をはじめ県内各地で見られる内耳鍋形と共通する。2の場合平野部からの搬入と考えられる。2もその意味において平野部の近世以降陶器の土味と共通する。2の場合は18世紀以降(近世軟質陶器の量産段階の当初)であるので他の近世陶磁器の存在とあわせ当遺跡内からその周辺に18世紀頃の生活があったと考えられる。

近世陶磁器 (第193図)

 $1 \sim 4 \cdot 6 \sim 9$ は陶器片である。 $5 \cdot 10 \sim 12$ は磁器片である。5 を除き18世紀の製品は全てを掲げた。19 世紀以降はこの他に若干の破片が存在する。観察表 P.184、185中の釉調は一般的に呼ばれている質名称を用いた。備考欄に製作地名称の記入があるが美濃は美濃焼、波佐見は波佐見焼を示し、伊万里系は伊万里焼ではなく技術的な磁器系統をあらわす。県内における近世陶磁器の出土傾向は掘立柱民家建築が礎石建物へと変る18世紀代に大巾に増加し、18世紀後半には客組の個体量が多くなり民家での陶磁器のあり方が大きく変わる傾向にある。当遺跡出土の陶磁器片もそうした点と付合すかのように18世紀以降の存在が目立っている。なおこの一群の中に唐津系の6 が含まれるが県内では17世紀の製品が多い場合に伴なう傾向があり、それからすると6 は唐津系の製品が上州にもたらされた大量供給の終末の頃の製品であるかも知れない。

石板 (第194図)

1点のみ出土である。群馬県地域では昭和28・29年頃まで石板が使われていた。各遺跡の調査でも時折出 土しており学校教育関連の遺物である。

古銭 (第195図)

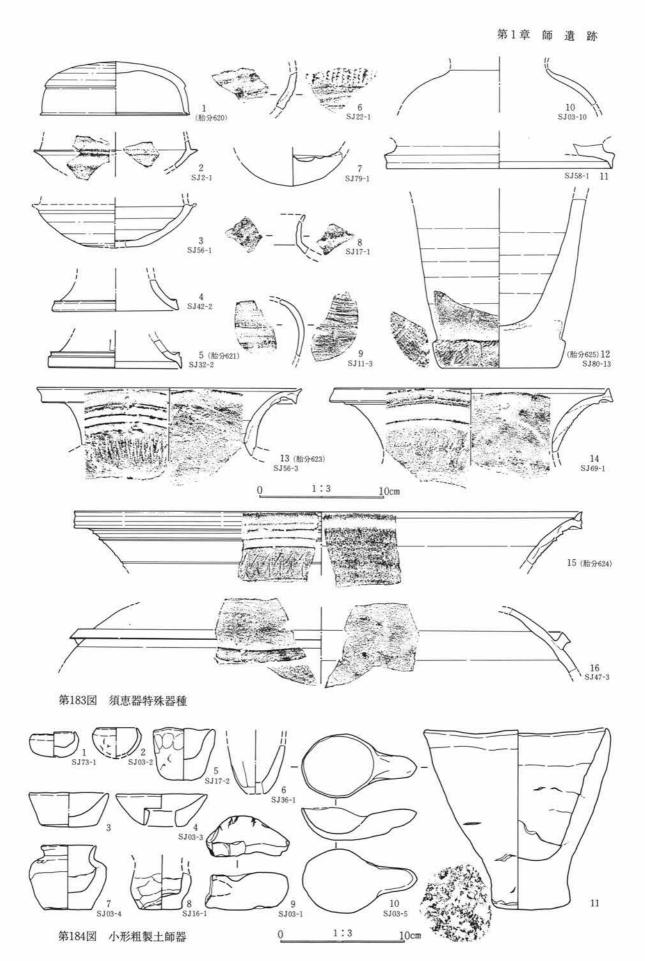
S Z 01から寛永通宝が出土している。古寛永・新寛永の両者が存在するようである。 3 は背面に「元」の施文字が見られる。

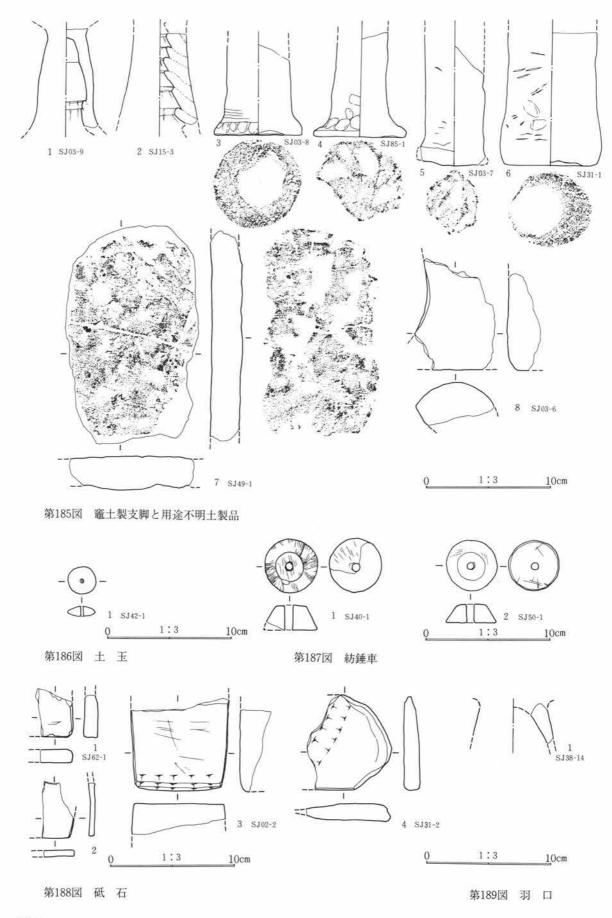
鉄製品 (第196図)

2点の出土がある。1は機能・用途不明である。2は平根、有孔、有柄鏃でSJ02の埋土から出土している。裏表の肉置を見ると側部に浅い稜が設けられ旧時の研出しの際にできた稜かも知れない。全体に扁平である。平の中央には一穴の孔が設けられ柄が取付いていたとするには不自然のようであるが腸抉の根元に柄の損割れが認められる。

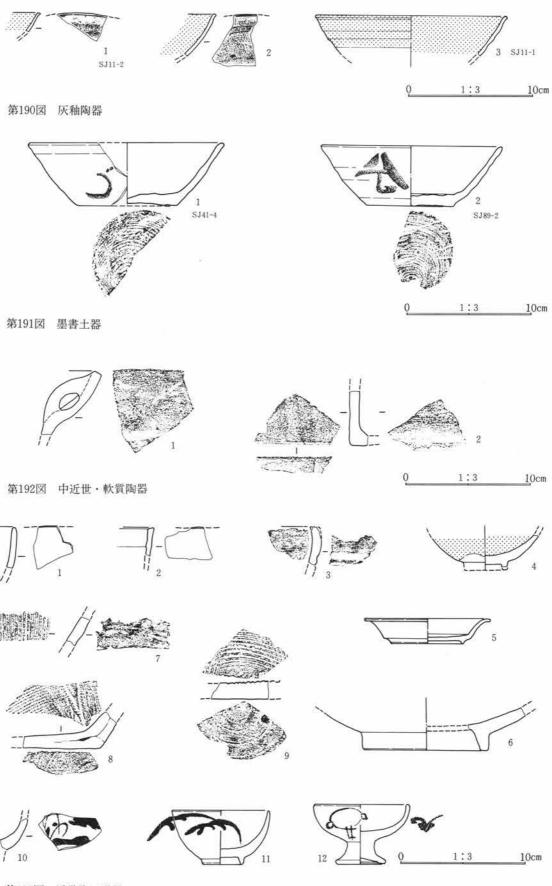
平野部からの搬入土師器とそれに類した胎土の一群 (第198図)

当遺跡出土こ土師器の胎土を見た時 3 群の土味があることに気付く。①は沼田盆地とその周辺にある白色鉱物粒を含み重味のある胎土の一群。②は夾雑鉱物粒が比較的少なく重みのない胎土の一群(第198)③は平野部からの搬入と考えられ、重みがなくち密な胎土の一群とに分けることができる。①はさらにいくつかの類に分けられそのいくつかが沼田盆地における土師器製作をあらわしていると考えられるが整理作業の時間の都合からその分離・細分はできなかった。しかし全体量からすれば少ないが29個体(本書掲載土師器中)の土器類について共通の胎土を確認でき、生産の一単位をとらえうるものと考えることができた。その一群は6世紀代を中心とし、土師器坏類の平底化の当初の頃と考えられる。SJ79-4、丸底気味の小形坏、SJ79-2の2点を新しい段階の例として認めうる。しかしSJ79-2の前段階の一群がこの胎土の一群の中に明瞭でないため②にSJ79-2は含まれず別単位の生産とも考えられる。第198図中~下段に示した一群は大むね6世紀代を中心に生産れたと考えられる。平野部からの一群は5点(第198図上段)しかなく量的に少ないが平野部との流通や沼田盆地と平野部との土師器の比較を行なう上では接触を示す例として重要である。この土味をもって製作地域を肉眼観察上から特定すれば吉井・藤岡方面の地域と見られる。



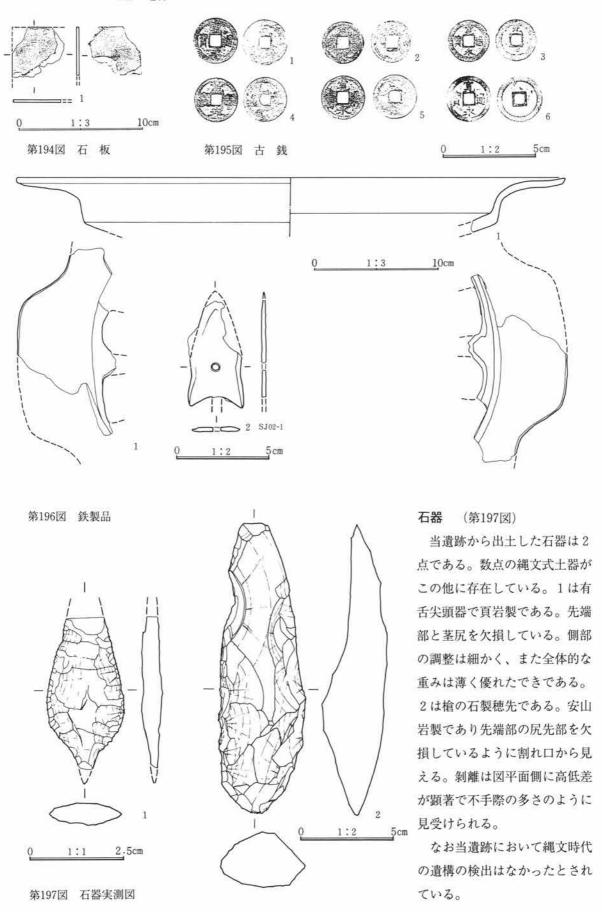


第1章 師 遺 跡



第193図 近世陶・磁器

第4篇 検出された遺構と遺物



第1章 師 遺 跡 / 粗製土師器-3 SJ42-9 平野部からの搬入土師器 (胎土A) SJ15-2 SJ09-3 SJ01-8 SJ42-10 SJ09-17 SJ72-7 それに類した胎土の一群 (胎土B)

第198図 平野部からの搬入土師器とそれに類した胎土の一群

10cm

1:4

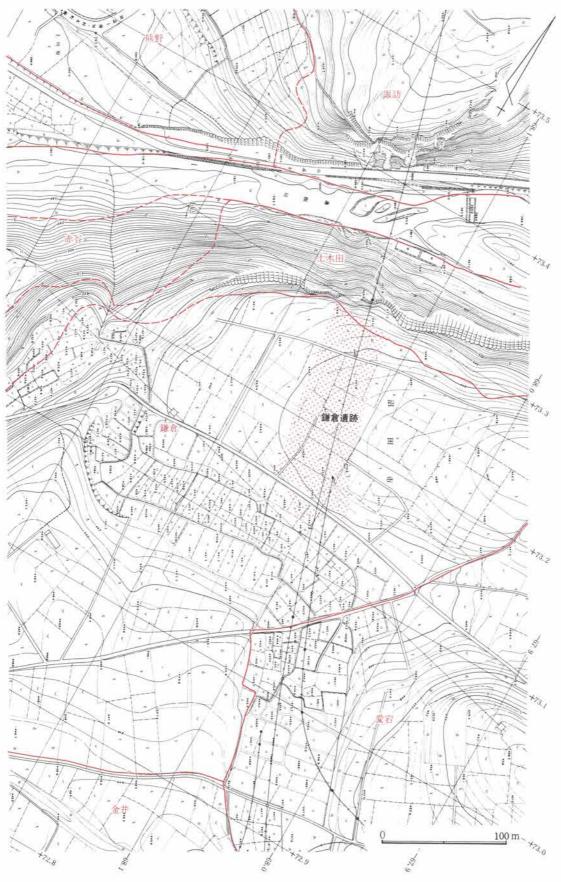
第2章 鎌倉遺跡

鎌倉遺跡は薄根川によって開析された谷地形に北面し、上・下段丘面の上位段丘面に存在する。薄根川は鎌倉遺跡の北方延長上で発地知川と合流し、東方約600mには田沢川との合流点があり、それぞれ谷地形をひかえ、弥生時代以降、多くの遺跡をその中に見ることができる。その様は利根地方の生活・生産の基盤がいつの時代でも山地を除く限られた地帯にしなかったことを窺わせる。

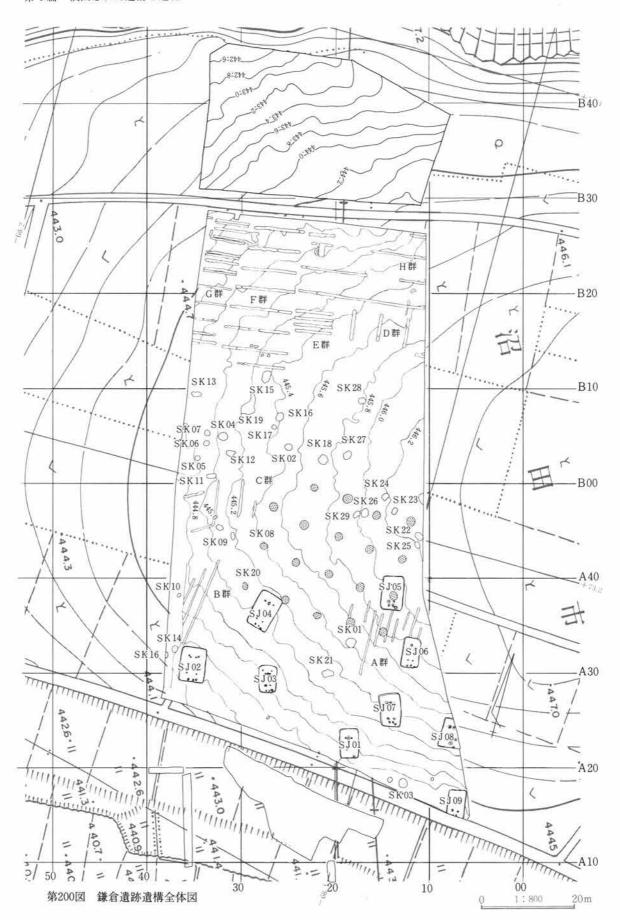
調査地の北方には薄根川に続く急斜地があり、南側には沼田台地上から薄根川に至る急斜地があり、南側には沼田台地上から薄根川に至る比高差約1.5mの浅い開析小谷地形が存在している。鎌倉遺跡の載る台地上の小字鎌倉地内には弥生式土器が散布しており、その一角を発掘したものである。調査結果は台地の南側に9棟の住居跡が検出され、閑散としながらもさらに東・西の未調査地側に延びる様相を見せていた。集落の生産基盤を考える時、南接の小谷地形を利用した谷地形が想定されるが、調査時もその点が意識され、谷地中にトレンチと、A10~22拡張区が設けられ水田の有・無の確認作業が行われた。結果は山礫の流入などがあり否定的で、第3図はその際の土層断面である。現在の沼田台地上に多くの水田地帯が見られるが、大半は江戸時代初頭までに開析された真田用水による大規模用水灌漑水田で、さらに中期以降の水田が加わり、今日の景観のとおりである。

台地上の土地利用は、縄文時代の土壙からはじまり、弥生時代には集落化があり、古墳時代から中世までの間の明確な遺構は認められていないし、整理時点で実見した出土遺物中にそれ以降の遺物は含まれていなかった。調査で検出されたさく遺構、畑作を裏づけるものであるが調査時点で近代の所産と考えられ、遺構の扱いを受けなかったため、遺物出土の確認はなされなかった。整理時点で近世陶・磁器片は実見していない。そのさく跡と現代の土地区画とは不一致であり、しかも畑一面の単位が小さい点から見て、江戸時代でもある程度、遡った時期さらにはそれ以前に遡った時期の所産と類推された。

次に調査で検出された遺構にふれるが、その前に作成の実測図について凡例・例言を述べたい。遺構は発掘調査時点では掟えられておらず、床面平面を基本図として掲げた。出土遺物は仮りに埋土出土遺物であっても住居壁上棚から落下した場合もあり得るので位置を記してある。遺物の中で石は点描、土器は線描を用いて区分した。柱穴は明らかな時はP1、P4などの番号を略記してあり、Pはピットの意味である。貯蔵穴は貯蔵機能を果すためであったか疑わしいが入口の補助柱穴脇に片寄って存在する。そうした土壙には貯と記入した。住居平面図・炉平面図の中のトーンは焼土を示し、各図中に例記してある。SJは竪穴住居跡、Pは小土壙、SDは溝遺構を表わす。出土遺物は破片個体で回転実測の個体は中軸を一点で、直接実測した場合は実線を用いている。一点鎖線は多かれ、少なかれ大破があり、各住居跡出土遺物の中で遺構共存がやや危ぶまれる。土器番号が○で囲まれているのは現場確認された個体で床面出土を表わし、埋とあるのは埋没土中、貯とあるのは貯蔵穴内、炉とあるのは炉中から、未記入は確定困難な場合を示している。トーンは黒色化の箇所を表わす。なお整理作業をへて現場所見と不一致の出土状態が認められた場合には整理時の確認を優先し、その理由については本文中に述べた。貯・炉・埋の略称については現場・整理の両者の結果をふまえ、読者に対し推薦し得る状況を表わした。



第199図 鎌倉遺跡周辺地形と小字区界図 1:3,000



住 居 跡

S J 01

遺構 位置は $17\sim19\,A\,21\sim24$ で北上がり勾配の微傾斜地にある。重複はない。平面形は隅丸長方形気味で、主軸は西壁で $N\,15^\circ$ Wを測る。規模は東壁下で $5.8\,\mathrm{m}$ 、北壁下で $3.4\,\mathrm{m}$ 、立ち上がりは遺存のよい西壁下で $50\,\mathrm{cm}$ を残す。柱穴は $3\,\mathrm{箇所に検出され}$ 、 $P\,1$ は径 $32\,\mathrm{cm}$ 、深さは床面から $52\,\mathrm{cm}$ 、 $P\,2$ は径 $34\,\mathrm{cm}$ 、深さ $25\,\mathrm{cm}$ 、 $P\,3$ は径 $34\,\mathrm{cm}$ 、深さ $48\,\mathrm{cm}$ であった。貯蔵穴は南壁下の東側にあり径 $54\,\mathrm{cm}$ 、深さ $57\,\mathrm{cm}$ を測る。

炉 炉跡は P1、 P3 の間にあり長径 78 cm、短径 49 cm、深さ 5 cm cm

S J 02

遺構 位置は33~36 A 29~32で北上がり勾配の微傾斜地にある。重複はない。平面形は隅丸長方形気味で、主軸は北壁でN 8 °W を測る。規模は東壁下で6.9 m、北壁下で4.7 m、立ち上がりは遺存のよい東壁下で46cm を残す。柱穴は4箇所に検出され、P 1 は径40cm、深さは床面から55cm、P 2 は径42cm、深さ52cm、P 3 は径39cm、深さ56cm、P 4 は径42cm、深さ47cmであった。南側の補助柱穴のうち東は長径42cm、深さは49cm、西側は52cmで深さは69cm、北半の東は径28cm、深さは44cm、西は径25cm、深さは55cmを測る。貯蔵穴は径44cm、深さ37cmであった。

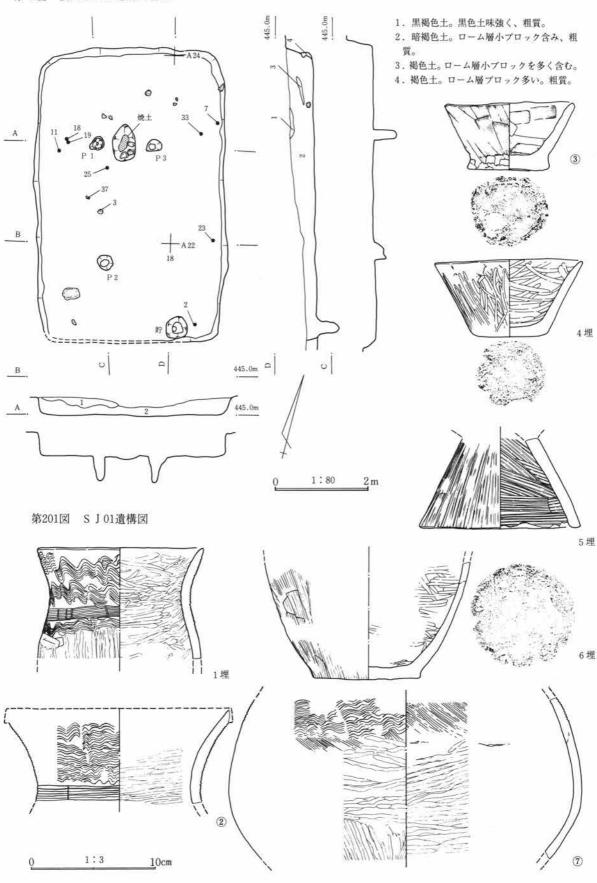
炉 炉跡はP3、P4の間にあり床面上を炉としたもので9棟のうち最も浅く小規模である。焼土化した 箇所を測定すると長径27cm、短径25cm、深さ3cmである。

遺物 床面上から出土した遺物に3・4があり、写真照合と一致する。埋土中から出土した大形破片個体の1・2・5は床面から5cm以上離れた黒褐色土層から出土している。その他破片個体の6~22も埋土中からの出土である。なお貯蔵穴に接して粘土塊が長径38cm、短径29cm、最大厚13cmで置かれていた。

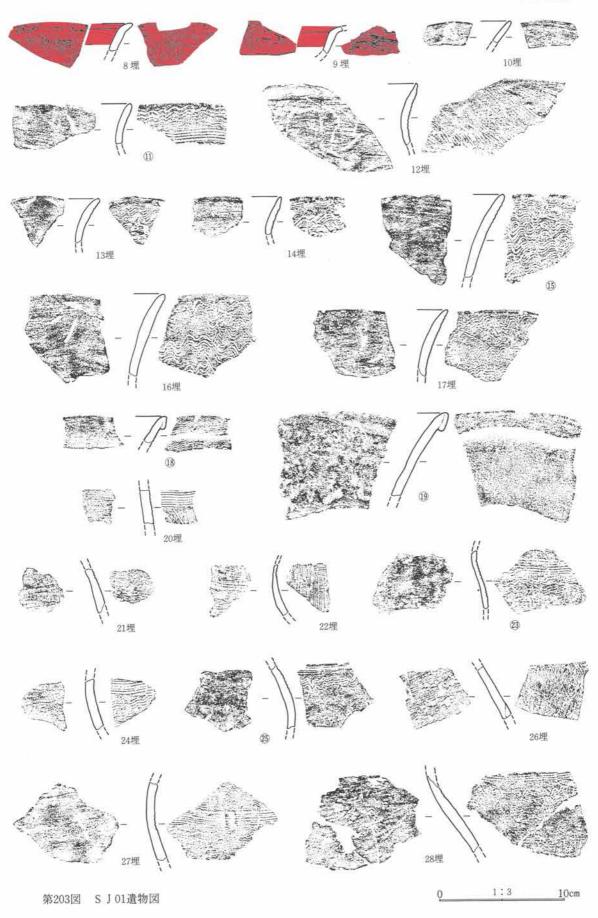
S J 03

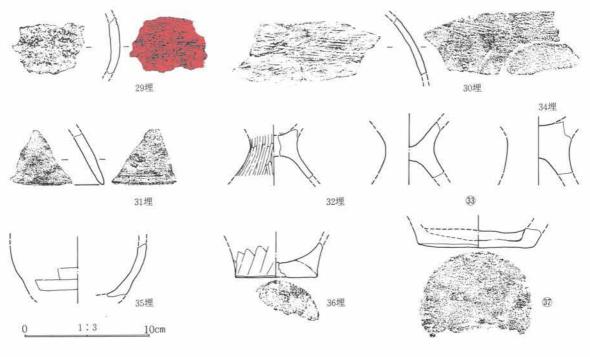
遺構 位置は26~28 A 27~30で北上がり勾配の微傾斜地にある。重複はない。平面形は隅丸長方形気味で、主軸は西壁は N 17°W を測る。規模は西壁下で5.3 m、北壁下3.3 m、立ち上がりは遺存のよい西壁下で55cm を残す。柱穴は 4 箇所に検出され、P 1 は径34cm、深さは床面から60cm、P 2 は径62cm、深さは48cm、P 3 は径50cm、深さ44cm、P 4 は径42cm、深さ54cmであった。南側にある補助柱穴のうち東側の柱穴は最大径28cm、深さ22cm、西側の柱穴は最大径35cm、深さ21cmを測る。貯蔵穴は東隅に検出され、径60cm、深さ40cmを測る。炉 炉跡は P 1、P 4 の間に検出され、規模は長径60cm、短径34cm、深さ38cmを測る。その内部に部分的に焼土と小礫が 2 個残存していた。

遺物 床面から出土した個体は大形もしくは遺存のよい個体に $6\cdot7$ がある。写真照合の結果は床面から数cm離れていたように見えたが、床面全体に凹凸が目立ち掘り過ぎの感がある。そのため $6\cdot7$ は床面出土としてよい。その他 $1\sim5$ 、 $8\sim28$ は埋土中の出土である。 1 は鎌倉遺跡唯一の小形粗製土器で口縁部を若干欠損するが祭祀用土器として考えた場合には出土地が問題になる。 1 は P 4 からおよそ20 cm 東方で北に30 cm離れた箇所の床面から31 cm離れての出土である。



第202図 S J 01遺物図





第204図 S J 01遺物図

S J 04

遺構 位置は25~29 A 34~38で北上がり勾配の微傾斜地にある。重複はない。平面形は隅丸長方形気味で、主軸は西壁で N 12°E を測る。規模は南東壁下で7.2 m、北東壁下で4.7 m、立ち上がりは遺存のよい西壁下で54cmを残す。柱穴は4箇所に検出され、P 1 は径42cm、深さは床面から60cm、P 2 は径38cm、深さ56cm、P 3 は径30cm、深さ54cm、P 4 は径32cm、深さ56cmであった。南側の補助柱穴のうち東側の柱穴は長径34cm、深さ54cm、西側は長径40cm、深さ50cmを測る。貯蔵穴は南壁中央より東寄りに検出され、径50cm、深さ32cmを測る。なお本住居は焼失住居で多くの焼土と炭化木の出土があった。

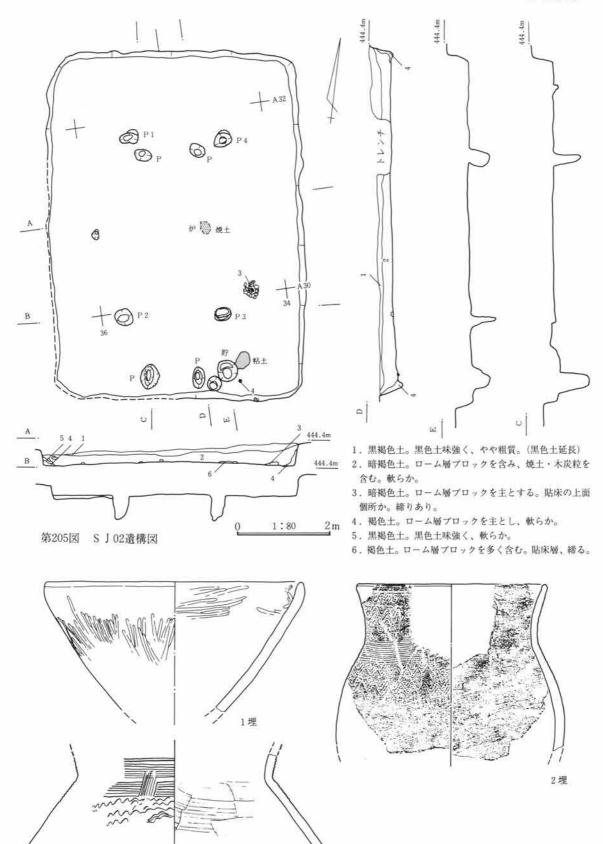
炉 炉跡はP1、P4の間に検出され規模は長径78cm、短径48cm、深さ14cmを測り、部分的に焼土が認められる。炉内より $2 \cdot 3 \cdot 10 \cdot 16$ の出土がある。被熱は顕著でない。

遺物 炉内より $2 \cdot 3 \cdot 10 \cdot 16$ の出土がある。いずれも大形壺であり同一個体と思えるが、接合接点が得られず同一個体であるかどうかは不明である。しかし胎土・焼成・色調からくる質感は同一個体の様に思える。床面出土の破片個体は $5 \cdot 8 \cdot 13$ である。埋土出土遺物に $1 \cdot 4 \cdot 6 \cdot 7 \cdot 9 \cdot 11 \cdot 12 \cdot 14 \cdot 15 \cdot 17 \cdot 18$ がある。

S J 05

遺構 位置は12-15A36-40で北上がり勾配の微傾斜地にある。重複は中央にリンゴ植栽のための土壙が掘られていた。平面形は隅丸長方形気味で、主軸は西壁でN8°Wを測る。規模は西壁下で6.6m、北壁下で3.8m、立ち上がりは遺存のよい西壁下で50cmを残す。柱穴は4箇所に検出され、P1は径50cm、深さは床面から56cm、P2は径56cm、深さ58cm、P3は径72cm、深さ46cm、P4は径60cm、深さ64cmであった。南側に補助柱穴があり、東側の柱穴は長径74cm、深さ57cm、西側は長径55cm、深さ35cmを測る。貯蔵穴は南壁中央のやや東寄りに検出され、径70cm、深さ27cmを測る。

炉 炉跡はP1、P4の間に検出され規模は長径84cm、短径48cm、深さ5cmを測り、部分的に焼土化が見られる。



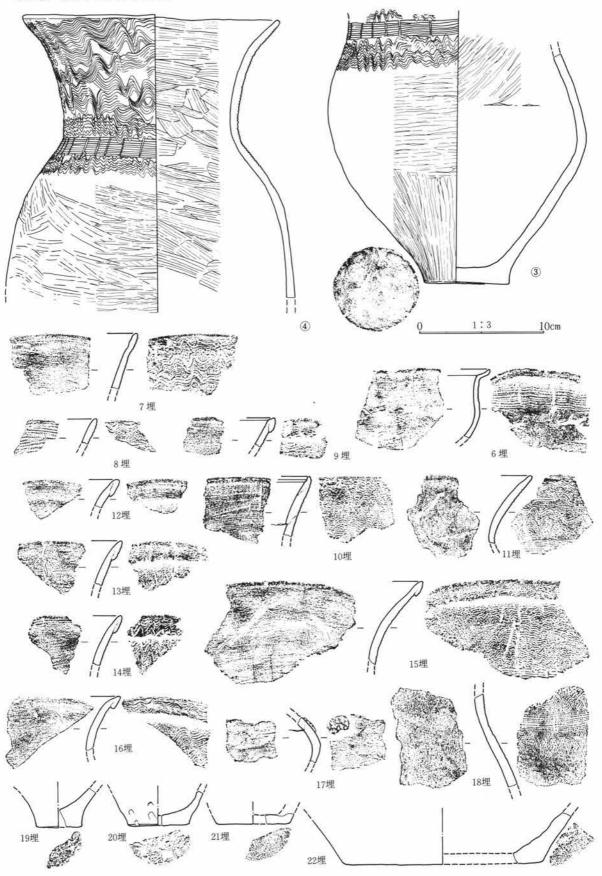
5埋

第206図 S J 02遺物図

10cm

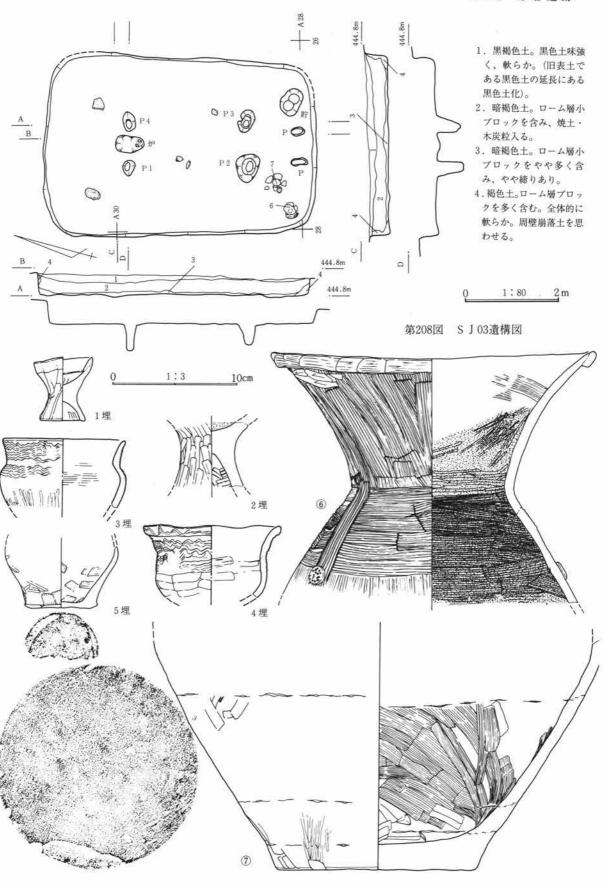
1:3

第4篇 検出された遺構と遺物



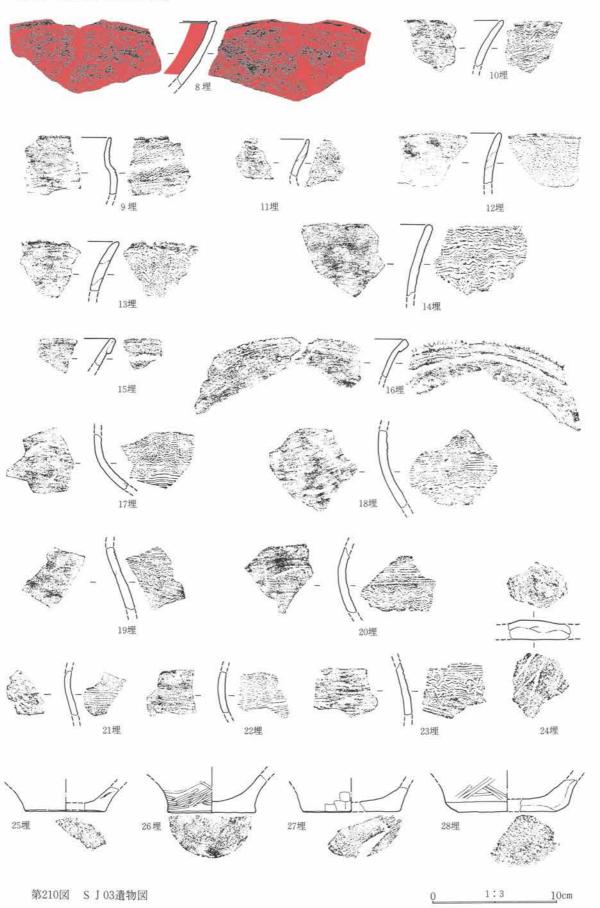
第207図 S J 02遺物図

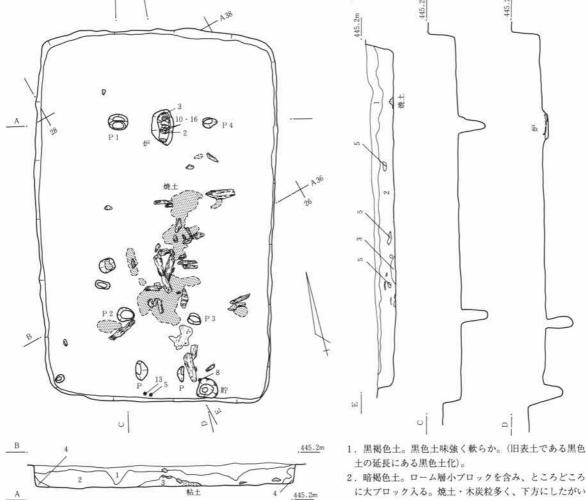
第2章 鎌倉遺跡



第209図 S J 03遺物図

第4篇 検出された遺構と遺物





- 2. 暗褐色土。ローム層小ブロックを含み、ところどころ に大プロック入る。焼土・木炭粒多く、下方にしたがい その量が多くなる。
- 3. 暗赤褐色土。焼土・木炭粒の量が極めて多い個所。床 面の焼土化もこの直下が最も顕著。検出された炭化木も この周辺に多い。
- 4. 褐色土。ローム層ブロック多く、壁崩落土か。軟らか。 5. 褐色土。ローム層ブロック個所。

遺物 床面出土で遺存のよい個体に2・3があり、写真照合においても床面出土と認められた。破片個体 では13・19・22が床面出土である。埋土出土は1・4~12・14~18・20・21・23~30がある。埋土出土の遺 物の中で1は大形破片である。出土位置は床面より21cm離れて出土している。

 $2 \, \mathrm{m}$

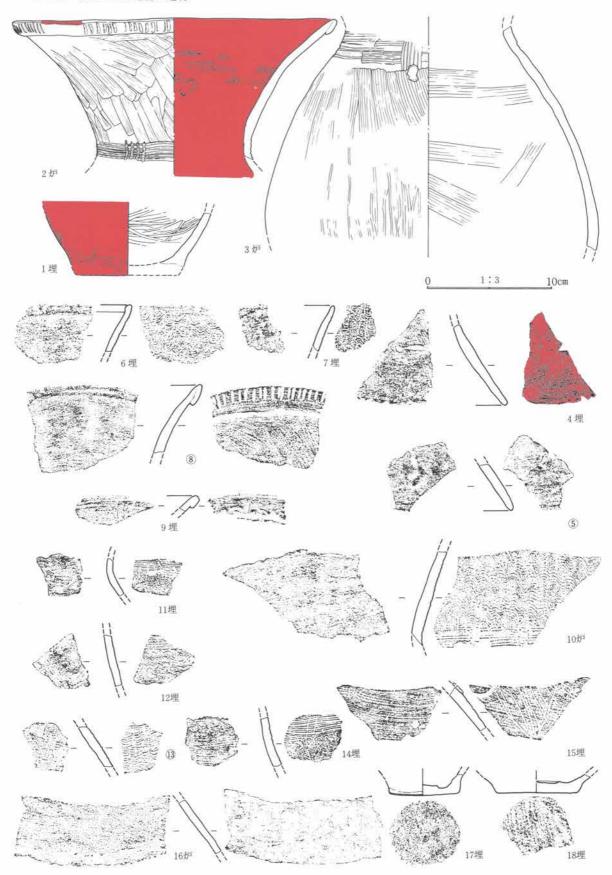
S J 06

第211図 S J 04遺構図

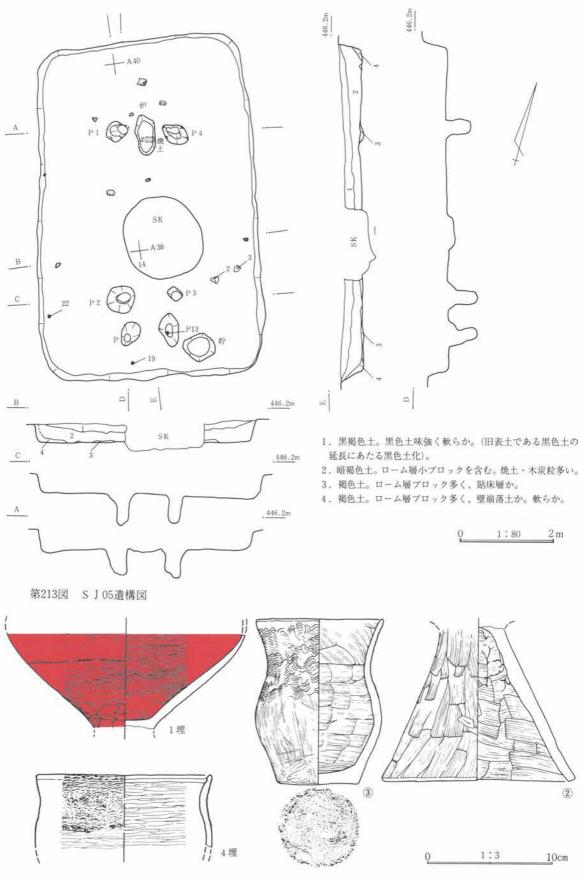
遺構 位置は10~13 A 30~33で北上がり勾配の微傾斜地にある。重複はない。平面形は隅丸長方形気味で、 主軸は西壁でN5°Wを測る。規模は西壁下で5.8m、北壁下で3.1m、立ち上がりは遺存のよい西壁下で54cm を残す。柱穴は4箇所に検出され、P1は径44cm、深さ床面から62cm、P2は径32cm、深さ64cm、P3は径 34cm、深さ66cm、P 4 は径36cm、深さ61cmであった。南側に補助柱穴があり東側は長径34cm、深さ70cm、西 側長径31cm、深さ59cmを測る。貯蔵穴は東寄りに検出され、径50cm、深さ48cmを測る。なお本住居は焼失家 屋であるため多くの炭化材と焼土があり、炭化材のうち、特に西壁側に接した材は垂木材のようである。

炉 炉跡はP1、P4間の北壁に寄った位置にあり規模は長径52cm、短径47cm、深さ8cmを測る。焼土化 は不明瞭であったが、炉石材と思える石材が1石存在した。

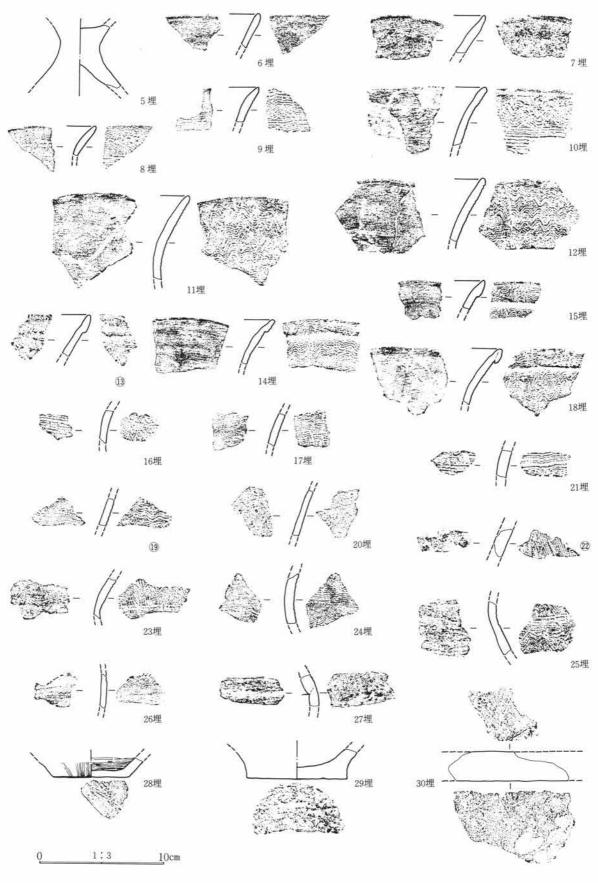
遺物 貯蔵穴内から7が出土し破片個体の13がある。7は据えられた様に置かれていた。床面からは3・



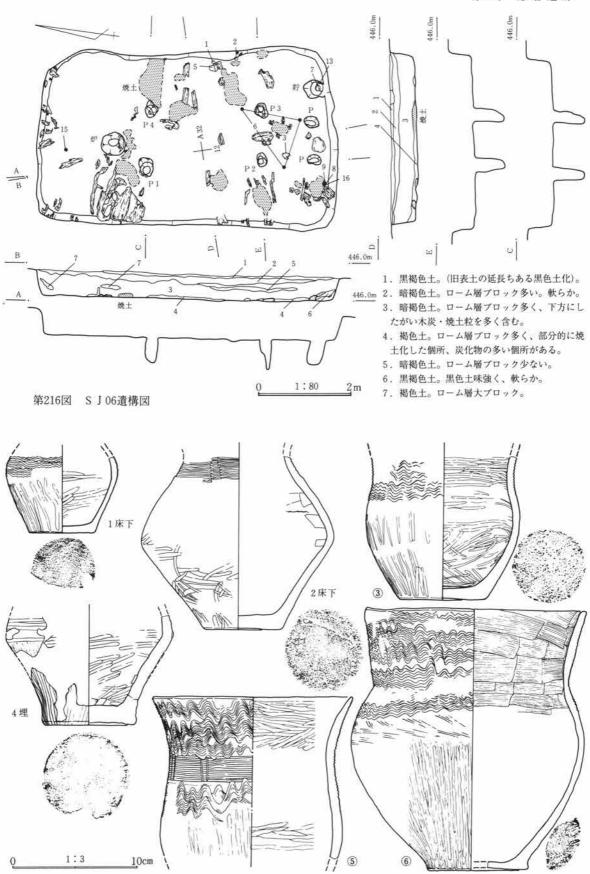
第212図 S J 04遺物図



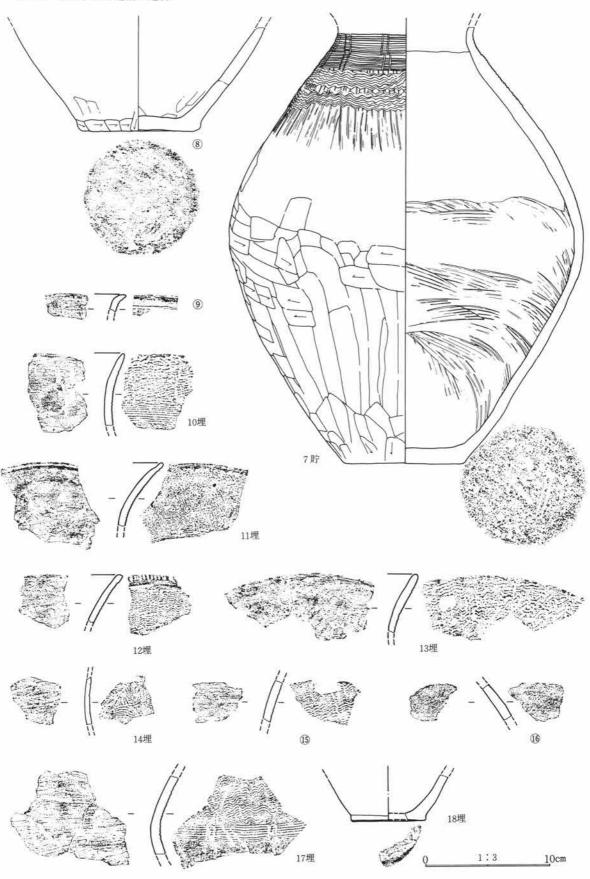
第214図 S J 05遺物図



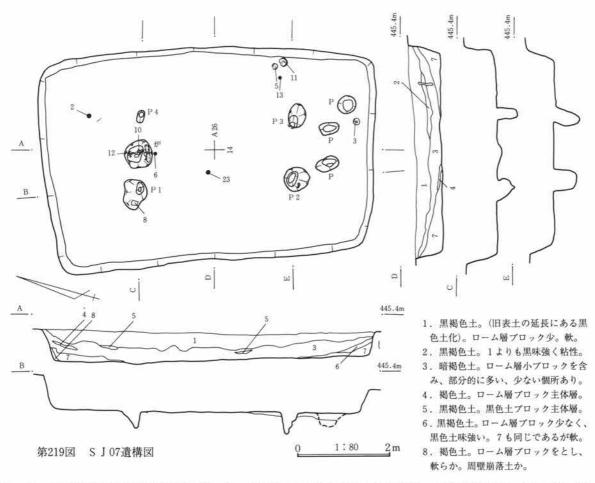
第215図 S J 05遺物図



第217図 S J 06遺物図



第218図 S J 06遺物図



5 · 6 · 8 の出土があり破片個体に 9 · 15 · 16がある。埋土中から 4 があり、破片個体に $10 \sim 12 \cdot 14 \cdot 17 \cdot 18$ の出土がある。 1 · 2 は床下からの出土である。

S J 07

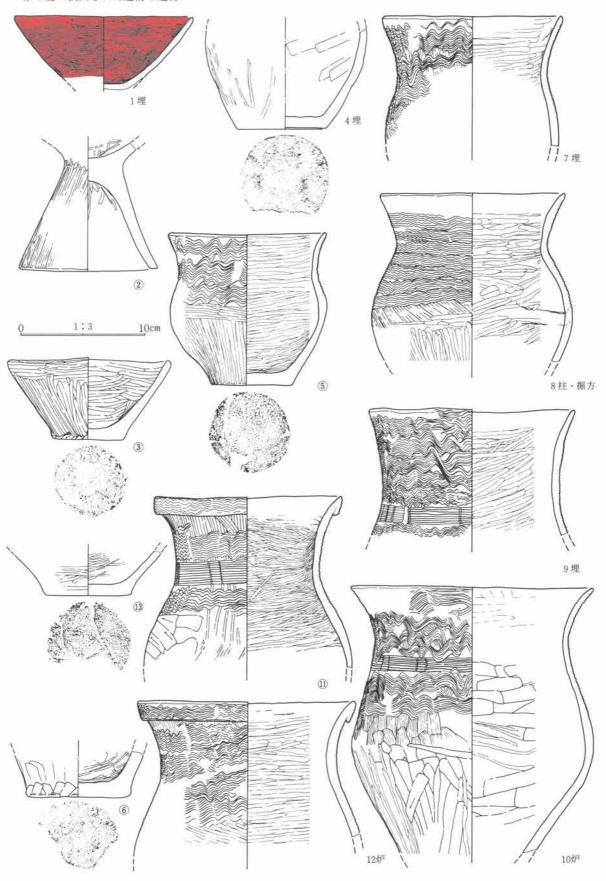
遺構 位置は12~15 A 24~27で北上がり勾配の微傾斜地にある。重複はない。平面形は隅丸長方形気味で、主軸は東壁でN 15°Wを測る。規模は西壁下で6.1 m、北壁下で4.0 m、立ち上がりは遺存のよい西壁下で68cmを残す。柱穴は4箇所に検出され、P 1 は径64cm、深さは床面から36cm、P 2 は径54cm、深さ52cm、P 3 は径50cm、深さ56cm、P 4 は径28cm、深さ46cmであった。南端に補助柱穴があり、東側の柱穴は長径44cm、深さ44cm、西側は長径51cm、深さ45cmを測る。貯蔵穴は南壁より東寄りに検出され、径40cm、深さ39cmを測る。炉 炉跡はP 1、P 4 の間にあり規模は長径57cm、短径56cm、深さ7 cmを測る。炉内の焼土化は顕著でないが炉石材と思われる扁平な石材が1石残存していた。炉内からは10・12が出土しているが別個体である。遺物 床面から出土した大形破片もしくは遺存のよい個体に2・3・5・6・11・13があり写真照合から

遺物 床面から出土した大形破片もしくは遺存のよい個体に2・3・5・6・11・13があり写真照合からも床面出土である。8はP1の埋土中からの出土である。埋土中から1・4・7・9の大形破片や遺存のよい個体があったが写真照合の結果からも床面出土ではなく、住居廃棄とは別の廃棄であろう。

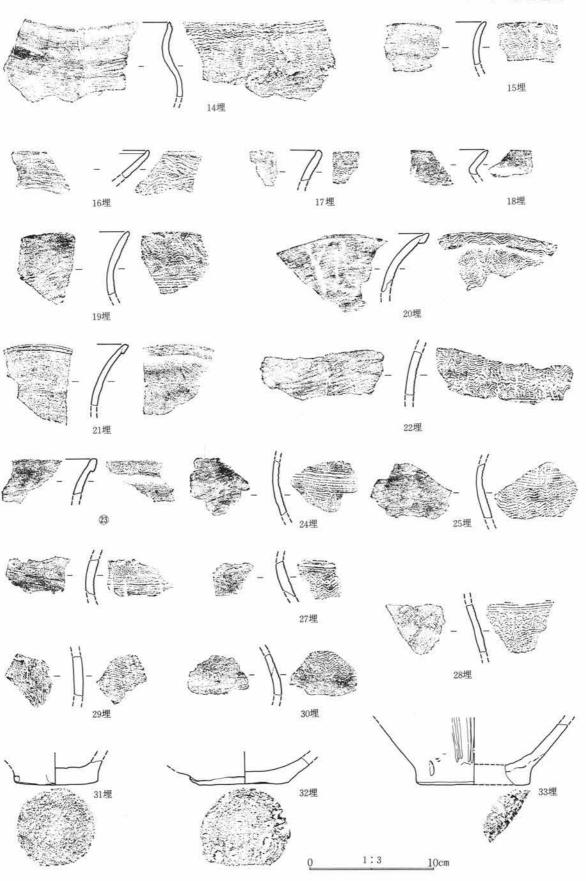
S J 08

遺構 位置は $06\sim09\,A\,21\sim23$ で北上がり勾配の微傾斜地にある。重複はない。平面形は未調査地があり、不明瞭であるが一辺の長い長方形と考えられる。主軸は西壁で $N\,0\,^{\circ}E$ ・Wを測る。規模は西壁下で $5.9\,\mathrm{m}$ 、南壁下で $4.7\,\mathrm{m}$ 、立ち上がりは遺存のよい西壁下で $44\,\mathrm{cm}$ を残す。柱穴は3箇所に検出され、 $P\,1$ は径 $74\,\mathrm{cm}$ 、深さは床面から $38\,\mathrm{cm}$ 、 $P\,2$ は $48\,\mathrm{cm}$ 、深さ $52\,\mathrm{cm}$ 、 $P\,3$ は径 $70\,\mathrm{cm}$ 、深さ $54\,\mathrm{cm}$ であった。南半に補助柱穴があり長

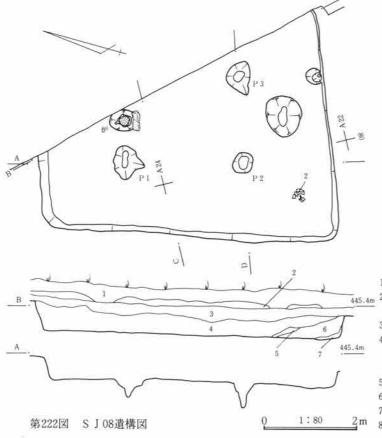
第4篇 検出された遺構と遺物



第220図 S J 07遺物図



第221図 S J 07遺物図



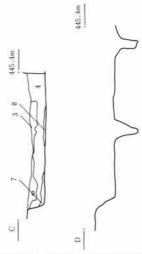
径33cm、深さ32cmである。貯蔵穴は検出されていないが P2、P3の南側に床下の小土壙があり長径85cm、短径 76cm、深さ43cmを測る。

炉 炉跡はP1の東方にあり、規模は長径48cm、短径45cm、深さ7cmを測り、底面に焼土化が見られる。また炉石材がその南に接して1石残存していた。

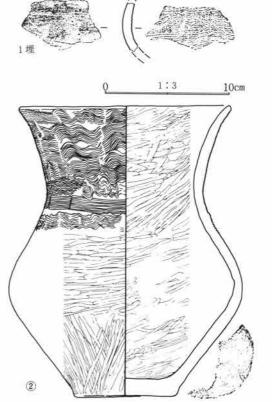
遺物 床面から出土した個体に2がある。写真照合の 結果からも床面出土である。1は埋土出土である。

S J 09

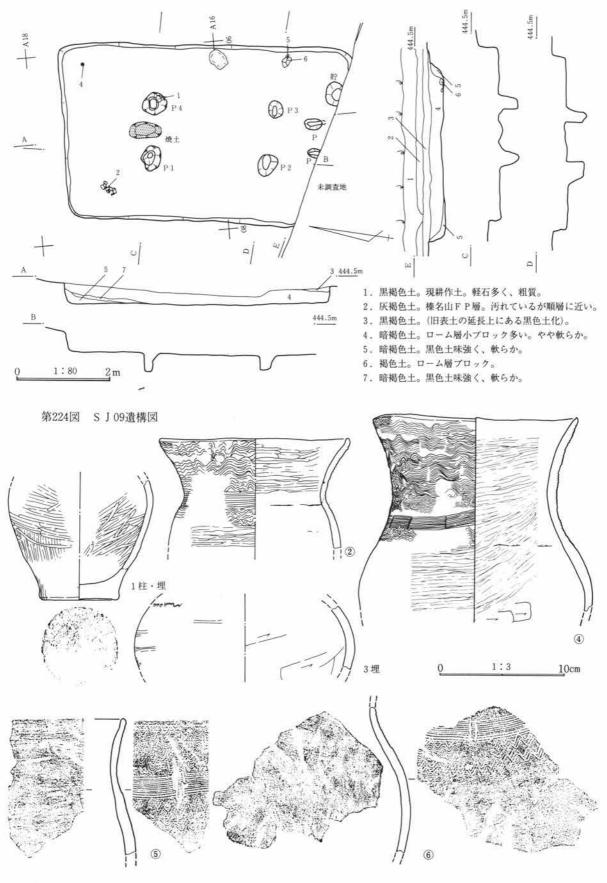
遺構 位置は06~08A14~17で北上がり勾配の微傾斜地にある。重複はない。平面形は未調査地に一部かかるが柱穴からすれば隅丸長方形と考えられる。主軸は西壁でN8°Wを測る。規模は東壁下で6.0m、北壁下で3.4m立ち上がりは遺存のよい東壁下で40cmを残す。柱穴は4箇所に検出され、P1は径54cm、深さは床面から44cm、P2は径48cm、深さ38cm、P3は径40cm、深さ46cm、P4は径54cm、深さ42cmであった。補助柱穴は南端側にあり東側は長径48cm、短径23cm、西側は長径30+αcm、短径19cmを測るが深さについては測定値がない。



- 1. 黒褐色土。現耕作土。軽石がまじり、粗質。
- - 3. 黒褐色土。(旧表土の延長上にある黒色化)。
 - 4. 暗褐色土。ローム層ブロックを含み、焼土・ 木炭粒含む。部分的にローム層ブロックの多い、 少ない側所あり。
 - 5. 黒褐色土。ローム層ブロック入り黒色土主体。
 - 6. 褐色土。ローム層ブロックを多く含む。
 - 7. 黒褐色土。ローム層、黒色土ともに多い。
- 2m 8. 褐色土。ローム層ブロック多い貼床層。

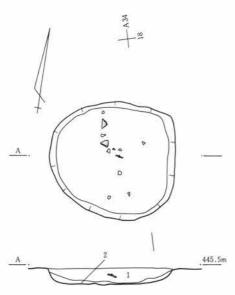


第223図 S J 08遺物図



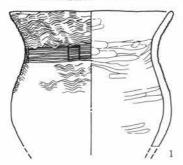
第225図 S J 09遺物図

第4篇 検出された遺構と遺物

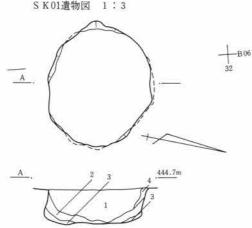


- 1. 黒褐色土。粗質で土器片を多く含み、NO1土器は ここからの出土。黒色土味強い。
- 2. 暗褐色土。黒色土小ブロック入る。

S K 01遺構図 1:40



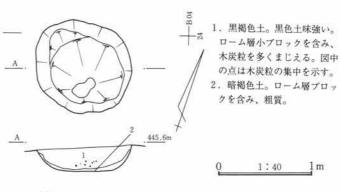
SK01遺物図 1:3



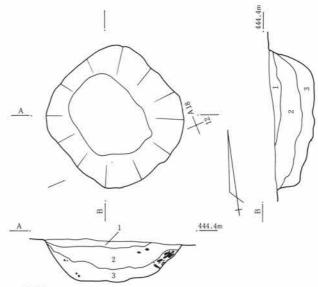
- 1. 暗褐色土。軽石を含み、やや粗質。
- 2. 暗褐色土。1に似るがローム層ブロック多い。
- 3. 褐色土。ローム層ブロック多い。
- 4. 暗褐色土。やや黒色土味強い。

S K 04遺構図 1:40

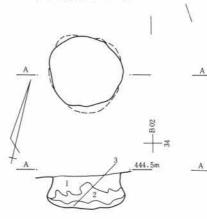
第226図 土壙集成図 SK01~06



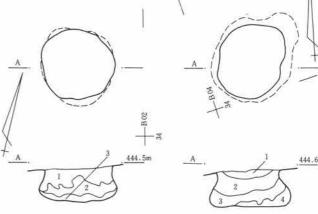
S K 02遺構図 1:40



- 1. 黒褐色土。黒色土味強い。締りあり。
- 2. 暗褐色土。黒褐色土中にローム層小ブロック入る。図中の点はそれを示す。
- 3. 暗褐色土。暗褐色土中に焼土・木炭粒を含む (図中の点)。さらにローム 層小ブロックを多く含む。

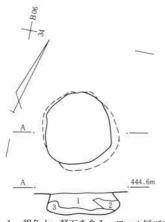


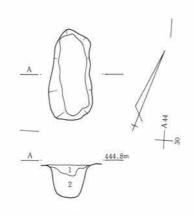




- 1. 暗褐色土。軽石を多く含む。
- 2. 黒褐色土。黒色土味強く、軽石を含。
- 3. 褐色土。ローム層ブロックを多く含み、 3. 暗褐色土。黒色土味やや強い。 黒色土ブロック入る。
 - SK05遺構図 1:40
- 1. 暗褐色土。軽石を多く含む。
- 2. 暗褐色土。軽石を含む。
- 4. 褐色土。ローム層プロックを多く含。

S K 06遺構図 1:40





- 444.8m
- 1. 褐色土。軽石を含み、ローム層ブロック入 1. 黒褐色土。全体的に黒色土味強く、
- 2. 暗褐色土。軽石を含み、黒色土味強い。
- 3. 暗褐色土。軽石・ローム層ブロック入る。
- やや軟らか。
 - 2. 暗褐色土。1より褐色味強い。
- 1. 黒褐色土。黒色土味強く、弱粘性あり。
- 2. 暗褐色土。ローム層ブロックを多くまじ える。

S K 07遺構図 1:40

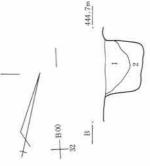
S K 08遺構図 1:40

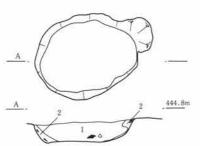
S K 09遺構図 1:40



1. 暗褐色土。軽石・焼土、 木炭粒を含み、ローム層 ブロック入る。図中の点 はローム層ブロック。

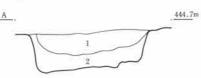
0





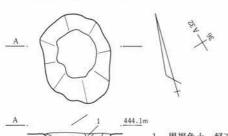
S K 10遺構図 1:40

- 1. 暗褐色土。黒色土味強く、軽石粒を含み、ロー ム層ブロック(図中のゴミ様の個所)入る。
- 2. 褐色土。ローム層ブロックを多く含む (図中 の点の個所)。



- 1. 黒褐色土。黒色土味強く、軽石を含む。やや粗質。
- 2. 暗褐色土。ローム層ブロックを多く含み、軽石を含む。粘性あり。

S K 12遺構図 1:40



S K 14遺構図 1:40

- 1. 黒褐色土。軽石を含む。
- 2. 暗褐色土。軽石を含む。
- 3. 暗褐色土。ローム層ブロッ クを含む (図中のゴミ様の個

第227図 土壙集成図 S K 07~14

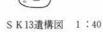


1. 黒褐色土。黒色土味の強い 2. 暗褐色土。ローム層ブロッ

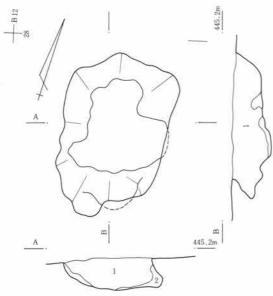
クを多く含む層。

444.5m

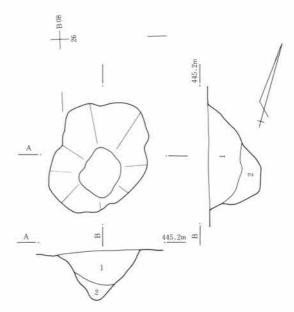
1:40 1 m



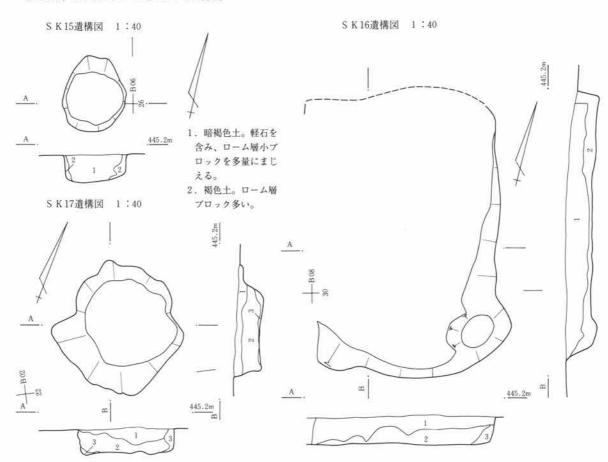
第4篇 検出された遺構と遺物



- 1. 暗褐色土。ローム層小ブロックが全体的に多く入る。
- 2. 褐色土。ローム層ブロックが多い。底面・掘り方は全体に不整形である。その中にもローム層ブロックは及ぶ。



- 1. 暗褐色土。ローム層小ブロックが多く入る。
- 2. 褐色土。ローム層ブロックの混入が1よりも多い。



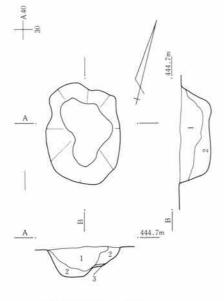
- 1. 暗褐色土。軽石を含む。
- 2. 褐色土。ローム層ブロック・軽石を含む。
- 3. 褐色土。ローム層ブロックを多く含む、壁の崩落か。軟らか。

S K 18遺構図 1:40

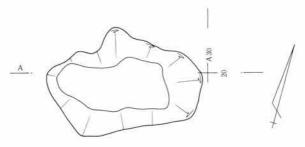
第228図 土壙集成図 SK15~19

- 1. 暗褐色土。ローム層ブロック、軽石を含む。
- 2. 褐色土。ローム層ブロックを多く含む。
- 3. 褐色土。ローム層ブロックを多く含み、黒褐色ブロック入る。

S K 19遺構図 1:40 Q 1:40 1m

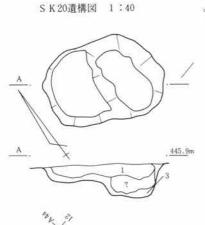


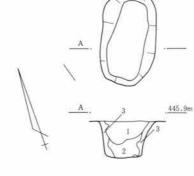
- 1. 黑褐色土。 黑色土味強 く、軽石・ ローム層ブ ロックを含 tr.
- 2. 暗褐色土。 ローム層ブ ロック多く含 み褐色み強 い。粘性あり。
- 3. 褐色土。ロー ム層ブロック 多く、褐色味 強い。粘性あ 1) .

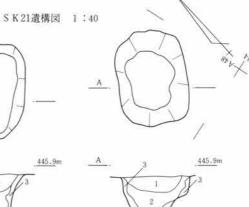




- 1. 暗褐色土。黒色土味強く、軽石粒を含む。
- 2. 暗褐色土。ローム層ブロック含むため、褐色味強い。





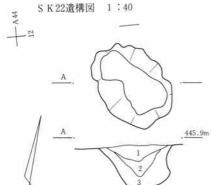


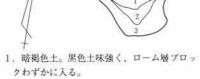
- 2. 黒褐色土。ローム層ブロック少。軟らか。 2. 黒色土。ローム層ブロックなし。軟質。 2. 黒色土。ローム層ブロックなし。軟質。
- 3. 黒褐色土。ローム層・黒色土ブロック含。
- 1. 黒褐色土。ローム層ブロック少。軟らか。 1. 暗褐色土。ローム層ブロック少。軟質。 1. 黒褐色土ローム層ブロック含む。

 - 3. 暗褐色土。黒色土・ローム層ブロック。

S K 23遺構図 1:40

- 3. 暗褐色土。黒色土・ローム層ブロック。



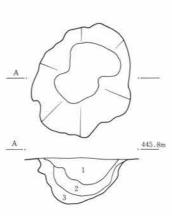


クわずかに入る。

- 2. 暗褐色土。ローム層ブロック入らず、黒色 味強い。
- 3. 褐色土。ローム層ブロック多い。

S K 25遺構図 1:40

第229図 土壙集成図 SK20~26

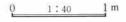


S K 26遺構図 1:40

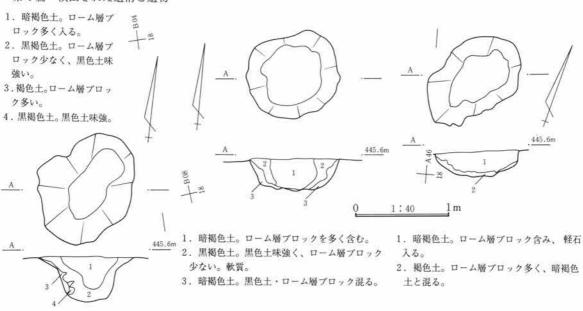


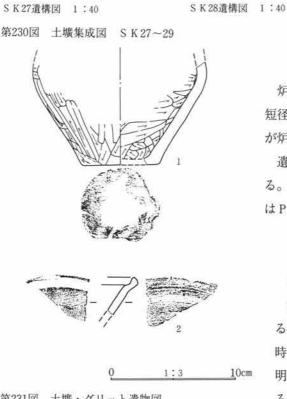


- 1. 暗褐色土。ローム層ブロックをわ ずか含み、全体に黒色土味強い。や や軟らか。
- 2. 暗褐色土。ローム層ブロックが入 らず、黒色土味強い。全体的にやや 軟らか。
- 3. 褐色土。ローム層ブロック多く入 るため褐色土味強い。全体的にやや 粘性あり。



第4篇 検出された遺構と遺物





第231図 土壙・グリット遺物図

炉 炉跡はP1、P4の間にあり規模は長径68cm、 短径36cm、深さ10cmを測る。炉全体は焼土化している が炉石材の残存はない。

S K 29遺構図 1:40

遺物 床面出土の個体に、1・2・4・5・6があ る。3は埋土からの出土である。写真照合の結果、1 はP4の埋土出土でそのほかは床面出土である。

+ 塘

SK

鎌倉遺跡では全体で約50基の土壙が調査されてい る。そのうちSK1~3については調査時点で弥生 時代と判断されておりSK4~29について年代観は 明瞭でなくそれを除き12~30A34~49の間に位置す る19基について調査前に存在したリンゴ園のリンゴ 植穴(第200図トーンの個所)との所見を得ている。

さく遺構

全体で8群のさく状遺構が検出されている。各群はそれぞれ数条以上の単位と等間隔に近い規則性をもち、 その平面観は畑のさく単位のあり方と同様であるため各群とも畑作に伴なうさく痕と見なされる。出土遺物 については遺構検出の際、遺構としての扱いを受けていなかったので取り上げられなかった。また整理作業 時においても古代以降・中・近世の遺物はなく、さく遺構がどの時代に属すのか明確でない。当地域におい ては18世紀以降に近世陶磁器の多用段階があり、それと同時に畑中にも多くの陶磁器片の出土を見ている。

そのため検出された8群の遺構について調査担当者の言うつい最近の耕作の跡とする所見も再考の余地を残 している。

A群

A群は $10\sim19$ A $29\sim37$ までの間に大小合せて 9 条の溝からなり、長い溝で14 m を測る。重複は後のリンゴ苗木植穴が溝を切っているため現リンゴ園よりも先行して溝がある。現在の耕作地地境との関連では第232 図のとうり A 群の中ほどに地境がある。さらに地境の方向性も現地境が N 4 ° E を指すのに対し A 群の最長溝は N 3 ° W を測ることができ方向性は異なっている。そのため A 群は現耕地区画とは別の所産と考えられる。

B群

B群は $32\sim36\,A\,32\sim41$ にあり、西半が未調査地に入る。溝は $3+2\alpha$ 条からなり、最長の溝は長さ $19.2\,m$ を測る。重複遺構はない。現耕作地境との関係は東側に現農道がわずかに重なり、また方向性は西側の現地境と農道とも異なる $N\,6\,^{\circ}E$ を測るので現耕地区画とは別の所産と考えられる。8群の中で最長の南北走行の溝はこのB群の中にあり、ある程度長い畑地区画が想定される。またB群 3条の北縁は $N\,38\,^{\circ}E$ を指し、C群の南縁走行と近似の方向性にあるB群とC群とが共通した時代の所産にあり、両群との間の巾約 $6\sim7\,m$ 空間は道または空地であったとも考えることができる。

C群

C群は28~35 A 45~ B 00にあり、大小合せて 5 条の溝からなる。長い溝で9.7 m を測る。 C 群は最長の溝の 南端に東西方向の溝が重なりさらに北側にも東西溝があるため、2 群が重なっているかも知れない。最長の溝 はN 8°Wを測る。現地境との関連は現農道が C 群の上に乗るため C 群が先行して存在したと考えられる。

D群

D群は12~18 B 14~18にあり、3条の溝からなり、東方は未調査地に入る。北側と南側に方向性の異なる 小溝があるが D 群との関連性は薄いであろう。長い溝で6.5 mを測る。現耕作地境との関連は現地境が重複 するため直接の関連性はないと考えられる。しかし現地境が N 4°Wで D 群も N 4°Wでほぼ同じ方向にある。

E群

E群は20~24 B 15~18にあり、4条の溝からなり長い溝で8.3 mを測る。現地境との関連は直接重複する地境はないが南側地境とE群とは方向性が異なり、異次元の所産であることがわかる。方向性はN80°Eを測る。

F群

F群は23~31 B 12~27にあり、大小8条の溝からなり長い溝で14mを測る。現地境との関連は東端側に現地境が重複するため異なった次元の所産であることがわかる。方向性はN80°Eを測りE群・G群の方向性とほぼ一致する。全体単位を測ると東西14m、南北29.8mを測り、それは約50尺、100尺に相当する。

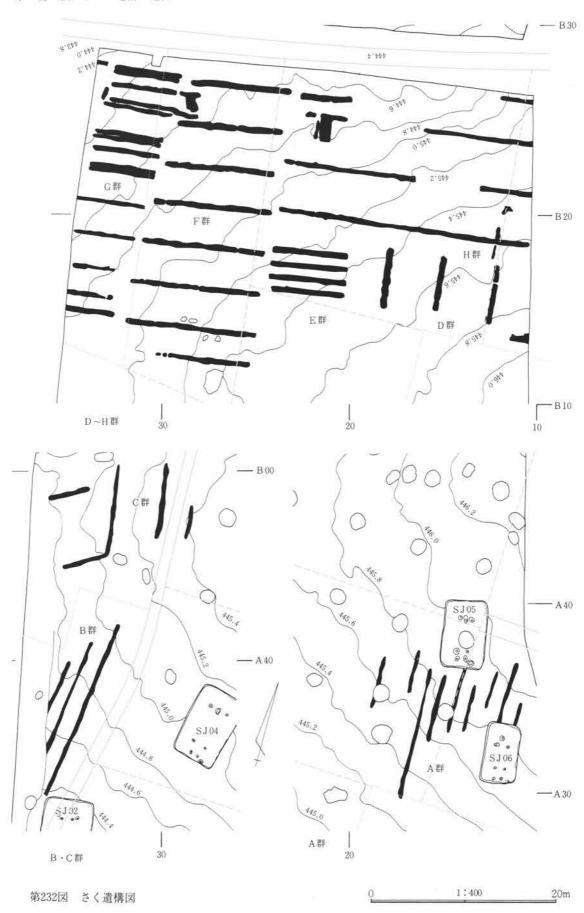
G群

G群は29~35 B 14~27にある。G群は北側に2条の溝が重複して存在するため2群の重複が考えられる。 重複していても溝の長さはほぼ共通するため相互の年代的なひらきは少ないと考えられる。現地境との重複 は東側で重なり異なる次元の所産であることがわかる。方向性はN 80°Eを測る。またG群全体の単位を測 ると東西7.4m、南北26.5mを測り、それは約25尺、90尺に相当する。

H群

H群は $10\sim24\,B\,18\sim26$ にある。H群は間に溝のない箇所を置くため2群の重複が考えられる。南端の溝の長さは $26.8\,m$ を測る。現地境との重複は東端で現地境と重複し、異なる次元の所産であることがわかる。H群の方向性は $N\,84^\circ$ Eを測り $E\cdot F\cdot G$ 群とやや方向性を異にする。

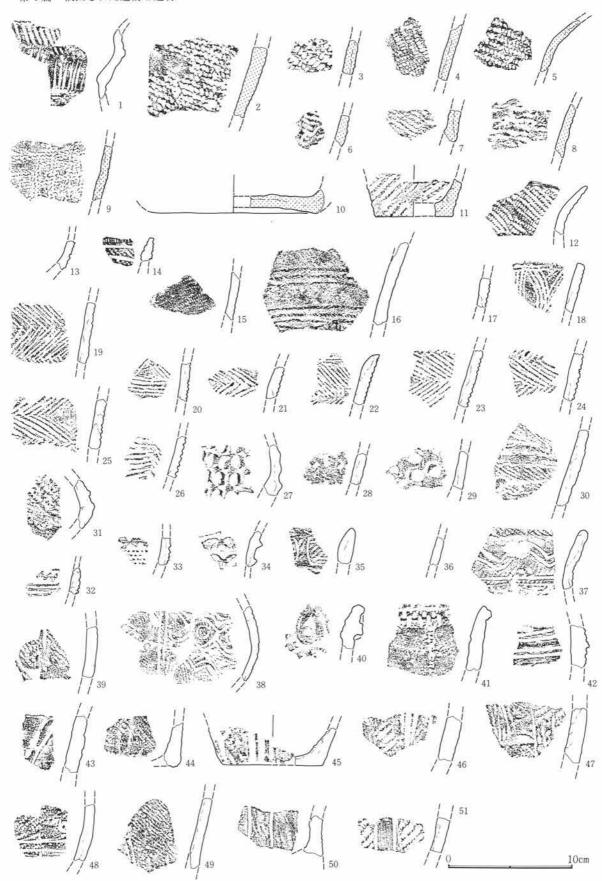
第4篇 検出された遺構と遺物



縄文土器

鎌倉遺跡の縄文時代の遺物はすべて破片資料で、出土量は233図に図化掲載した資料の2倍程度である。 時期は早期から中期までみられるが、前期の遺物が主体を占めている。以下に概略を述べると、1は内外に 「く」状の屈曲をもつ器形で、斜方向及び縦方向の平行沈線を施している。いわゆる早期沈線文系土器であ る。2~11は、胎土中に繊維を含むもので、2~4・6・7は縄文RLを横位施文しており、5は結節の縄 文RLを横位施文している。8は条が波状になっており、付加条である可能性が強い。9は網目状の文様が 施文されているが、交差する節が双方共明瞭であり付加条とは考えられず、絡条体Lを異方向から2回施文 したものと思われる。9・10は底部で、9は上底状を呈し、10は縄文LRを横位施文している。これらは黒 浜式と考えられる。12~15は胎土に繊維を含まず縄文を地文するもので、12は外反する口縁部で縄文RLを 横位施文し、13・14は縄文RL施文後、沈線を横位施文し、15は縄文RLを横位施文している。これらは諸 磯a式と考えられる。16は器面の摩滅が激しいが付線文を数段施しており、諸磯b式である。17~26も胎土 に繊維を含まず、器面を条線状の沈線で矢羽根状の文様を施すものであるが、施文具が17~19が櫛状と考え られるのに対し、20~26は半截竹管の腹面を使用したものと考えられ、違いが明瞭である。17~19は諸磯c 式、20~26は十三菩提式であろうか。27~29は爪先で押圧したような文様を特徴とするものである。この文 様は浮島式や諸磯式にも例があるが、ここでは興津式の範疇で捉えておきたい。30は結節の縄文RLを数段 施し、一部に細い粘土紐を鋸状に貼付しており、大木5式と考えられる。31は屈曲する胴部で、半截竹管の 腹面を使用した結節付線文を斜方向に施している。32は半截竹管の腹面で施したと考えられる平行沈線と、 三角陰刻文を上下に施して鋸歯状とした文様で構成されている。33は結節付線文と三角陰刻文の両方を施す ものであり、31~33は十三菩提式と考えられる。34は粘土紐を横位に貼付し、指先で押圧を施している。35 は口縁部で内面に肥厚がみられ、器面は縄文RL施文後細い沈線で文様施文している。36は非常に硬質に焼 成され、器面を研磨後半截竹管の背面使用の沈線及び平行して端部の刺突を施している。37は「く」状に屈 曲する口縁部で口唇部は平坦で焼成は36同様堅緻であり、文様は縄文RL施文後半截竹管の背面で口縁部に/ 波状沈線、頸部に平行沈線を施文し、さらに端部で刺突を施している。縄文は口縁部上端にも施されるのが 特徴である。38は縄文RL縦位施文後半截竹管の背面を使用した結節沈線で渦巻文を施しており、この渦巻 文の周囲に三角陰刻文がみられる。これらは胎土・焼成から34・35は前期的な、36~38は中期的な感じを受 け、文様の点からも中間的な様相を窺えることから十三菩提式と五領ヶ台式の間に位置するものと思われる。 39は地文施文後結節沈線で文様施文しており、三角陰刻文がみられ胎土の感じが中期的であることから五 領ヶ台式と考えられる。40は口縁部の突起で三叉文がみられ、勝坂Ⅰ式と考えられる。41は口縁部に沿って 竹管で交互に押圧を施した隆帯を廻らし、結節沈線で文様施文している。また、結節沈線は内面にも一帯施 されている。胎土中に雲母はみられないが阿玉台 [a 式と思われる。42・43は隆帯に沿って42が結節沈線、 43が沈線を施したもので、阿玉台Ⅱ式である。44は器面に隆帯を垂下後縄文L.Rを隆帯上にも縦位施文し ている。最終末の阿玉台式からみられる技法である。45~50は縄文RL施文後平行沈線を垂下するもので、 加曽利 E 2 式である。51は平行沈線垂下後縄文 R L を充塡施文しており、加曽利 E 3 式である。

以上のように前期後半から中期前半にかけてはほぼ連続した遺物が検出されている。(桜岡正信)



第233図 縄文土器図

第1章 師遺跡

師 SJ01~SJ20

図番号写真番号	種 器 形	位 置	量 目(cm) 口径・器高・底径 残 存 状 態	胎土·焼	成・色調と摘要	備考
8 -1 写11-1	土師器 坏	S J 01 床面	口径 11.3 口縁一部欠損	夾雑物多。並。にぶい黄 橙。	体部外面篦削後撫。底部に凹み、内面に は放射状研磨あり。	
8 - 2 写11-2	土師器 坏	S J 01 埋土	口径 11.8 口縁一部欠損	夾雑物多。軟。にぶい橙。	口緑部内・外面に横撫あり。体部外面から底部は篦削後撫。内面カセあり。	
8 — 3 ≨11— 3	土師器	S J 01 埋土	口径 12.2 ½欠損	夾雑物含。並。明褐。	体部内・外面篦削後撫。底部外面は篦削。	
8 - 4 写11- 4	土師器	S J 01 床面	口径 (13.3) 火欠損	夾雑物多。軟。橙。	口縁部内面に紐作痕。体部内・外面には 指撫。底部外面は篦削。	穿孔一穴。
8 - 5 写11-5	土師器 高 坏	S J 01 床面	口径 15.8 脚・口縁端一部欠	夾雑物多。軟。橙。	体部外面篦削後撫。内面は丁寧な撫。坏 底部内・外面に接合痕がある。	
8 — 6 写11— 6	土師器	S J 01 床面	口径 16.7 脚欠損	夾雑物含。軟。橙。	外面上方と内面丁寧な撫あり。外面下方 に篦削による調整痕と接合痕がある。	
8 - 7 写11-7	土師器 高 坏	S J 01 床面	口径 16.4 脚端·口端一部欠	夾雑物多。軟。橙。	外面篦削後撫と紐作痕。 坏部内面は篦撫。 脚部内面内は粘土絞痕。全体物にカセ荒 れている。	
8 — 8 写11— 8	土師器 高 坏	S J 01 床面	口径 16.8 脚端・口端一部欠	夾雑物徵。並。橙。	口縁部内・外面横撫。外面篦削後篦撫。 坏部内面刷毛目・脚部内面は指による撫 あり。	胎土B。
10 - 1 写39-2	鉄製品 鏃	S J 02 埋土	最大幅 4.5 11.5 g	平の中央に一孔あり、茎部 著な研出であったとは思え	那は調査後の欠損。側部の稜部は甘く、顕 えない。	
10 - 2 写39-3	石製品 砥 石	S J 02 埋土	最大幅 7.65 196.6 g	裏面と上半を欠く。四半り し傷あり。	R品で、割口は旧時である。表面に刃なら	流紋岩。
10 - 3 写11-3	土師器 ・	S J 02 埋土	口径 12.0 口縁一部欠損	夾雑物多。並。明赤褐。	口縁部外面横撫。体部内・外面は篦撫。 底部外面篦削。	
10 -4	土師器	S J 02 埋土	口径 (11.2) %欠損	夾雑物多。並。橙。	口縁部外面横撫。体部内・外面は撫。底 部外面篦削。	胎土B。
0 - 5 ≨11- 5	土師器 坏	S J 02 貯蔵穴	口径 13.8 ¼欠損	夾雑物含。並。橙。	口縁部外面横撫。体部外面撫、内面放射 状研磨が施され、底部外面は篦削。	外面燻。 胎土B。
11 — 6 写11— 6	土師器小形甕	S J 02 埋土	口径 (17.2) %欠損	夾雑物含。並。にぶい黄 橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面篦削後篦 撫。内面には篦削がある。	内・外面燻。
0 - 7 ≨11-7	土師器	S J 02 貯蔵穴	口径 17.2 体部以下欠損	夾雑物含。並。橙。	口縁部内・外面横撫後頸部篦撫を施す。 頸部に接合痕あり。	

図 番 号 写真番号	種器 形	出土位置	量 目(cm) 口径·器高·底径 残 存 状 態	胎土·焼	成・色調と摘要	備考
10 - 8 写11-8	土師器	S J 02 貯蔵穴	口径 18.2 体部以下欠損	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面横撫後頸部に篦撫を施 す。頸部接合痕あり。	
11 — 9 写11— 9	土師器 高 坏	S J 02 床面	口径 16.0 另欠損	夾雑物含。軟。橙。	内・外面の全体がカセているため篦整形 が不明瞭である。脚部内面は指撫。	
1 -10 ≨11-10	土師器飯	S J 02 埋土	口径 (26.8) ½欠損	夾雑物多。並。明黄褐。	口縁部内・外面横撫。体部内・外面篦削 と篦撫がある。底部内・外面篦削。	穿孔一穴。
3 - 1 ≨40-9	土師質 粘度塊	S J 03 埋土	長6.5 厚2.8 完形	夾雑物多。並。にぶい橙。	手捏ねた粘度塊で、図断面左側に薄いす き間があり、小形粗整土師器を作る際に 押しつぶした物か。表面に指圧痕あり。	
3 - 2 ≨40-2	土師器 坏	S J 03 埋土	口径 (3.3) %欠損	夾雑物多。軟。橙。	小形粗整土師器。体部外面に粘土塊を板にし、それを成形する際に生じた捏合目 痕。口縁部内・外に横撫あり。	
3 - 3 \$40-4	土師器	S J 03 埋土	口径 8.4 口縁一部欠損	夾雑物多。軟。にぶい橙。	小形粗製土師器。底部に穿穴一あり。口 緑部の先端はやや尖る。	
3 - 4 ≨40-7	土師器	S J 03 床面	器高 5.0 口縁一部欠損	夾雑物多。並。浅黄橙。	小形粗製土師器。体部の内・外面に紐作 痕あり。体部外面に篦撫あり。	
3 - 5 写40-10	土師器匙	S J 03 床面	長口 9.1 口縁小欠あり	夾雑物多。並。浅黄橙。	小形粗製土師器。全面に指頭圧痕あり。 全体の成形は丁寧である。	
13 - 6 写41-8	土師質 不 明	S J 03 床面	残存長 8.7 5以上欠損	夾雑物含。並。橙。	用途不明の土製品で、わずか被熱されて いる。全面に荒い撫あり。割は旧時であ る。	
13 - 7 ≨40 - 5	土師質 支 脚		最大径 5.2 大欠損	夾雑物多。並。にぶい黄 橙。	竈用の土製支脚で、部分的に製作時の襞 あり(乾燥時のヨレ)。被熱。欠損部は旧 時。	
3 - 8 ≨40-3	土師質 支 脚	S J 03 埋土	最大径 7.0 大欠損	夾雑物多。並。橙。	端部に指頭圧痕あり。その上方にヨレの 襞あり。被熱。欠損は旧時。全体に滑ら かである。	
13 - 9 写40- 2	土師質 支 脚	S J 03 埋土	残存高 (8.0) 脚端・上部欠損	夾雑物多。軟。黄橙。	高坏の脚部の転用。内面に紐作痕と指頭 圧痕あり。全体的に被熱を受けるが羽口 の様に高熱ではない。旧時欠損。	
13 -10	須恵器	S J 03 埋土	最大径 (15.5) 体部片	夾雑物含。硬。暗灰。	大形短顎壺の体部片で、内面に浅い轆轤 目あり。外面は撫。後代の台付短頸壺で はなく、古墳時代の器形。	
14 −11 写12−11	土師器	S J 03 埋土	口径 10.3 口縁部一部欠損	夾雑物多。並。黒褐。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面に 篦削があり、内面に撫と篦当痕。口縁部 内面に浅い稜あり。	内・外面に燻。
4 -12 手12-12	土師器 坏	S J 03 竈・埋	口径 (12.0) %欠損	夾雑物多。並。にぶい黄 橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面に 篦削あり、内面に篦研磨がある。	黒色処理。
4 -13 5 2- 13	土師器	S J 03 床面	口径 12.2 口縁部½欠損	夾雑物多。並。にぶい橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面に 篦削あり、内面に篦研磨がある。	黑色処理。 外面黒斑。

図番号 写真番号	種器 形	出土位置	量 目(cm) 口径・器高・底径 残 存 状 態	胎 土 • 焼	成・色調と摘要	備考
14 -14 写12-14	土師器 坏	S J 03 床面	口径 12.2 口縁部一部欠損	夾雑物多。並。にぶい橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面に 篦削あり、内面に撫あり。	内・外面に燻。
14 -15 写12-15	土師器 坏	S J 03 床面	口径 12.2 口縁部一部欠損	夾雑物多。並。にぶい橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面に 篦削あり、内面に篦研磨あり。	内・外面に燻。
14 -16 写12-16	土師器	S J 03 床面	口径 12.4 口縁部一部欠損	夾雑物多。軟。黒褐。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面に 篦削あり、内面わずかに研磨あり 。	外面黑斑。内面燻。
14 -17 写12-17	土師器 坏	S J 03 床面	口径 12.8 口縁部一部欠損	夾雑物多。並。浅黄橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面篦 削。内面に篦削研磨あり。	内面黑色処理。 底部外面黒斑。
14 -18 写12-18	土師器 坏	S J 03 床面	口径 13.0 口縁部一部欠損	夾雑物多。並。浅黄橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面篦 削と凍ハゼ。内面篦研磨あり。	内面黑色処理。
14 -19 写12-19	土師器	S J 03 床面	口径 13.8 口縁部一部欠損	夾雑物多。軟。浅黄橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面篦 削。内面に篦による撫あり。	
14 -20 写12-20	土師器	S J 03 床面	口径 13.8 口縁部½欠損	夾雑物多。並。にぶい黄 橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面篦 削、内面篦撫あり。	内面黑色処理。外面燻。
14 -21 写12-21	土師器 坏	S J 03 床面	口径 14.2 口縁部5欠損	夾雑物多。並。浅黄橙。	口縁部外面横撫、内面篦研磨あり。体部 外面篦削が施されている。	内面黑色処理。外面燻。
14 -22 写12-22	土師器 坏	S J 03 埋・床	口径 14.8 口縁部½欠損	夾雑物多。並。浅黄橙。	口縁部外面横撫、内面篦削後横撫。体部 外面篦削、内面に篦研磨あり。	内面黑色処理。 外面黒斑。
14 -23 写12-23	土師器 坏	S J 03 床面	口径 14.5 口縁部¼欠損	夾雑物多。並。にぶい黄 橙。	口縁部内・外面横撫・外面に紐作痕あ り。体部外面篦削、内面篦撫と篦当痕。	内・外面燻。
14 -24 写12-24	土師器	S J 03 床面	口径 14.5 完器	夾雑物多。並。にぶい黄 橙。	口縁部内・外面横撫・外面に紐作痕。体 部外面篦削、内面篦当と篦撫あり。	内·外面燻。
14 -25 写12-25	土師器 坏	S J 03 埋・床	口径 11.5 完器	夾雑物多。並。にぶい黄 橙。	口縁部外面横撫、内面篦研磨。体部外面 篦削、内面に丁寧な篦研磨あり。	内面黑色処理。
14 -26 写12-26	土師器 坏	S J 03 床面	口径 12.0 完器	夾雜物多。並。浅黄橙。	口縁部外面横撫、内面篦研磨。体部外面 篦削、内面に丁寧な篦研磨がある。	内面黑色処理。平底。
14 -27 写12-27	土師器 高 坏	S J 03 床面	脚端 11.2 脚端一部・坏部欠	夾雑物多。軟。橙。	外面篦削後横撫。頭部接合痕。内面篦削 後篦調整を施し脚端部に横撫あり。	
14 -28 写12-28	土師器 小形甕	S J 03 埋・床	口径 12.5 体部一部欠損	夾雑物多。軟。橙。	口縁部内・外面横撫。体部内・外面篦削 後撫。外面に紐作痕が見える。	内・外面燻。
14 -29 写12-29	土師器鉢	S J 03 床面	口径 18.0 完器	夾雑物多。並。浅黄橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面篦削後撫、 内面に接合・篦当・刷毛目痕あり。	平底木葉痕。外面燻。
14 -30 写12-30	土師器鉢	S J 03 床面	口径 20.0 口縁部½欠損	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面篦削、内 面に篦撫と篦当痕がある。	内・外面燻。平底。
14 -31 写12-31	土師器	S J 03 床面	口径 21.5 胴部一部欠損	夾雑物多。軟。浅黄橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面篦削後撫、 内面丁寧な撫。底面に篦削あり。	体部燻。平底。
15 -32 写12-32	土師器	S J 03 床面	口径 9.3 口縁部½欠損	夾雑物多。硬。浅黄橙。	口縁部外面横撫、体部内・外面に篦研磨。 底面は手持ち篦削がある。平底。	内面黑色処理。 内·外面燻。

図 番 号 写真番号	種器 形	出土位置	量 目(cm) 口径・器高・底径 残 存 状 態	胎土,類	成・色調と摘要	備考
15 -33 写13-33	土師器 小形甕	S J 03 床面	口径 13.4 体部一部欠損	夾雑物多。硬。橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面篦削後撫、 内面に紐作痕と篦当痕と篦削あり。	平底木葉痕。
15 -34 写13-34	土師器 小形甕	S J 03 床面	口径 13.6 口縁部一部欠損	夾雑物多。硬。にぶい橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面篦削後 丁寧な撫と紐作痕が明瞭である。	内・外面燻。平底で凹。
15 -35 写13-35	土師器 小形甕	S J 03 床面	器高 14.2 口縁部努欠損	夾雑物多。硬。浅黄橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面縦横方向 の篦削、内面篦削後撫、紐作痕あり。	底部黒斑と平底。
15 -36 写13-36	土師器	S J 03 埋土	器高 11.7 体部½欠損	夾雑物含。並。にぶい橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面篦削後撫、 内面篦当痕と紐作痕が明瞭。	内·外面燻。穿孔 一穴。
15 —37 写13—37	土師器	S J 03 床面	口径 20.5 完器	夾雑物含。並。橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面篦削、内 面篦削、篦当痕と紐作痕がある。	底部黑斑。穿孔一穴。
15 -38 写13-38	土師器	S J 03 床面	口径 24.0 口縁%欠損	夾雑物多。並。浅黄橙。	口級部内・外面横撫。体部外面篦削、内 面は丁寧に棒状様工具で研磨あり。	内·外面燻。飯穴 一。
15 -39 写13-39	土師器 壺	S J 03 確	底径 6.2 体部下半以上欠損	夾雑物多。並。にぶい。 橙。	体部外面篦削後丁寧な撫、内面篦削、篦 当痕、紐作痕が明瞭に残っている。	内·外面燻。平底。
16 -40 写13-40	土師器飯	S J 03 床面	口径 22.3 口縁部½欠損	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面紐作痕明 瞭、内面丁寧な撫後棒状工具で研磨。	外面煤付着。 甑穴一。
16 -41 写14-41	土師器	S J 03 床面	口径 28.8 口縁部一部欠損	夾雑物多。並。浅黄橙。	口緑部内・外面横撫。体部外面紐作痕明	外面煤付着、黑斑。
16 -42 写14-42	土師器 長 甕	S J 03 床面	口径 17.8 口縁一部、底部欠	夾雑物多。並。にぶい橙。	口縁部内·外面横撫。体部外面撫後刷毛 撫、紐作痕。底部内面篦削明瞭。	外面黑斑。
17 —43 写15—43	土師器 長 蹇	S J 03 床面	口径 19.3 口縁・胴部一部欠	夾雑物。並。淡橙。	口縁部内・外面横撫。外面紐作痕、刷毛 調整、第当痕。内面接合痕あり。	内·外面燻。 外面黑斑。
17 -44 写13-44	土師器	S J 03 床面	口径 18.6 口縁部½欠損	夾雑物含。並。浅橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面篦削、下 部に凍ハゼ。内面刷毛調製、篦削。	外面燻。平底。
17 -45 写14-45	土師器	S J 03 床面	口径 20.2 完器	夾雑物含。並。浅黄橙。	口縁部外面横撫、内面紐作痕。体部内・ 外面丁寧な撫と篦当痕あり。	外面煤付着。平底 木葉痕。
18 -46 写15-46	土師器	S J 03 床面	口径 22.0 完器	夾雑物含。並。にぶい橙。	口縁内・外面横撫。体部外面紐作痕。内 面丁寧な撫。底部篦削。平底。	体部外面煤付着。 内・外面燻。
18 -47 写14-47	土師器 短頸甕	S J 03 床面	口径 15.7 完器	夾雑物含。並。にぶい橙。	口縁部外面指おさえ後撫、頸部内面紐作 痕。体部外面削後撫、内面指撫明瞭。	体部外面煤付着。 丸底ぎみ。
18 -48 写15-48	土師器 長 甕	S J 03 床面	最大径 23.0 口縁部ほとんど欠	夾雑物含。並。にぶい橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面削後撫内 面凍ハゼ。紐作痕。底部削。	丸底ぎみ。
20 - 1 写15-1	土師器 坏	S J 04 埋土	口径 12.0 完器	夾雑物多。並。浅黄橙。	口縁部外面に横撫あり。体部外面に篦削、 体部内面に篦研磨がある。	黒色処理。外面黒 斑。
20 - 2 写15-2	土師器 坏	S J 04 床面	口径 13.5 口縁一部欠損	夾雜物多。並。浅黄橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に篦撫、 下方に指頭圧痕。内面に篦研磨。	黒色処理。平底。
21 - 3 写15-3	土師器	S J 04 埋土	口径 (17.6) 努欠損	夾雑物含。並。浅黄橙。	口縁部外面、脚部下方に横撫。坏部外面 に篦削。内面に篦研磨と篦撫がある。	黑色処理。

図 番 号 写真番号	種器 形	出土位置	量 目(cm) 口径・器高・底径 残 存 状 態	胎土·焼	成・色調と摘要	備 考
21 - 4	土師器	S J 04 籤	口径 (25.5) 口縁部片	夾雑物含。並。にぶい橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面と 内面に撫がある。	
21 - 5 写15-5	土師器	S J 04 埋土	口径 (20.7) 口縁~体部片	夾雑物多。並。橙。	体部外面に篦撫あり。口縁部内面には横 撫、体部には篦当痕がある。	
21 - 6 写15-6	土師器	S J 04 床面	口径 (17.8) 口縁部片	夾雑物多。並。にぶい橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面に 篦撫あり。	
21 - 7 写15-7	土師器	S J 04 埋土	口径 (25.5) 口縁部片	夾雑物含。並。にぶい橙。	口縁部内・外面に接合痕と篦削が見られる。	内面燻。
23 - 1	土師器	S J 05 埋土	体部片	夾雑物徵。並。橙。	体部内・外面に撫が見られる。口縁部端 旧時欠損。	
23 – 2	土師器	S J 05 埋土	口径 (11.0) 口縁部片	夾雑物徵。並。橙。	体部内面に粘土紐作痕が、外面に撫がある。	
23 – 3	土師器鉢	S J 05 埋土	残存高 6.0 体部片	夾雑物含。並。橙。	体部外面に撫あり。体部内面に紐作痕あ り。	
23 - 4 写15-4	土師器 高 坏	S J 05 爸	口径 19.6 %欠損	夾雑物多。並。橙。	外面に横撫・紐作・篦削。内面に横撫・ 放射状研磨。脚内面に紐作・篦削。	
23 - 5 写15-5	土師器	S J 05 床面	器高 17.3 口縁部另欠損	夾雑物含。並。橙。	口縁部〜脚部外面に篦研磨あり。口縁部 内面に篦研磨・脚部に巻上痕あり。	黒色処理が二次的に赤変。
23 - 6 写16-6	土師器	S J 05 床面	器高 25.8 口縁½欠損	夾雑物徽。硬。灰赤。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面篦 撫あり。体部内に篦撫・篦当あり。	外面黑斑。内面燻。平底。
24 - 7 写16-7	土師器	S J 05 床面	器高 32.4 口縁~体上%欠損	夾雑物多。並。にぶい橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面篦 撫・篦削あり。体部内面紐作痕あり。	内・外面燻。平底。
26 -1	土師器 小形甕	S J 07 埋土	口径 (15.2) 口縁部片	夾雑物多。並。にぶい黄 橙。	口縁部外面に横撫あり。体部内・外面に 撫が見られる。	外面燻。
26 – 2	土師器 小形甕	S J 07 埋土	口径 (13.8) 口縁部片	夾雑物含。並。浅黄橙。	口縁部外面に横撫あり。体部内面に撫が 見られる。1とは別個体。	
26 - 3	土師器	S J 07 埋土	体部片	夾雑物徴。並。にぶい黄 橙。	体部外面に刷毛状工具による刷毛目があ る。	
28 - 1 写16-1	土師器 - 城	S J 08 床面	口径 10.9 完器	夾雜物含。並。橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面上方に 東ハゼが下方に篦削、内面に篦研磨。	外面黒斑。 胎土B。
28 - 2 写16-2	土師器 坏	S J 08 埋土	口径 16.0 口縁另欠損	夾雑物多。軟。浅黄橙。	口縁部外面に横撫。体部外面に篦削、内 面に篦撫後篦研磨あり。	黑色処理。
28 - 3 写16-3	土師器	S J 08 床面	脚端径 14.6 坏・脚端部分欠損	夾雜物多。軟。浅黄橙。	脚端部内・外面に横撫。脚部外面下方に 指頭圧痕、内面に篦撫と紐作痕。	
28 - 4 写16-4	土師器	S J 08 床面	残存高 13.9 坏·脚端部欠損	夾雑物多。軟。橙。	脚部外面摩耗しているため篦整形不明 瞭。内面篦削後篦撫。	黒色処理。
28 - 5 写16-5	土師器短頸甕	S J 08 貯蔵穴	最大径 (17.9) 口縁・体部一部欠	夾雑物多。並。浅黄橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面に篦削後 篦撫。凍ハゼ。内面に篦撫、篦当痕。	平底。

図番号 写真番号	種 器 形	出土位置	量 目(cm) 口径・器高・底径 残 存 状態	胎土·焼	成・色調と摘要	備考
28 - 6 写16-6	土師器	S J 08 床面	最大径 (25.5) 口縁と体部55欠損	夾雑物含。並。にぶい黄 橙。	体部外面に篦撫後研磨、篦当痕あり。内 面に篦撫と篦当痕が頸部に紐作痕。	外面燻。平底。
30 - 1 写16-1	土師器 坏	S J 09 床面	口径 13.1 口縁端部欠損	夾雑物徵。並。明褐。	口緑部内・外面横撫。外面篦削。内面篦 撫後篦研磨を施す。	胎土B。
30 - 2 写16-2	土師器	S J 09 床面	口径 12.1 口縁光欠損	夾雑物徴。並。にぶい黄 橙。	口級部内・外面横撫。外面上方粘土合目 痕。下方篦削。内面篦撫。	平底木葉痕。
30 - 3 写16-3	土師器 埦	S J 09 床面	口径 12.8 底・口端一部欠損	夾雑物含。並。明赤褐。	外面口縁下地に目刷毛整形。体部内・外 面撫。粘土合目痕。底部凍ハゼ。	胎土B。
30 − 4 写16− 4	土師器高 坏	S J 09 床面	口径 13.3 脚端・坏½欠損	夾雑物徵。軟。橙。	口緑部内・外面横撫。外面および坏・胸 内面共に篦削。胸・坏部に紐作痕。	胎土B。
30 − 5 写16− 5	土師器高坏か	S J 09 床面	脚端径 10.4 坏部欠損	夾雑物微。軟。橙。	外面および脚内面篦による撫と接合痕が ある。脚部の横撫不明瞭。	胎土B。
30 - 6 写16- 6	土師器 短頭壺	S J 09 床面	口径 10,4 完器	夾雑物含。並。浅黄橙。	口縁部内・外面横撫。体部内・外面撫。 底部外面篦削。内面刷毛撫。	
30 — 7 写17— 7	土師器 小形甕	S J 09 床面	口径 14.2 口縁一部欠損	夾雑物含。並。にぶい橙。	類部内・外指頭圧痕。体部外面刷毛目。 内面放射状研磨。底部外面篦削。	内面燻。 平底。
30 - 8 写17-8	土師器 小形甕	S J 09 埋土	口径 14.0 分欠損	夾雑物多。並。浅黄橙。	口縁部外面横撫。体部外面篦削刷毛目。 内面撫。底部内・外面は篦削。	平底。
30 — 9 写17— 9	土師器	S J 09 床面	口径 18.0 預部下半欠損	夾雑物含。並。淡黄。	口縁部内・外面横撫後、外面口縁に模様 を意識した刷毛撫あり。内面指頭痕。	
30 −10	土師器	S J 09 床面	口径 18.1 体部上半欠損	夾雑物含。並。にぶい黄 橙。	口縁部内,外面横撫後、体部外面に刷毛 撫。内面は篦削がなされる。	
30 -11 写17-11	土師器	S J 09 竈	最大径 28.8 口縁と体部55次損	夾雑物多。並。にぶい黄 橙。	体部外面に篦撫。刷毛状工具による撫。 下方に篦削。内面に篦撫あり。	外面燻。平底。
31 −12	土師器	S J 09 貯・埋	口径 15.0 体部下半欠損	夾雑物含。並。浅黄橙。	口縁部内・外面横撫。体部内・外面篦撫。 内面紐作痕あり。	内・外面燻。
31 −13 写17−13	土師器	S J 09 床面	口径 21.2 体部わずか欠損	夾雑物含。並。浅黄橙。	口緑内・外面横撫。体部外面頸部内面刷 毛目・撫。体部下半内・外面篦削。	外面煤付着。 平底。
31 -14 写18-14	土師器 大 甕	S J 09 床面	口径 23.2 体部下半欠損	夾雑物含。並。浅黄橙。	体部内・外面共に篦削後撫を施すが全体 に肌荒れで整形不明。	外面燻。
32 -15 写18-15	土師器飯	S J 09 埋土	口径 14.6 另欠損	夾雑物含。軟。にぶい黄 橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面上方と内 面は篦削後撫。下方から底部は篦削。	飯穴一。
32 −16 ≨18−16	土師器横瓶形	S J 09 床面	最大径 16.2 %欠損・口縁なし	夾雑物含。並。にぶい黄 橙。	体部外面篦削後撫。内面指整形による掻 落と圧痕あり。外面底部篦削。	
32 −17 ≨18−17	土師器 坩	S J 09 床面	口径 9.2 胴一部欠損	夾雑物徵。並。橙。	口縁部内・外面篦研磨を施す。体部内面 下方篦撫。上方指の整形痕。	胎土B。
2 −18 ≨17−18	土師器	S J 09 竈	口径 22.8 %欠損	夾雑物含。並。浅黄橙。	口綠部外面橫撫後刷毛撫。口綠部內面橫 撫後体部篦撫。底部外面篦削。	内·外面燻。 平底。

図番号写真番号	種器 形	出土位置	量 目(cm) 口径・器高・底径 残 存 状態	胎土・焼	成・色調と摘要	備考
32 -19 写19-19	土師器	S J 09 床面	口径 21.5 另欠損	夾雑物含。並。にぶい橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面刷毛撫。 内面撫後篦研磨。底部外面下方に篦削。	飯穴一。
32 -20 写18-20	土師器	S J 09 埋土	口径 (24.0) 口縁・体部が欠損	夾雑物含。並。灰白。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面篦 削、内面に篦当痕あり。	
34 - 1 写19-1	土師器 高 坏	S J 10	脚端径 12.1 坏部・脚端欠損	夾雑物多。並。橙。	脚部内・外面上方篦削後篦撫による篦当 痕があり。下方は内・外面横撫。	
36 - 1 写41-3	灰釉陶 埦	S J 11 埋土	口径 (15.0) 口縁部片	夾雑物なし。締。淡灰。	体部外面轆轤目あり。内・外面施釉。刷 毛染。	
36 - 2 写41-1	灰釉陶 埦	S J 11 埋土	口縁部片	夾雑物なし。締。淡灰。	内・外面施釉。口縁端部外方に尖る。器 肉調整極めて薄い。	
36 - 3 写41-9	須恵器 瓶	S J 11 埋土	体部片	夾雑物徵。締。暗灰褐。	内・外面に轆轤目あり。外面上方に自然 釉付着。	県外からの搬入製 品か。
36 - 4 写19-4	須恵器 坏	S J 11 床面	口径 13.3 ½欠損	夾雑物多。軟。にぶい橙。	内・外面摩耗しているため整形不明瞭。 底面不定方向の篦調整。	
36 - 5 写19-5	須恵器 埦	S J 11 床面	口径 (14.5) ½欠損	夾雑物多。軟。橙。	体部内・外面摩耗。外面に弱い轆轤目あ り。底部篦調整。付高台。	
36 - 6 写19-6	須恵器 埦	SJ11 貯蔵穴	口径 15.7 体部%欠損	夾雑物多。並。にぶい黄 橙。	体部外面に轆轤目あり。内面摩耗している。底部回転糸切。右回転。付高台。	燻。
36 - 7 写19- 7	須恵器 羽 釜	S J 11 竈	最大径 (19.4) 体部片	夾雑物多。並。にぶい橙。	体部外面に篦削あり。鍔は貼付。内面に 紐作痕あり。	燻。
38 - 1 写19-1	土師器	S J 12 床面	口径 13.2 口縁部一部欠損	夾雑物多。並。黄橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面に 篦削あり。体部内面に研磨あり。	黑色処理。
38 - 2 写19-2	土師器 坏	S J 12 床面	口径 14.0 %欠損	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面に 篦削あり。	
38 - 3 写20-3	土師器高 坏	S J 12 床面	口径 13.4 脚端部欠損	夾雑物多。並。浅黄橙。	口緑部内・外面に横撫あり。口縁部内面 全体に研磨あり。	黒色処理。
38 - 4 写19-4	土師器 高 坏	S J 12 床面	口径 11.8 脚端部欠損	夾雑物含。並。浅黄橙。	口縁部外面に横撫あり。脚部外面に研磨 あり。脚部内面に接合痕あり。	黑色処理。
38 - 5 写20-5	土師器 小形甕	S J 12 床面	口径 16.0 口縁~頸部欠損	夾雑物多。並。灰白。	体部内・外面に紐作痕あり。体部外面に 弱い篦削痕あり。	体部外面黑斑。平底。
38 - 6 写19-6	上師器 短頸壺	S J 12 床面	口径 (15.5) 另欠損	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面に 篦削痕あり。体部内面に篦当痕あり。	内・外面燻。平底。
38 - 7 写20-7	土師器	S J 12 床面	口径 21.5 体部~底部欠損	夾雑物多。硬。淡橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部内・外 面に篦撫あり。	内・外面燻。
39 - 8 写19-8	土師器	S J 12 床面	口径 20.6 底小欠あり	夾雜物多。並。淡橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面に 篦削後篦撫痕あり。	外面煤付着。
41 - 1 写20-1	土師器 台付賽	S J 13 埋土	脚端径 8.4 另欠損	夾雑物微。並。橙。	体部内・外面に篦撫あり。脚部外面に脚 部の接合痕あり。	

図 番 号 写真番号	種器 形	出土位置	量 目(cm) 口径・器高・底径 残 存 状態	胎 土 · 焼	成・色調と摘要	備考
41 - 2 写20-2	土師器 小形甕	S J 13 床面	口径 (11.0) %欠損	夾雑物含。並。にぶい赤 褐。	口縁部指頭圧痕。体部外面に篦撫と篦傷 および接合痕、内面に篦撫あり。	内面に燻。
41 - 3 写20-3	土師器	S J 13 埋土	口径 16.7 岁欠損	夾雑物含。軟。にぶい橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面に篦削、 内面に篦撫と篦当痕あり。	
41 - 4 写20-4	土師器	S J 13 床面	最大径 24.0 上半欠損	夾雑物含。軟。浅黄橙。	体部内・外面に篦撫と紐作痕あり。底部 篦削後撫あり。	平底。
43 -1	土師器 坏	S J 14 埋土	口径 (13.9) 口縁部片	夾雑物含。並。にぶい橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部上方第 削後撫あり。	
45 - 1 写20-1	土師器 坏	S J 15 奄	口径 (18.3) 另欠損	夾雑物含。軟。にぶい赤 掲。	口緑部外面に横撫あり。体部外面に篦削、 内面に篦撫と篦当痕あり。	内・外面燻。
45 - 2 写20-2	土師器 坏	S J 15 床面	口径 (13.3) ½欠損	夾雑物多。軟。橙。	口緑部内・外面に横撫あり。体部外面篦 削後撫、内面に篦研磨あり。	胎土B。
45 - 3 写40-1	土師質 支 脚	S J 15 埋土	最大径 (6.2)	夾雑物含。並。浅黄橙。	外面は被熱によりカセでいる。内面に紐 作痕と指の圧痕あり。	内面煤。
45 - 4 写20-4	土師器	S J 15 床面	口径 (21.2) 下半欠損	夾雑物含。硬。にぶい橙。	口縁部内・外面横撫あり。体部外面篦削 後篦撫。内面篦撫と篦当痕あり。	内·外面燻。
45 - 5 写20-5	土師器	S J 15 床面	最大径 21.7 体部片	夾雑物含。硬。灰赤。	体部外面上方に篦削後撫、下方に篦削。 体部内面に篦撫と篦当痕及接合痕あり。	外面燻。丸底ぎみ。
47 - 1 写40-8	土師器 小形壺	S J 16 埋土	最大径 (4.6) ½欠損	夾雑物微。並。浅黄橙。	小形粗製土師器で、内・外面に指痕あり。 底面は平底。	
47 - 2 写21-2	土師器	S J 16 床面	口径 (10.8) %欠損	夾雑物含。並。橙。	口縁部外面に横撫あり。外面に篦撫・篦 削痕あり。内面に篦研磨あり。	外面黑斑。
47 - 3 写21-3	土師器	S J 16 床面	口径 13.0 %欠損	夾雑物含。並。橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部内・外 面に篦撫あり。外面に篦当痕あり。	
47 - 4 写21-4	土師器 小形甕	S J 16 床面	口径 12.7 体部55欠損	夾雜物含。並。淡黄橙。	口縁部外面に横撫・篦撫あり。体部外面 に研磨あり。体部内面に篦当痕あり。	外面燻。平底。
47 - 5 写21- 5	土師器 小形甕	S J 16 床面	口径 (15.2) 口縁~体部½欠損	夾雑物含。並。赤橙。	体部外面に刷毛撫・篦調整あり。体部内 面に篦撫・篦当痕あり。	内・外面燻。
47 - 6 写21-6	土師器	S J 16 埋土	残存高 12.3 口縁~体部欠損	夾雑物多。並。灰赤。	底部外面に刷毛撫あり。底部内面に篦 撫・篦当痕あり。	内・外面燻。
48 - 7 写21-7	土師器	S J 16 床面	口径 (17.6) 体~底部欠損	夾雑物含。並。灰赤。	口縁部外面に横撫・刷毛目痕あり。口縁 部内面に篦撫あり。	内・外面燻。
48 - 8 写21-8	土師器	S J 16 埋土	口径 16.0 体~底部欠損	夾雑物含。並。浅黄橙。	口縁~体部外面にかけて刷毛目痕あり。 体部内面に紐作・指頭圧痕あり。	内・外面燻。
48 - 9 写21- 9	土師器	S J 16 床面	口径 (19.7) 口縁½欠損	夾雑物含。並。灰赤。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面刷 毛目痕あり。体部内面篦当痕あり。	内·外面燻。 刷毛日2種。平底。
48 -10 写21-10	土師器	S J 16 床面	残存高 17.8 口~体部欠損	夾雑物含。並。橙。	体部外面に刷毛目・篦磨あり。体部内面 に指頭圧・篦当・接合痕あり。	内·外面燻。 平底。

図 番 号 写真番号	種器 形	出土位置	量 目(cm) 口径・器高・底径 残 存 状態	胎土·焼	成・色調と摘要	備考
48 -11 写21-11	土師器	S J 16 床面	口径 (19.5) 上半¼欠損	夾雑物含。並。淡赤橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面に 刷毛撫あり。底部内面に篦削あり。	内·外面燻。 飯穴一。
50 - 1	須恵器	S J 17 埋土	最大径 8.1 底部片	夾雑物含。硬。暗灰。	底部の粘土板片で大形線の底部片または 小形袋物の底部。内面コテの轆轤目あり。	轆轤左回転。
50 - 2 写40-5	土師器 坏	S J 17 埋土	口径 4.9 口縁一部欠損	夾雑物含。並。にぶい黄 橙。	小形粗製土師器。外面に指圧痕と粘土の ヨレあり。	外面燻。
50 - 3 写22-3	土師器 坏	S J 17 床面	口径 10.8 口縁部一部欠損	夾雑物徵。並。明褐灰。	口縁部内・外面に横撫あり。体部内・外 面に篦削後撫あり。	
50 - 4	土師器 坏	S J 17 埋土	口径 (11.0) %欠損	夾雑物含。並。にぶい橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面に 篦削、内面に撫あり。	内・外面に燻。
50 - 5 写22- 5	土師器 坏	S J 17 埋土	口径 (13.6) 另欠損	夾雑物含。軟。にぶい橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面に 篦調整あり。外面全体カセている。	黑色処理。
50 - 6	土師器 坏	S J 17 埋土	口径 (13.0) 口縁部片	夾雑物含。硬。にぶい黄 橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面篦 削後撫、内面撫あり。	
50 — 7 写22— 7	土師器小形甕	S J 17 埋土	口径 (18.0) 努欠損	夾雑物含。並。淡黄。	口緑部内・外面に横撫あり。体部外面に 篦削と紐作痕があり、内面篦削後篦撫あ り。	内・外面に燻。
50 - 8 写22-8	土師器 台付甕	S J 17 埋土	脚端径 7.8 上半部欠損	夾雑物徴。並。にぶい赤 褐。	体部外面篦削、内面篦削後撫。脚部内・ 外面に横撫、外面凍ハゼあり。	

S J 21~S J 40

図番号写真番号	種器 形	出土位置	量 目(cm) 口径・器高・底径 残 存 状態	胎 土 ・ 焼	成・色調と摘要	備考
53 - 1 写22- 1	須恵器坏	S J 21 埋土	口径 (13.8) ½欠損	夾雑物微。硬。明褐灰。	体部内・外面に轆轤目あり。底部左回転 糸切あり。	
55 — 1 写41— 6	須恵器	S J 22 埋土	体部片	夾雑物含。硬。暗青灰。	取の体部中位の破片で、内面に轆轤目、 外面に列点刺突文あり。さらにその下方 に2条の沈線があり、その間が浅い隆帯 となる。	在地性須惠器。
55 - 2 写22-2	土師器 坏	S J 22 埋土	口径 13.0 另欠損	夾雑物微。軟。橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面下方に 篦削、内面篦撫。全体にカセている。	
55 - 3 写22-3	土師器 坏	S J 22 床面	口径 14.2 口縁一部欠損	夾雑物微。軟。橙。	体部外面に篦削、内面に篦研磨あり。全 体にカセている。	
55 - 4 写22-4	土師器 坏	S J 22 埋土	口径 14.5 另欠損	夾雑物微。軟。にぶい橙。	口緑部内・外面に横撫あり。体部上方粘 土合目痕、下方篦削。内面篦研暦あり。	
55 - 5 写22- 5	土師器	S J 22 奄	最大径 15.6 上半欠損	夾雑物含。並。にぶい橙。	体部外面下方篦削。底部粘土のめくれあ り。内面篦撫と篦当痕あり。	平底。

図番号 写真番号	種器 形	出土位置	量 目(cm) 口径・器高・底径 残 存 状 態	胎土·焼	成・色調と摘要	備考
55 - 6 写22-6	土師器	S J 22 竈	最大径 20.4 上半欠損	夾雑物多。並。にぶい褐。	体部外面下方篦削および篦傷あり。内面 篦撫あり。	
56 - 7 写22-7	土師器	S J 22 床面	口径 22.5 口縁部一部欠損	夾雑物含。並。明灰褐。	口縁部内・外面横撫あり、体部内・外面 篦削後篦撫。内面下方篦削あり。	觝穴一。
58 - 1 写22-1	土師器 坏	S J 23 竈	口径 13.8 另欠損	夾雑物含。並。にぶい橙。	口縁部内・外面横撫あり。体部外面篦削、 内面篦研磨あり。	黑色処理。
58 - 2 写22-2	土師器	S J 23 埋土	口径 13.0 另欠損	夾雑物含。並。にぶい褐。	口縁部内・外面横撫あり。体部外面篦削 があり、内面篦研磨あり。	黒色処理。
58 - 3 写22-3	土師器	S J 23 床面	最大径 29.6 口縁及下半欠損	夾雑物含。並。にぶい褐。	頸部内・外面横撫。体部外面上方撫と紐 作痕、内面篦撫。粘土のめくれあり。	
63 - 1 写23-1	土師器	S J 27 確	口径 11.7 %欠損	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面に 篦削、内面に研磨あり。	燻。
63 - 2 写22-2	土師器	S J 27 廠	口径 15.4 口縁部另欠損	夾雑物含。並。にぶい赤 掲。	口縁部内・外面に横撫、外面に篦傷あり。 体部外面篦撫、内面下方に篦当痕。	平底。
63 - 3 写23-3	土師器	S J 27 確	器高 30.9 口縁から頸部¾欠	夾雑物多。並。にぶい裼。	口縁部内・外面に横撫。体部内・外面に 篦撫と篦傷がある。	木葉痕。 平底。
65 - 1 写23-1	須恵器 坏	S J 28 埋土	口径 (11.7) %欠損	夾雑物含。軟。にぶい黄 橙。	内・外面に轆轤目あり。底部回転糸切。 右回転。	
65 - 2 写23-2	須恵器 坏	S J 28 埋土	口径 13.0 火欠損	夾雑物含。並。灰白。	外面に強い轆轤目、内面に弱い轆轤目あ り。体部内面と底部に凍ハゼあり。	
67 - 1 写23-1	土師器	S J 29 西 P	口径 (19.3) 坏%・脚部欠損	夾雑物含。並。橙。	坏部内・外面に接合痕。坏部外面下方に 篦削、内面上方に粘土めくれ痕あり。	
67 - 2 写23-2	土師器	S J 29 埋土	残存高 11.4 坏·脚端部欠損	夾雑物含。並。にぶい橙。	脚部外面研磨、下方横撫後研磨。内面、 下方篦削、刷毛状工具の撫。紐作痕。	
69 - 1 写23-1	須恵器 蓋	S J 30 埋土	口径 12.6 完器	夾雑物多。並。明オリー ブ灰。	体部外面上方に回転篦削、内面轆轤目あ り。轆轤右回転。	
69 - 2 写23-2	須恵器 蓋	S J 30 埋土	口径 16.2 口縁%欠損	夾雑物含。並。灰。	体部外面上方に回転篦削、内面に不定方向の撫。轆轤右回転。	
69 - 3 写 41 - 試 627	須恵器蓋	S J 30 埋土	口径 17.5 口縁另欠損	夾雑物含。並。灰白。	体部内・外面に轆轤目あり。外面上方に 回転篦削。轆轤左回転。	胎土分析番号627。
69 - 4	須恵器 中形甕	S J 30 埋土	残存高 20.5 口縁・体部另欠損	夾雑物含。軟。にぶい橙。	体部外面平行叩目あり。その後撫。内面 に青海波の当目あり。	
69 - 5 写23-5	土師器 坏	S J 30 埋土	口径 (15.1) 口禄 3· 体部 3 欠	夾雑物含。並。明赤楊。	口縁部内・外面に横撫。体部外面篦削、内面撫。	
69 - 6 写23- 6	土師器	S J 30 床面	口径 13.6 口縁部一部欠損	夾雑物含。並。にぶい褐。	口縁部内・外面に横撫。体部外面粘土捏 合目痕、篦撫と篦削。内面に篦撫。	燻。 平底。
69 - 7 写23-7	土師器坏	S J 30 床面	口径 (16.2) %欠損	夾雑物多。並。にぶい赤 褐。	口縁部内・外面横撫。体部外面篦撫、粘 土捏合目痕。内面摩耗研磨不明瞭。	黒色処理。

図 番 号 写真番号	種器 形	出土位置	量 目(cm) 口径・器高・底径 残 存 状態	胎 土 • 焼	成・色調と摘要	備考
69 - 8 写23-8	土師器高 坏	S J 30 床面	脚端径 11.5 坏・脚端部一部欠	夾雑物多。軟。浅黄橙。	口緑端部内・外面に横撫あり。脚部内・ 外面に篦削あり。	
69 - 9 写23-9	土師器飯	S J 30 埋土	口径 (14.0) %欠損	夾雑物多。軟。明黄褐。	体部外面摩耗しているため整形不明瞭。 内面に篦撫と篦当痕あり。	穿孔一穴。 黒斑。
69 -10 写23-10	土師器 短頭壺	S J 30 床面	口径 (13.2) 3/欠損	夾雑物多。軟。にぶい橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面粘土捏合 目痕あり。内面篦撫。	
69 -11 写23-11	土師器 短頭壺	S J 30 埋土	口径 (14.2) 口縁 3·体部 3 欠	夾雑物多。軟。橙。	体部外面摩耗しているため整形不明瞭。 焼ハゼあり。内面篦撫と篦当痕あり。	
69 -12 写23-12	土師器	S J 30 床面	最大径 20.3 体部上半以上欠損	夾雑物含。軟。にぶい橙。	体部外面篦削、篦傷あり。内面に篦撫、 紐作痕と全体的に凍ハゼあり。	平底。
71 - 1 写40-6	土師質 支 脚	S J 31 埋土	最大径 8.2 大欠損	夾雑物含。並。橙。	外面に指頭圧痕と粘土のヨレあり。 小口面に凹あり。	
71 - 2 写39-4	石製品 砥 石	S J 31 埋土	最大幅 7.7 91.7 g	表・裏面に使用痕あり。 の利用砥。図平面の左側に	関部・小口面に原石面あり。このため自然 に使用の凹あり。	多孔質安山岩。
71 - 3 写24-3	土師器 坏	S J 31 埋土	口径 (13.3) %欠損	夾雑物含。並。にぶい黄 橙。	口縁部内・外面に横振あり。外面に篦 傷・篦削あり。内面に研磨あり。	黒色処理。
71 - 4 写23-4	土師器	S J 31 床面	口径 (14.7) ½欠損	夾雑物含。硬。明褐。	外面に横撫・篦削あり。内面に研磨あり。	黑色処理。
71 - 5 写24-5	土師器	S J 31 竈	残存高 12.0 坏部欠損	夾雑物含。並。淡橙。	脚部外面に箆研磨・横撫あり。脚部内面 に巻上痕あり。脚端部内面篦撫あり。	内面燻。
71 - 6 写24-6	土師器 小形甕	S J 31 床面	器高 (16.7) 口縁另欠損	夾雑物含。並。赤橙。	口縁部内・外面横撫と粘土合目痕あり。 体部内・外面に篦削後篦撫あり。	内·外面燻。 平底。
72 - 7 写24-7	土師器	S J 31 床面	口径 (15.6) 口縁号・体号欠損	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面撫 後に篦調整・指頭圧痕あり。	内·外面燻。
72 - 8 写24-8	土師器	S J 31 床面	器高 34.0 口縁½欠損	夾雑物多。並。淡橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面篦 削あり。体部内面に篦削後撫あり。	外面黑斑。 平底。
74 - 1 写41-3	須恵器 蓋坏身	S J 32 埋土	最大径 (13.2) 体部片	夾雑物含。並。暗青灰。	器肉調整は極めて薄い。立上は体部側に 乗せて貼り付ける。	在地製。
74 — 2 試621	須恵器	S J 32 埋土	脚端径 (10.5) 脚部片	夾雑物含。並。淡灰。	短脚高坏の脚部で、透も入る。脚端部は 尖る。	在地製。 胎土分析番号621。
74 - 3 写 41 - 試 622	須恵器	S J 32 床面	残存高 13.8 口縁一部欠損	夾雑物含。硬。晴青灰。	頸部立上に波状文が巡る。胴部中位に列 点刺突文あり。	在地製。 胎土分析番号622。
74 - 4 写24-4	土師器 坏	S J 32 床面	口径 (14.5) ½欠損	夾雑物多。並。浅黄橙。	口縁部外面に横撫あり。体部外面に篦削 あり。体部内面に篦研磨がある。	黑色処理。 外面黒斑。
74 - 5 写24-5	土師器 坏	S J 32 埋土	口径 (14.5) %欠損	夾雑物含。並。にぶい黄 橙。	体部外面に撫あり。体部内面に篦研磨が 施される。	黒色処理。
74 - 6 写25-6	土師器 高 坏	S J 32 竈	脚端径 15.9 坏・脚一部欠損	夾雑物多。並。橙。	脚部外面に篦研磨あり。内面に篦削と接 合痕がある。	

写真番号	程器 形	出 土 位 置	量 目(cm) 口径·器高·底径 残 存 状 態	胎土·焼	成・色調と摘要	備考
74 — 7 ≨25 — 7	土師器 高 坏	S J 32 竈	脚端径 (20.0) 坏・脚部55欠損	夾雑物多。並。にぶい黄 橙。	底部下方内・外面に横撫が見られる。底 部内面に紐作痕がある。	
74 - 8	土師器 高 坏	S J 32 竈	脚端径 (21.5) 坏・脚部¼欠損	夾雑物多。並。にぶい黄 橙。	脚部内・外面に篦削あり。脚部外面下方 に横撫。内面には紐作痕がある。	
75 — 9 ≨25— 9	土師器	S J 32 竈	口径 13.0 %欠損	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面下 方に篦撫、紐作痕、粘土はり合痕。	
75 —10 ≨25—10	土師器 変	S J 32 竈	口径 (18.8) %欠損	夾雑物多。並。にぶい橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面下 方に篦削。体部内面に篦当痕あり。	平底。
5 —11 ≨25—11	土師器	S J 32 竈	最大径 21.1 頸部上半欠損	夾雑物多。並。明黄褐。	体部外面上方に紐作痕、下方に篦削あり。 体部内面に篦当痕、下方に紐作痕。	外面黑斑。 内面燻。平底。
5 -12 ≨24-12	土師器	S J 32 竈	底径 8.5 体部上半欠損	夾雑物含。並。橙。	体部外面下方に篦削あり。体部内面下方 に篦撫と篦当痕がある。	木葉痕2葉。 平底。
7 — 1 ≨25— 1	土師器 坏	S J 33 床面	口径 (11.0) 另欠損	夾雑物微。軟。橙。	口縁部外面に横撫あり。体部外面下方に 篦削がある。	胎土分析番号619 胎土A。
77 - 2 ≨25 - 2	土師器 坏	S J 33 貯蔵穴	口径 11.8 口縁一部欠損	夾雑物含。並。にぶい黄 橙。	口縁部外面に横撫あり。体部外面下方に 篦削。体部内面に篦研磨・撫あり。	里色処理。
77 - 3 ≨25-3	土師器 坏	S J 33 床面	口径 (12.4) 另欠損	夾雑物含。並。にぶい橙。	口緑部外面に横撫あり。体部外面に篦傷 と篦削。体部内面に篦研磨がある。	黑色処理。
77 - 4 ≨25 - 4	土師器 坏	S J 33 床面	口径 13.0 口縁一部欠損	夾雑物多。並。黄橙。	口縁部外面に横撫あり。体部外面に篦削。 体部内面に篦研磨がある。	黑色処理。
77 — 5 ≨25 — 5	土師器 坏	S J 33 床面	口径 12.7 ½欠損	夾雑物含。並。にぶい黄 橙。	口縁部外面に横撫あり。体部外面に篦削、 下方に篦研磨。体部内面に篦研磨。	黑色処理。
77 - 6	土師器 坏	S J 33 貯蔵穴	口径 (13.8) 口縁部片	夾雑物含。並。橙。	口縁部外面に横撫あり。体部外面に篦削。 体部内面に篦研磨あり。	黑色処理。
77 — 7 ≨25 — 7	土師器	S J 33 床面	口径 14.3 体部下半欠損	夾雑物含。並。橙。	口縁部外面に横撫あり。口縁部内面には 紐作痕がある。	
79 — 1 ≨26— 1	土師器	S J 34 床面	残存高 27.0 体部上半欠損	夾雑物含。並。にぶい黄 橙。	体部外面刷毛撫。内面篦削後研磨を施し、 底部内・外面は篦削。	飯穴一。
31 -1	土師器 坏	S J 35 床面	口径 (17.0) 口縁部片	夾雑物含。硬。橙。	外面下半篦削。内面に丁寧な撫。頸部外 面の稜は指撫により形成。	
31 − 2	土師器 短頸坩	S J 35 床面	器高 14.5 口縁一部欠損	夾雑物含。並。黄橙。	体部外面は篦研磨。内面は撫で頸部に接 合の際の指頭圧痕。底部外面篦削。	
31 - 3 ≨26-3	土師器	S J 35 埋土	口径 20.5 体部上方以下欠損	夾雑物多。並。橙。	横撫後頸部下から体部上方外面にかけて 篦削。粗雑。	
33 − 1 5 40− 6	土師器飯	S J 36 埋土	最大径 4.6 体部下半部片	夾雑物含。並。橙。	小形粗製土師器で外面に指撫痕あり。内 面はやや平滑である。	
33 - 2 ≨26-2	土師器 坏	S J 36 床面	口径 13.6 口縁%欠損	夾雑物含。並。にぶい黄 橙。	口縁部外面横撫。内面には全体に篦研磨 を施す。底部外面篦削。	黑色処理。

図番号写真番号	種器 形	出土位置	量 目(cm) 口径・器高・底径 残 存 状 態	胎土·焼	成・色調と摘要	備考
83 — 3	土師器 坏	S J 36 竈	口径 14.0 %欠損	夾雑物含。並。黒褐。	口縁部外面横撫。内面は全体に篦研磨を 施す。底部外面は篦削。	黑色処理。
83 – 4	土師器 坏	S J 36 竈	残存高 4.8 %欠損	夾雑物含。並。にぶい黄 橙。	頸部内・外面横撫。内面には撫があり、 底部外面は篦削されている。	
83 — 5	土師器	S J 36 竈	口径 14.6 体部以上欠損	夾雜物徵。並。橙。	底部外面篦削後篦撫されている。内面に は篦撫の際の篦当が見られる。	胎土B。
85 - 1 写26-1	土師器 坏	S J 37 床面	口径 12.8 口縁端部一部欠損	夾雜物微。並。明赤褐。	口縁部内・外面横撫。体部外面は篦削後 撫。内面篦撫。	胎土B。
85 - 2 写26-2	土師器 小形甕	S J 37 床面	器高 8.5 火欠損	夾雜物多。並。橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面篦削後篦 撫。内面底部は篦撫。	
87 - 1 写26-1	須恵器 蓋	S J 38 電	口径 13.8 完器	夾雑物多。硬。黄灰。	体部内・外面轆轤目あり。体部外面上方 回転篦削。轆轤右回転。	窯焼ぐれ。
87 - 2 写26-2	須恵器 蓋	S J 38 竈	口径 15.8 ½欠損	夾雑物含。並。黄灰。	体部内・外面轆轤目あり。体部外面上方 回転篦削。轆轤左回転。	
87 - 3 写 41 - 試 626	須恵器蓋	S J 38 床面	口径 15.0 ½欠損	夾雑物含。並。黄灰。	体部内・外面轆轤目あり。体部外面上方 回転篦削。轆轤左回転。	胎土分析番号626。
87 - 4 写26-4	土師器	S J 38 確	口径 15.2 口緑端部欠損	夾雑物含。軟。にぶい橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面は篦削。 内面篦撫。	
88 - 5 写26-5	土師器	S J 38 床面	口径 (13.4) 4 欠損	夾雑物含。並。にぶい橙。	体部外面篦削後撫。内面は篦撫後篦研磨。 底部外面は篦削。	
88 - 6 写26-6	土師器	S J 38 床面	口径 12.0 完器	夾雑物含。並。明赤褐。	外面篦削後口縁部から底部にかけ内・外 面篦研磨。	
88 - 7 写26-7	土師器 坏	S J 38 埋土	口径 11.8 口縁端部一部欠損	夾雑物含。並。橙。	口緑部から底部にかけての内・外面共に 篦削後全体に篦研磨を施す。	
88 - 8 写26-8	土師器 坏	S J 38 床面	口径 12.3 完器	夾雑物含。並。橙。	口縁部内・外面横撫。外面篦削後撫で、 粘土合目痕。内面撫後研磨。	底に凹。
88 - 9 写26-9	土師器 鉢	S J 38 床面	口径 13.3 口縁端一部欠損	夾雑物含。並。橙。	口緑部内・外面横撫。体部内・外面篦に よる撫。外面底部粗雑な篦削。	底に凹。
88 -10 写26-10	土師器	S J 38 埋土	口径 (15.4) 火欠損	夾雑物含。並。橙。	口縁部内・外面横撫。外面粘土合目痕と 下方篦削。内面放射状の研磨。	平底。
88 -11 写39-1	土師器	S J 38 埋土	最大径 (6.4) 脚部小片	夾雑物含。並。明赤褐。	内・外面カセて成形。整形不明瞭。 くび れ際が高熱赤変とやや還元部あり。	羽口か。
88 -12 写27-12	土師器	S J 38 床面	残存高 7.2 坏·脚端欠損	夾雑物含。並。橙。	脚部外面篦削後撫。脚部内面上方はっき りした撫、下方には篦による撫あり。	
88 -13 写26-13	土師器 脚付壺	S J 38 床面	脚端径 11.0 脚端・口縁欠損	夾雑物含。並。橙。	体部外面上半撫。体部下半・脚部は篦削。 内面体部放射状研磨。脚内は篦撫。	
88 -14 写27-14	土師器短頭壺	S J 38 埋土	残存高 8.6 口縁・体部½欠損	夾雑物含。並。にぶい黄 橙。	体部外面刷毛目による撫。内面篦撫後研 磨。底部外面篦削。	内面燻。平底。

第5篇 遺物観祭

図 番 号 写真番号	種器 形	出土位置	量 目(cm) 口径·器高·底径 残 存 状 態	胎 土 · 焼	成・色調と摘要	備考
88 -15 写27-15	土師器小形甕	S J 38 床面	口径 14.0 体一部欠損	夾雑物含。並。橙。	顕部外面指頭圧痕。体部内・外面篦研磨。 底部はやや丸底ぎみ。	
38 -16 写27-16	土師器	S J 38 埋土	残存高 12.2 口縁・体部5欠損	夾雑物含。硬。赤褐。	体部外面篦削。内面指成形後刷毛・篦撫。 底部内面格子状の刻みあり。	平底ぎみ。
38 −17	土師器小形甕	S J 38 床面	口径 13.8 口縁端部一部欠損	夾雑物含。並。にぶい橙。	口縁部内・外面横撫。体部内・外面は篦 撫。底部外面篦削。頭部に紐作痕。	平底。
39 −18	土師器短頸壺	S J 38 床面	口径 (13.4) ¼残存	夾雑物含。並。橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面篦削後篦 撫してある。内面紐作痕。篦撫。	
39 −19 写27−19	土師器	S J 38 床面	口径 (15.8) 另欠損	夾雑物含。並。橙。	体部内・外面篦撫。外面さらに篦状の傷 あり。	外面燻。
39 −20 万27−20	土師器 長 斃	S J 38 床面	器高 35.4 以欠損	夾雑物含。並。にぶい黄 橙。	内・外面篦削・研磨・篦。撫後篦研磨。 内面に研磨・紐作痕あり。大きく歪があ る。	
92 — 1 写39— 1	石 製 紡錘車	S J 40 埋土	最大径 (4.1) 44.4 g	[[- 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1	らり。図平面右側に欠損部あり。欠損は旧 との少ない一方向から。稜部や端部に使用	蛇紋岩。
92 — 2 ≨28— 2	土師器 坏	S J 40 床面	口径 11.9 口縁部一部欠損	夾雑物含。硬。にぶい橙。	口縁部内・外面横撫あり。体部外面篦削、 外面に篦研磨あり。	黑色処理。
92 - 3 写28-3	土師器 坏	S J 40 埋土	口径 12.9 另欠損	夾雑物含。並。灰褐。	口緑部内・外面横撫。体部外面篦撫と篦 傷、内面篦研磨と篦当痕。底部篦削。	黑色処理。
92 - 4 写28-4	土師器 坏	S J 40 埋土	口径 15.2 %欠損	夾雑物含。並。浅黄橙。	口緑部内・外面横撫あり。外面篦削後撫、 内面撫あり。	黑色処理。
92 - 5 写28- 5	土師器高 坏	S J 40 埋土	口径 (14.4) 坏部½欠損	夾雑物微。軟。橙。	口縁部内・外面横撫。坏部内・外面篦撫。 脚部外面刷毛目顕著。内面紐作痕。	特徴的な脚部。
92 - 6 写28- 6	土師器 高 坏	S J 40 埋土	口径 17.4 环部口縁一部欠損	夾雑物微。軟。橙。	口縁部内・外面に横撫。外面に刷毛目と 脚部接合の指撫。全体にカセている。	胎土B。
92 — 7 写28— 7	土師器 高 坏	S J 40 竈	脚端径 13.8 坏部欠損	夾雑物含。軟。にぶい橙。	脚部外面上方篦削、下方横撫あり。内面 に紐作痕と指撫あり。	
92 — 8 写28— 8	土師器 高 坏	S J 40 床面	脚部径 15.7 坏部上半欠損	夾雑物含。並。にぶい橙。	坏部内面篦研磨。脚部外面篦削。内面紐 作痕と指撫と指圧痕あり。脚部下方内・ 外面横撫。	
92 - 9 写28- 9	土師器 坏	S J 40 埋土	口径 (12.2) %欠損	夾雑物徴。並。にぶい赤 褐。	口縁部内・外面横撫。体部外面篦削後撫、 内面篦撫あり。	胎土B。
92 −10	土師器 坏	S J 40 埋土	口径 14.2 另欠損	夾雑物微。軟。橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面篦削。 内面放射状篦研磨あり。	胎土B。
92 −11	土師器 短頭壺	S J 40 埋土	最大径 12.4 %欠損	夾雑物含。軟。にぶい赤 褐。	類部内・外面横撫あり。体部外面上方刷 毛目、下方篦研磨あり。内面に篦撫。	平底。
92 −12 ⊊28−12	土師器 麦	S J 40 埋土	口径 21.2 下半欠損	夾雑物含。軟。にぶい橙。	口縁部内・外面横撫あり。体部外面篦削 後撫、内面撫あり。	内・外面に燻。 13と同一個体。

図番号写真番号	種器 形	出土位置	量 目(cm) 口径・器高・底径 残 存 状態	胎土·焼	成・色調と摘要	備考
92 -13 写28-13	土師器	S J 40 床面	残存高 19.0 上半欠損	夾雑物多。軟。明赤褐。	体部外面に篦削あり。内面に篦削後撫あり。	平底。

S J 41~S J 60

図番号 写真番号	種器 形	出土位置	量 目(cm) 口径・器高・底径 残 存 状態	胎 土 ・ 焼	成・色調と摘要	備考
94 - 1 写28- 1	土師器 坏	S J 41 埋土	口径 11.4 另欠損	夾雜物微。軟。明赤褐。	口緑部内・外面横撫あり。体部外面篦削 後篦撫、内面に撫あり。	
94 - 2 写28-2	上師器	S J 41 埋土	脚端径 11.0 坏部欠損	夾雜物微。並。橙。	体部外面篦研磨、内面に撫あり。体部下 方内・外面に横撫あり。	
94 - 3 写28-3	須恵器	S J 41 床面	口径 13.4 口縁部欠損	夾雑物含。並。にぶい褐。	体部内・外面轆轤目あり。底部は回転糸 切後付高台。轆轤右回転。	内・外面に煙。
94 - 4 写40-1	須恵器 塊	S J 41 床面	口径 (15.2) ½欠損	夾雑物含。軟。淡灰褐。	底面は高台剝落。糸切轆轤右。体部外面 に墨書あり。墨痕薄く判読不明。	暴書土器1。
94 - 5 写28- 5	須恵器	S J 41 床面	底径 18.6 上半欠損	夾雑物含。硬。灰白。	体部外面轆轤目あり、内面轆轤成形後指 撫あり。内面完通しない穴2。	飯穴一。
94 — 6 写29— 6	須恵器 羽 釜	S J 41 床面	口径 (15.2) %欠損	夾雑物含。軟。にぶい橙。	体部外面上方に横撫あり。体部外面に篦 削、内面撫と接合痕あり。	
96 - 1 写39-1	土師質	S J 42 埋土	直径 2.1 3.21 g	土師器と同じ酸化気味のた 一方向から行なわれている	・ 産き上りで、嵩はない。穿孔は生乾きの際 る。	
96 - 2 写41- 4	須恵器高 坏	S J 42 埋土	脚端径 (10.1) 脚部片	夾雑物含。軟。淡灰。	短脚高坏片である。透しの個所は無く判 然としない。	
96 - 3 写29-3	土師器坏	S J 42 埋土	口径 13.0 %欠損	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面に 篦撫と篦削がある。	
96 - 4 写29-4	土師器 坏	S J 42 床面	口径 (12.6) %欠損	夾雑物含。並。にぶい橙。	体部外面に篦削があり。体部内面に篦研 磨がある。	
96 - 5 写29- 5	土師器 坏	S J 42 床面	口径 (10.5) %欠損	夾雑物多。並。浅黄橙。	口縁部外面に横撫と紐作痕。体部外面に 篦削。体部内面に篦研磨がある。	黒色処理。平底。 外面黒斑。
96 - 6 写29- 6	土師器 高 坏	S J 42 竈	脚端径 (8.4) 坏部・脚下方欠損	夾雑物含。並。橙。	脚部内・外面に篦削。内・外面下方に横 撫。坏部内面に篦研磨がある。	胎土B。
96 - 7 写29- 7	土師器 坩	S J 42 埋土	最大径 8.2 口縁部欠損	夾雑物含。並。橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に篦削。 内面に粘土のめくれと篦削がある。	平底。
96 - 8 写29-8	土師器 小形甕	S J 42 竈	口径 7.0 口縁一部欠損	夾雑物多。並。浅黄橙。	口縁部外面に横撫と紐作痕。体部外面に 篦削。内面に篦当痕と篦撫。	
96 — 9 写29— 9	土師器 坩	S J 42 床面	残存高 9.3 口縁・体部上半欠	夾雑物徵。並。黄橙。	体部内・外面に篦撫が見られる。体部内 面には篦当痕が見られる。	胎土A。
96 —10 写29—10	土師器 坩	S J 42 奄	口径 (10.6) %欠損	夾雑物少。並。橙。	口縁部外面に紐作痕と横撫。体部外面に 篦研磨。体部内面に紐作痕と篦当。	胎土B。
96 -11 写29-11	土師器	S J 42 竈	口径 9.8 %欠損	夾雑物含。並。にぶい橙。	口縁部外面に横撫。体部外面に刷毛状工 具による撫と篦削。内面に篦傷。	内・外面燻。平底

図 番 号 写真番号	種 器 形	出土位置	量 目(cm) 口径・器高・底径 残 存 状 態	胎土,焼	成・色調と摘要	備考
97 —12 写29—12	土師器 小形壺	S J 42 確	口径 13.7 口縁・胴一部欠損	夾雑物含。並。にぶい橙。	口縁部外面に横撫。口縁部内面に横撫と 篦撫。体部に篦研磨と篦撫。	平底。
97 —13 写29—13	土師器 小形甕	S J 42 籤	口径 14.0 口縁一部欠損	夾雑物多。並。橙。	口縁部外面に篦撫と横撫。体部外面に刷 毛目と東ハゼ。体部内面に紐作痕。	平底。
97 —14 写29—14	土師器	S J 42 床面	口径 15.0 口縁・胴一部欠損	夾雑物含。並。浅黄橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に刷毛 目。内面に紐作。穴際に篦削。	甑穴一。
97 —15 写29—15	土師器	S J 42 竈	口径 16.3 ½欠損	夾雑物多。並。にぶい黄 橙。	口縁部外面に横撫と紐作。体部内・外面 に篦削。内面穴際に篦削。	飯穴一。
97 -16 写29-16	土師器	S J 42 床面	口径 18.2 %欠損	夾雑物含。並。にぶい黄 橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に一定 方向の研磨。内面穴際に篦削。	飯穴一。
97 —17 写30—17	土師器	S J 42 竈	口径 17.8 另欠損	夾雑物含。並。浅黄橙。	口級部内・外面に横撫あり。体部内面に 篦削がある。	内·外面燻。 平底。
97 —18 写29—18	土師器	S J 42 床面	最大径 25.6 口縁・体部努欠損	夾雑物多。並。橙。	体部外面に篦研磨、刷毛状工具による撫 と篦削。体部内面に紐作痕がある。	内面燻。 平底。
99 - 1 写30-1	須恵器 羽 釜	S J 43 床面	口径 (17.4) 口縁~体部片	夾雑物含。並。浅黄。	口縁部外面に横撫と紐作、粘土のめくれ。 体部外面篦削。内面紐作と篦撫。	
103 - 1 写30-1	土師器 高 坏	S J 46 埋土	脚端径 12.6 坏部欠損	夾雑物多。軟。橙。	脚端部内・外面横撫あり。脚部内面に指 の掻落痕、篦当痕あり。	
103 — 2	土師器	S J 46 埋土	口径 (13.3) 口縁・体部片	夾雑物含。軟。にぶい橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部内面粘 土捏合目痕あり。	
105 — 1	須恵器 坏	S J 47 埋土	底径 (6.9) 底部片	夾雑物徵。並。黄灰。	底部内面に轆轤目あり。底部回転糸切。 轆轤右回転。	
105 - 2	須恵器 坏	S J 47 埋土	底径 5.3 口縁・体部¾欠損	夾雑物含。硬。灰白。	体部内・外面に弱い轆轤目あり。底部回 転糸切。轆轤右回転。	
105 — 3	須恵器 大形瓶	S J 47 埋土	突带部径 (39.7)	夾雑物含。硬。暗灰。	肩の突帯部片である。器肉は極めて薄く 精作。内面の当目不明瞭。	
107 - 1	土師器 高坏か	S J 48 埋土	口径 (15.0) 口縁部片	夾雑物微。硬。にぶい赤 裾。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面撫、 内面に単位不明瞭な研磨あり。	外面燻。
109 — 1 写41— 7	土師質 粘土板	S J 49 床面	長17.0 厚2.7 580 g	夾雑物含。硬。淡褐。	用途は明瞭でない。搏状。内・外面に指 の圧痕が多く残される。側四周欠損。	
109 - 2 写30-2	土師器 坏	S J 49 床面	口径 12.6 口縁%体部¼欠損	夾雑物微。並。明赤褐。	口縁部外面横撫。体部外面篦撫、粘土捏 合目痕あり。内面撫。	胎士B。
109 - 3 写30-3	土師器 坏	S J 49 床面	口径 12.6 ½欠損	夾雑物微。並。橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面篦削、 内面に篦撫後研磨。	胎土B。
109 - 4 写30-4	土師器	S J 49 床面	口径 17.4 坏污·脚部欠損	夾雑物微。硬。浅黄橙。	口縁部外面横撫後篦研磨。坏部内・外面 に篦研磨あり。出柄あり。	
109 — 5 写30 — 5	土師器	S J 49 床面	口径 (17.0) 体部・底部欠損	夾雑物含。並。浅横橙。	口縁部内・外面横撫。頭部外面に指によ る撫、篦当痕あり。	

図番号写真番号	種器形	出 土 位置	量目(cm) 口径・器高・底径	胎土・焼	成・色調と摘要	備考
109 — 6 写30— 6	土師器	S J 49 竈	残 存 状 態 最大径 16.6 体部上半以上欠損	夾雑物多。並。にぶい赤 裾。	体部外面篦削後篦研磨あり。内面篦削、 篦当痕あり。底部篦削。	内・外面燻。
109 — 7 写30— 7	土師器	S J 49 床面	口径 (23.2) 口縁一部・体部片	夾雑物多。並。にぶい橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面に篦撫 と篦削、内面篦撫と篦当痕。接合痕。	外面黑斑。
111 - 1 写39-2	石 製 紡錘車	S J 50 竈	直径 3.9 35.5 g	内・外面の成形時に擦痕が 向から。稜部には使用時点	が残る。穿孔はほぼ同じ直径であるが一方 気の耗の光沢あり。	蛇紋岩。
111 - 2 写30-2	土師器	S J 50 床面	口径 15.2 %欠損	夾雑物微。並。にぶい橙。	口縁部外面に横撫あり。体部外面に篦撫、 内面に篦研磨あり。	黑色処理。
111 - 3 写30-3	土師器	S J 50 貯・竈	口径 (22.0) %欠損	夾雑物多。並。にぶい赤 褟。	口縁部外面横撫。体部外面篦削、粘土捏 合目痕、篦傷。內面撫、篦当痕。	外面燻。
111 - 4 写30- 4	土師器 短頸壺	S J 50 床面	口径 13.4 体部%欠損	夾雑物多。軟。明黄褐。	体部外面に篦削後篦撫あり。内面に篦撫、 篦当痕あり。	平底。
111 - 5 写30-5	土師器	S J 50 竈	脚端径 13.0 坏部欠損	夾雑物多。軟。浅黄橙。	口縁端部内・外面横撫あり。脚部外面篦 削後撫。内面に紐作痕あり。	
111 - 6 写30- 6	土師器	S J 50 貯蔵穴	脚端径 (14.4) 坏・口縁端部¾欠	夾雑物多。並。浅黄橙。	口縁端部内・外面横撫。脚部外面篦削、 内面篦削、紐作痕と下方に篦当痕あり。	黒色処理。
111 - 7 写30- 7	土師器	S J 50 竈	脚端径 14.2 坏部欠損	夾雑物多。並。浅黄橙。	口綠端部內·外面橫撫。脚部外面篦撫、 內面上方紐作痕、下方篦削。	
111 - 8 写31-8	土師器	S J 50 床面	口径 21.4 口縁写体部另欠損	夾雑物多。並。にぶい赤 褐。	口縁部外面横撫。体部外面篦撫、下方剝離、内面篦削。篦当痕、紐作痕。	外面黑斑。
114 - 1	土師器 飯 か	S J 52 埋土	口径 (19.0) 底・%欠損	夾雑物含。並。にぶい黄 橙。	口縁部外面横撫。体部外面に刷毛目、篦 削後篦撫、内面に篦撫、篦当痕。	
114 - 2 写31-2	土師器	S J 52 床面	口径 24.2 体部以下欠損	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面横撫。器面荒れている。 頸部に第当痕あり。頸部内面に篦削。	外面黑斑。
116 - 1 写31-1	土師器 壺	S J 53 54埋土	口径 15.0 口縁光体部以下欠	夾雑物徴。並。にぶい橙。	口縁内・外面に横撫あり。内・外面に刷 毛状工具による撫あり。	
116 - 2	土師器	S J 53· 54埋土	口径 (15.0) 口縁部片	夾雑物含。並。橙。	器面荒れている。口縁部外面に格子状の 刻あり。内面にわずか刷毛目あり。	
118 - 1 写31-1	土師器	S J 55 床面	口径 12.7 口縁部一部欠損	夾雑物徵。並。橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面篦 削、内面篦撫後篦研磨あり。	
118 - 2	土師器 坩	S J 55 埋土	最大径 (7.0) %欠損	夾雑物含。並。橙。	口縁部外面剝落横撫不明、内面あり。頸 部篦当痕。体部内面紐作痕、篦撫。	
118 - 3 写31-3	土師器 坩	S J 55 埋土	最大径 8.2 口縁部¾欠損	夾雑物多。軟。橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面上方撫、 下方篦削。内面篦当痕。	外面黒斑。 平底ぎみ。
118 - 4 写31-4	土師器 短頸壺	S J 55 床面	口径 13.3 口縁・体部一部欠	夾雑物含。並。にぶい橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面第当痕、 内面篦撫、粘土捏合目痕。	内面燻。
118 - 5 写31- 5	土師器	S J 55 埋土	口径 14.4 体部上半½以下欠	夾雑物含。並。浅黄橙。	口縁内・外面篦撫、篦傷。外面紐作痕、 篦撫。内面粘土のめくれ痕、篦削。	

図番号写真番号	種器 形	出土位置	量 目(cm) 口径・器高・底径 残 存 状 態	胎士・焼	成・色調と摘要	備考
118 - 6 写31- 6	土師器	S J 55 埋土	口径 21.6 口縁、体部一部欠	夾雑物含。並。にぶい黄 橙。	口綠部外面橫撫。体部外面篦削、內面篦研磨。穴際篦削。	飯穴一。 内・外面黒斑。
120 - 1	須恵器 坏	S J 56 埋土	最大径 (12.3) 体部片	夾雑物多。並。灰。	蓋付の身部下半片で、内・外面に轆轤目。 体部外面下半に轆轤左回転逸削。	在地製。
120 - 2 写31-2	須恵器	S J 56 埋土	脚端径 10.0 坏部欠損	夾雑物含。焼締。灰。	脚端部鋭い立上。脚部内に浅い轆轤目あ り。	外面自然釉付着。
120 — 3	須恵器	S J 56 埋土	口径 21.0 口縁部片	夾雑物含。締。暗灰。	頸部立上外面に波状文あり。全体的に シャープである。	在地製、胎土分析 番号623。
120 - 4 写31-4	土師器 高 坏	S J 56 埋土	口径 17.0 脚部・口縁½欠損	夾雑物微。並。橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面篦撫と研 磨。内面篦撫と篦当痕と研磨。	
120 - 5 写31-5	土師器	S J 56 竈	口径 (18.0) 体部34欠損	夾雑物含。軟。浅黄橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面篦傷、内 面篦傷と篦撫。穴際篦削あり。	口縁部煤付着。
120 - 6 写31- 6	土師器	S J 56 竈	最大径 28.0 体部上半欠損	夾雑物含。並。にぶい黄 橙。	体部外面丁寧な刷毛撫、内面も丁寧な撫 と接合痕明瞭。	内·外面燻。 平底。
121 - 1	土師器 坏	S J 57 埋土	口径 (13.0) 口縁~体部片	夾雑物多。並。にぶい黄 橙。	口縁部外面に横撫が見られる。体部内面 に篦研磨が施されるが単位不明。	黒色処理。
121 - 2	土師器 長 薨	S J 57 埋土	口縁部片	夾雑物多。並。にぶい橙。	口縁部内・外面に横撫が見られる。口縁 部外面に篦削がある。	
121 - 3	土師器短頸壺	S J 57 埋土	口径 (14.0) 口縁部片	夾雑物多。並。にぶい黄 橙。	口縁部内・外面に横撫あり。口縁部内面 に篦削がある。	
121 - 4	土師器	S J 57 埋土	口径 (21.9) 口縁部片	夾雑物徴。並。にぶい褐。	口縁部内・外面に横撫あり。口縁部外面 に刷毛工具による撫がある。	
123 - 1 写41-11	須恵器	S J 58 埋土	台部径 18.2 台部片	夾雑物含。締。灰。	剝落した台は短頸壺の脚部片で貼付部の 剝落。	在地製。
123 - 2 写32-2	土師器 坏	S J 58 埋土	口径 12.4 %欠損	夾雑物徴。軟。にぶい橙。	口縁部内・外面横撫あり。体部外面篦削 後篦撫あり。	胎士B。
125 - 1 写32-1	土師器	S J 59 埋土	口径 12.6 口縁部一部欠損	夾雑物含。軟。にぶい橙。	口縁部内・外面横撫あり。体部外面篦削 後篦撫。内面篦撫。	胎土B。
127 - 1	土師器	S J 60 竈	口径 12.0 %欠損	夾雑物含。軟。にぶい橙。	口縁部外面横撫あり。体部外面カセてい る。内面に篦研磨あり。	黒色処理。
127 - 2 写32- 2	土師器	S J 60 埋土	口径 15.0 %欠損	夾雑物含。軟。にぶい橙。	口縁部外面横撫あり。体部外面篦削後篦 撫あり、内面に篦研磨あり。	黒色処理。
127 - 3 写32-3	土師器	S J 60 床面	口径 16.4 下半欠損	夾雑物徴。軟。にぶい黄 橙。	口縁部内・外面横撫あり。体部外面篦削、 内面に篦撫と篦傷あり。	
128 - 4 写32-4	土師器	S J 60 竈	口径 20.0 口縁一部欠損	夾雑物含。並。にぶい橙。	口縁部内・外面横撫あり。体部外面上方 篦研磨、下方に篦削後撫。内面篦撫。	平底。
128 - 5 写32- 5	土師器	S J 60 竈	口径 20.3 口縁部½欠損	夾雑物含。並。にぶい橙。	体部外面上方篦削後篦撫、下方接合痕。 内面篦撫と篦傷。上方カセている。	木業痕二葉。

図番号写真番号	種器 形	出 土位 置	量 目(cm) 口径・器高・底径 残 存 状 態	胎土·焼	成・色調と摘要	備考
130 - 1	土師器器 台	S J 61 埋土	最大径 (5.8) 脚部片	夾雑物徵。並。橙。	三方向に円形の透あり。外面に研磨痕あ り。内面篦削痕あり。	
130 - 2 写32-2	土師器	S J 61 床面	最大径 14.3 底部片	夾雑物含。軟。橙。	外面篦削あり、内面に篦撫と篦当痕あり。 底部中央に凹あり。	
130 - 3 写32-3	土師器	S J 61 埋土	最大径 24.8 体部から底部片	夾雑物多。軟。にぶい褐。	体部外面篦削後篦撫あり。内面に篦撫と 篦当痕。	内・外面に燻。 平底。
132 - 1 写39-1	石 製 砥 石	S J 62 埋土	厚 1.5 19.1 g	小形の砥石片で割は旧時。 寧で隅部は極端に丸くない	表・裏面使用痕あり。全体的に使用はT い。	流紋岩。
132 - 2 写32-2	須恵器 城	S J 62 埋土	口径 15.3 口縁部一部欠損	夾雑物含。硬。灰褐。	内・外面に轆轤目あり。底部回転糸切後 付高台。轆轤左廻。	黑色処理外面燻
132 - 3 写32-3	土師器	S J 62 埋土	口径 14.8 口縁部一部欠損	夾雑物多。軟。橙。	体部外面篦削、内面に篦撫あり。内・外 面全体にカセでいる。器肉薄い。	
132 — 4	土師器器 台	S J 62 埋土	残存高 6.2 另欠損	夾雑物微。並。にぶい褐。	外面篦研磨、内面紐作痕あり。欠失した 脚上部を擦り二次利用。	
132 - 5	土師器 高 坏	S J 62 · 埋土	- 残存高 5.8 %欠損	夾雑物微。並。にぶい橙。	外面篦削後篦研磨あり、内面紐作痕あり。	透し推定5単位
132 - 6	土師器 小形甕	S J 62 埋土	口径 (11.6) 口縁から体部片	夾雑物含。並。浅黄橙。	口縁部内面に横撫あり。体部外面篦削後 撫、内面に撫あり。	
132 - 7	土師器 短頭壺	S J 62 埋土	口径 (16.0) 口縁部片	夾雑物含。並。灰黄褐。	外面篦研磨、内面に撫あり。全体に燻が かかり、器肉が薄い。	赤色顏料塗彩。
132 — 8	土師器	S J 62 埋土	口縁部片	夾雑物徴。並。にぶい褐。	模口縁部内・外面に刷毛目あり。器面が 荒れている。	
132 — 9	土師器	S J 62 埋土	口径 15.8 口縁・一部体部片	夾雑物多。軟。にぶい褐。	複口縁部外面横撫あり。内面篦撫あり。 体部外面篦削、内面撫あり。	
132 -10 写32-10	土師器	S J 62 床面	口径 15.8 底部另欠損	夾雑物含。軟。赤橙。	口縁部外面に施文様の篦傷。体部外面刷 毛目後篦研磨、内面篦研磨。	
135 — 1	土師器 坏	S J 64 埋土	口径 (14.8) %欠損	夾雑物微。軟。橙。	口縁部内・外面横撫あり。体部外面篦削、 内面に単位不明の篦研磨あり。	黒色処理。
135 — 2	土師器	S J 64 埋土	口径 (15.0) 口縁・一部体部片	夾雑物徵。軟。橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面篦 削後撫、内面に単位不明の篦研磨。	
135 — 3 写33— 3	土師器 高 坏	S J 64 埋土	残存高 10.5 口縁・底部欠損	夾雑物多。軟。橙。	坏部外面刷毛撫。脚部外面篦研磨、内面 掻落痕あり。上部に出柄あり。	
137 - 1 写33- 1	土師器 坏	S J 65 埋土	口径 (13.5) 体部%欠損	夾雑物多。軟。橙。	口縁外面に接合痕。体部は全体に丁寧な 撫。内面には篦当痕がある。	外面黑斑。
137 — 2	土師器 高 坏	SJ65 貯蔵穴	脚端径 (14.0)	夾雑物多。軟。橙。	脚端部内・外面横撫。体部外面篦削と櫛 目あり。内面紐作痕と指おさえ明瞭であ る。	

図 番 号 写真番号	種器 形	出土位置	量 目(cm) 口径・器高・底径 残 存 状態	胎 土 · 焼	成・色調と摘要	備考
137 — 3	土師器 小形甕	S J 65 埋土	最大径 13.7 体部%欠損	夾雑物多。軟。橙。	口縁部内・外面横撫。体部は篦撫、内面 は丁寧な撫あり。底面器肉厚。	外面黑斑。
139 — 1 写33— 1	土師器 台付賽	S J 66 埋土	口径 15.7 口縁部¼・体部	夾雑物含。並。橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面丁寧な刷 毛目、内面撫。器肉特に薄。	
139 - 2 写33-2	土師器坏	S J 66 埋土	口径 11.6 口縁部%欠損	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面横撫。底部外面篦削。 内面撫あり。器肉厚。	
139 — 3	土師器 小形壺	S J 66 埋土	口径 (12.4) 口縁部片	夾雑物含。並。にぶい橙。	口縁部外面に格子状の刻あり、内面は横 撫あり。	内・外面燻。
139 — 4 写33— 4	土師器 坏	S J 66 埋土	口径 (16.6)	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面横撫。底部篦削。内面篦 撫と篦当痕あり。	内・外面燻。
139 — 5 写33— 5	土師器 鉢 か	S J 66 埋土	口径 17.4 口縁另欠損	夾雑物多。並。橙。	体部外面篦削後撫、内面には篦撫が見ら れる。	内・外面燻。
139 — 6	土師器	S J 66 埋土	口径 27.8 体部分欠損	夾雑物微。並。にぶい橙。	口縁部内・外面に横撫。体部外面縦横方 向の削後撫。内面は丁寧な撫。	
141 - 1	土師器	SJ67 埋土	口径 (12.0) 口縁部片	夾雑物含。並。浅黄橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面削後撫、 内面篦研磨がある。	内面黑色処理。 外面煤付着。
141 — 2	土師器 坏	S J 67 埋土	口径 (15.0) 口縁部片	夾雑物含。並。浅黄橙。	口縁部内・外面横撫。体部から底部は篦 削。体部内面は篦研磨がある。	内面黑色処理。 外面煤付着。
141 - 3	土師器	S J 67 埋土	頸部径 (14.0) 肩部一胴部が欠損	夾雑物多。並。浅黄橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面凍ハゼ。 体部内面ひどく荒れている。	
143 - 1 写33- 1	土師器 高 坏	S J 68 竈	口径 17.4 口縁光・脚部欠損	夾雑物多。並。橙。	口縁部摩耗。体部外面篦削と棒状篦研磨、 内面篦撫、器面荒れている。	
145 - 1 写 41 - 試 523	須恵器 小形甕	S J 69 埋土	口径 (21.8) 口縁部片	夾雑物含。締。暗灰。	外面立上に波状紋あり。断面に紐作痕あ り。	在地製。
145 — 2	土師器	S J 69 床面	口径 (21.0) 口縁部片	夾雑物含。並。灰黄。	口縁部内・外面横撫あり。頸部は典型的 なくの字口縁。	
145 — 3	土師器	S J 69 床面	口径 (24.0) 口縁~体部少々片	夾雑物含。並。浅黄。	口緑部内・外面横撫。体部外面刷毛目、 内面篦削あり。	口縁部煤付着。
148 - 1 写33-1	土師器	S J 71 埋土	口径 (13.0) 口縁一部欠損	夾雑物含。並。橙。	口縁部外面に横撫。体部外面は篦削、内 面は篦研磨がある。	黑色処理。
150 — 1 写40— 1	土師器	S J 72 床面	口径 3.6	夾雑物微。硬。橙。	小形粗製土師器である。全体に捏合目あ り。	
150 - 2	土師器	S J 72 床面	稜部径 (12.9) 体部片	夾雑物徵。並。明赤褐。	体部外面に篦削が見られる。体部内面に 丁寧な撫が見られる。	平野部の土師器
150 — 3 写33— 3	土師器	S J 72 竈	口径 (11.8) 火欠損	夾雑物多。並。にぶい黄 橙。	口縁部内・外面に横撫あり。体部外面に 篦削。体部内面に篦研磨あり。	黒色処理。
150 — 4 写33— 4	土師器	S J 72 埋土	口径 13.2 口縁一部欠損	夾雑物多。並。にぶい橙。	口縁部外面横撫あり。体部外面篦削。体 部内面に篦研磨がある。	黒色処理。

図 番 号 写真番号	種器 形	出 土位 置	量 目(cm) 口径·器高·底径 残 存 状 態	胎土・焼	成・色調と摘要	備考
150 — 5 写33— 5	土師器	S J 72 床面	口径 18.3 口縁部以下欠損	夾雑物多。並。明赤褐。	口縁部外面に横撫あり。坏部外面に篦削。 内面に篦撫がある。	ı
150 — 6 写33— 6	土師器	S J 72 埋土	脚端径 15.6 坏・脚端部分欠損	夾雑物含。並。橙。	脚部外面に篦研磨と篦撫。脚部内面に紐 作痕と篦撫がある。	
150 — 7 写33— 7	土師器 小形甕	S J 72 床面	口径 11.0 口縁一部欠損	夾雑物徵。並。明赤褐。	口縁部外面に横撫。体部外面紐作痕、捏 合目痕、篦撫。内面篦撫、紐作痕。	平底。 胎土B。
150 - 8 写33-8	土師器 鉢 形	S J 72 埋土	口径 14.5 口縁部另欠損	夾雑物多。並。橙。	口綠部內,外面に橫撫。体部外面刷毛目、 篦研磨、篦削。內面篦撫、紐作痕。	
150 — 9 写33— 9	土師器鉢	S J 72 埋土	口径 15.4 另次損	夾雑物含。並。にぶい黄 橙。	口緑部内・外面に横撫。刷毛状工具によ る撫。内面に第当痕と篦削がある。	平底。
150 -10 写33-10	土師器 小形甕	S J 72 埋土	口径 13.8 口縁部¼欠損	夾雑物多。並。橙。	口縁部外面に指頭圧痕。体部外面に紐作 と篦削。体部内面に篦研磨がある。	内面燻。平底。 外面黑斑。
150 -11 写33-11	土師器	S J 72 貯蔵穴	口径 17.0 体部上半以下欠損	夾雑物多。並。橙。	口緑部内・外面に横撫あり。体部内・外面に篦撫がある。	
152 — 1	土師器	S J 73 床面	口径 (16.0) 口端・体下方欠損	夾雑物多。並。明赤褐。	口縁一体部外面に刷毛状工具による撫。 口縁部内面に模撫と刷毛目がある。	外面煤付着。
154 — 1	土師器	S J 74 埋土	残存高 8.6 坏・脚底部欠損	夾雑物含。並。明赤褐。	脚部外面に撫があり。脚部内面に紋痕と 紐作痕がある。	
154 - 2 写34-2	土師器	S J 74 埋土	口径 13.7 %欠損	夾雑物多。並。橙。	口縁部外面に横撫。体部外面に篦削、内 面に篦研磨がある。	黒色処理。
156 — 1 写34— 1	土師器	S J 75 P内	口径 (17.2) 体部片	夾雑物含。並。明赤褐。	口縁部外面に横撫。体部外面に篦削、内 面に紐作痕と篦当がある。	
158 — 1 写34— 1	土師器 坏	S J 76 竈	口径 (13.8) 口禄~体部片	夾雑物含。並。にぶい褐。	口緑部内・外面に横撫あり。体部外面に 篦削、内面に篦研磨がある。	.黑色処理。
158 - 2 写34-2	土師器 坏	S J 76 竈	底径 5.0 %欠損	夾雑物含。並。橙。	体部外面に篦削があり、内面に篦当痕が ある。	平底。
160 - 1	土師器	S J 77 埋土	口径 (12.0) 火欠損	夾雑物含。並。にぶい橙。	口緑部内・外面に横撫。体部内・外面は 篦削後篦撫。	
160 - 2	土師器	S J 77 埋土	残存高 7.6 坏·脚底部欠損	夾雑物含。並。橙。	脚部外面篦削後撫。脚部内面に接合時粘 土のめくれと出柄あり。	
160 - 3	土師器 短頭壺	S J 77 埋土	口径 (14.0) 口縁から体部片	夾雑物含。並。にぶい橙。	口縁部内・外面横撫。体部内・外面篦削後撫。	
160 - 4 写34-4	土師器	S J 77 床面	口径 15.8 頸部以下欠損	夾雑物含。並。黄灰。	口縁部内・外面横撫後篦削。頸部内・外 面は篦削されている。	内・外面燻。
160 - 5 写34-5	土師器 短頸壺	S J 77 床面	口径 (14.0) 体部下半以下欠損	夾雑物含。並。にぶい黄 褐。	口緑部内・外面横撫。体部外面篦削で篦 傷がある。内面篦撫。	
163 - 1 写41-8	須恵器 短頭壺	SJ79 埋土	頸部片	夾雑物含。硬。暗灰。	器肉調整が極めて薄く、6世紀代の大形 短類壺片を思わせる。	在地製。

図 番 号 写真番号	種 器 形	出土位置	量 目(cm) 口径・器高・底径 残 存 状 態	胎土·焼	成・色調と摘要	備考
163 - 2 写34-2	土師器 坏	S J 79 床面	口径 12.0 %欠損	夾雑物含。並。明赤褐。	口縁部から底部にかけ内・外面に篦削がある。	胎土B。
163 - 3 写34-3	土師器 坏	S J 79 貯蔵穴	口径 13.2 ほぼ完器	夾雑物含。軟。橙。	口縁部内・外面横撫。体部内・外面篦撫。 底部外面篦削。	胎土B。
163 — 4 写34— 4	土師器 坏	S J 79 貯蔵穴	口径 (12.6) %欠損	夾雑物含。並。橙。	口縁部内・外面横撫。体部内・外面篦削 後撫。底部外面篦削。	胎土B。
163 - 5	土師器 坏	S J 79 埋土	口径 (14.7) 口縁破片	夾雑物含。並。橙。	口縁部内・外面横撫。体部内・外面篦削 後篦撫。	胎土B。
63 - 6	土師器 坏	S J 79 埋土	口径 (15.2) 口縁破片	夾雑物含。並。橙。	外面篦削後篦撫。内面篦撫後篦研磨。胴 部から口縁部立上は特徴的。	胎土B。
163 — 7 写34 — 7	土師器 高 坏	S J 79 埋土	残存高 8.0 坏・脚底部欠損	夾雑物含。並。橙。	脚部外面篦削後篦研磨。内面指撫。脚部 内面上方出柄あり。	
163 — 8 写34— 8	土師器	S J 79 埋土	口径 (29.0) 体部下方以下欠損	夾雑物含。並。にぶい黄 橙。	口緑部内・外面横撫。体部内・外面に篦 削。内面に紐作痕あり。	
165 - 1 写34-1	土師器 坏	S J 80 埋土	口径 10.4 完器	夾雑物多。軟。橙。	器面荒れている。内・外面粘土捏合目痕、 篦撫あり。	
165 - 2 写34-2	土師器 ・	S J 80 埋土	口径 10.0 另欠損	夾雑物含。並。明赤褐。	外面篦削後篦研磨、内面篦撫後放射状研磨。	外面黑斑。
165 - 3 写34-3	土師器	S J 80 埋土	口径 (14.0) 口縁部%欠損	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面に横撫。外面粘土捏合目 痕、下方に篦削。内面篦撫。	
165 - 4 写34-4	土師器 坩	S J 80 埋土	口径 8.3 完器	夾雑物含。並。橙。	口縁内・外面横撫、外面紐作痕と篦傷。 体部外面篦傷、下方に篦削。内面篦削。	
165 — 5 写34— 5	土師器 坩・	S J 80 床面	口径 8.6 完器	夾雑物含。硬。にぶい橙。	口緑部内·外面横撫。体部外面上方篦当 痕下方篦削、粘土合目痕。内面撫。	
165 — 6 写34 — 6	土師器 高 坏	S J 80 埋土	口径 16.6 坏部劣底部另欠損	夾雑物含。硬。橙。	口緑内·外面横撫。外面研磨、篦当痕、 内面坏部研磨、脚部篦削、脚端部横撫。	
165 — 7 写34— 7	土師器高 坏	S J 80 埋土	口径 18.5 %欠損	夾雑物含。並。橙。	口緑・脚端部内・外面横撫。外面指頭圧 痕、紐作痕、内面刷毛撫、篦削。	
165 — 8 写35— 8	上師器	S J 80 埋土	脚端径 14.2 坏・脚端部½欠損	夾雑物微。硬。橙。	脚端部内・外面横撫。脚部外面篦削、篦 研磨、内面掻落痕、撫。	
165 — 9 写35— 9	土師器鉢	S J 80 床面	口径 14.3 完器	夾雑物多。並。明赤褐。	外面篦削、粘土捏合目痕、内面上方横方 向の篦撫、下方篦削。	内面燻。
165 -10 写35-10	土師器 小形甕	S J 80 貯蔵穴	口径 12.7 底部、体部%欠損	夾雑物含。並。明赤褐。	口縁部内・外面横撫。頭部外面に紐作痕。 体部外面篦撫、内面篦撫。	内面燻。
165 −11	土師器	S J 80 埋土	口径 21.2 口縁・体部一部欠	夾雑物含。硬。にぶい赤 褐。	口縁部内·外面横撫。体部外面篦研磨、 内面篦削後篦撫。	内・外面燻。
165 —12 写35—12	土師器	S J 80 床面	口径 (28.6) 口禄·体部5/片	夾雑物多。並。にぶい赤 褐。	口縁部内・外面横撫。体部外面篦削、内 面篦撫、紐作痕。	内・外面燻。

図 番 号 写真番号	種器 形	出土位置	量 目(cm) 口径・器高・底径 残 存 状 態	胎 土 ・ 焼	成・色調と摘要	備考
165 —13 写41-試625	須恵器 鉢	S 180 埋土	最大径 13.6	夾雑物微。締。暗灰。	底部突帯面に平行叩目あり。内・外面に 轆轤目あり。	在地製。胎土分析 番号625。

S J81~S J89

図番号 写真番号	種器 形	出土位置	量 目(cm) 口径・器高・底径 残 存 状態	胎 土 · 焼	成・色調と摘要	備考
167 - 1 写35-1	土師器	S J 81 埋土	口径 11.0 口縁部另欠損	夾雑物含。並。にぶい橙。	口緑部外面横撫。体部外面上方に篦研磨、下方に篦削。内面に篦研磨。	黑色処理。
167 — 2 写35 — 2	土師器 坏	SJ81 貯蔵穴	口径 12.5 口縁一部欠損	夾雑物含。硬。橙。	口緑部内・外面横撫。体部外面粘土捏合 目痕、紐作痕、篦削。内面篦撫。	
167 - 3 写35-3	須恵器 瓶	S J 81 埋土	底径 8.3 口縁・体部½欠損	夾雑物多。硬。暗灰。	体部内・外面轆轤目あり。上方に回転篦 削。轆轤右回転。底面調整不明。	
169 - 1 写35-1	土師器	S J 82 貯蔵穴	口径 (13.2) 口縁%体部%欠損	夾雑物含。硬。橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面粘土捏合 目痕、下方篦削。内面撫。	胎土B。
169 - 2 写35-2	土師器 坏	S J 82 貯蔵穴	口径 11.0 口縁%体部%欠損	夾雑物含。硬。灰黄。	口緑部内・外面横撫。体部外面紐作痕、 篦撫、指撫。内面篦撫、篦傷。	内·外面燻。
169 - 3 写35-3	土師器	S J 82 貯蔵穴	口径 18.4 口縁・体部½欠損	夾雑物含。硬。	口縁に棒状工具による押圧、外面上方に 紐作痕。篦撫。篦当痕。内面篦撫あり。	外面燻。
173 - 1 写40-4	土 師 支 脚	S J 85 竈	最大径 7.2 大欠損	夾雑物含。並。淡橙。	外面に指頭圧痕。端部小口にも指頭圧痕 あり。	
173 - 2 写35-2	土師器	S J 85 床面	口径 10.8 完器	夾雑物多。硬。浅黄橙。	口級部内面横撫。体部外面篦削後指撫、 体部下方篦削、内面篦撫、篦当痕あり。	大葉痕。平底。外 面黒斑。
173 - 3 写35-3	土師器	S J 85 床面	口径 9.6 口縁部½欠損	夾雑物多。硬。浅黄橙。	口縁部内・外面横撫。底部外面篦削。体 部内面篦撫と篦当痕あり。	
173 - 4 写36-4	土師器	S J 85 床面	口径 13.6 口縁部34欠損	夾雑物多。並。浅黄橙	口縁部外面横撫。体部外面篦削後撫、内 面は棒状篦研磨がある。	内面黑色処理。
173 - 5 写36-5	土師器	S J 85 床面	口径 17.4 口縁部一部欠損	夾雑物多。硬。橙。	口緑部横撫。体部篦削後撫。底部は篦削。 内面は棒状篦研磨がある。	内面黑色処理。
173 - 6 写36-6	土師器 高 坏	S J 85 竈	口径 12.6 口縁光・脚端部欠	夾雑物含。並。橙。	口縁部外面横撫。脚部外面研磨、内面削。 坏部内面は棒状篦研磨あり。	内面黑色処理。
173 - 7 写36-7	土師器 高 坏	S J 85 床面	口径 15.7 口径%欠損	夾雑物含。軟。にぶい橙。	口縁・脚端部外面横撫。脚部外面削後撫。 坏部内面篦研磨。脚部内面紐作痕あり。	内面黑色処理。
173 - 8 写36- 8	土師器飯	S J 85 床面	口径 16.9 口縁部½欠損	夾雑物含。軟。浅黄橙。	口縁部内・外面横撫。体部下半篦削、穿 孔部内面篦削。内面篦撫と篦当痕。	穿孔一穴。
173 - 9 写36- 9	土師器	S J 85 床面	底径 9.0 体部上半欠損	夾雑物多。並。浅黄橙。	体部外面篦削、内面篦研磨あり。底部内・ 外面篦削がある。	体部外面黑斑。甑穴一。

図 番 号 写真番号	種器 形	出土位置	量 目(cm) 口径・器高・底径 残 存 状態	胎 土 ・ 焼	成・色調と摘要	備考
173 -10 写36-10	土師器	S J 85 床面	最大径 24.0 口縁部一部欠損	夾雑物多。並。浅黄橙。	口縁部内・外面横撫。体部下半・底部篦 削。内面篦削と篦当痕がある。	平底。
173 -11 写36-11	土師器	S J 85 床面	底径 6.3 口縁部ほとんど欠	夾雑物多。並。橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面下半篦削、 内面篦撫と篦当痕あり。	木葉痕。平底。外 面燻。
173 -12 写36-12	土師器 小形壺	S J 85 床面	口径 15.0 完器	夾雑物含。並。橙。	口縁部内・外面横撫、内面に紐作痕。体 部外面篦削、内面に篦当痕がある。	内・外面燻。平底。
174 -13 写36-13	土師器	S J 85 竈	最大径 23.8 体部上半部欠損	夾雑物含。並。浅黄橙。	体部外面篦削後撫である、内面篦撫と篦 当痕がある。	内・外面燻。平底。
174 -14 写37-14	土師器額か	S J 85 床面	口径 24.8 口縁号・下半欠損	夾雑物含。並。浅黄橙。	口緑部内·外面横撫。体部外面篦撫、内 面篦研磨。	外面煤付着。
174 -15 写36-15	土師器	S J 85 床面	口径 (16.7) 口縁%・体下半欠	夾雑物含。並。浅黄橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面篦削と篦 当痕あり。内面篦撫と紐作痕あり。	
174 -16 写37-16	土師器	S J 85 竈	最大径 21.2 体部上半欠損	夾雑物含。並。浅黄橙。	体部外面研磨、凍ハゼ。内面篦撫と篦当 痕・紐作痕あり。	平底。
174 -17 写37-17	土師器	S J 85 床面	残存高 30.0 口縁部・底部欠損	夾雑物含。並。浅黄橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面下方篦削、 内面篦研磨がある。	外面煤付着。
176 - 1 写37-1	土師器 坏	S J 86 埋土	口径 12.8 %欠損	夾雑物多。並。浅黄橙。	口縁部内・外面横撫不明。体部外面篦削、 内面に篦研磨。	黒色処理。
176 – 2	土師器	S J 86 埋土	残存高 7.2 坏·脚底欠損	夾雜物含。並。橙。	脚部外面篦削後撫。脚部内面指による撫 あり。	
176 - 3 写37-3	土師器 飯 か	S J 86 埋土	口径 (23.8) 体部下半以下欠損	夾雑物含。並。にぶい黄 橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面篦削。内 面篦撫。内・外面に紐作痕あり。	外面煤付着。
176 - 4 写37-4	土師器	S J 86 埋土	口径 (25.4) 底部なし½欠損	夾雑物多。並。にぶい橙。	口縁部内·外面横撫。体部外面篦削後撫。 内面は篦撫後研磨。	外面燻。
176 - 5 写38- 5	土師器 蹇	S J 86 埋土	最大径 22.8 口縁部欠損	夾雑物多。並。にぶい橙。	口縁部外面横撫。体部外面篦削、内面は 篦撫。体部内・外面紐作痕あり。	外面燻と煤付着。 平底。
176 - 6 写37-6	土師器	S J 86 床面	最大径 28.4 口端·体下以下欠	夾雑物多。並。明黄褐。	口縁部内・外面横撫。体部内・外面篦撫 と紐作痕あり。	
178 - 1 写38-1	土師器	S J 88 床面	口径 11.0 %欠損	夾雑物多。並。淡黄。	体部外面肌荒ひどく整形不明。内面篦研 磨。	内・外面黒斑。
178 - 2 写38-2	土師器 坏	S J 88 床面	口径 11.0 %欠損	夾雑物含。軟。明黄褐。	口縁部から体部内・外面に横撫あり。底 部内・外面は篦削。	内·外面黑斑。胎 土B。
178 - 3 写38-3	土師器	S J 88 床面	口径 13.6 一部欠損	夾雑物含。軟。明黄褐。	口縁部から体部内・外面に横撫あり。底 部内・外面は篦削。	胎土A。
178 - 4 写38-4	土師器 坏	S J 88 床面	口径 13.4 劣欠損	夾雑物徵。軟。橙。	口縁部外面横撫。体部内・外面篦撫。底 部内・外面篦削。	胎土A。
178 - 5 写38- 5	上師器	S J 88 床面	脚端径 12.6 坏・脚端部欠損	夾雑物多。軟。橙。	脚部外面肌カセていて整形不明。内面篦 撫と紐作痕がある。	

第1章 師 遺 跡

図番号写真番号	種器 形	出土位置	量 目(cm) 口径・器高・底径 残 存 状 態	胎土·焼	成・色調と摘要	備考
180 - 1 写38-1	須恵器 坏	S J 89 埋土	口径 13.0 体部努欠損	夾雑物多。並。厌。	口縁部から体部にかけて内・外面轆轤目 あり。底部回転糸切。轆轤左回転。	
180 - 2 写40-2	須恵器 坏	S J 89 埋土	口径 14.5	夾雑物含。軟。灰。	外面に浅い轆轤目あり。墨書が見られる が、文字不明。轆轤は左回転。	墨書土器。
180 - 3	土師器 坏	S J 89 確	口径 14.0 34欠損	夾雑物多。並。にぶい黄 褐。	口綠部外面橫撫。体部外面篦削後撫、內面篦研磨。	黑色処理。外面燻
180 - 4 写38-4	土師器 飯 か	S J 89 床面	口径 25.3 体部下半以下欠損	夾雑物多。並。にぶい黄 橙。	口縁部内・外面横撫。体部内・外面斃削 後撫。	外面黑斑。内面燻
180 - 5 写38-5	土師器	S J 89 床面	最大径 22.1 口縁・体½欠損	夾雑物多。並。にぶい黄 橙。	体部外面上方篦撫。下方・底部は篦削。 体部内面篦撫。	内・外面燻。平底
180 - 6 写38-6	土師器	S J 89 床面	最大径 17.2 %欠損	夾雑物多。並。にぶい黄 橙。	口縁部内・外面横撫。体部外面下方篦削。 内面篦撫。底部外面篦削。	外面燻。平底。
180 - 7 写38-7	土師器 甕	S J 89 床面	最大径 19.2 体部上半以下欠損		頸部外面から口縁部立上にかけ刷毛撫あ り。頸部内面篦撫あり。	外面煤付着。

			y			
図番号 写真番号	種器 形	出土位置	量 目(cm) 口径・器高・底径 残 存 状態	胎 土 ・ 対	き成・色調と摘要	備考
183 - 2 -14·16 写41	須恵器 特殊器 種			2, 6 i	J 56-1、4はS J 42-2、5はS J 32- はS J 17-1、8はS J 79-1、9はS J 、11はS J 58-1、12はS J 80-13、13は -1、16はS J 47-3を参照。	12. 胎分析625。
183 — 1 写41-試620	須恵器 坏 蓋	B区 表採	口径 11.9 另欠損		めて少。石英粒と白色鉱物粒があり、黒色 地中に白色鉱物粒を特徴的に含。重さは焼 灰色。	胎土分析番号620
183 —15 写41-試624	須恵器 大 甕	29 A -31	口径 (40.5) 口縁部片		大・小の白色鉱物粒が多。他に黒・灰色鉱 はまったく622、623に似る。小気泡を含。	胎土分析番号624
184-1· 2·4~10 写40	小形粗 製士師 器			[[. 마음 [일 [대] 다니 하다 등에는 데 모양 [4명] - 그렇다 먹어보다.	J 3-2、4はS J 3-3、5はS J 17- はS J 3-4、8はS J 16-1、9はS J を参照。	
184 - 3 写40-3	土師器	32 C - 17	口径 (6.2) ½欠損	夾雑物微。軟。橙。	底面篦削、内・外面撫。粗製士師器の中 では、もっとも丁寧。	胎土A。
184 -11 写40-11	土師器	24 B - 38	口径 14.7 口緑部欠損	夾雜物多。並。淡黄灰。	粘土紐作明瞭。内・外面粗雑な撫。底面 に砂付着。	黒斑。平底。
185 - 1 - 8	竈支脚 他			1 はS J 3 - 9、2 はS J 15-3、3 はS J 3 - 8、4 はS J 85- 1、5 はS J 3 - 7、6 はS J 31-1、7 はS J 49-1、8 はS J 3 - 6 を参照。		
186 - 1	土玉			1はSJ42-1を参照。		写39-1。
187-1-2	紡錘車			1 は S J 40-1 、 2 は S	J 50-1 を参照。	写39-1・2。
188-1· 3·4	砥 石			1 it S J 62-1, 3 it S	J 2-2、4はS J 31-2を参照。	写39-1·3·4。
188 - 2 写39-2	砥 石	表採	残存最大長 4.4 7.7 g	図の表面側のみ使用。摩 原石面。原石面を残すた	能は浅。割口は旧時の欠損。図天の小口は め古代の砥石か。	泥岩。
189 - 1	羽口			1はSJ38-14を参照。		写39-1。
190 – 1 ·	灰釉陶 器			1 (\$ S J 11-2, 3 (\$ S	J11- 1 を参照。	写41-1・3。
190 - 2 写41-2	灰釉陶器	20~30 · C 00~ C	口縁部片	内・外面施釉。刷毛塗か。器肉は薄。釉は淡黄緑色を呈し釉掛は薄。		
191-1-2	墨 書			1 はS J 41-4、 2 はS J 89-2 を参照。		写40-1・2。
192 — 1 写42—1·2	軟質陶 器	31 A -47	内耳鍋の口縁部片	内面に耳が貼付られ、耳外面に穿痕あり。外面に煤付着。全体的に 燻される。割口は灰褐色で硬質。		15・16世紀。平野 部製のような胎 土。
192 - 2	同上	B区	箱物の底部片	内・外面撫。外面燻。胎土は夾雑物多、淡褐色で並質。		18世紀頃。在地製。
193 - 1 写42- 1	近世陶 磁 器	B区表 採	碗口縁部片	内・外面に飴釉。口縁部に 体部外面に工具による轆	こやや白土に近い釉掛を行い、口塗をする。 嘘目あり。陶器。	18世紀頃。瀬戸・ 美濃。

図番号写真番号	種器 形	出 土 位 置	量 目(cm) 口径・器高・底径 残 存 状 態	胎土・焼成・色調と摘要	備考
193 - 2 写42- 2	近世陶 磁 器	20~30 B30~40	香炉・碗の口縁部 片	内・外面に濃目の飴釉を施す。内・外面に轆轤目あり。口縁部は外 面側にやや尖り、特徴的。陶器。	18世紀頃。製作地 不明。
193 - 3 写42-3	近世陶 磁 器	45 A 34	小形甕 口縁部片	内・外面に鉄釉。下方に2条の沈線があり、口縁端部は平となる。 陶器。	18世紀以後。製作 地不明。(堺港か)
193 - 4 写42-4	近世陶 磁 器	10~20 B 15~20	残存高1.2 小碗 体部下半片	小碗の另個体で高台部外面が露胎となり、他は透明釉が施される。 貫入多。陶器。	18世紀頃。美濃。
193 - 5 写42- 5	近世陶 磁 器	10~20 B15~20	口径10 小皿口縁 部~底部片	型押の伊万里系塗付皿。内面に文様不詳の染付施文あり。口縁部が 大きく外反し特徴的。染付磁器。	19世紀前半。伊万 利系。
193 - 6 写42-6	近世陶 磁 器	10~20 B15~20	底径(10) 底部片	内面に鉛釉、外面に鉄釉の刷毛掛がなされる。高台は貼付削出。高 台端部に凍ハゼあり。	18世紀前半頃。唐 津系。
193 - 7 写42-7	近世陶 磁 器	表 採	体部片 擂鉢	内面に 6 + a 条の卸目あり。内・外面酸化気味。外面に指頭圧痕あり。焼締陶器。	18世紀頃。信楽焼。
193 - 8 写42-8	近世陶 磁 器	22~26 C 38	底部片 擂鉢	内面に13+ aの卸目あり。内面に擦痕あり。内・外面に鉄釉が施され、底面は拭い取られる。陶器。	18世紀頃。美濃。
193 - 9 写42- 9	近世陶 磁 器	36~38 A 36	底部片 擂鉢	内面に10+α条の卸目あり、内・外面に鉄釉が施され、底面は拭われる。底面に同心円状の工具痕あり。陶器。	18世紀頃。製作地 不明。(堺港か)
193 -10 写42-10	近世陶 磁 器	表 採	体部片 碗	外面に草文を染付する。呉須は淡青色を呈し、発色は良。他は白磁 釉。	18世紀前半。伊万 里系。(波佐見)
193 -11 写42-11	近世陶 磁 器	表採	口径7.7 碗	外面に笹葉か竹葉を染付施文し、他は白磁釉を施す。高台端部のみ 露胎。磁器。	18世紀前半。伊万 里系。(波佐見)
193 -12 写42-12	近世陶 磁 器	表採	口径7.6 仏飯器	底部外面のみ露胎で、他は白磁釉。蝶文、意味不明の染付あり。全 体に黒色鉱物粒を含。	18世紀前半。伊万 里系。(波佐見)
194 - 1 写39-1	石 板	表採	小片 厚 0.25	石板石の隅部で図左側が表面、右側が裏面。裏面は平部隅に削取があり、やや薄。表面側の端に3~5 mm巾で額取の細線が刻まれる。表裏共に平滑で砥石等による水磨が施されている。側部には鋸かっまり、 2	粘板岩。
195 — 1	古 銭	S Z 01	2.6g 径 2.4	新寛永のように見える細い書体である。背面無文。	地金赤目の銅色。
195 — 2	古 銭	S Z 01	2.5g 径 2.3	書体は太くもなく細くもない。背面無文。	地金赤目の銅色。
195 — 3	古 銭	S Z 01	2.6g 径 2.2	やや小ぶりで書体はやや細い。背面「元」。	地金白目の銅色。
195 — 4	古 銭	S Z 01	2.7g 径 2.3	書体は太く古寛永を思わせる。背面無文。	地金真鍮色。写
195 — 5	古 銭	S Z 01	2.2g 径 2.2	書体は細く新寛永のように見える。背面無文。	地金赤目の銅色。
195 — 6	古 銭	S Z 01	2.3g 径 2.4	書体は細く新寛永のように見える。背面無文。	地金黄味の銅色。
196 - 1 写39-1	鉄製品 不詳	31 A 44	最大径 (43.7) 耳部片	錆化の状態は方向性がなく、鋳物か。図のように把手状の耳部が残り、内側には2個所透し部が見られる。どちらが表裏か不明であるが、断面図のように片側が凹む。	
196 — 2				2はSJ2-1を参照。	写39-2。

第2章 鎌倉遺跡

鎌倉 SJ01~09・ほか

図番号写真番号	雅 器 形	出土位置	量 目(cm) 口径・器高・底径 残 存 状態	胎土・焼	成・色調と摘要	備考
202 - 1 写48- 1	弥生土器 兜	S J 01 埋土	口径 (13.2) 体部下半欠損	夾雑物徵。並。橙。	頭部刷毛撫後8+α条で2段以上の波状 文を上から下に施し、下方に3連止12+ α単位の籐状文と6+α単位の波状文が 施される。内面横位の篦研磨。	内・外面燻。
202 — 2 写48— 2	弥生土器 菱	S J 01 床面	残存高 7.2 頸部下半欠損	夾雑物含。並。浅黄。	口縁部は剝離。複口縁。下方に9+α条を単位とする3段以上の波状文を上から下に施し、その下方に1連止の6+α単位の簾状文。内面横位の篦研磨。	
202 - 3 写48-3	弥生土器 坏	S J 01 床面	口径 (10.4) 体部系欠損	夾雑物含。並。橙。	体部外面刷毛目。内面刷毛撫。器全体が 歪む。器肉全体は肥厚し粗雑である。底 部がめくれている。底面も篦削。	内·外面燻。 平底。
202 - 4 写48-4	弥生土器 坏	S J 01 埋土	口径 11.8 %欠損	夾雑物含。並。橙。	体部外面縦方向の篦研磨、内面は横方向 の篦研磨。底面は不定方向の研磨。	外面燻。平底。
202 - 5 写48-5	弥生土器 脚 部	S J 01 埋土	脚端径 13.0 上半欠損	夾雑物多。並。浅黄橙。	外面縦方向の刷毛目。内面は横方向の刷 毛目明瞭で端部に粘土めくれ。	
202 - 6 写48-6	弥生土器 薨	S J 01 埋土	底径 8.6 体部上半欠損	夾雑物多。並。浅黄橙。	外面刷毛目、内面横方向の篦研磨。底部 内面は篦削。	内・外面燻。 平底。
202 - 7 写48- 7	弥生土器 遼	S J 01 床面	最大径 (28.0)	夾雜物多。並。橙。	肩部刷毛撫後7+α条を単位とする4段 以上の波状文を施し、体部は刷毛撫後篦 研磨、内面も刷毛撫後不安方向の篦研磨。	内・外面燻。
203 — 8	弥生土器 高坏?	S J 01 埋土	口縁部片	夾雑物含。並。橙。	口縁部内・外面横撫、顔料も剝落し器面 は荒れ素文である。	赤色顔料塗彩。
203 — 9	弥生土器 高坏?	S J 01 埋土	口縁部片	夾雜物含。並。浅黄橙。	口縁部外面篦研磨、内面横撫、うっすら と波状文が残る。	赤色顏料塗彩。
203 -10	弥生土器 甕	S J 01 埋土	口縁部片	夾雑物徵。硬。赤褐。	口縁部内・外面横撫で割口が非常に シャープである。	
203 -11	弥生土器 夔	S J 01 床面	口縁部片	夾雑物含。並。浅黄橙。	口縁部外面に7+α条の波状文があり、 下方に5+α条の簾状文が施されている。内面に篦研磨あり。	
203 -12	弥生土器 甕	S J 01 埋土	口縁部片	夾雑物含。並。浅黄橙。	口縁部外面は刷毛状工具による撫、内面 は丁寧な篦研磨が施されている。	外面煤付着。内面燻。
203 -13	弥生土器 夔	S J 01 埋土	口縁部片	夾雑物含。並。浅黄橙。	口縁部外面に7 + α条の波状文が施されている。内面には撫がある。	
203 -14	弥生土器 變	S J 01 埋土	口縁部片	夾雑物多。並。浅黄。	口縁部外面に 6 + α条の波状文が施されている。内面は横撫がある。	
203 -15	弥生土器 甕	S J 01 床面	口縁部片	夾雑物含。並。浅黄。	口縁部外面は6+α条を単位とし5段以上の波状文を上から下に施される。内面は丁寧に研磨されている。	口縁部煤付着。

図番号写真番号	種器 形	出土位置	量 目(cm) 口径・器高・底径 残 存 状 態	胎 土 · 燒	成・色調と摘要	備 考
203 -16	弥生土器 甕	S J 01 埋土	口縁部片	夾雑物多。並。浅黄。	外面は6+α条を単位とし4段以上の波 状文が施されている。内面は横撫。	
203 -17	弥生土器 班	S J 01 埋土	口縁部片	夾雑物含。並。浅黄。	外面刷毛撫後6+α条を単位とし3段以上の波状文が施されている。内面は横撫 あり。	
203 -18	弥生土器 逃	S J 01 床面	口縁部片	夾雑物多。並。浅黄。	復口縁で、6+α条を単位とする波状文 が口縁部外面にある。内面は横撫。	
203 -19	弥生土器 甕	S J 01 床面	口縁部片	夾雑物多。軟。黄橙。	復口縁で、内・外ともに素文。器面は荒 れている。	
203 -20	弥生土器 甕	S J 01 埋土	頸部片	夾雑物含。並。黄橙。	外面に7+α条の簾状文を施し下方に斜 の線刻文が施されている。	
203 -21	弥生土器 甕	S J 01 埋土	頸部片	夾雑物含。並。浅黄。	外面に波状文が施されているが単位は不 明。内面は篦研磨がある。	内・外面燻。
203 -22	弥生土器 燛	S J 01 埋土	類部片	夾雑物含。並。浅黄。	外面上方に懸垂文と簾状文、下方に刷毛 目あり。内面にも刷毛目が施される。	
203 -23	弥生土器 甕	S J 01 床面	頸部~体部片	夾雑物含。並。橙。	頭部外面に単位不明の波状文。下方に6 + α条の簾状文、6 + αの波状文がある。 内面には刷毛目が施されている。	
203 -24	弥生土器 変	S J 01 埋土	類部片	夾雑物含。硬。浅黄。	6+α条の簾状文を施し、その下方に5 +α条の波状文あり。内面篦研磨。	内・外面燻。
203 -25	弥生土器 死	S J 01 床面	体部片	夾雑物含。硬。橙。	2+α条の簾状文が施され下方に5+α 条の波状文。内面に篦研磨あり。	内・外面燻。
203 -26	弥生土器 発	S J 01 埋土	体部片	夾雑物含。硬。浅黄。	外面には刷毛目が施され、内面は刷毛撫 がある。	
203 -27	弥生土器 遼	S J 01 埋土	頸部片	夾雑物含。並。浅黄。	不明瞭な波状文があり中位に 2 連止の籐 状文で、下方に波状文。内面研磨。	内・外面黒斑。
203 -28	弥生土器 甕	S J 01 埋土	体部片	夾雑物多。並。浅黄。	療状文と下方に単位不明な波状文あり。 内・外面ともに器面荒れる。	
204 -29	弥生土器 薨	S J 01 埋土	体部片	夾雑物多。並。橙。	5 + a 条の波状文がある。内面には篦研 磨が施されている。	内面燻。
204 -30	弥生土器 - 変	S J 01 埋土	体部片	夾雑物多。並。浅黄。	単位等不明瞭な波状文が施されている。 内面には刷毛撫がある。	外面燻。
204 -31	弥生土器 高 坏	S J 01 埋土	脚部片	夾雑物含。硬。にぶい橙。	外面篦削後撫、端部は横撫。内面にも横 撫が施されている。器肉は厚。	
204 -32	弥生土器 高 坏	S J 01 埋土	脚部片	夾雑物含。硬。浅黄。	外面に細かく丁寧な研磨を施し、内面も 研磨が見られる。	
204 -33	弥生土器 高 坏	S J 01 床面	脚部片	夾雑物含。並。浅黄。	外面に刷毛目を施し脚部内面は篦撫、坏 部は研磨してある。器肉は全体的に厚い 仕上げである。	

図番号 写真番号	番 形	出土位置	量 目(cm) 口径・器高・底径 残 存 状 態	胎土·焼	成・色調と摘要	備考
204 -34	弥生土器 高 坏		脚部片	夾雑物多。並。橙。	脚部内・外面篦撫があり。坏部内面に撫 あり。	
204 -35	弥生土器 坏 か	S J 01 埋土	体部片	夾雑物含。並。橙。	外面に篦削がある。内面は篦撫あり。全 体的に粗雑である。	
204 -36	弥生土器 甕	S J 01 埋土	底部片	夾雜物多。硬。橙。	外面に横撫あり。内面は篦研磨が施され ている。素文である。底面は厚。	内・外面燻。 平底。
204 -37	弥生土器 燛	S J 01 床面	底部片	夾雑物多。並。黄橙。	外面は篦削が見られ、内面は丁寧に撫である。器肉は厚い仕上げである。	平底。
206 — 1 写48— 1	弥生土器 鉢 か	S J 02 埋土	口径 (20.5) 底部、体部%欠損	夾雑物含。並。にぶい橙。	外面篦削後上・下方向の篦研磨が施され る。内面横方向の篦研磨。	外面燻。 内面黑斑。
206 – 2	弥生土器 骁	S J 02 埋土	口径 (15.0) 口縁~体部片	夾雑物微。並。にぶい橙。	頭部立上と肩部に9+α条で2段以上の 波状文を上から下に施し、その後頸部に 12+α条で2連止とし2+α単位の籐状 文を施す。内面篦研磨。	内・外面燻。
207 — 3 写48— 3	弥生土器 甕	S J 02 床面	底径 6.8 口縁~体部分欠損	夾雑物含。硬。にぶい赤 褐。	顕部に8+α条で1連止7+α単位の簾 状文を施し後に立上と体部に波状文を施 す。立上の波状文は単位不明。肩部8+ α条で2段の波状文は下から上に施す。 内・外面篦研磨。	外面燻。
207 — 4	弥生土器 瓷	S J 02 床面	口径 20.4 体部下半欠損	夾雜物含。硬。橙。	頭部に9+α条で全周26ヶ所の多連止簾 状文、後に頸部立上に10+α条7段、肩 部に8+α条1段の波状文。外面横方向 に篦研磨と刷毛目、内面刷毛撫。	内・外面黑斑。
206 - 5 写48- 5	禁生土器 逐	S J 02 埋土	類部径 15.6 類部片	夾雑物含。並。にぶい黄 橙。	顕部に連止のない8+ a条の簾状文が2 段入りその間2+ a単位で上・下方向の 7+ a条を単位とする懸垂文が入る。肩 部波状文入るが単位不明瞭。内面凍ハゼ と刷毛撫。	
207 — 6	新生土器 台付薨	S J 02 埋土	口縁~体部片	夾雑物含。並。にぶい橙。	類部立上に波状文が入るが不明瞭。その 後頸部に8+α条で1連止とし2+α単 位の簾状文を施す。内面篦研磨。	内面黑斑。
207 — 7	弥生土器 甕・壺	S J 02 埋土	口縁部片	夾雑物含。並。にぶい褐。	顕部立上に7+α条を単位とし3段以上 の波状文を施す。内面篦研磨。	
207 - 8	弥生土器 甕・壺	S J 02 埋土	口縁部片	夾雑物含。並。にぶい橙。	頸部立上に5+α条を単位として2段以上の波状文を施す。内面刷毛撫。	
207 — 9	弥生土器 甕・壺	S J 02 埋土	口縁部片	夾雜物含。軟。浅黄橙。	口縁部立上に波状文が施されるが風化の ため単位不明瞭。複口縁。	
207 -10	弥生土器 蹇・壺		口縁部片	夾雑物含。硬。明赤褐。	頸部立上に8+α条を単位とし3段以上 の波状文を施す。内面刷毛撫。	
207 -11	弥生土器 變	S J 02 埋土	口縁部片	夾雑物徴。硬。にぶい赤 褐。	立上に6+α条を単位とし4段の波状文 を施す。頭部に7+α条で欠損し、連止 単位不明の籐状文。内面篦研磨。	

図番号 写真番号	種器 形	出土位置	量 目(cm) 口径・器高・底径 残 存 状 態	胎土・焼	成・色調と摘要	備考
207 -12	弥生土器 甕・壺	S J 02 埋土	口縁部片	夾雑物含。硬。灰褐。	口縁部複口縁で横撫あり。外面素文。内 面撫。	
207 -13	弥生土器 甕・壺	S J 02 埋土	口縁部片	夾雑物含。並。浅黄橙。	口緑部模口縁。口縁部立上に波状文ある が器面荒れて単位不明瞭。	
207 -14	弥生土器 甕・壺		口縁部片	夾雑物含。並。浅黄橙。	口緑部複口緑で6+α条の波状文あり。 頸部立上に7+α条の単位で2段以上の 波状文が施される。	
207 -15	弥生土器 遼	S J 02 埋土	口縁部片	夾雑物含。並。浅黄橙。	口縁部複口縁で波状文あり。頸部立上7 + α条を単位とし3段以上の波状文が上から下に施される。頸部に4+α条で2 連止で1+α条の籐状文あり。	
207 -16	弥生土器 甕・壺	100000000000000000000000000000000000000	口縁部片	夾雑物含。硬。にぶい橙。	口縁部複口縁で6+α条の波状文。立上 に7+α条単位で2段以上の波状文が施 される。	
207 -17	弥生土器 甕・壺	S J 02 埋土	体部片	夾雑物含。並。にぶい赤 褐。	ボタン状貼付文あり、中に刺突による施 文が施される。	多面燻。
207 -18	弥生土器 斃	S J 02 埋土	頸部片	夾雑物含。硬。にぶい橙。	立上に7+α条で2段以上、肩部に7+ α条の波状文。頸部に8+α条で1連止 の簾状文あり。内面篦研磨。	内・外面燻。
207 -19	弥生土器 甕・鉢	S J 02 埋土	底部片	夾雑物含。硬。にぶい橙。	内・外面に丁寧な蓮研磨が施される。底 面篦調整。	平底。
207 -20	弥生土器 甕・壺	S J 02 埋土	底部片	夾雑物含。硬。にぶい橙。	外面篦削後刷毛状工具により撫。粘土捏 合目痕。内面指撫。	平底。
207 -21	弥生土器 甕・壺	S J 02 埋土	底部片	夾雑物含。硬。にぶい黄 橙。	外面に丁寧な撫が施される。粘土の合目 で剝離されている。	平底。
207 -22	弥生土器 壺	S J 02 埋土	底部片	夾雑物含。並。にぶい黄 橙。	外面に刷毛状工具による撫が施される。 底部篦削。内面剝離されている。	平底。
209 - 1	弥 生高 坏	S J 03 埋土	口径 4.8 口縁部一部欠損	夾雑物含。硬。淡褐。	嵩なく重い。小形粗製の高坏で、坏部内 面に折り返し。指頭圧痕多。脚部外面に 絞目あり。	本遺跡で小形粗製 土器は本例のみ。
209 - 2 写48-2	弥生土器 高 坏	S J 03 埋土	現存高 5.2 坏・底部欠損	夾雑物含。並。橙。	脚部外面に篦削がある。内面に刷毛状工 具による撫がある。	黒色処理化。
209 - 3 写48-3		S J 03 埋土	口径 (9.7) 口縁~体部片	夾雑物含。並。浅黄橙。	口縁部に7+α条単位の波状文。体部上 方に5+α条単位の波状文。その下方に 篦研磨がある。内面に篦研磨あり。	
209 - 4 写48-4	弥生土器 小形薨	S J 03 埋土	口径 (11.0) 口縁~体部片	夾雑物含。並。橙。	複口縁部に3+α条単位の波状文。頸部 に4+α条単位の波状文が3段施され る。体部に刷毛状工具による撫があるが 単位不明瞭。内面に篦削あり。	5
209 - 5 写48-5	弥生土器 坏	S J 03 埋土	底径 (9.0) 体部3・底部5次	夾雜物含。並。橙。	体部外面に刷毛目後篦研磨。底部に篦削 あり。内面に刷毛目がある。	黑色処理化。 平底。

図番号写真番号	種器 形	出土位置	量 目(cm) 口径・器高・底径 残 存 状態	胎土·焼	成・色調と摘要	備考
209 - 6 写48- 6	弥生土器 壺	S J 03 床面	口縁 (26.0) 体部下半欠損	夾雑物微。並。浅黄橙。	複口縁部に刷毛による削。顕部立上に篦削と刷毛目。体部上方による条痕文あり。 その間に6+α条を単位とする懸垂文が 入りその下に円形貼付ボタン文。内面に 篦研磨、刷毛目。	Contract Con
209 - 7 写48-7	弥生土器 鉢	S J 03 床面	底径 16.0 上半欠損	夾雜物含。並。橙。	体部外面に紐作、篦削、篦研磨。内面に 紐作、刷毛目、篦撫がある。	内面燻。平底。 外面黑斑。
210 - 8	弥生土器 鉢 か	S J 03 埋土	口縁部片	夾雑物含。並。明赤褐。	口縁の摩耗が著しく横撫は不明である。 外面の篦研磨は、単位不明瞭である。	外面黒斑。 赤色顔料塗彩。
210 - 9	弥生土器 小形	S J 03 埋土	口縁部片	夾雑物含。並。浅黄橙。	口縁部から体部上方にかけ不明瞭な波状 文が施される。	
210 -10	弥生土器 甕・壺	S J 03 埋土	口縁部片	夾雑物含。並。橙。	口縁部に4+α条を単位として4段以上 の波状文が施される。	内面黑斑化。
210 -11	弥生土器 小形甕	S J 03 埋土	口縁部片	夾雑物含。硬。橙。	口縁部に波状文が施されているが単位は 不明瞭である。	内·外面燻。
210 -12	弥生土器 甕・壺	S J 03 埋土	口縁部片	夾雑物微。並。褟。	口縁部に6+α条を単位として4段以上 の波条文が施される。	内・外面燻。
210 -13	弥生土器 甕・壺	S J 03 埋土	口縁部片	夾雑物含。並。橙。	口縁部に5+α条を単位として3段以上 の波状文が施される。	内·外面燻。
210 -14	弥生土器 甕・壺	S J 03 埋土	口縁部片	夾雑物微。並。にぶい橙。	口縁部に6+α条を単位として4段以上 の波状文が施される。	
210 -15	弥生土器 売・壺	S J 03 埋土	口縁部片	夾雑物微。並。にぶい黄 橙。	口縁部は複口縁であり、内・外面は素文 である。	
210 -16	弥生土器 甕・壺	S J 03 埋土	口縁部片	夾雑物含。並。にぶい黄 橙。	複口縁で、口縁端部に刻目がある。内面 に横撫が見られる。	
210 -17	弥生土器 甕・壺	S J 03 埋土	類部片	夾雑物微。並。橙。	顕部に5+α条単位の波状文3段以上。 その下方に単位不明の簾状文あり。	
210 -18	弥生土器 甕・壺		頸部片	夾雑物含。並。にぶい橙。	顕部上方に不明瞭な波状文。顕部に8+ α条の簾状文あり。その下方に8+α条 単位の波状文が2段以上施される。	
210 -19	弥生土器 甕・壺	S J 03 埋土	類部片	夾雑物徵。並。浅黄橙。	頸部に7+α条の簾状文。下方に5+α 条を単位、2段以上の波状文。	
210 -20	弥生土器 甕・壺		類部片	夾雑物含。並。橙。	頭部に8+α条の籐状文、下方に5+α 条を単位、2段以上の波状文。	
210 -21	弥生土器 甕・壺		類部片	夾雑物微。並。橙。	頸部上方に不明瞭な波状文あり。頸部に 8+α条の簾状文を施す。その下方に不 明瞭な波状文がある。	
210 -22	が生土器 甕・壺	S J 03 埋土	類部片	夾雑物含。並。橙。	頸部立上に6+α条単位の波状文が4段 以上施される。顕部に8+α条の簾状文 がある。	

図 番 号 写真番号	種器 形	出土位置	量 目(cm) 口径・器高・底径 残 存 状 態	胎 土 ・ 焼	成・色調と摘要	備考
210 -23	弥生土器 甕・壺	S J 03 埋土	頸部片	夾雑物含。並。にぶい黄 橙。	類部に5+α条の簾状文あり。その下方 に5+α条単位の波状文が3段以上施される。	II
210 —24	殊生土器 甕・壺	S J 03 埋土	底部片	夾雑物多。並。橙。	器肉は厚、接合痕が見られる。内・外面 は素文である。	平底。
210 —25	弥生土器 甕・壺	S J 03 埋土	底部片	夾雑物含。並。にぶい橙。	底部に篦削が施される。内面は風化し整 形不明瞭である。	平底。
210 —26	弥生土器 甕・壺	S J 03 埋土	底部片	夾雑物微。並。にぶい黄 橙。	体部外面下方から底部にかけ篦研磨が施される。	平底。
210 -27	弥生土器 甕・壺	S J 03 埋土	底部片	夾雑物含。並。にぶい黄 橙。	体部外面下方に篦削が施される。内面に は撫が見られる。	平底。
210 -28	弥生土器 甕・壺	S J 03 埋土	底部片	夾雑物含。並。にぶい黄 橙。	体部外面下方に篦研磨が施される。内面 には撫が見られる。	平底。
212 - 1 写49-1	弥生土器 小形甕	S J 04 埋土	底径 (8.2) 口縁~底部欠損	夾雑物含。並。暗赤。	体部外面下方に篦削後篦研磨あり。内面 体部下方に篦研磨あり。	赤色顏料塗彩。
212 - 2 写49- 2	弥生土器 壺	S J 04	口径 (26.0) 口縁部分以下欠損	夾雑物含。並。橙。	複口縁で口縁部に刻あり。その下に刷毛 撫あり。頸部に簾状文が8+a条単位の 4連止が推定4連位巡る。口縁部内面に 研磨・凍ハゼあり。	赤色顏料塗彩。
212 — 3 写49— 3	茶生土器 瓷	S J 04 炉	胴径 (26.7) 体上面另以下欠損	夾雑物含。並。赤褐。	顕部に連止のない7 + α条の懸垂簾状文が入り、その間2単位で上・下方向の7 + α条を単位とする懸垂文も入り、その下方に円形貼付ボタン文あり。内面に刷毛撫あり。	
212 - 4	就生土器 高 坏	S J 04 埋土	底部片	夾雑物含。並。橙。	底部外面に研磨あり。底部内面に篦削・ 刷毛状工具により撫あり。	赤色顏料塗彩。
212 - 5	弥生土器 高 坏	S J 04 床面	底部片	夾雑物含。並。赤褐。	底部外面に篦削・篦撫あり。底部内面に 篦撫あり。	
212 - 6	弥生土器 薨	S J 04 埋土	口縁部片	夾雑物多。軟。暗赤。	口縁部に7+α条を単位とする波状文が 下から上に入る。内面には篦撫あり。	
212 - 7	弥生土器 甕	S J 04 埋土	口縁部片	夾雑物含。並。褟。	口縁部に6+α条を単位とする波状文が 入る。内面には接合痕あり。	
212 - 8	殊生土器 甕・壺	S J 04 床面	口縁部片	夾雑物含。並。裼。	複口縁で口縁部に刻が施される。その下 に7+α条の刷毛目痕あり。	
212 — 9	弥生土器 薨・ 壺	S J 04 埋土	口縁部片	夾雑物多。並。橙。	口縁部は複口縁である。内面には篦削あり。	
212 -10	弥生土器 甕・壺	S J 04 炉	頸部片	夾雑物含。硬。赤褐。	顕部に5+α条で2連止の簾状文を施す。その下に6+α条の波状文あり。	
212 -11	弥生土器 麦・壺	S J 04 埋土	頸部片	夾雑物含。硬。赤褐。	頸部に7+α条で1連止の簾状文を施す。その下に7+α条の波状文あり。	

図番号 写真番号	種器 形	出土位置	量 目(cm) 口径・器高・底径 残 存 状 態	胎土·焼	成・色調と摘要	備考
212 -12	弥生土器 甕・ 壺	S J 04 埋土	体部片	夾雑物含。並。褟。	顕部に8+α条の簾状文あり。下に8+ α条の波状文あり。内面に篦撫あり。	
212 -13	弥生土器 甕・壺	S J 04 床面	体部片	夾雑物含。並。褟。	類部に 3 + α 条の籐状文あり。その下に 7 + α 条の波状文あり。	
212 -14	弥生土器 甕・壺	S J 04 埋土	体部片	夾雑物含。並。明赤褐。	顕部に10+α条の簾状文あり。 2 連止 1 個所あり。下部に10+α条波状文有。	内面燻。
212 -15	弥生土器 甕・壺		体部片	夾雑物含。並。橙。	体部外面に鋸歯文帯と釦状貼付文あり。 内面に刷毛目痕あり。	
212 -16	弥生土器 甕・壺	S J 04 炉	体部片	夾雑物多。並。褟。	体部外面に刷毛状工具による刷毛撫あり。内面に刷毛目痕あり。	外面燻。
212 -17	弥生土器 甕・壺		底径 2.8 底部片	夾雑物多。並。赤褐。	底部外面に刷毛目痕あり。内面に篦削痕 あり。割口に接合痕あり。	内·外面燻。 平底。
212 -18	弥生土器 蹇・壺	S J 04 埋土	底径 (3.3) 底部片	夾雑物含。硬。赤。	底部外面に剛毛状工具による刷毛撫あり。内面に篦削あり。接合痕あり。	平底。
214 - 1 写49-1	弥生土器 高 坏	S J 05 埋土	残存高 7.5 脚・坏½欠損	夾雑物含。硬。赤褐。	体部外面刷毛撫後篦研磨あり。内面に篦 研磨あり。	赤色顔料塗彩。
214 - 2 写49-2	弥生土器 高 坏	S J 05 床面	底径 15.0 坏部欠損	夾雑物含。並。浅黄橙。	内・外面に刷毛撫あり。上方に粘土捏合 目痕あり。	
214 - 3 写49-3	弥生土器 小形 莞	S J 05 床面	口径 10.0 口縁部一部欠損	夾雑物徵。並。浅黄橙。	口縁部から頸部にかけ5+α条を単位と する波状文が6段以上ある。体部外面に 刷毛撫後篦研磨。内面刷毛撫あり。	
214 - 4 写49-4	弥生土器 小形甕		口径 (14.0) 口縁~体部片	夾雑物含。軟。橙。	口緑部から頸部にかけ4+α条を単位と する波状文が5段以上ある。体部内・外 面に篦研磨あり。風化。	胎土分析番号616。
215 - 5	弥生土器 高 坏		残存高 3.1 脚部片	夾雑物微。硬。にぷい赤 褐。	坏底部内面篦研磨。体部外面に篦研磨、 内面に紐作痕あり。	
215 - 6	弥生土器 甕・壺		口縁部片	夾雑物徴。並。にぶい橙。	口縁部内・外面素文であり、割口は シャープである。	
215 - 7	弥生土器 甕・壺		口縁部片	夾雑物含。並。にぶい褐。	口緑端部内・外面横撫あり。内・外面にやや燻がかかる。	
215 - 8	弥生土器 甕・壺		口縁~頸部片	夾雑物含。並。にぶい黄 橙。	口縁部に4+α条の波状文が2段以上ある。頸部に3+α条の籐状文あり。	
215 — 9	弥生土器 甕・壺		口縁~頸部片	夾雑物含。並。灰褐。	頸部に2連止で7+α条の籐状文あり。 その後に6+α条の波状文が2段以上ある。内面篦研磨。	外面に燻。
215 -10	弥生土器 甕・壺		口縁~頸部片	夾雑物含。並。にぶい黄 橙。	頭部に8+α条の簾状文。後に6+α条 の波状文が2段以上。内面篦研磨。	
215 -11	弥生土器 甕・壺	S J 05 埋土	口縁~頸部片	夾雑物含。並。にぶい黄 橙。	刷毛撫後4+α条の波状文が6段以上。 後3+α条の簾状文。内面篦研磨。	内面に燻。

図番号写真番号	程 器 形	出土位置	量 目(cm) 口径・器高・底径 残 存 状態	胎土·焼	成・色調と摘要	備考
251 -12	弥生土器 甕・壺	SECTION AND ADDRESS OF	口縁部片	夾雑物含。並。にぶい黄 橙。	外面に 5 + α条の波状文が 5 段以上ある。内面篦研磨。	内面に燻。
215 —13	弥生土器 甕・壺	A STATE OF THE PARTY OF THE PAR	口縁部片	夾雜物多。軟。淡橙。	内・外面共風化。割口の摩耗が箸しい。 複口縁である。	
215 -14	弥生土器 甕・壺		口縁部片	夾雑物含。並。にぶい黄 褐。	複口縁に4+α条の波状文あり。その下 に7+α条の波状文が2段以上ある。	
215 —15	弥生土器 甕・壺		口綠部片	夾雑物含。並。にぶい褐。	複口縁に4+α条の波状文が2段以上ある。その下に6+α条の波状文あり。	
215 -16	弥生土器 甕	S J 05 埋土	頸部片	夾雑物含。並。褐灰。	外面に 4 + α条の波状文が 3 段以上ある。内面刷毛撫あり。	内・外面燻。
215 -17	弥生土器 甕	S J 05 埋土	頸部片	夾雑物含。並。褐灰。	外面に5+α条の波状文が3段以上ある。内面篦研磨あり。	内・外面燻。
215 -18	弥生土器 甕・壺	S J 05 埋土	口縁部片	夾雑物含。並。にぶい黄 褐。	模口縁に 6 + α条の波状文が 2 段以上ある。その下に 8 + α条の波状文が 4 段以上ある。内面篦研磨。	
215 -19	弥生土器 甕	S J 05 床面	頸部片	夾雑物含。並。にぶい橙。	外面に5+α条の波状文が2段以上ある。内面篦撫あり。	
215 -20	弥生土器 変	S J 05	体部片	夾雑物含。並。にぶい黄 橙。	外面に不明瞭な波状文がある。内面には 撫がある。	
215 -21	弥生土器 甕	S J 05 埋土	類部片	夾雜物徵。並。浅黄橙。	類部に7+α条の簾状文がある。その下 方に不明瞭な波状文が施される。	
215 -22	殊生土器 壺	S J 05 床面	体部片	夾雑物徴。並。にぶい褐。	外面に刷毛状工具による撫あり。内面は 素文である。	
215 -23	弥生土器 班	S J 05 埋土	頸部片	夾雑物含。並。にぶい褐。	顕部立上に 5 + α条の波状文が 2 段以 上。頸部に 2 連止 5 + α条の簾状文。	
215 -24	弥生土器 甕	S J 05 埋土	類部片	夾雑物微。並。にぶい褐。	顕部立上に5+α条の波状文が2段以上。類部に2連止10+α条の簾状文。	
215 —25	弥生土器 変	S J 05 埋土	頸部片	夾雑物含。並。にぶい黄 褐。	顕部立上に4+α条の波状文。頭部に6 +α条の簾状文がある。その下方に4+ α条の波状文が施される。	内面燻。
215 —26	弥生土器 瓷	S J 05 埋土	体部片	夾雑物微。並。にぶい黄 褐。	体部上方に不明瞭な波状文あり。その下 方に篦研磨が施される。内面に篦撫。	内・外面燻。
215 -27	弥生土器 甕・壺	S J 05 埋土	体部片	夾雑物微。並。にぶい黄 褐。	外面には不明瞭な波状文が施され、内面 には撫が見られる。	外面燻。
215 -28	弥生土器 甕・壺	S J 05 埋土	底部片	夾雑物含。並。明赤褐。	体部外面下方から底部にかけ篦研磨が施 される。内面に篦研磨がある。	平底。
215 —29	弥生土器 甕・壺	S J 05 埋土	底部片	夾雑物含。並。にぶい黄 橙。	内・外面素文である。体部外面下方にわずか剝離が見られる。	平底。

図 番 号 写真番号	種器 形	出土位置	量 目(cm) 口径・器高・底径 残 存 状態	胎 土 · 焼	成・色調と摘要	備 考
215 -30	弥生土器 大形壺	S J 05 埋土	底部片	夾雑物含。並。にぶい黄 褐。	内・外面素文である。内面が剝離されて いる。	
217 - 1 写49-1	弥生土器 小形 甕		残存高 6.0 口縁部欠損	夾雑物含。並。浅黄橙。	体部上方に3+α条を単位とする波状文 が下から上に施文。それ以下上下方向の 篦研磨、内面横方向の研磨。	平底。
217 2 写49— 2	弥生土器 壺	S J 06 床下	残存高 13.8 口縁部欠損	夾雑物含。硬。にぶい黄 橙。	顕部外面12+ α条の簾状文が2連止でなされるが単位不明。外面篦研磨、内面刷毛撫してあるが肌荒れしている。	平底。
217 — 3 写49— 3	弥生土器 小形變	S J 06 床面	残存高 11.2 口縁部欠損	夾雑物含。並。にぶい橙。	類部外面に7+α条を単位とする波状文 がなされる。外面上下方向の篦研磨、内 面不定方向の篦研磨。	
217 — 4 写49— 4	弥生土器 - 壺	S J 06 埋土	残存高 8.6 上半欠損	夾雑物含。硬。にぶい赤 祸。	外面上下方向の研磨後上方に横方向の研 磨あるが、焼・凍ハゼにより器面荒れて いる。内面は篦研磨。	平底。
217 — 5 写49— 5	弥生土器 瓷	S J 06 床面	残存高 12.7 下半欠損	夾雑物含。並。にぶい。	類部に 6 + α条の 2 連止の単位不明の簾 状文が 2 段ありその後に 6 + α条を単位 とする波状文が口縁に 3 段体部に 2 段あ る。その下は外面上下方向、内面横方向 の篦研磨がある。	
217 — 6 写49— 6	弥生土器 薨	S J 06 床面	器高 21.0 ½欠損	夾雑物多。並。橙。	外面刷毛撫後口縁部にむかって6+αを 単位とする波状文がなされる。下方は上 下方向の篦研磨。口縁部から頸部内面に かけてはっきりとした刷毛撫。	
218 — 7 写49— 7	殊生土器 壺	SJ06 貯蔵穴	残存高 34.5 口縁欠損	夾雑物多。並。浅黄橙。	外面刷毛撫後、頸部に8+αを単位とする2連止の簾状文が推定10単位で2段にあり、その下に7+α条の波状文が2段、体部下方は篦削。内面上は篦撫、下は刷毛撫がなされている。	外面体部下半燻。
218 - 8 写49-8	弥生土器 壺	S J 06 床面	底径 9.5 上半欠損	夾雑物多。並。にぶい黄。	体部内・外面篦撫。底部外面篦削される。 内・外面ともに肌荒れしている。	平底。
218 — 9	弥生土器 小形 甕	S J 06 床面	口縁部片	夾雑物含。並。にぶい赤 褐。	口縁部外面に簾状文がある。内面は篦研 磨。	内·外面燻。 平底。
218 -10	弥生土器 薨	S J 06 埋土	口縁部片	夾雑物含。並。にぶい黄 橙。	頸部に簾状文を施し、その後口縁部に波 状文がある。単位不明。内面篦研磨。	
218 -11	弥生土器 變	S J 06 埋土	口縁部片	夾雑物含。並。にぶい黄。	口縁部外面に 6 + α条の波状文がある。 その下方に簾状文があり内面は篦研磨。	内面燻。
218 -12	弥生土器 甕	S J 06 埋土	口縁部片	夾雑物含。並。橙。	口縁端部刻目痕あり。口縁部外面 4 + α 条を単位とした波状文。内面篦削。	
218 -13	弥生土器 夔	SJ06 貯蔵穴	口縁部片	夾雑物含。並。にぶい黄 橙。	口縁部外面立上に上方へ向かって6+α 条の波状文がある。内面篦研磨。	
218 -14	弥生土器 甕・壺	S J 06 埋土	体部片	夾雑物含。並。にぶい褐。	外面に4+α条を単位とした波状文があ る。内面に篦研磨あり。	外面燻。

図番号写真番号	種器 形	出 土位 置	量 目(cm) 口径・器高・底径 残 存 状 態	胎 土 · 焼	成・色調と摘要	備考
218 -15	弥生土器 甕・壺	S J 06 床面	体部片	夾雑物含。並。にぶい黄 橙。	外面に 6 + α 条単位の波状文が 3 段以上 施される。内面研磨。	
218 -16	弥生土器 壺	S J 06 床面	体部片	夾雑物含。並。浅黄橙。	外面に不明瞭な波状文が施されている。 内面は素文。	
218 -17	弥生土器 甕・壺	S J 06 埋土	頸部片	夾雑物徵。並。橙。	顕部立上に 6 + α 条の波状文が 3 段以上、下方に 7 + α 条単位の簾状文が 2 連止。内面篦研磨。	
218 -18	弥生土器 甕・壺	S J 06 埋土	体部下方・底部片	夾雑物含。並。にぶい黄 橙。	体部外面下方は素文である。内面に紐作 痕がある。	内面燻。 平底。
220 - 1 写50-1	弥生土器 鉢	S J 07 埋土	口径 14.2 底部欠損	夾雑物含。硬。赤。	内・外面ともに滑択を意識した研磨が施 される。口縁・底部凍ハゼあり。	赤色顔料塗彩。
220 - 2 写50-2	弥生土器 高 坏	S J 07 床面	底径 11.0 坏部 ½ 欠損	夾雑物含。並。にぶい黄 橙。	外面上方篦研磨。脚部下方刷毛状工具に よる撫。坏・脚部内面篦研磨。	
220 - 3 写50-3	弥生土器 鉢	S J 07 床面	口径 12.7 口縁部も欠損	夾雑物含。並。にぶい黄 橙。	口縁部横方向・体部上下方向の篦研磨。 底部粘土のめくれあり。内面篦研磨。	外面燻・黒斑。 平底。
220 - 4 写50-4	弥生土器 小形 壳	S J 07 埋土	底径 7.0 体部上半欠損	夾雑物含。並。にぶい褐。	体部外面上・下方向の篦研磨。底面篦研磨。内面篦撫。	内·外面燻。 平底。
220 - 5 写50-5	弥生土器 小形 甕	S J 07 床面	口径 12.6 分類	夾雑物含。並。にぶい橙。	口縁部から肩部9+α条の単位で3段以上の波状文。体部外面上方横方向、下方上・下方向の篦研磨。内面篦研磨。	内·外面燻。 平底。
220 - 6 写50-6	弥生土器 小形 甕	S J 07 床面	底径 (8.2) 底部片	夾雑物含。並。にぶい黄 橙。	外面篦撫。篦削、紐作痕あり。内面篦撫 後篦研磨。	平底。
220 — 7 写50— 7	弥生土器 蹇	S J 07 埋土	口径 14.2 上半ま・下半欠損	夾雑物含。並。にぶい橙。	口縁部から肩部にかけ刷毛撫後、15+α 条で4段以上の波状文、その下に篦研磨 を施す。内面横方向の研磨。	
220 — 8 写50— 8	弥生土器 蹇	S J 07 柱·掘	口径 (14.8) 上半音・下半欠損	夾雑物含。並。淡橙。	口縁部下から肩部に刷毛撫後、7 + α条で7段以上の波状文。体部上下方向の篦 研磨。内面篦研磨。	内・外面燻。
220 — 9 写50— 9	弥生土器 甕	S J 07 埋土	口径 16.5 体部下半欠損	夾雑物含。硬。にぶい赤 褐。	顕部に9+α条で全周20+αケ所の多連 止簾状文を施し後に頸部立上に8+α条 で6段以上・肩部に欠損のため単位不明 の波状文。内面篦研磨。	
220 -10 写50-10	弥生土器 塑	S J 07 炉	口径 (19.3) 口縁き・底部・体 部一部欠損	夾雑物含。並。にぶい橙。	口縁部から肩部に刷毛撫。頸部に8+α 条2連止で推定12単位の簾状文を施し、 後に立上に7+α条で5段以上、肩部に 7+α条で2段以上の波状文を施す。体 部下半・内面篦撫。調整荒らい。	内・外面燻。
220 -11 写50-11	弥生土器 変	S J 07 床面	口径 15.0 体部下半欠損	夾雑物含。並。浅黄橙。	複口縁で7+α条の波状文。口縁部から 肩部に刷毛撫。頸部に11+α条で2連止 3単位、1連止8単位計11単位の籐状文 を施し後に、肩部立上に10+α条各1段 の波状文。内面篦研磨。	内面煤付着。 胎土分析番号617

図番号写真番号	種器 形	出土位置	量 目(cm) 口径・器高・底径 残 存 状態	胎 土 · 焼	成・色調と摘要	備考
220 -12 写50-12	弥生土器 甕	S J 07 炉	口径 17.4 体部下半欠損	夾雑物含。並。にぶい橙。	模口縁で8+α条の波状文。口縁部下刷 毛撫。頸部より上方に9+α条で4段以 上の波状文。内面下方篦研磨。	外面燻。
220 -13 写50-13	弥生土器 壺	S J 07 床面	底径 6.8 底部片	夾雑物含。並。にぶい橙。	底部内・外面に篦削後横方向の篦撫を施 す。	
221 -14	弥生土器 小形 壳	S J 07 埋土	口縁~体部片	夾雑物含。並。橙。	器面風化し荒れている。口縁部から頸部 にかけ波状文があるが単位2段以上。	
221 -15	弥生土器 遼	S J 07 埋土	口縁部片	夾雑物含。硬。赤。	頸部立上に6+α条で2段以上の波状文 が施される。	
221 -16	弥生土器 甕・壺	S J 07 埋土	口縁部片	夾雑物含。硬。暗赤褐。	口縁部に4+α条で2段以上の波状文が 施される。内面篦研磨。	
221 -17	弥生土器 甕	S J 07 埋土	口縁部片	夾雑物含。並。にぶい橙。	口縁端部に刻目痕あり。外面波状文があ るが風化し単位不明瞭。	
221 -18	土師器短頸甕	S J 07 埋土	口縁部片	夾雑物含。並。明赤褐。	口縁部内・外面に横撫あり。口縁端部尖 る。	
221 -19	弥生土器 班	S J 07 埋土	口縁部片	夾雑物含。硬。明赤褐。	立上に5+α条で2段の波状文。頸部に 5+α条の籐状文。	
221 -20	弥生土器 甕	S J 07 埋土	口縁部片	夾雑物含。硬。にぶい橙。	複口縁で5+α条の波状文。立上に11+ α条で2段以上の波状文。	
221 -21	弥生土器 甕	S J 07 埋土	口縁部片	夾雑物含。硬。にぶい橙。	複口縁。頭部立上刷毛状工具による撫。 内面横方向の篦研磨。	
221 -22	弥生土器 甕	S J 07 埋土	頸部片	夾雑物含。並。橙。	頭部立上に6+α条で2段以上の波状 文。類部に簾状文、欠損し単位不明。	
221 -23	弥生土器 甕	S J 07 床面	口縁部片	夾雑物含。硬。暗赤褐。	複口縁で6+α条の波状文。頸部立上に 4+α条で2段以上の波状文。	
221 -24	弥生土器 甕	S J 07 埋土	頸部片	夾雑物含。硬。にぶい赤 褐。	頸部に5+α条の簾状文。上・下に波状 文。内面篦研磨。	
221 -25	弥生土器 變	S J 07 埋土	頸部片	夾雑物含。硬。淡黄。	9 + α条を単位とする簾状文が2連止で、下方に6 + α条単位の波状文が2段以上ある。内面篦研磨あり。	内・外面燻。
221 -26	弥生土器 甕	S J 07 埋土	頸部片	夾雑物含。硬。浅黄。	6+α条を単位とする波状文があり、下 方に6+α条単位の籐状文で1連止、内 面に研磨が施されている。	内・外面燻。
221 —27	弥生土器 甕	S J 07 埋土	頸部片	夾雑物含。硬。橙。	5 + α条の籐状文、下方に8 + α条の波 状文あり。内面は研磨がある。	外面燻。
221 -28	弥生土器 夔	S J 07 埋土	体部片	夾雑物含。硬。淡黄。	5 + a 条の簾状文。下方は5 + a 条の波 状文が2段以上。内面研磨がある。	外面燻。
221 -29	弥生土器 變	S J 07 埋土	体部片	夾雑物多。並。淡黄。	外面に粗雑な刷毛目がある。内面には丁 寧な斜の刷毛目がある。	

図番号写真番号	種器 形	出土位置	量 目(cm) 口径・器高・底径 残 存 状 態	胎土,焼	成・色調と摘要	備考
221 -30	弥生土器 甕・壺	S J 07 埋土	体部片	夾雑物含。並。淡黄。	8+α条を単位とする波状文が2段以上ある。内面は研磨がある。	内・外面燻。
221 -31	弥生土器 薨	S J 07 埋土	底部片	夾雑物多。硬。淡黄。	底面は摩耗している。内面はざらざらし て荒れている。	平底。
221 -32	弥生土器 壺	S J 07 埋土	底部片	夾雑物多。並。橙。	体部外面は篦削で、底面は凸凹多い。内 面に指撫。	平底。
221 -33	弥生土器 甕・壺	S J 07 埋土	体部一底部片	夾雑物多。並。浅黄。	体部外面篦削。内面は指撫である。底部 外面篦削で底面の器肉は厚。	平底。
223 - 1	弥生土器 甕	S J 08 埋土	頸部片	夾雑物含。並。にぶい橙。	4 + α条を単位とし3段以上の波状文。 簾状文は4 + α。内面研磨。	
223 - 2 写50-2	弥生土器 蹇	S J 08 床面	口径 (16.5) - 上 欠損	夾雑物含。並。淡黄。	口縁部に10+α条を単位とし6段以上の 波状文を施し、11+α条の籐状文、下方 に細かい10+α条の波状文が、肩部には 横方向の研磨、その下方には縦の研磨。 内面は丁寧な節研磨。	
225 - 1 写50-1	弥生土器 小形甕	S J 09 柱·埋	底径 (6.0) 体部上半欠損	夾雑物含。硬。橙。	肩部外面横方向の研磨、その下方に縦方 向の研磨がある。内面は方向不明な篦研 磨。底部外面にも篦研磨がある。	
225 - 2 写50-2	弥生土器 要	S J 09 床面	口径 (14.8) 体部下半欠損	夾雑物多。硬。橙。	口縁部に7+α条で2連止3段の波状文。下方に7+α条の簾状文、その下方に6+α条の波状文が施される。内面に 篦研磨がある。	内面燻。
225 -03 写50-3	弥生土器 壺	S J 09 埋土	残存高 (6.0) 体部片	夾雑物含。並。にぶい橙。	頸部に2条の波状文がある。下半は研磨。 内面篦撫と研磨が施されている。	
225 -04 写50-4	弥生土器 甕	S J 09 床面	口径 16.2 体部下半欠損	夾雑物含。並。にぶい橙。	口縁部外面11+ α条を単位とし6段以上の波状文。下方に11+ α条1段の波状文、その間に11+ α条の簾状文で1連止が不規則にある。頸部に7+ α条の波状文。内面には丁寧な研磨。	外面煤付着。
225 -05	弥生土器 甕	S J 09 床面	口縁部~体部片	夾雑物徵。並。淡黄。	口縁部外面に7+α条を単位とし4段以上の波状文が、下方に12+α条の簾状文が2連止にある。体部に6+α条の波状文が2段以上ある。内面研磨。	SULT TO THE SE
225 - 6	弥生土器 甕	S J 09 床面	頸部~体部片	夾雑物含。並。淡黄。	外面に不明瞭な波状文、下方に10+α条 の簾状文が2連止にある。その下方に7 +α条の波状文。内面横方向研磨。	
226 - 1 写50-1	弥生土器 小形甕	土壙	口径 (12.8) 口縁~体部片	夾雑物含。並。にぶい橙。	8 + α条単位の波状文が3段以上。下方 10+α条の2連止簾状文。内面研磨。	
231 -01 写50-1	弥生土器 小形 斐	グリット	底径 6.2 体部上半欠損	夾雑物多。並。橙。	体部内・外面に篦削が施されている。底 面にも篦削が見られる。器肉は厚。	
231 - 2	陶器播鉢	グリット	口縁部片	夾雑物微。並。淡黄灰	内・外面に淡鉄釉を施し、内面に細かい 11+α条の卸目あり。	美濃焼18世紀。

花 岡 紘 一 (群馬県工業試験場) 大 江 正 行 (群馬県埋蔵文化財調査事業団)

はじめに

1979年からはじめた胎土分析は約600点を越え、現在に至っている。その結果、県内10個所に存在する窯跡群のうち吉井・乗附(観音山)・秋間・中之条・月夜野・笠懸窯跡群について傾向・領域を知るとともに消費地出土須恵器の製作地同定を可能にし、さらに各窯跡群の胎土傾向は立地基盤層と有機的な関係にある点も次第に分かってきた。今回の分析は師・鎌倉遺跡出土の須恵器と弥生式土器を扱い、補足として、師遺跡に近接してある後田遺跡出土古瓦を加えた。

なお、本稿の化学上の記述を花岡が、考古学上の記述を大江が分担した。

1. 試料の選択

今回の分析試料は鎌倉遺跡から弥生式土器 3 点、師遺跡から須恵器 8 点、土師器 1 点、後田遺跡から古瓦 3 点を抽出した。それぞれ遺跡を代表する意味を持たせ、あるいは遺跡の性格付けに寄与しうる背景にある 個体を選んだ。各試料の肉眼観察の所見と肉眼による製作地推定は附表 1 のとおりである。

2. 分析の目的と意図

ケイ光 X 線による定性(原素)分析の有効性は製作地の同定と原料の推定にあるため、今回の分析目的を そこに置いた。具体的な内容に関しては下記のとおりである。

- ① 試料No616~618は鎌倉遺跡出土の弥生式土器は県内平野部の弥生式土器よりも嵩がなく(重い)陶土原料を思わせる。陶土原料とすれば既分析に月夜野窯跡群の成果があり、それと比較したい。
- ② 試料No619は師遺跡出土の土師器坏である。胎土の質感は軽く(嵩あり)、師遺跡の主体をなす重い土 師器とは異なり、それは県内平野部に一般的な質と共通するので平野部産と見られる。土師器既分析値 と比較したい。
- ③ 試料No620~627の7点は師遺跡出土で古墳時代から8世紀の須恵器である。それぞれ肉眼観察を通し、 推定される窯跡群名を附表1に示してみた。このため既分析の各窯跡群領域と一致するかを見たい。
- ④ 試料No628~630は後田遺跡出土の8世紀前半の瓦片である。後田遺跡は師遺跡と地続きの大集落跡で 村落内寺院が想定されており、試料はその所用瓦である。この地域の造瓦生産の主体は月夜野窯跡群に あり、同窯跡群の領域と一致するか知りたい。

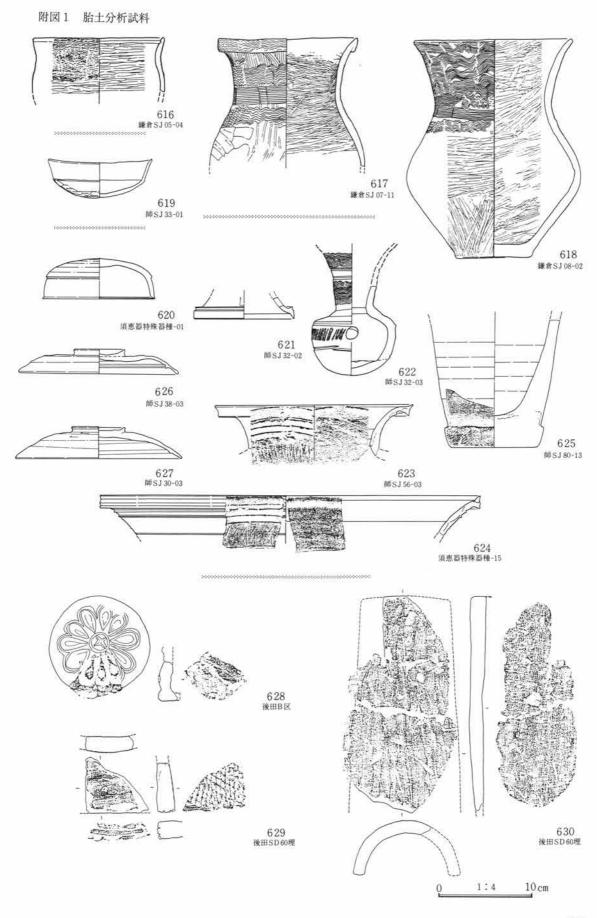
3. 分析方法及び測定条件

蛍光 X 線分析 分析用試料は各試料を 10μ m以下に粉砕し、 $5\sim10$ g を径 4 cmの円板に成型して使用した。 測定条件は次の通りである。

蛍光 X 線分析装置: 理学電機(株)製 K G - 4 型

X線管球;銀対陰極 50KV、20mA

分光結晶: Fe、Sr、Rb には LiF (2d=4.028 Å)



附表1 観察要目一覧

番号	種 別	出土地	製作年代	摘要および胎土の肉眼観察の所見	推定製作地
616	弥生土器 短顕甕	鎌倉SJ 5-4	3世紀	体部上半に波状文と簾状文。以下と内面に篦研磨が施された小形甕である。 夾雑鉱物は多くない。石英粒をわずかに含み、白・灰・黒色鉱物粒もわず かに含む。重みは軽くもなく、重くもない。	利根地方の製作か。
617	弥生土器 薨	鎌倉SJ 7-11	3世紀	外面に波状紋と簾状文。内面に篦研磨あり。夾雑鉱物をわずか含む。石英 粒は黴、白・灰・黒色鉱物粒はほとんど見えない。重みは前同。	利根地方の製作か。
618	弥生土器 蹇	鎌倉SJ 8-2	3世紀	外面に波状文と簾状文。内面に篦研磨あり。夾雑鉱物をわずか含む。石英 粒は見えない。白・灰・黒色鉱物粒をわずか含む。割れ口はクレーター状 に見える凹みが多く、鉱物脱落ではなく性質。前2点に近似。	利根地方の製作か。
619	土師器坏	師 S J 33 —1	7世紀中頃	小形化傾向があり、体部外面の稜は鋭くはない。夾雑鉱物粒をわずか含む。 赤褐色円粒鉱物が目立つほか、灰・白色鉱物は微細粒がほんのわずか含ま れる。重さは軽く、洪積台地の粘土か。軽石粒見えない。	渋川市以南の平野部からの搬入土器か。
620	須恵器 坏蓋	師 B区 一括	5世紀末 ~6世紀 初頭		乗附窯跡群製(板鼻層 群)か。
621	須恵器 短脚高坏	師 S J 32 - 2	6世紀前半	夾雑鉱物は多いが、素地の粒状に近い白色鉱物で、それが特徴的であり、 乗附窯跡群の可能性もあるが、器表は滑らかでなく、他窯群の可能性もあ り。焼並。暗色気味であり燻かかる。暗灰色。	①乗附窯跡群製か。 ②藤岡窯跡群製か。 ③太田窯跡群製か。
622	須恵器 疎	師SJ32 -3	6世紀中頃	夾雑鉱物を含む。白色の大小鉱物粒の夾雑が目立つ。素地中も白色の微粒 多い。白色鉱物粒は石英が少なく長石が多い。他に黒色・灰色鉱物粒は見 えない。小気泡多い。焼並。暗色で燻かかる。暗灰色。	太田・金山窯跡群製か。
623	須恵器 変	師 S J 56 一 3	6世紀前半	夾雑鉱物粒を含む。白石の大小鉱物粒の夾雑が目立つ。素地中も白色の鉱物粒多く、まったく622に似る。小気泡焼締りのため特に多いが洪積や粘土のそれとは異なる質感。焼締。暗色で燻かかる。	太田・金山窯跡群製か。
624	須恵器	師29 A 31	6世紀前半	夾雑鉱物は少ない。素地に大・小の白色粒子が多い。他に黒色・灰色鉱物 粒は見られない。特徴は622・623に似る。小気泡を含む。硬質。暗色で燻 かかる。	太田・金山窯跡群製か。
625	須恵器鉢	師 S J 80 —13	8世紀前半	夾雑鉱物は少ない。白色の大小の粒子と黒色 (Fe ⁴ O ³ と Sio ² か) 物質が目立つ。気泡は多く X 15では軽石状に見えるが焼締が作用している。焼締りあり。自然釉。灰色で還元気味。	月夜野窯跡群製か。
626	須恵器 坏蓋	師 S J 38 — 3	8世紀前	夾雑鉱物は少ない。白色の大・小粒子と黒色円粒状質が目立つ。灰色鉱物 粒もわずか入る。気泡は土の練目にそって走るが少ない。土味は焼が並の 割りに、ねっとりした感じ。灰色で還元気味。	月夜野窯跡群製か。
627	須恵器 坏蓋	師 S J 30 一 3	8世紀前半	夾雑鉱物は少ない。白色の粒子は多い。黒色・灰色鉱物粒は見えない。気 泡は多く X 15では軽石状が多いが焼締はなく、625に近似している。焼は並。 灰色か還元気味。	月夜野窯跡群製か。
628~ 630	628 鐘 瓦 629 宇 瓦 630 男 瓦	628 B 区 一括 629 S D 60埋104 B 02・03 630同上	8世紀前半	628は『後田遺跡』』() () 解群馬県埋蔵文化財調査事業団)1987、P.518No 9、629はP.519No15、630はP.896No49である。3点とも胎土に白色鉱物粒を多く含み、625・627に近似する。白色鉱粒は石英粒少なく、長石粒多い。黒色物質は円粒状で629の還元状態で黒色、628・630のやや酸化気味で暗赤褐色となるが、量は目立ない。 灰色鉱物粒は見えない。 含まれる気泡は土の練目にそって走り、その特徴も、626や627に共通するが、入り方は多くない。629・630は粘土紐作りで、後田遺跡出土の小仏堂が示唆される。瓦は一元供給か。628は焼並。 灰褐色。重さは並。629は焼硬。灰色。重さはややあり。630は焼並。 灰褐色。重さは並。	月夜野窯跡群製か利根地方の製作。

Ca, K, Ti, Si, Al 12 l‡ EDDT (2d=8.808 Å) Mg 12 l‡ ADP (2d=10.648 Å)

検出器; LiF を使用したとき、S.C, EDDT、ADP を使用したとき、P.C

時定数;1

計数法; Fe、Ca、K、Ti、Sr、Rb はチャートにより、Si、Al、Mg は定時計数法によった。なおチャートは4°/min とした。

波高分析器;積分方式

測定線; FeKα、CaKα、KKα、TiKα、AlKα、MgKα、SrKα、RbKαの各1次線を使用した。 X線対照射面積; 20mmφ

標準試料;群馬県埋蔵文化財調査事業団から依頼を受けた土器 6点(295・310・366・345・360・380)を化学分析し標準試料とした。

4. 結果

分析結果値は附表 2 のとおりで、Ca/K: Sr/Rb の関係については附図 2-1 に示した。また肉眼観察で推定され、比較に必要な既分析値と窯跡群別 Ca/K: Sr/Rb の値を附表 3、附図 $2-2\cdot3$ に示し、その比較

附表 2 分折結果値

成分	SiO ₂ (%)	Al ₂ O ₃ (%)	Fe ₂ O ₃ (%)	TiO ₂ (%)	CaO(%)	MgO(%)	K2O(%)	Ca/K(%)	Sr/Rb(%
616	62.4	18.3	3.64	0.52	1.03	0.47	1.75	2.66	0.78
617	68.3	17.7	3.28	0.58	1.56	0.76	1.85	3.54	1.14
618	62.5	19.3	5.76	1.01	0.98	0.80	0.83	2.25	1.51
619	59.6	17.9	9.56	1.50	0.96	0.41	1.95	1.20	0.66
620	72.1	18.6	5.25	0.68	0.13	0.41	1.45	0.37	0.11
621	68.1	18.6	6.69	0.77	0,81	0.43	1.16	1.87	0.92
622	67.4	18.6	9.13	0.87	0.45	0.78	1.16	1.10	0.49
623	70.8	18.1	5.50	0.83	1.03	0.65	1.17	1.80	1.16
624	67.9	20.5	6.47	0.84	0.87	0.81	0.98	2.60	1.15
625	70.0	16.3	5.83	0.90	0.98	1.38	1.62	1.58	0.81
626	62.1	24.8	7.44	0.98	0.61	0.75	0.99	1.18	0.79
627	69.9	20.7	5.72	0.85	1.02	0.79	1.08	3.00	1.23
628	63.8	22,2	7.34	0.86	0.92	0.82	1.04	2.22	1.18
629	68.2	19.6	5.06	0.80	0.85	1.77	1.48	2.00	0.75
630	63.1	20.1	4.35	0.78	0.91	1.70	1.58	2.33	0.76

附表3 各窯跡群を中心とする既分析値

弥生式土器

成分 試料	SiO 2 (%)	Al ₂ O ₃ (%)	Fe ₂ O ₃ (%)	TiO ₂ (%)	CaO(%)	MgO(%)	K2O(%)	Ca/K(%)	Sr/Rb(%
塚廻 2	66.1	17.0	5.19	0.78	3.23	1.24	0.85	5.12	9.84
塚廻 3	64.7	18.7	7.50	0.83	3.02	1.16	1.34	3.09	7.34
塚廻 4	67.4	20.2	3.58	0.80	2.33	1.24	1.44	2.24	3.53
塚廻 5	65.8	18.2	6.42	1.06	2.20	3.49	1.86	1.65	1.59
616	62.4	18.3	3.64	0.52	1.03	0.47	1.75	0.78	2.66
617	68.3	17.7	3.28	0.58	1.56	0.76	1.85	1.14	3.54
618	62.5	19.3	5.76	1.01	0.98	0.80	0.83	1.51	2.25

土師器類

試料	成分		SiO 2 (%)	Al ₂ O ₃ (%)	Fe ₂ O ₃ (%)	TiO ₂ (%)	CaO(%)	MgO(%)	K2O(%)	Ca/K(%)	Sr/Rb(%)
下東西		336	56.9	19.9	11.10	1.26	1.41	1.16	1.31	1.42	1.98
*		337	57.2	18.9	11.05	1.22	1.57	0.77	1.28	1.61	2.35
4		338	61.3	17.8	8.20	1.15	1.48	0.69	1.51	1.30	1.72
"	暗文	339	60.3	13.5	9.27	1.09	2.99	1.27	1.19	3.28	2.34
"	"	340	59.5	14.1	8.95	1.15	4.80	1.26	1.16	5.39	2.62
"	*	341	61.1	13.7	9.00	1.06	2.84	1.14	1.15	3.22	2.02
4	畿内搬入	342	55.1	18.1	12.90	1.08	1.67	0.52	0.83	2.63	5.25
"	*	343	55.1	17.6	13.40	1.22	1.95	0.72	1.15	2.09	4.34
"	土師質内黒(須惠)	367	63.9	14.9	11.60	1.73	2.25	0.44	1.08	2.75	3.31
"	4 .	368	74.8	17.9	3.80	0.92	0.46	0.58	0.88	0.70	1.42
"	*	369	64.5	16.8	5.85	0.86	1.36	1.57	1.38	1.29	1.54
鳥羽	暗文	438	60.3	13.0	9.45	1.34	3.63	2.00	1.74	3.89	2.80
亥田	藪	H 24	62.7	23.0	5.80	0.81	0.65	0.58	1.86	0.47	1.03
阪田東	藪田	東11	63.7	19.2	5.73	0.80	1.70	0.67	1.49	1.59	2.74
戸神諏 記	方	448	56.6	19.4	8.68	1.28	1.77	2.60	1.77	1.17	2.44
"		449	57.2	17.6	8.30	1.01	1.91	2.21	1.43	1.66	2.40
"		450	58.9	18.2	8.50	1.09	1.59	2.37	2.04	0.98	1.51
師		619	59.6	17.9	9.56	1.50	0.96	0.41	1.95	0.66	1.20

中之条窯跡群

試料	, j.	龙分	SiO 2 (%)	Al ₂ O ₃ (%)	Fe ₂ O ₃ (%)	TiO ₂ (%)	CaO(%)	MgO(%)	K2O(%)	Ca/K(%)	Sr/Rb(%)
天代支群1号窯	瓦	天代 4	68.6	17.4	4.67	0.67	0.94	1.15	1.73	0.71	1.38
4	R	天代 5	68.9	21.4	2.70	0.88	0.29	0.59	1.46	0.26	2.79
"	Æ	天代 6	66.0	18.0	6.60	0.89	0.95	1.02	1.21	1.40	1.95
中之条湖成粘土		天代 7	63.3	12.7	5.60	0.23	6.97	3.44	2.21	4.15	1.90
*		天代 8	64.1	22.5	4.21	0.79	1.69	1.08	1.13	1.98	4.08
折田層第3紀粘土		天代 9	64.5	21.2	6.37	0.67	0.96	1.36	1.79	0.70	2.25

月夜野窯跡群

試料	成分	SiO ₂ (%)	Al ₂ O ₃ (%)	Fe ₂ O ₃ (%)	TiO 2 (%)	CaO(%)	MgO(%)	K2O(%)	Ca/K(%)	Sr/Rb(%)
沢入A支群	月夜野窯跡群 3	70.6	18.4	2.96	0.67	0.57	0.76	1.75	0.43	1.92
"	* 4	66.5	20.5	5.14	0.73	0.83	0.75	1.32	0.83	2.21
"	藪田東2-41	68.2	18.5	2.42	0.64	0.50	0.46	1.96	0.36	2.10
"		66.0	21.0	5.19	0.66	0.78	0.45	1.45	0.76	2.84
*	藪田4-29	65.8	21.4	4.14	0.75	0.45	0.57	1.33	0.47	1.00
*		66.2	18.0	4.15	0.73	0.80	0.61	1.36	0.82	2.02
*	村主9-11	69.1	24.0	3.95	0.71	0.58	0.43	0.88	0.87	1.76

,	≈ 9-12	77.8	18.0	3.50	0.68	0.51	0.84	0.90	0.77	2.29
"	≈ 9-13	77.4	17.5	2.76	0.62	0.48	0.41	0.56	1.14	2.50
深沢B支群	⋄ 9-18	71.5	22.9	4.55	0.94	0.99	0.93	1.31	1.00	1.29
*		67.0	22.0	3.75	0.89	1.06	0.31	1.24	1.14	1.94
1/2	*9-20	69.5	22.9	4.64	0.85	0.85	0.17	1.49	0.76	1.86
深沢C支群	較田東2-43	65.2	21.0	2.94	0.67	0.78	0.38	1.38	0.79	2.43
,	*2-44	66.1	23.0	2.41	0.66	0.90	0.43	1.46	0.84	3.24
*	×2-45	64.2	20.4	3.04	0.64	0.77	0.30	1.38	0.77	2.97
*	×2-46	66.0	20.3	2.23	0.62	1.05	0.40	1.46	0.99	3.04
藪田東遺跡3	住 藪田東2-32	67.0	18.0	4.56	0.65	0.41	0.45	1.51	0.38	1.90
,	*2-33	66.3	20.0	4.20	0.68	0.48	0.50	1.76	0.36	1.63
,	*2-34	66.0	19.2	3.36	0,70	0.48	0.44	1.46	0.44	1.42
*	*2-35	66.4	21.4	4.39	0.74	0.45	0.51	1.36	0.46	1.75
,	×2-36	66.2	22.8	3.60	0.76	0.40	0.50	1.43	0.39	1.45
同 遺跡 6	住 *2-37	67.1	18.5	5.53	0.66	0.46	0.43	1.60	0.39	1.27
同 遺跡 5	住 *2-38	65.0	24.0	3.30	0.66	0.98	0.45	1.31	1.01	2.83
*	×2-39	63.1	21.0	4.36	0.74	0.77	0.40	1.61	0.65	2.14
*	*2-40	66.2	21.5	3.65	0.75	0.68	0.56	2.15	0.43	1.41
藪田東遺跡採	掘坑粘土 〃2-52	65.2	20.2	4.40	0.75	0.59	0.49	1.62	0.50	1.08
薮田表採	月夜野窯跡群 5	69.1	19.2	4.29	0.75	0.54	0.72	1.71	0.42	1.40
,	月夜野窯跡群 6	64.7	20.3	4.94	0.81	0.47	0.36	1.24	0.50	1.69
藪田遺跡	数田東 4-21	65.1	19.5	7.36	0.66	0.39	0.49	1.15	0.46	1.08
,	* 4 -22	65.0	23.2	3.77	0.81	0.60	0.50	0.86	0.91	1.28
,	⋄ 4 −23	63.4	21.9	8.20	0.76	0.39	0.45	1.04	0.51	1.37
"	* 4 -25	64.7	20.2	5.26	0.74	0.45	0.55	1.76	0.34	0.78
"	* 4 -26	63.5	22.0	6.04	0.77	0.38	0.60	1.84	0.28	0.79
,	⋄ 4 −27	65.3	20.2	6.36	0.76	0.44	0.45	1.15	0.52	1.38
"	⋄ 4 −28	66.0	18.5	4.00	0.80	0.91	0.64	1.40	0.89	2.16
須磨野 A 支群	村主9-30	69.9	22.0	3.95	0.78	1.02	0.06	1.64	0.83	1.69
"	⋄ 9 −31	71.6	21.4	3.10	0.78	1.01	0.07	1.64	0.82	1.40
"	⋄ 9 −32	69.5	22.8	3.90	0.93	0.87	0.25	1.43	0.80	1.70
*	⋄ 9 −33	69.9	24.5	3.85	0.93	1.01	0.39	1.43	0.93	1.58
洞A支群	月夜野窯跡群 1	68.6	18.4	4.29	0.82	0.70	1.12	1.49	0.62	1.79
	* 2	65.7	18.7	5.51	1.02	0.48	0.97	1.36	0.47	0.86

太田・金山窯跡群

試料	成分	SiO ₂ (%)	Al ₂ O ₃ (%)	Fe ₂ O ₃ (%)	TiO ₂ (%)	CaO(%)	MgO(%)	K2O(%)	Ca/K(%)	Sr/Rb(%)
吉沢支群	塚廻20	64.3	21.7	7.64	1.09	0.74	2.75	1.91	0.54	1.51
*	塚廻21	67.0	18.5	6.91	0.96	0.85	2.03	2.19	0.54	1.10
*	391	61.0	20.7	9.00	1.08	0.81	0.65	1.52	0.71	1.58
亀山支群	塚廻22	68.0	18.9	6.51	0.87	0.53	0.94	1.42	0.51	1.69
大道西遺跡	塚廻15	69.7	18.4	3.93	0.70	0.26	1.00	2.61	0.14	1.30
*	塚廻16	66.5	21.0	5.05	0.89	0.84	0.77	1.36	0.85	1.77
*	塚廻17	67.1	20.1	5.66	1.09	0.90	2.23	1.94	0.65	1.59
*	塚廻19	69.3	19.2	3.58	0.70	0.40	0.91	2.34	0.24	1.41

笠懸窯跡群

試料	成分	1	SiO ₂ (%)	A12O3(%)	Fe ₂ O ₃ (%)	TiO ₂ (%)	CaO(%)	MgO(%)	K2O(%)	Ca/K(%)	Sr/Rb(%)
山際支群	須恵器	201	64.6	22.5	7.45	0.96	1.02	1.01	1.48	0.79	2.31
"	"	202	62.7	24.4	7.73	0.93	0.97	0.62	1.34	0.83	3.17
"	瓦	392	65.9	23.9	6.35	1.14	1.04	0.84	1.52	0.94	1.45
"	*	393	67.9	19.1	6.92	1.08	1.08	0.87	1.53	0.97	1.65
,	"	394	61.6	24.0	8.85	1.04	1.29	0.78	1.50	1.18	2.24
*	"	395	64.5	22.1	6.85	1.16	0.80	0.70	1.14	0.97	1.51
*	"	396	63.7	22.8	8.10	0.90	1.09	0.51	1.62	0,92	2.18

第6篇 師・鎌倉・後田遺跡出土土器の胎土分析

4	*	397	63.4	23.7	8.71	1.07	1.35	0.63	1.24	1.49	2.93
"	"	398	63.8	23.2	10.40	1.03	1.84	0.27	1.98	1.31	2.30
"	*	399	60.7	26.7	8.52	1.11	1.59	1.11	1.93	1.14	3.58
4	"	400	62.9	26.2	8.60	1.20	1.64	1.15	1.14	1.98	3.86
"	土師質内黒(須恵)	401	57.9	19.8	11.00	1.17	1.36	0.47	1.20	1.57	2.10
"	須恵器	402	63.9	21.0	10.70	1.05	1.62	0.57	1.40	1.58	3.73
"	*	403	61.2	26.5	8.61	0.97	1.13	1.14	1.55	1.02	3.16
*	"	404	67.4	19.9	7.52	1.02	0.86	1.04	1.74	0.69	1.44

秋間窯跡群

試料	成分	}	SiO ₂ (%)	Al ₂ O ₃ (%)	Fe ₂ O ₃ (%)	TiO ₂ (%)	CaO(%)	MgO(%)	K2O(%)	Ca/K(%)	Sr/Rb(%)
苅根支群 1 ~Ⅲ灰原	技	建廻07	66.9	23.0	4.48	1.09	0.46	1.69	1.19	0.53	0.78
*	均	建 廻08							131,000	0.55	0.77
*	均	國11								0.79	0.71
*	損	凤 到12	68.9	20.0	4.76	0.89	0.30	1.14	1.75	0.24	0.46
*		411	76.0	15.8	3.83	0.88	0.49	0.88	1.75	0.39	0.55
*		412	61.6	26.3	8.95	1.38	0.38	0.88	1.70	0.31	0.64
*		413	69.9	19.8	5.13	0.96	0.40	1.00	1.52	0.36	0.68
*		414	65.0	20.9	8.21	1.03	0.51	0.82	1.42	0.50	0.58
**	瓦	415	66.9	18.9	7.15	0.92	0.44	0.86	1.31	0.46	0.58
*	A	416	71.1	20.7	3.95	0.98	0.24	0.93	1.24	0.27	0.68
八重巻支群	瓦	405	71.6	20.5	6.50	1.03	0.61	0.53	1.32	0.64	0.72
*		406	72.3	21.3	4.43	0.85	0.37	1.06	1.95	0.26	0.51
*		407	73.8	17.1	5.05	0.92	0.40	0.69	2.03	0.28	0.54
*		408	71.6	19.0	5.75	1.01	0.73	0.89	1.57	0.64	0.75
日向支群		409	74.2	19.5	3.95	0.95	0.58	0.84	1.69	0.23	0.48
*		410	74.6	15.1	4.42	0.93	0.45	0.82	2.19	0.28	0.79
道場	均	承廻09								0.35	0.40
*	損	承廻10	68.9	13.9	5.24	1.00	0.35	1.20	1.57	0.31	0.56

吉井窯跡群

試料	成分	}	SiO ₂ (%)	Al ₂ O ₃ (%)	Fe ₂ O ₃ (%)	TiO ₂ (%)	CaO(%)	MgO(%)	K2O(%)	Ca/K(%)	Sr/Rb(%)
五反田支群	E	高 8	67.3	17.7	3.00	0.74	0.53	0.83	2.13	0.33	1.40
青龍寺支群	E	高 9	69.8	20.2	3.30	0.87	0.36	0.49	1.54	0.30	3.16
長尾根支群		292	71.3	17.0	4.02	0.95	1.39	0.82	1.55	1.19	2.65
*	瓦	293	57.5	21.3	7.45	1.16	2.19	0.60	0.78	3.68	3.28
末沢支群		294	61.8	18.0	7.80	1.17	1.51	2.50	1.55	1.28	1.71
*	瓦	295	63.7	23.8	6.70	1.21	0.66	0.73	1.35	0.65	2.39
*		296	60.3	18.0	6.00	1.20	1.73	3.23	1.62	1.41	1.85
長尾根支群		297	71.3	15.7	4.25	0.68	1.39	0.70	1.47	1.25	2.40
末沢支群	瓦	298	65.7	17.2	7.52	1.15	1.76	1.67	1.71	1.35	2.23

乗附窯跡群

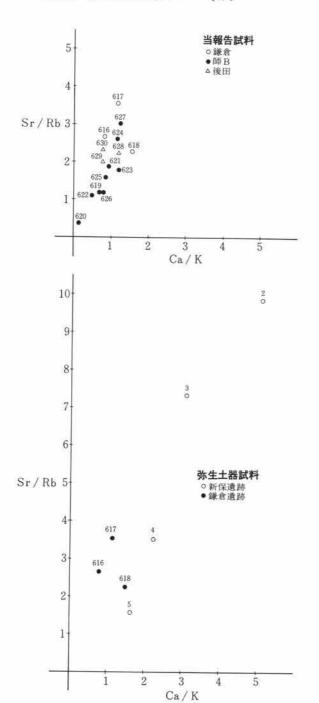
試料	成分	}	SiO ₂ (%)	Al ₂ O ₃ (%)	Fe ₂ O ₃ (%)	TiO 2 (%)	CaO(%)	MgO(%)	K2O(%)	Ca/K (%)	Sr/Rb(%)
南陽台支群		203	75.2	16.2	2.75	0.99	0.29	1.28	2.25	0.14	0.51
*		204	69.6	20.6	4.26	0.96	0.52	0.77	1.64	0.36	1.00
小塚支群		417	66.9	18.0	7.25	0.97	1.18	1.17	1.15	1.41	1.82
*		418	70.2	15.7	5.61	0.87	0.61	0.97	1.85	0.45	1.15
*		419	69.3	17.5	6.45	0.78	0.44	0.98	2.78	0.22	1.00
*	瓦	420	72.7	16.6	4.25	0.81	0.35	0.64	1.96	0.24	0.78
*	瓦	421	71.6	18.8	3.75	0.88	0.36	0.83	1.53	0.32	0.75
でえせえじ支群	瓦	497	66.6	21.1	5.82	0.90	0.45	1.18	1.16	0.46	0.97
*		498	68.4	17.6	5.35	1.27	1.07	1.09	1.18	1.20	2.45
2		499	75.4	17.0	3.12	0.82	0.19	0.38	1.71	0.13	0.47

Î	*	500	69.6	21.8	4.00	0.82	0.33	0.90	1.29	0.31	0.85
1		501	69.4	17.2	6.02	1.26	1.11	1.07	1.08	1.25	2.40
		502	73.1	17.2	5.20	0.82	0.31	1.11	2.13	0.18	0.48

藤岡窯跡群

試料	成分	SiO 2 (%)	Al ₂ O ₃ (%)	Fe ₂ O ₃ (%)	TiO 2 (%)	CaO(%)	MgO(%)	K2O(%)	Ca/K(%)	Sr/Rb(%)
鈩沢支群	212	65.7	22.7	6.85	1.28	0.87	0.68	0.94	1.07	2.15
金山支群	213	64.1	18.3	11.35	1.31	0.85	0.68	1.13	0.88	1.92

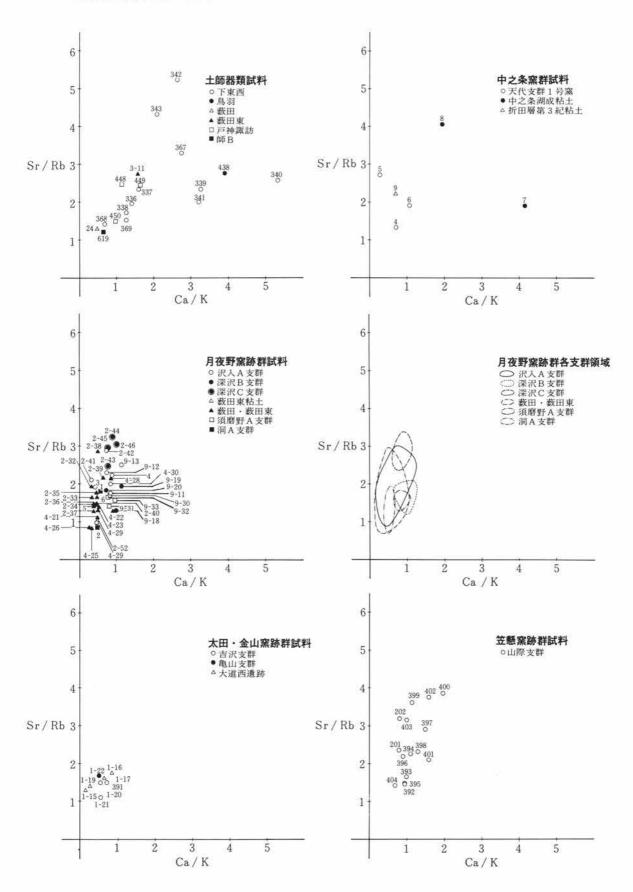
附図2 Sr/RbとCa/Kクラブ その1



の要点は下記のとおりで番号は設問番号に一致する。

- ① 弥生式土器の既分析は新保遺跡例 4 点(注1-a) No 2~5があり、高崎市近郊の弥生式土器成分の一端を知ることができるが、鎌倉遺跡例616~618よりも、Sr/Rdの値が高い傾向にある。今回もSr/pbの傾向が陶土基盤にある県内の主要窯跡群よりもやや高く、一傾向が示された。月夜野窯跡群との比較からは深沢 B支群の領域に616が入る。
- ② 平野部の伝統的な土師器の分析例は下東西遺跡 (注1-0)336~338と暗文の入る土師器339~ 341、内黒処理された367~369、鳥羽遺跡(未発表・整理担当綿貫邦夫氏の好意による)暗文の土師器 438、沼田盆地での平野部からの搬入の可能性の ある戸神諏訪遺跡の土師器448~450、同じく薮田 東遺跡(注1-e)11、同じく薮田遺跡No24試料 があり計15点の既値に限られる。その中ではSr/Rbの値が最も低く、下東西遺跡の368、369、 338など平野部の一群に近接の位置にあるが現状 では地域別傾向を得るまでには至っていないので 平野部の土師器であるか特定できない。
- ③ 試料No628~627は古墳時代~8世紀代の須恵器である。肉眼観察からの推定では月夜野窯跡群製が625、626、627、太田・金山窯跡群製が622、623、624、乗附窯跡群製が620、乗附窯跡群・藤岡窯跡群・太田・金山窯跡群のいずれかと見られる621がある。
 - (1) 625、626、627は県内窯跡群中では625は秋間 窯跡群を除く、太田・金山、笠懸、中之条天代 支群、月夜野、乗附、吉井の各窯跡群領域中に 入る。626は秋間、吉井、笠懸、中之条天代支群、

Sr/RbとCa/Kクラブ その2



2

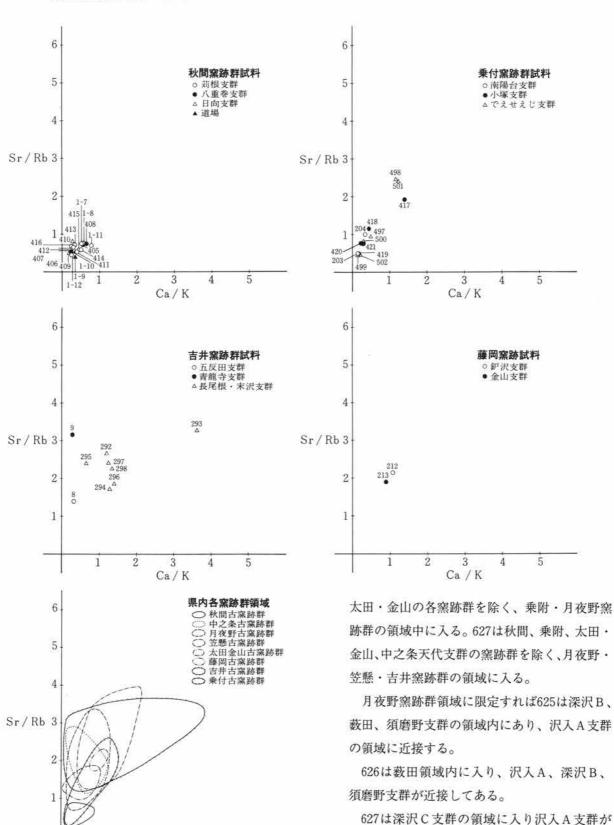
3

Ca/K

4

5

1



近接してある。

(2) 622、623、624は県内窯跡群中では622は吉井

中之条天代支群、笠懸の各窯跡群を除く、太田・金山、秋間、乗附、月夜野窯跡群の領域中に入る。 623は秋間、太田・金山、中之条天代支群の各窯跡群を除く月夜野、笠懸、吉井、乗附の各窯跡群の 領域に入る。624は秋間、太田・金山、中之条天代支群の各窯跡群を除き月夜野、笠懸、吉井、乗附 の各窯跡群の領域に入る。

太田・金山窯跡群領域に限定すれば622は太田・金山窯跡群の領域内に入る。 623、624は太田・金山窯跡群領域から外れる。

- (3) 620は県内窯跡群中では秋間窯跡群の領域に入り、乗附窯跡群領域に近接する。月夜野、中之条天 代支群、笠懸、太田・金山、吉井、乗附、秋間の各窯跡群領域から外れる。
- (4) 621は秋間窯跡群の領域からは外れ、太田・金山、笠懸、月夜野、中之条天代支群、乗附、吉井の 各窯跡群の領域に入る。乗附、太田・金山、藤岡の各窯跡群のうち藤岡窯跡群は領域設定がなされて いないため比較はできないが太田・金山、乗附窯跡群の領域内に入る。
- ④ 試料No628~630と月夜野窯跡群領域の比較においては628は月夜野窯跡群領域から外れるが近接し、629、630は入る。629、630は藪田・沢入A支群の領域内に入る。628は月夜野窯跡群領域からわずか外れるが沢入A群に最も近接している。

5. 問題点

今回分析依頼内容に太田・金山窯跡群との比較があったが、太田・金山は地学上、秩父・古生層と金山流 紋岩類層、軽石凝灰岩層(薮塚層ほか)で構成されている。そのうち既分析試料は秩父・古生層に係わる一 群で、全体領域設定には金山流紋岩類層、軽石凝灰岩層に係わる試料が不足している。また太田・金山の北 延長上には同じ基盤を持つ笠懸窯跡群があるが、両窯跡群の領域は各々異なっており、不一致の傾向をみせ る。笠懸窯跡群試料は金山流紋岩層にある山際支群試料である。このため両窯跡群はほぼ同じ領域傾向とな ることが予測され、試料の補充が必要となっている。そのように各生成基盤にしたがっての製作地試料は不 足しており、さらに今後、試料補充されなければならない。

注 1

- a) 「土器の胎土分析」 『塚廻古墳群』 (群馬県教育委員会) 1980年 花岡紘一・石塚久則
- b) 「瓦の胎土分析」 『天代瓦窯遺跡』 (中之条町教育委員会) 1982年 花岡紘一・大江正行
- c) 「温井遺跡出土須恵器の胎土分析」 『温井遺跡』 (群馬県教育委員会) 1981年 花岡紘一・真下高幸
- d) 「瓦の胎土分析について」『山王廃寺跡第7次発掘調査報告書』(前橋市教育委員会) 1982年 花岡紘一
- e) 「土器の胎土分析について」 『清里・陣場遺跡』 (群馬県埋蔵文化財調査事業団) 1982年 花岡紘一・中沢悟
- f) 「薮田東遺跡出土土器の胎土分析」『薮田東遺跡』(群馬県埋蔵文化財調査事業団) 1982年 花岡紘一・中沢悟・原雅信
- n) 「日高遺跡出土須恵器と瓦の胎土分析」『日高遺跡』(群馬県埋蔵文化財調査事業団) 1982年 花岡紘一・平野進一・大江正行
- h) 「奥原・古墳群出土須恵器の胎土分析」『奥原古墳群』 (群馬県埋蔵文化財調査事業団) 1983年 花岡紘一・石塚久則
- i) 「月夜野古窯跡群の胎土分析」『土器部会研究資料No 2』 (群馬歴史考古同人会) 1983年 花岡紘一・大江正行
- p) 「須恵器の胎土分析について」『三ツ木遺跡』(群馬県埋蔵文化財調査事業団) 1984年 花岡紘一・飯田陽一 j) 「糸井宮前遺跡出土須恵器の胎土分析」『糸井宮前遺跡 I」(群馬県埋蔵文化財調査事業団) 1985年 花岡紘一・山口逸弘
- k) 「土器の胎土分析について」『吉田遺跡』(境町教育委員会) 1985年 花岡紘一・加部二生
- 」)「村主遺跡出土土器を中心とした胎土分析」『大原Ⅱ遺跡・村主遺跡』(群馬県埋蔵文化財調査事業団) 1986年 花岡紘一・中沢悟
- m) 「古墳出土須恵器の胎土分析」『下触牛伏遺跡』(群馬県埋蔵文化財調査事業団) 1986年 花岡紘一・小島敦子
- o) 「胎土分析」『下東西遺跡』(群馬県埋蔵文化財調査事業団) 1987年 花岡紘一・三浦京子

第7篇 ま と め

I 鎌倉遺跡における弥生時代の遺構と遺物

鎌倉遺跡の発掘調査によって検出された弥生時代の遺構は、後期の樽式土器を出土する竪穴住居跡 9 軒、 土坑 3 基である。以下、その要点をまとめると次のとおりである。

1) 集落の立地

本遺跡は薄根川右岸の段丘上に立地している。北側は薄根川の急峻な段丘崖と、南側は幅30mほどの谷地に狭まれた、幅40mほどの東西に伸びる台地上を集落の場にしている。この台地は、東から緩やかな勾配を示す傾斜地形となっている。

本調査の調査範囲は、関越自動車道の路線幅60mほどで、この台地を東西に横断する区域である。その調査面積は約8,000㎡である。

この地内に検出された弥生時代の遺構は、後期の樟式土器を出土する第1~9号まで竪穴住居跡と土坑3 基である。住居跡の分布は、段丘崖から離れて東西方向に走る谷地の南側傾斜面に重複することなく検出された。また、土坑もそれぞれが離れて単独で検出された。これら遺構分布の在り方は、集落の存続期間も短く、また小規模な構成であるものとされる。集落の広がりは、台地の延びる東西方向に広がりをみせるものと考えられるが、遺物の散布は極めて希で、試掘調査が行われるまで遺跡の性格は不明であった。

2) 住居の規模と構造

検出された住居跡は長方形の竪穴住居跡で、住居の長軸、短軸の相関表のとおりである。表に示すとおり、その規模は長辺5.3~7.2m、短辺3.1~4.7mほど範囲にあり、やや隅丸長方形を呈する竪穴住居跡である。住居の長辺、短辺の比は、1対1.5~1.9ほどにある。なお、8号住居跡は1対1.25ほどで、やや長方形に近い形状を示している。最も規模の大きい4号住居跡は、長辺7.2m、短辺4.7m、最も小さい3号住居は長辺5.3、短辺3.3mで、棒式土器を出土する弥生後期の竪穴住居跡に通常みられる規模と構造を示している。

住居跡の長軸方位は住居跡の主軸方位図に示すように、8号住居を除いてN-5~17°-Wの間にあり、 西からやや北方向に向いている。8号住居の方位は、N-87°-Wとその長軸をほぼ磁北方向に向けている。 検出された住居の長軸方位は、南側の沢地を隔てて広がり、生活の主要な活動領域と推定される低地部分と、 西北から吹き上げて来る季節風に対して最も理に適った方向と考えている。

主柱穴は、この時期にみられる竪穴住居跡と同様に4本柱を基本としている。確認面での柱穴は直径12~18cmほどの円形で、その掘り方は径30~50cm、深さ40~60cmほどである。

人り口方向にあたる住居南側の壁面近くに小規模な2本の長円形のピットが対にみられる。このピットは竪穴住居の昇降にかかわり掘られたものと考えられる。本調査にあたりその確証を得るため、比較的遺存状態の良好な2号・5号・6号・7号住居ピットの立ち割りを実施した。その結果、周壁に向かって傾斜する掘り方を確認している。また、9号住居では、掘り方の中に割り材を思わせる痕跡が認められた(9号住居平面図)。これらの所見を照合すると、人り口部分の模式図にみられるように竪穴住居跡の昇降のために使われた施設の存在が推定された。想像をたくましくすれば、板材を加工した階段が設置されたものと考えている。ピット内の板材は高崎市新保遺跡218号住居でも検出例がある。

炉址は、入り口部分と反対方向の西、北側の短壁よりの柱穴の中間にある。炉址の形態は、やや楕円形に掘りくぼめられた「地床炉」である。地床炉には住居の内側よりには長辺、楕円形の河原石を据えた「枕石」

第7篇 ま と め

を配するものが多い。樟式土器を出土する住居のなかにあって、柱穴と炉跡との位置関係は、古い段階にあっては、奥行き柱穴間から中央部分に向かって位置し、 新しい段階は本住居にみられるように中央部分、あるいは奥壁寄りに位置することは幾つかの論考で既に指摘されるところである。本住居にみられる柱穴と炉址 6 との位置関係は後期後半にみられるものである。

住居の中で火災を受けた4号、6号住居跡は炭化した家屋材や焼土が認められ、2号も火災を受けた可能性がある。

3) 出土土器の特徴

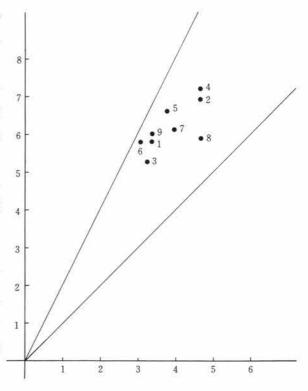
弥生土器は縄文土器と合わせて住居覆土の上層~下層にかけて出土したが、その多くは小破片で流れ込みによるものと推定された。したがって住居と共伴する遺物は住居が廃絶する際に投げ捨てられたか、取り残された土器と考えられるものであった。

住居から出土した弥生土器はすべて樟式土器である。図示したように、その器種組成は壺・甕・小型壺・ 小型甕・高坏・小型台付甕・浅鉢と祭しに使用された であろう粗雑な小型高坏がある。

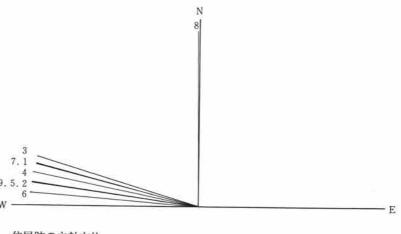
壺は、いわゆる折り返し口縁もち口唇部に刻目(1)、 肩部にT字文(2)もつもの、口縁部を欠失しているが平 縁口縁をもち、頚部に2連止め簾状文、2段の波状文 を巡らしたもの(3)、後期前半に高崎周辺の西毛地域で 盛行した鋸歯文が施された破片(4)などがある。

小型壺はより小型のもの(5)、「くの字」状を呈する もの(6)、赤色塗彩されるもの(7)がみられる。

要は、口縁部が平縁のもの(8.9.10.11)、折り返し口縁をもつもの(12.13)がある。器形は最大幅が中位置にあり、また球胴化の傾向がある。文様は口唇部から胴下半部まで櫛描文波状文を施している。頚部に古い段階にみられる等間隔止め簾状文のみられるもの(8)など、古い施文手法がみられるものもある。



住居跡長軸、短軸の相関表



住居跡の主軸方位

小型甕(14.15)、丹塗り高坏(16.17)、高坏、台付甕(21.22)なども、その特徴は後期後半にみられる形態、 特徴を示している。

これらの土器の諸特徴は、後期弥生土器を新旧 2 時期に区分した場合、その新しい段階にある。また水田稔氏の分類による沼田市石墨遺跡 I 群土器、相京建史・三宅敦気氏によるIV期区分のIIIにあたり、後期後半に位置付けられる。なお、わずかではあるが、折り返し口縁部に刻目をもつ壺、後期前半に盛行した鋸歯文をもつ壺破片、頚部に等間隔止め簾状文が施された甕(8)にみられるようにやや古い手法が残るのも本遺跡の出土土器の特徴と考えている。

4) 生活基盤

遺跡地南側に幅20mほどの谷地が東西方向に延びている。本遺跡に住み樽式土器を使用した弥生人の水田跡の可能性を考えて、谷地を横切るように2本のトレンチを設定したが、水田耕作を思わせる遺構、土壌とも検出できなかった。しかし、この谷地が西方に向かって、急激に勾配があり、たとえ水田耕作が行われたとしても、洪水等の自然災害により壊されている可能性は大である。事実、土層の堆積状態は長期にわたって定安した土壌の堆積はみられないものと観察された。

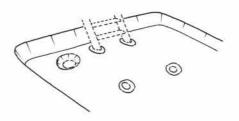
谷地を隔てて南側は平坦地形が広がるので、本遺跡 にかかわる生産の場が考えられるものの、試掘調査、 踏査等の観察でも未確認であった。

5) 弥生集落の存続期間

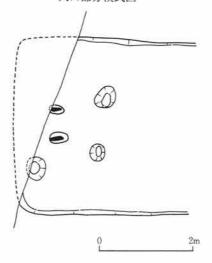
弥生集落が成立する以前は、縄文時代の陥し穴、縄 文前期から中期にかけての土器破片の出土があり、隣 接して縄文集落の存在が考えられが、弥生集落成立す るまで、集落立地の上では空白期間となっている。

弥生集落は他地域からの弥生人の移住により成立している。その時期は後期後半の中にあり、集落構成、 出土遺物から、存続期間も短く小規模な集落であった ものと考えられる。

集落の終焉は、この地域で検出された石墨遺跡 Ⅱ・ Ⅲ群土器、利根郡昭和村糸井宮前遺跡、中棚遺跡にみられる弥生土器の要素が残る古墳前期の土器はみられない。したがって、本遺跡の終焉は後期後半の中にあ

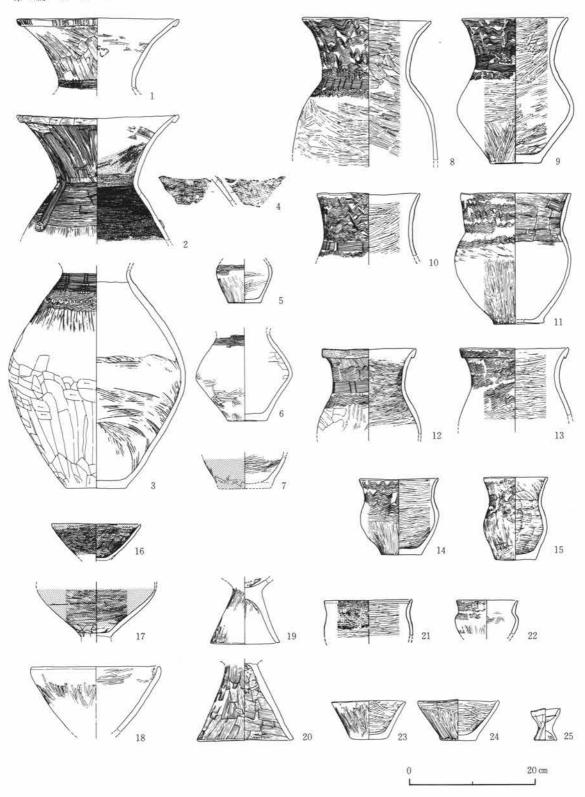


入口部分模式図



9号住居跡平面図

第7篇 ま と め



1 号(23)、 2 号(8、18)、 3 号(2、22、25)、 4 号(1、4、7)、5 号(15、17、21) 6 号(3、5、6、11、20)、7 号(10、12、13、14、16、19、24)、8 号(9)

弥生土器の組成図

るものと考えている。住居跡から出土した遺物は少なく、その多くは集落移動の折りに持ち運ばれたものと 考えている。また、火災住居の存在は集落移動の折りに、住居を消失させた可能性も考えてよいであろう。 移動の理由は不明であるが、いずれにしても、本遺跡の存続期間は、後期後半の中にあり、その期間も限ら れた短い時期にあったものと考えている。

Ⅱ 師遺跡の生産基盤

本遺跡の集落は、古墳時代中期から平安時代にわたる6世紀から10世紀にかけて形成されている。その後方にそびえる三峰山の崩落にともなう落石が群集しているため、その間隙の空間部分に住居がつくられている。集落跡の中心は、既に大江正行氏により述べられているように、さらに後方に広がる上位段丘面の後田遺跡を中心として師地域に全体に広がる大集落の南部分を占めたものと考えられる。

本遺跡の立地する段丘面は南面に広がる利根川低段丘の水田地帯と接して、極めて眺望の良い場所にある。 南面に広がる利根川低段丘地帯は今日においても、この地域の穀倉地帯となっている。

本調査では水田遺構は確認されないため推定の域をでないが、遺跡周辺には後方三峰山から流れる小河川 より形成された谷地形には各所に水田が営まれている。現在と同様、本遺跡の水田農耕を考える上で、利根 川低段丘地帯と谷地形はその最適地であろう。

参考文献

- (1) 群馬県教育委員会・財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団『新保遺跡Ⅱ─関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第18集─』 1988
- (2) 沼田市教育委員会『石墨遺跡―関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書―』1985
- (3) 相京建史・三宅敦気『棒式土器の分類―榛名山東南麓中心として―』「第三回三県シンポジウム」群馬県考古学談話会 1980
- (4) 財団法人群馬県埋藏文化財調査事業団『糸井宮前遺跡 I 関越自動車道 (新潟線) 地域埋藏文化財発掘調査報告書第8集- 』1985
- (5) 昭和村教育委員会『中棚遺跡―関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書―』1985
- (6) 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団『後田遺跡Ⅱ―関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第23集―』1988

		¥	

写 真 図 版



師遺跡と利根川・三国連山

南上空 →



師遺跡と後田遺跡

北西上空 →



師遺跡を北上空より望む

後方にJR上越線と国道17号線が見える。



師遺跡を西上空より望む

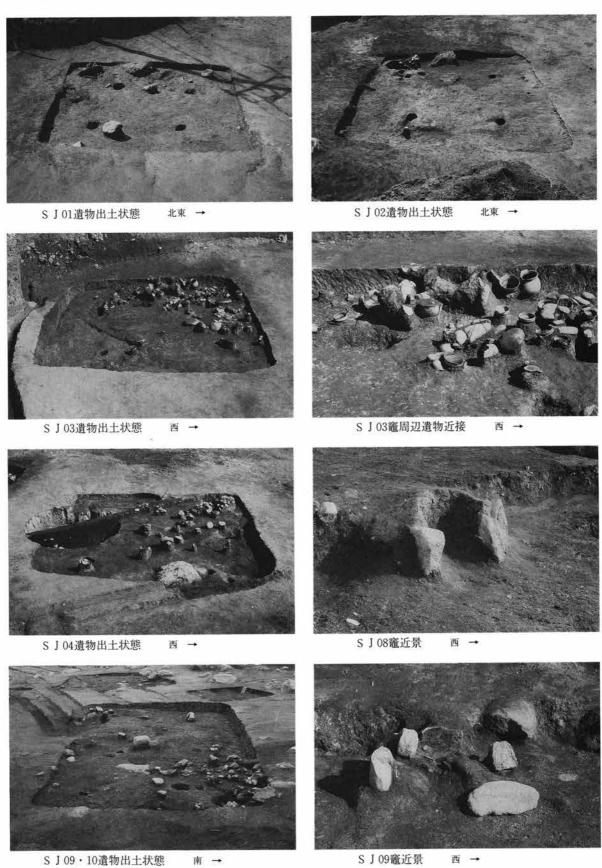
段丘は水田地帯と桑園地帯となり明瞭。

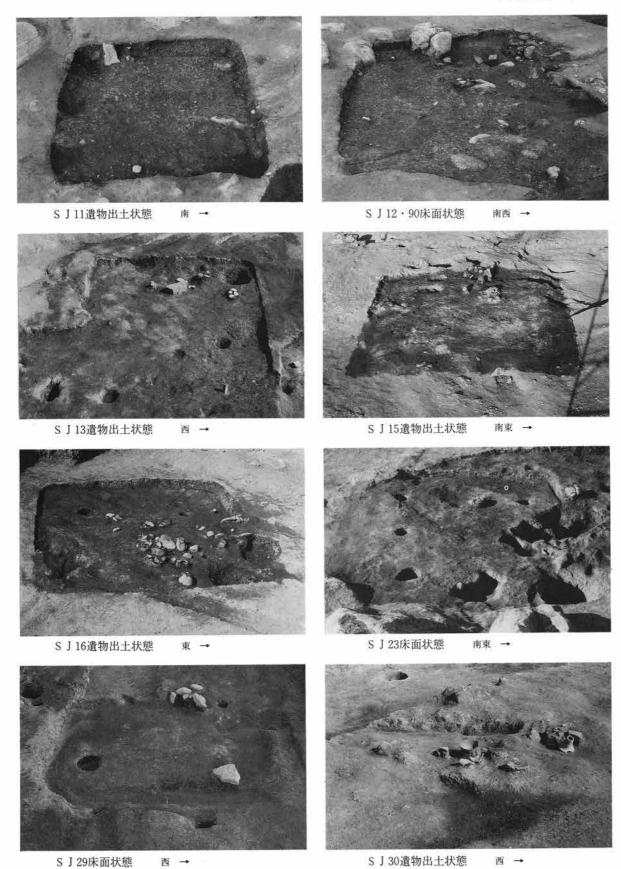


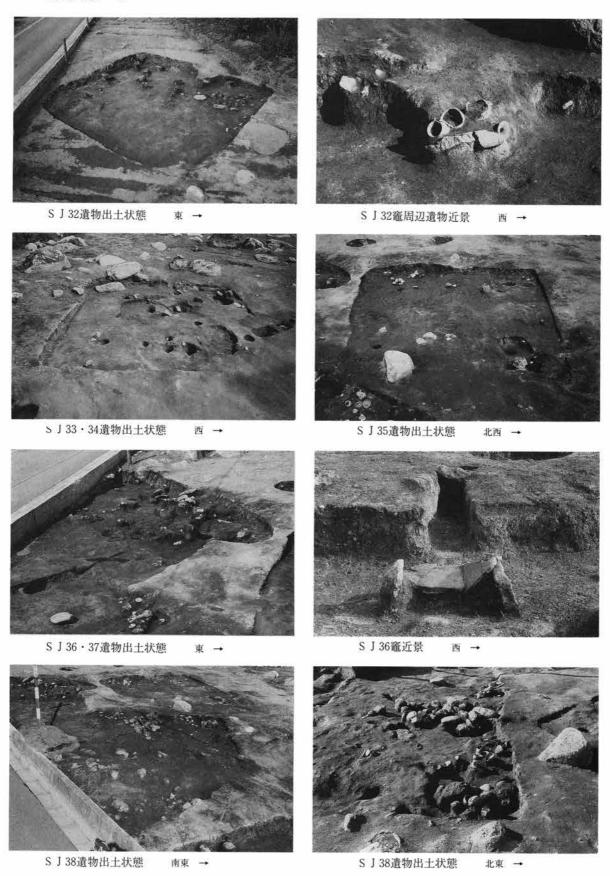
師遺跡A区近景 西 →

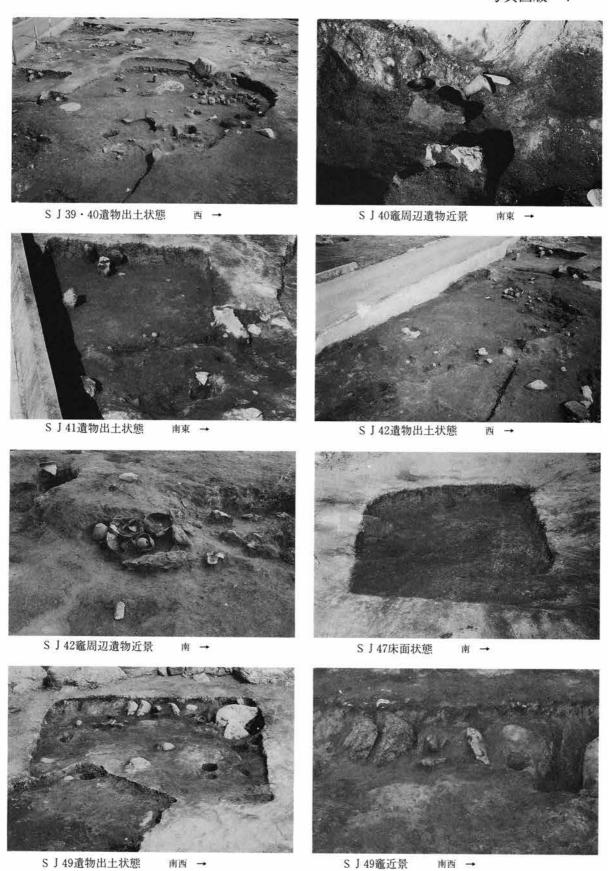


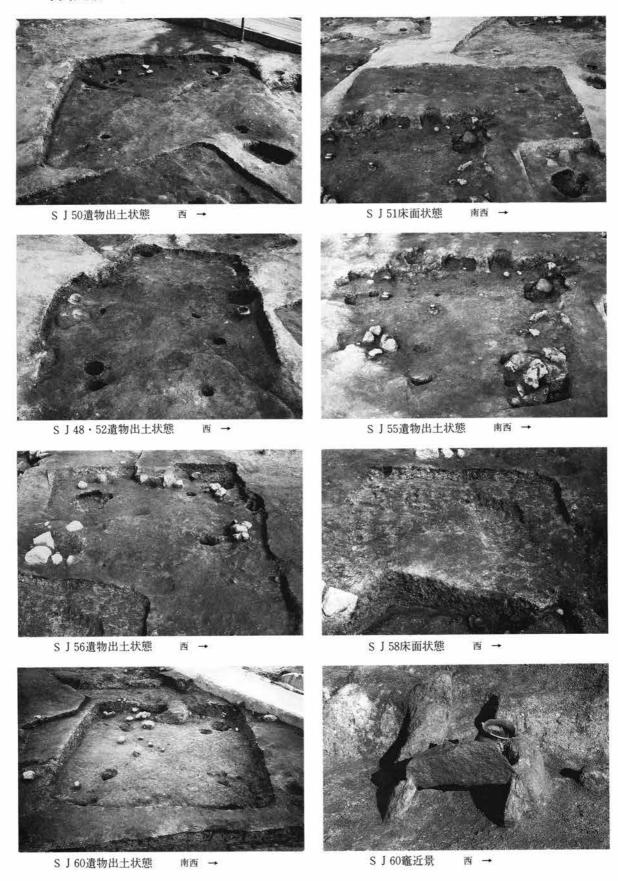
師遺跡 B・C区近景 北西 →

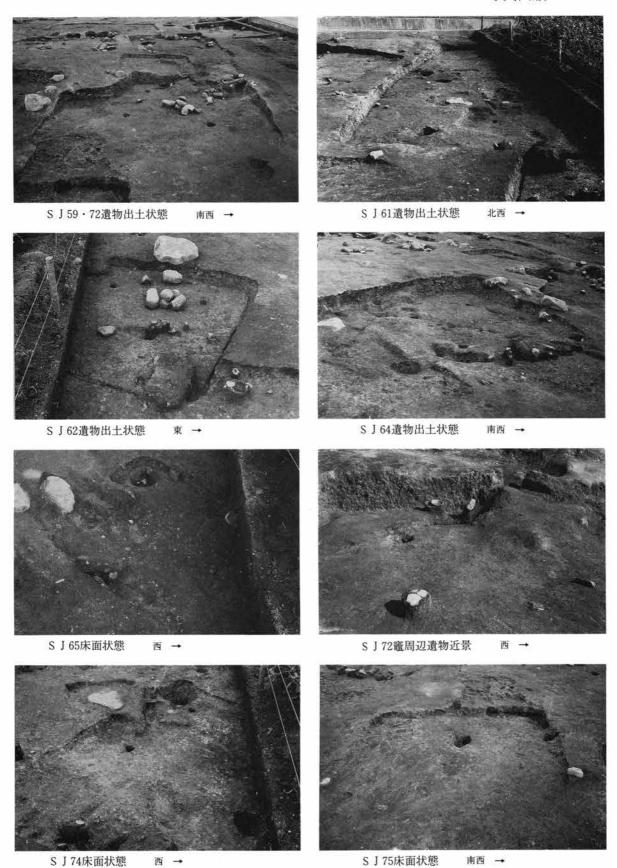


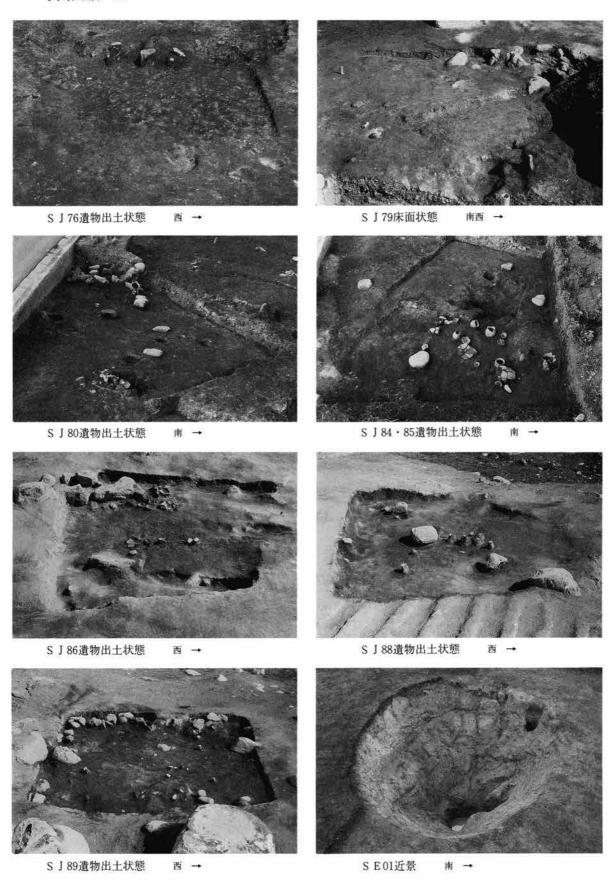


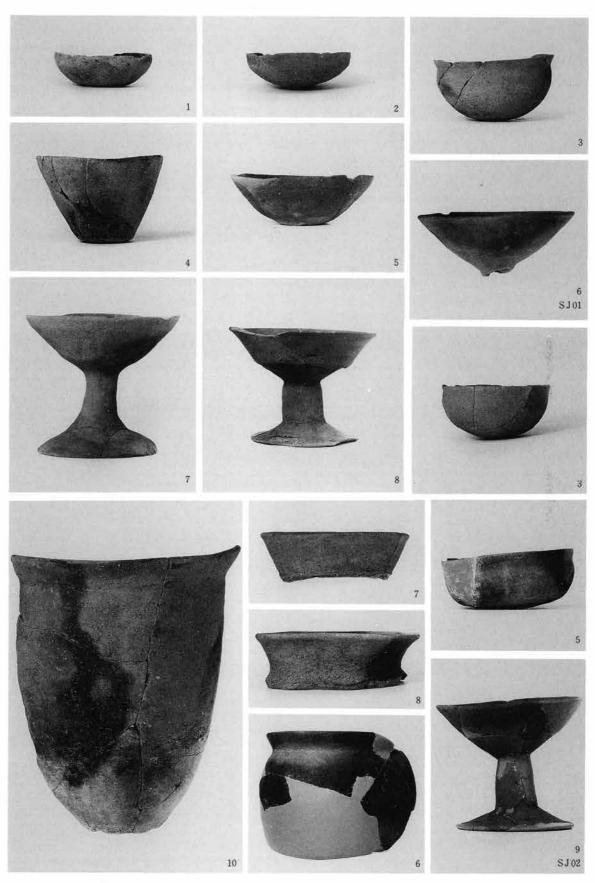






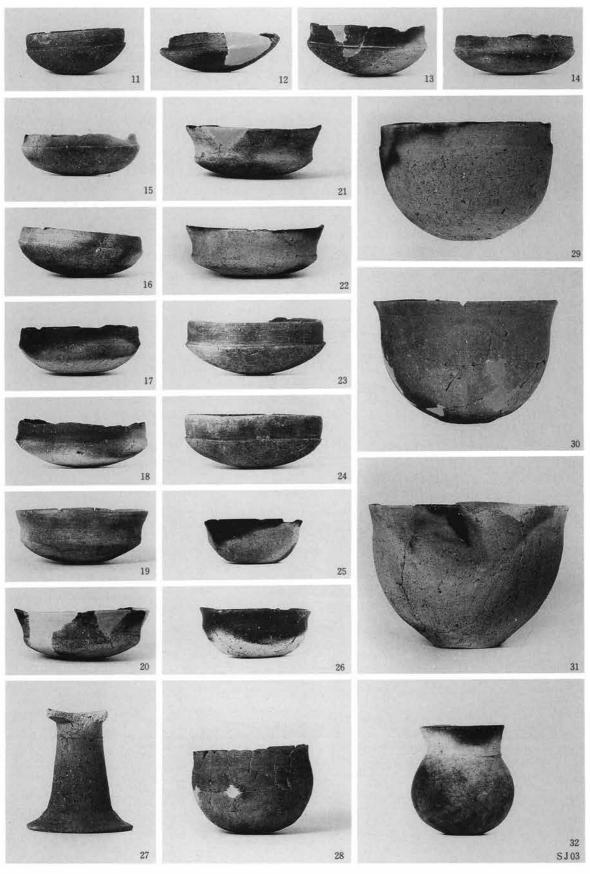




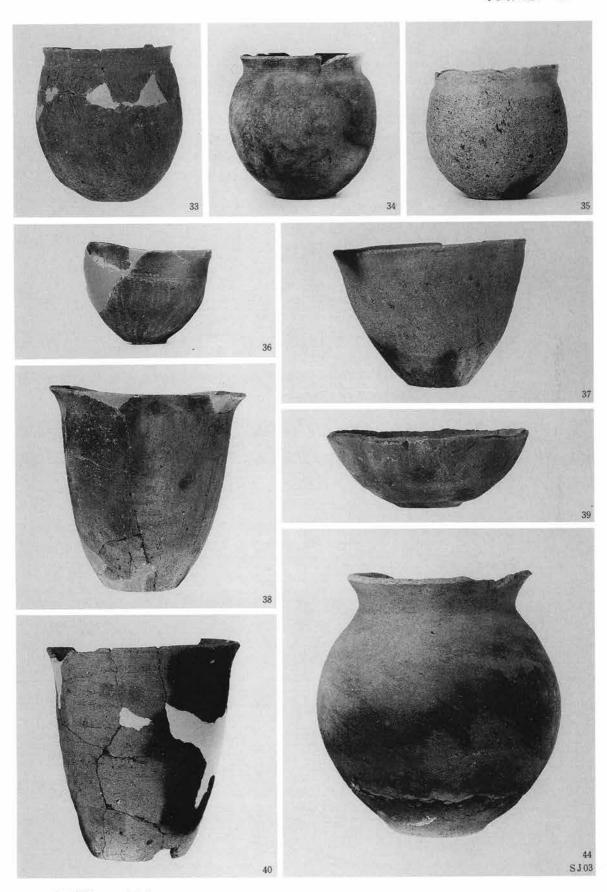


S J 01・02遺物 1:4

写真図版 12

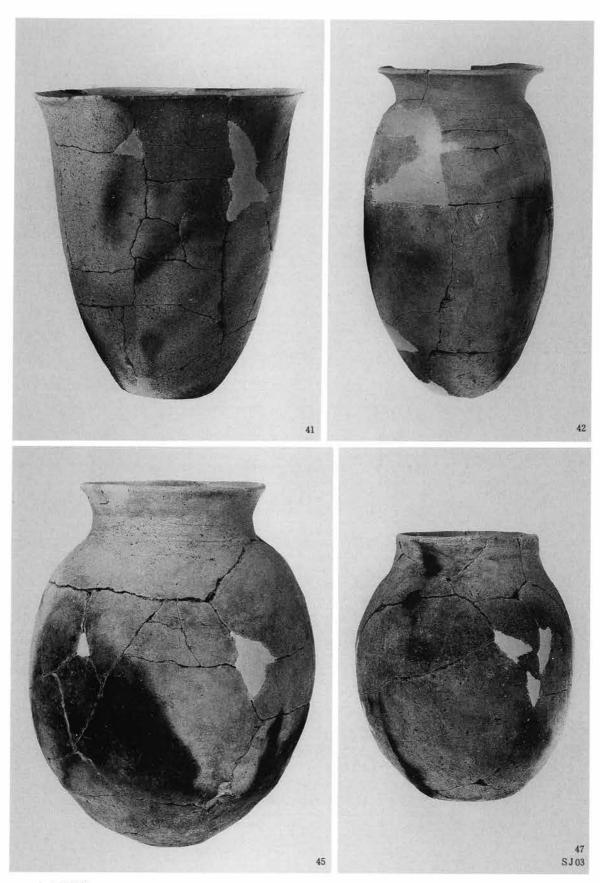


SJ03遺物 1:4

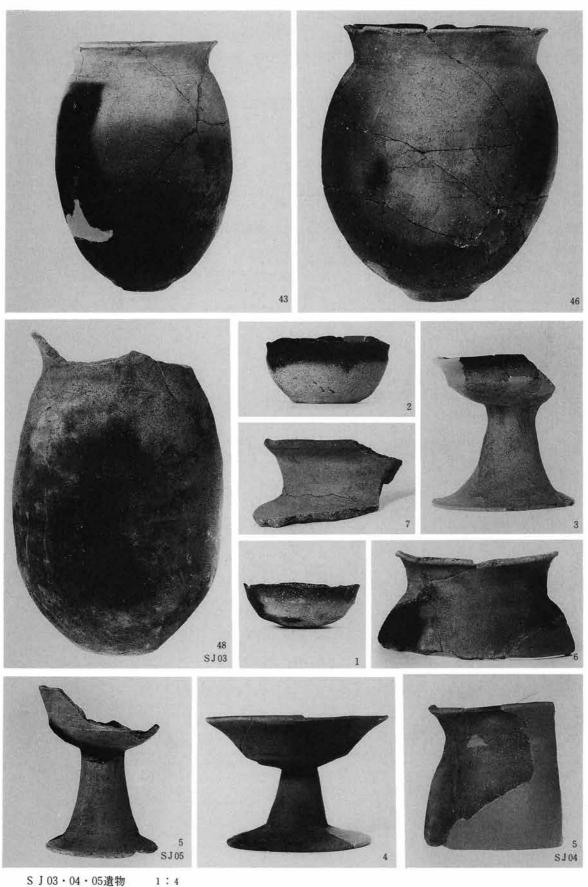


S J 03遺物 1:4

写真図版 14

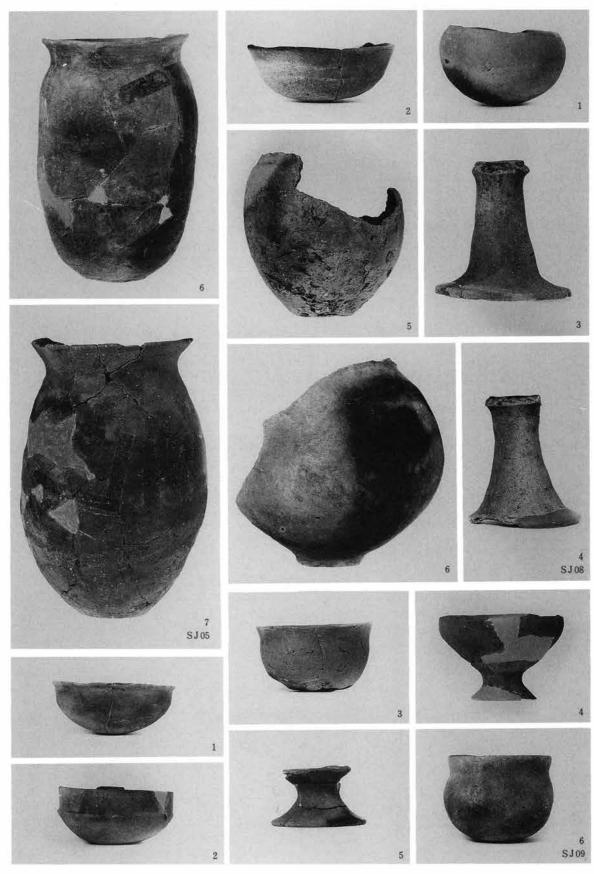


S J 03遺物 1:4



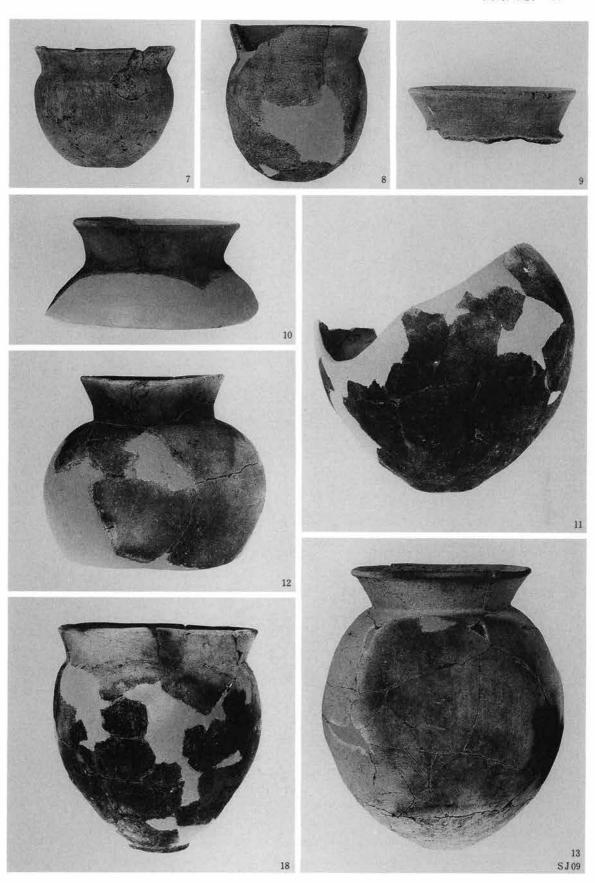
SJ03・04・05遺物

写真図版 16

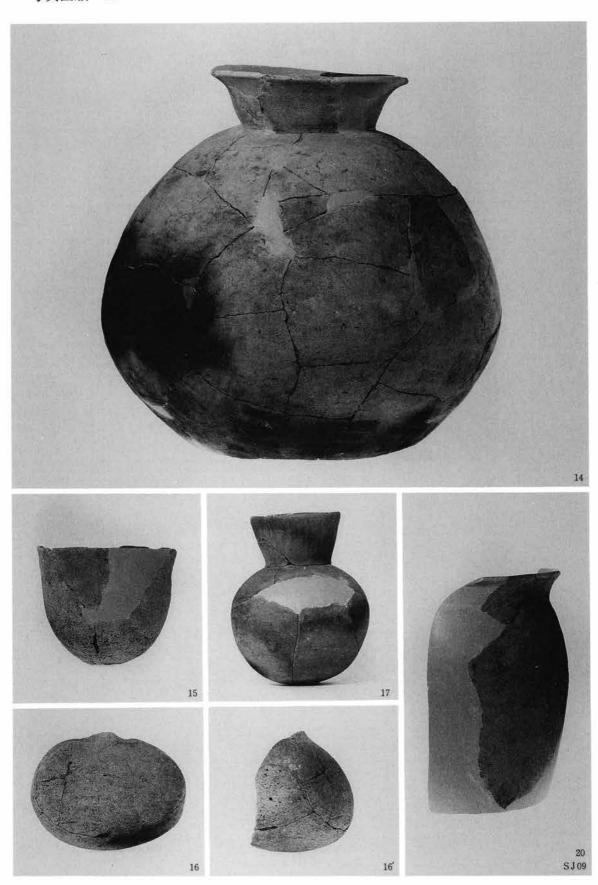


S J 05 · 08 · 09遺物 1:4

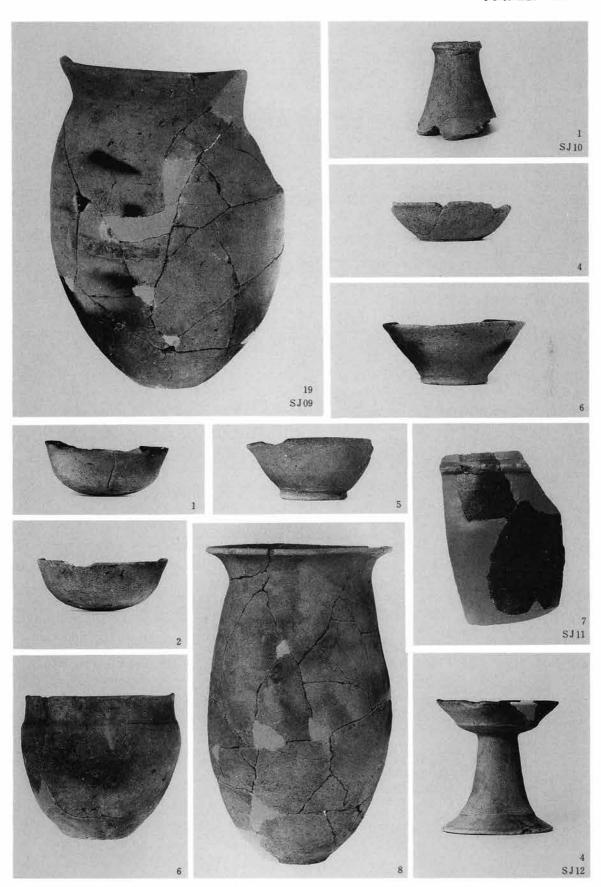
写真図版 17



SJ09遺物 1:4

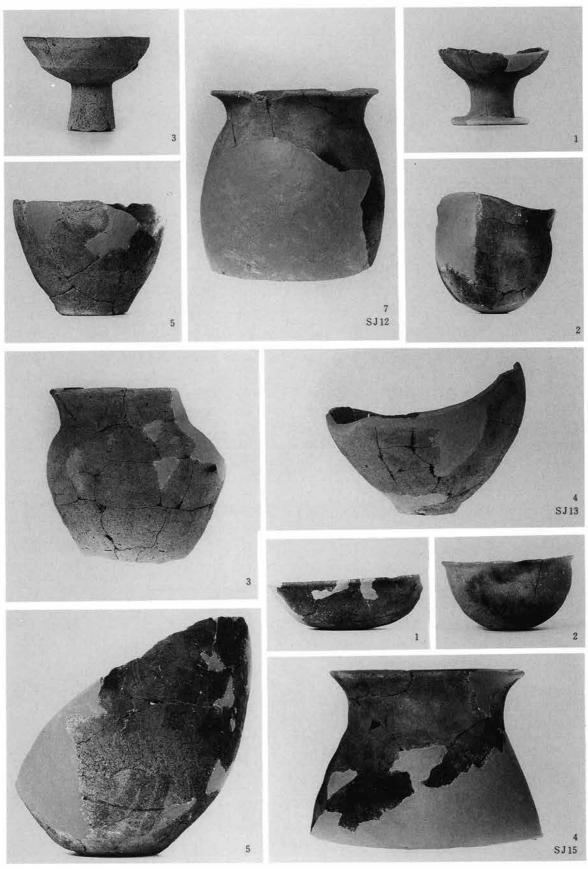


S J 09遺物 1:4



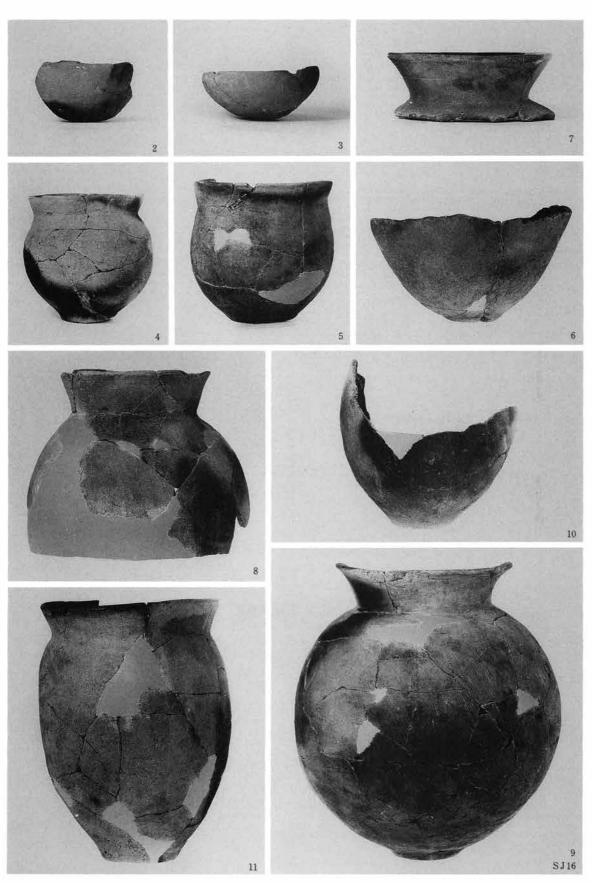
S J 09 · 10 · 11 · 12遺物 1 : 4

写真図版 20



SJ12・13・15遺物

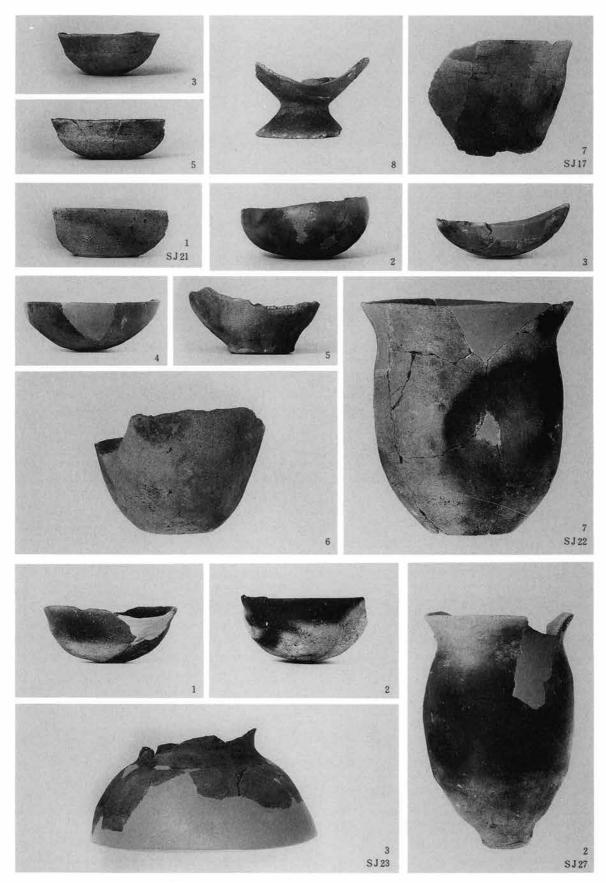
1:4



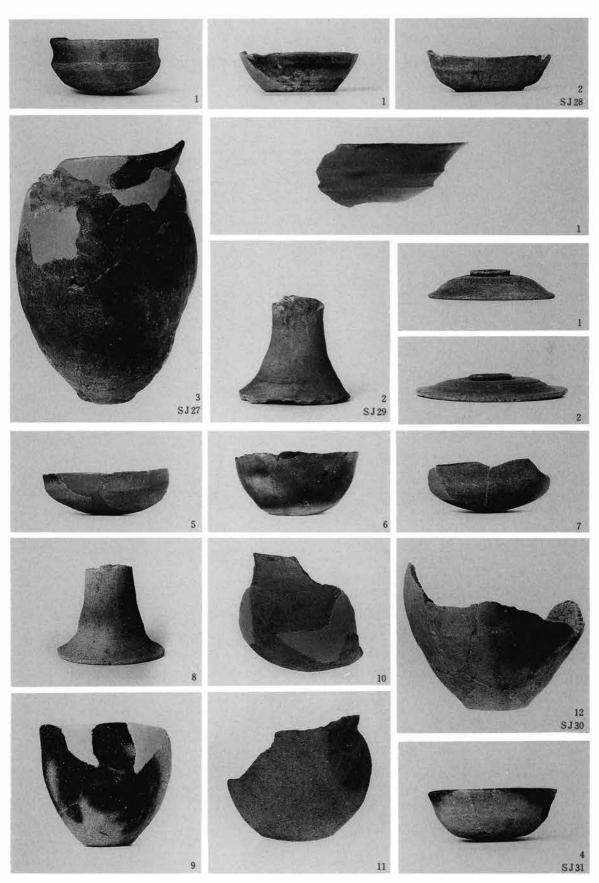
S J 16遺物 1:4

ķ:

写真図版 22



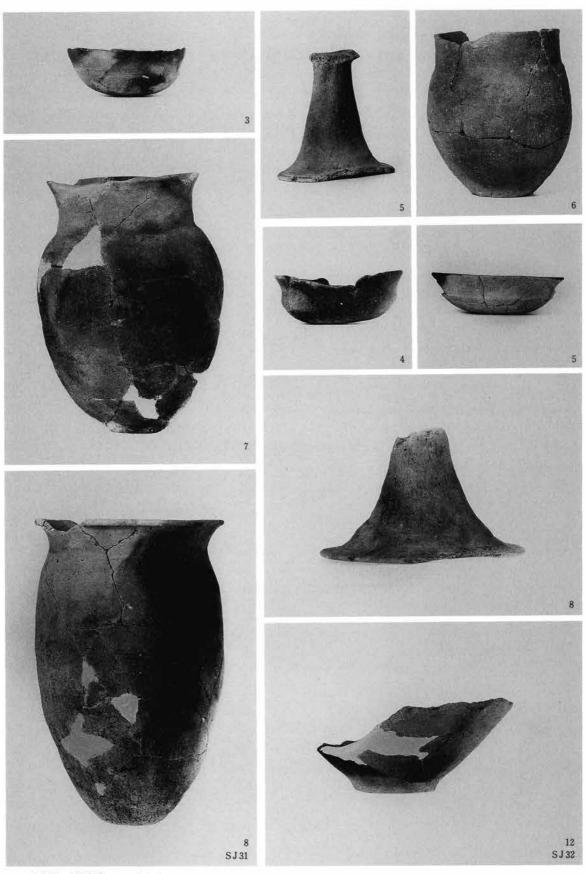
S J 17 · 21 · 22 · 23 · 27遺物 1:4



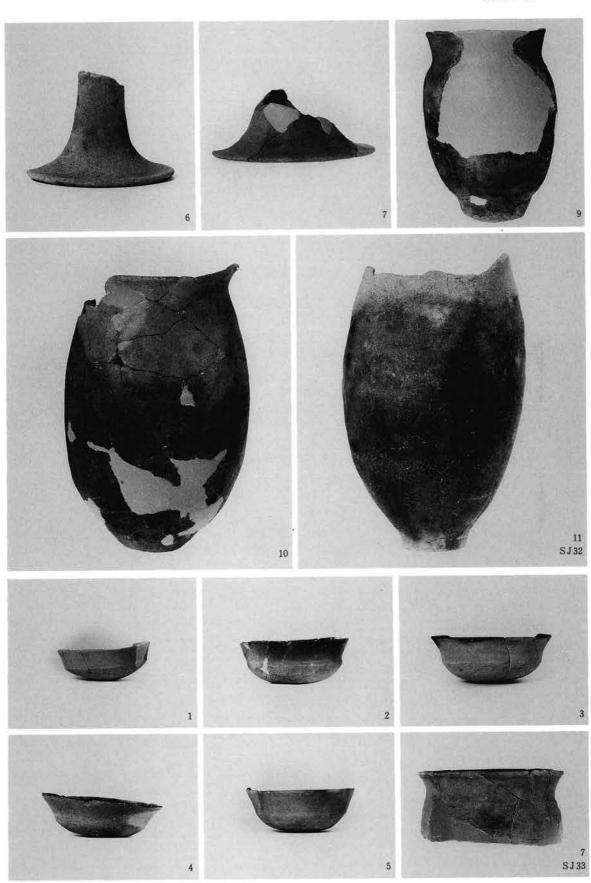
SJ27・28・29・30・31遺物

1:4

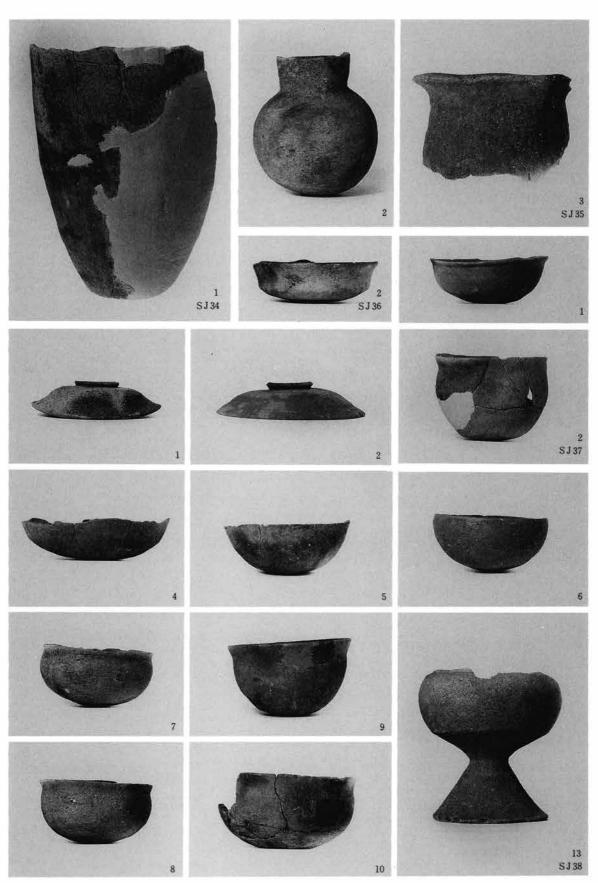
写真図版 24



S J 31・32遺物 1:4

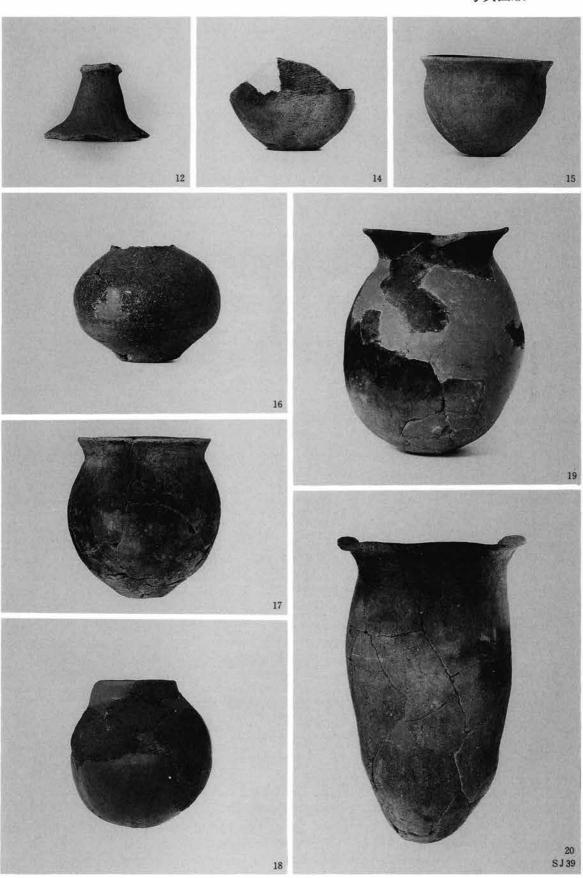


S J 32·33遺物 1:4



SJ34・35・36・37・38遺物

1:4



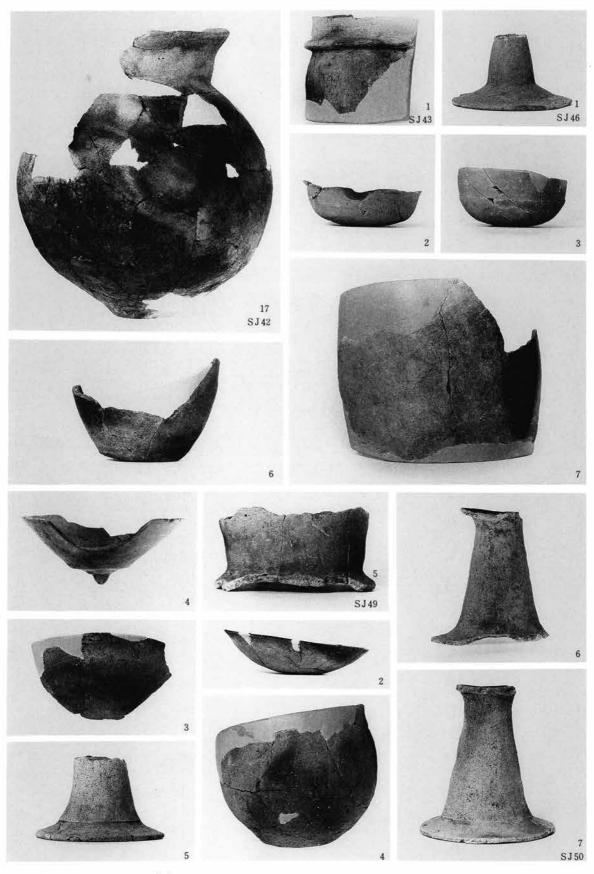
SJ39遺物 1:4



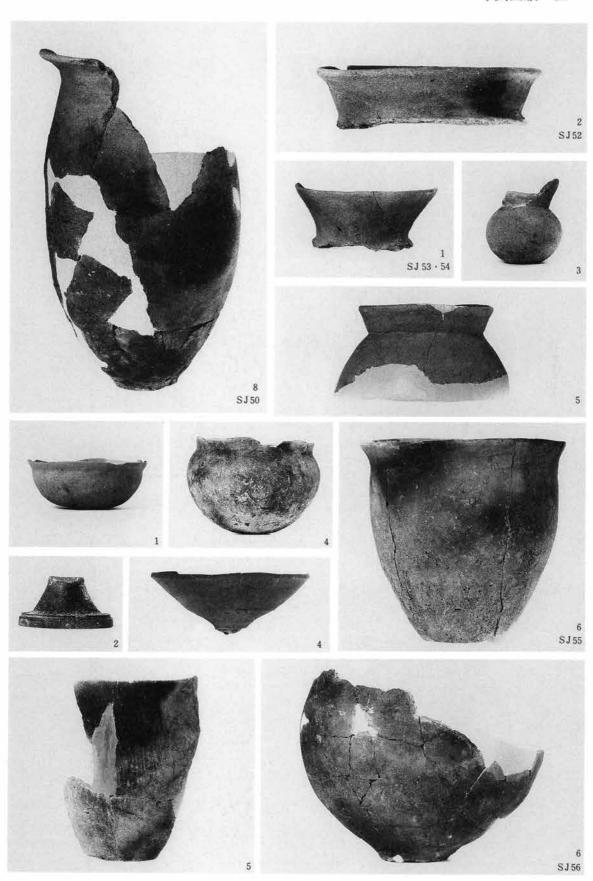
S J 40・41遺物 1:4



S J 41・42遺物 1:4

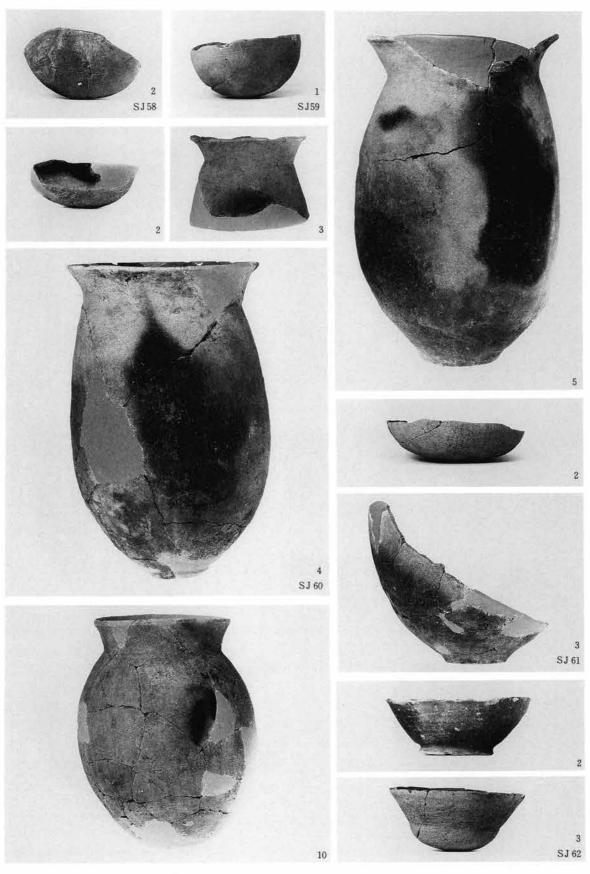


S J 42 · 43 · 46 · 49 · 50遺物



S J 50·52·53·54·55·56遺物 1:4

写真図版 32



S J 58 · 59 · 60 · 61 · 62遺物 1 : 4

SJ64・65・66・68・71・72遺物

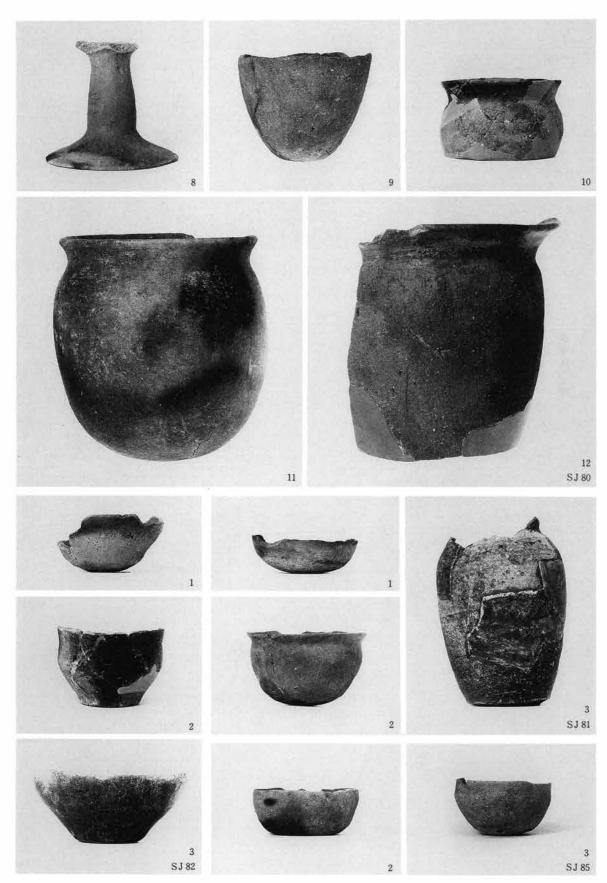
1:4

写真図版 34



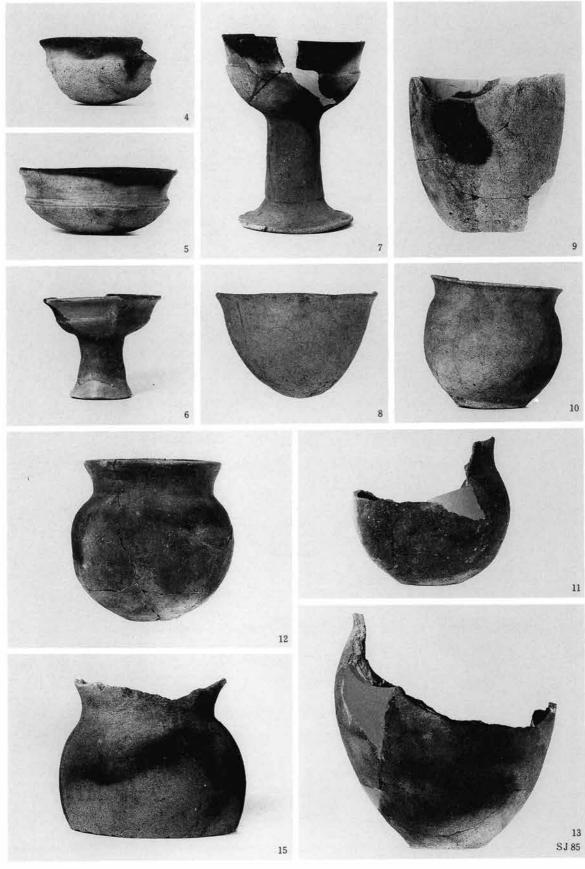
SJ74・75・76・77・79・80遺物

1:4

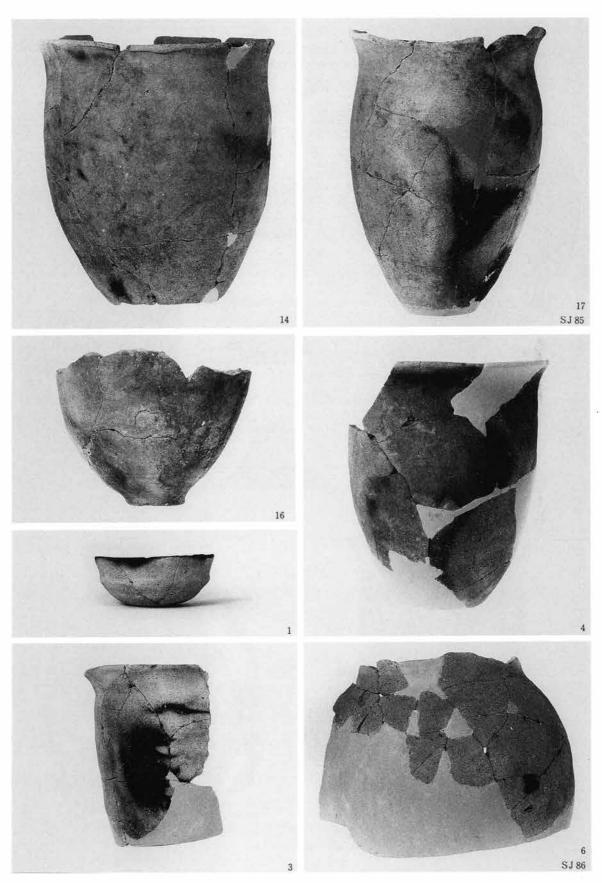


S J 80 · 81 · 82 · 85遺物 1:4

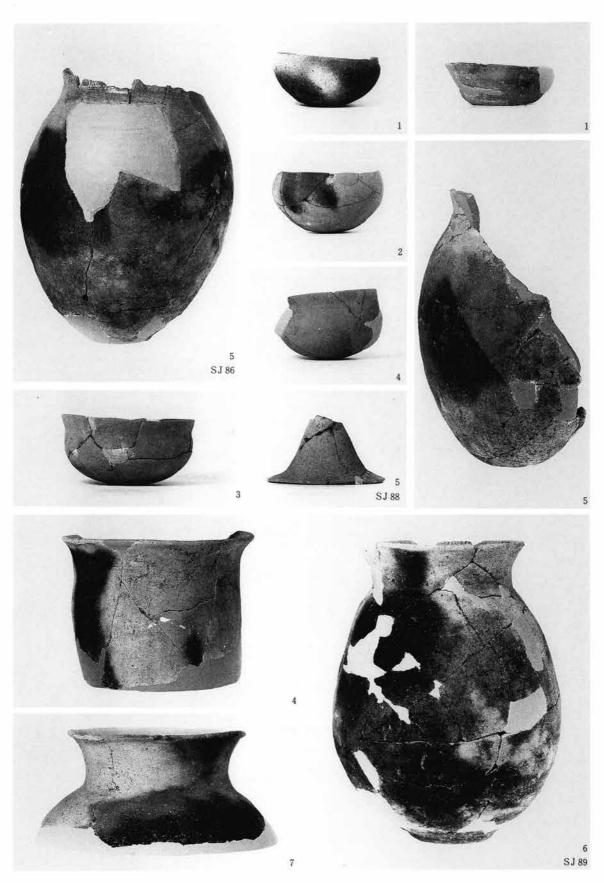
写真図版 36



SJ85遺物 1:4

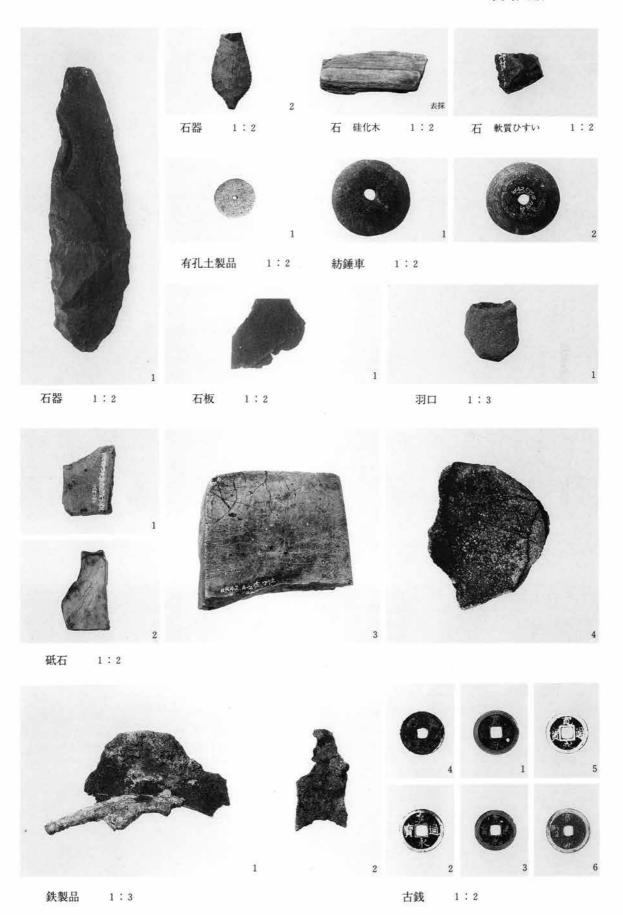


SJ85・86遺物 1:4



S J 86 · 88 · 89遺物 1:4

写真図版 39

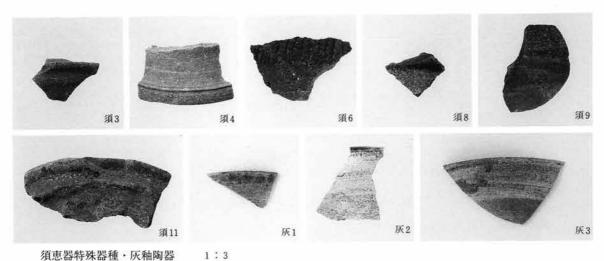


写真図版 40



墨書土器 さくら赤外750(文字のみ) 土器1:3

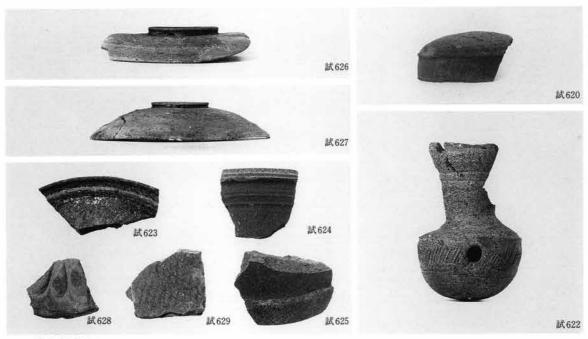
写真図版 41



須恵器特殊器種・灰釉陶器

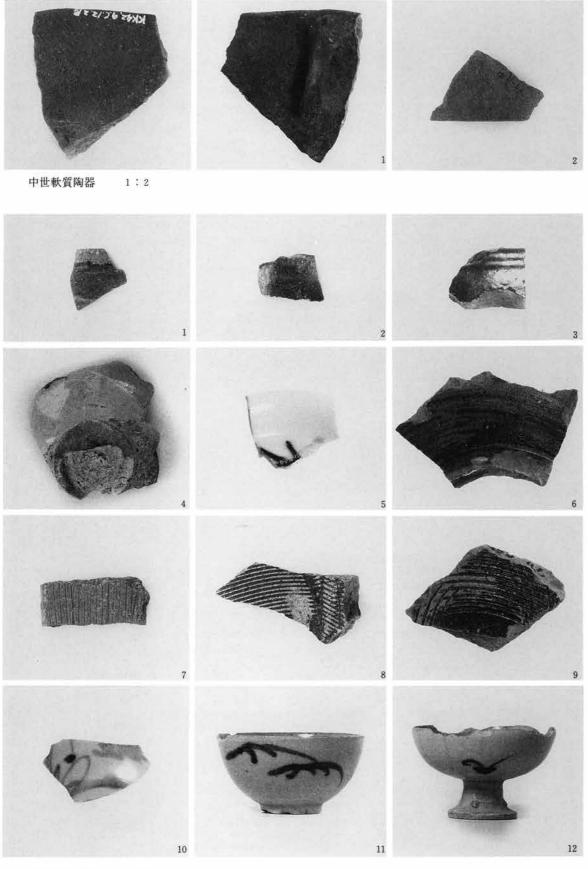


用途不明土製品 1:3



胎土分折試料 1:3

写真図版 42



近世陶·磁器 1:2

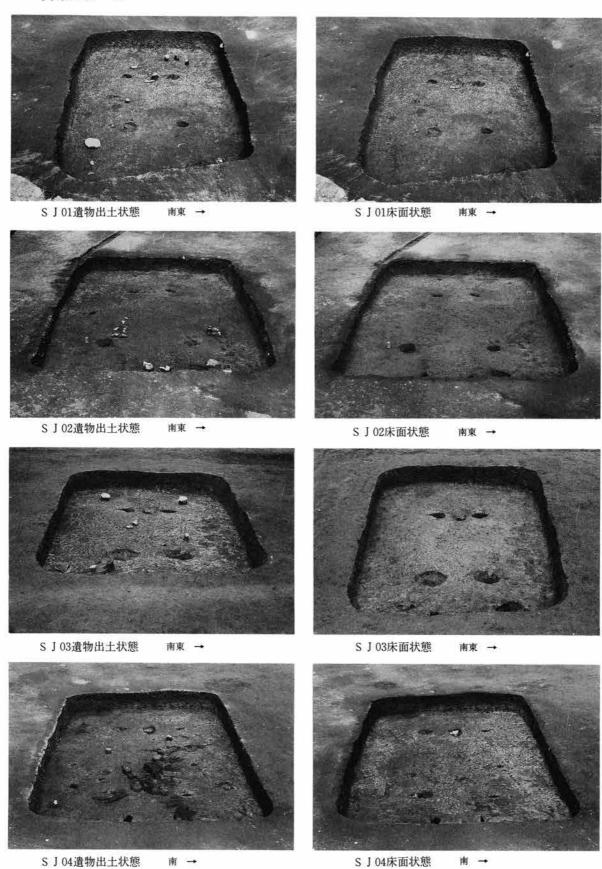


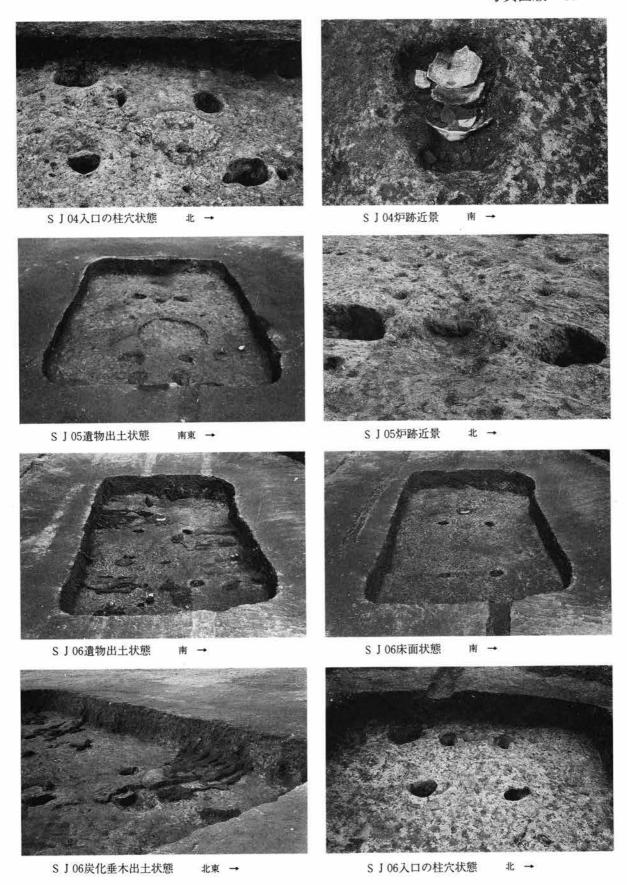
調査地近景 南東 → 後方右に戸神山



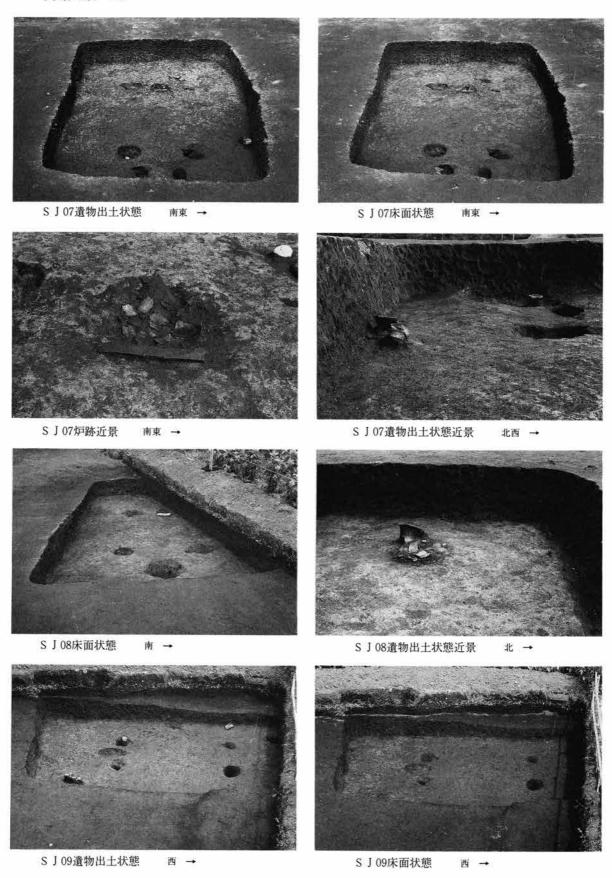
調査地近景 南 →

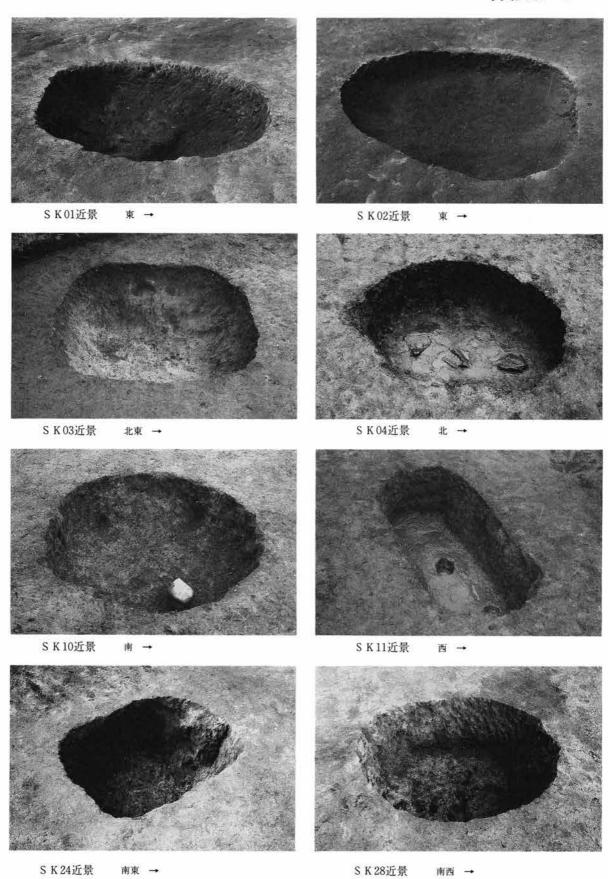
写真図版 44



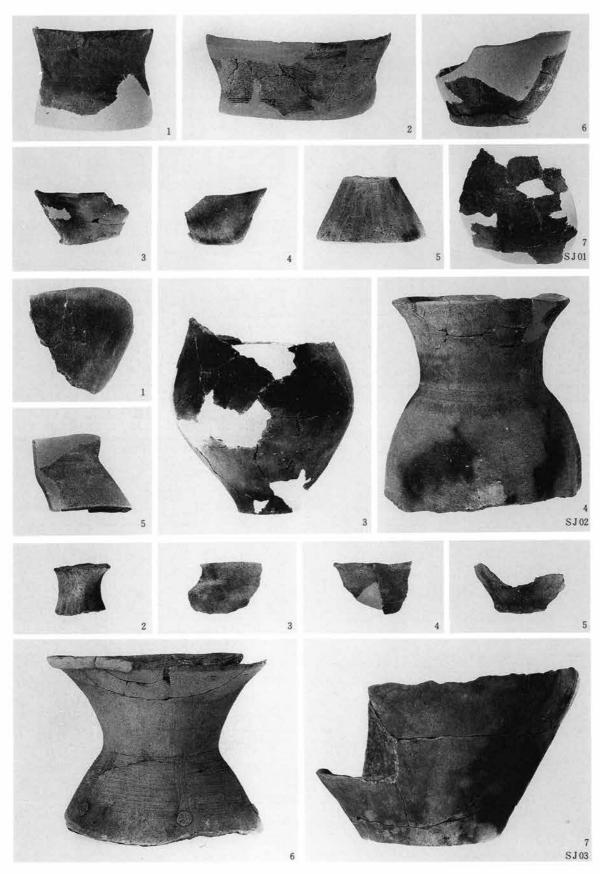


写真図版 46

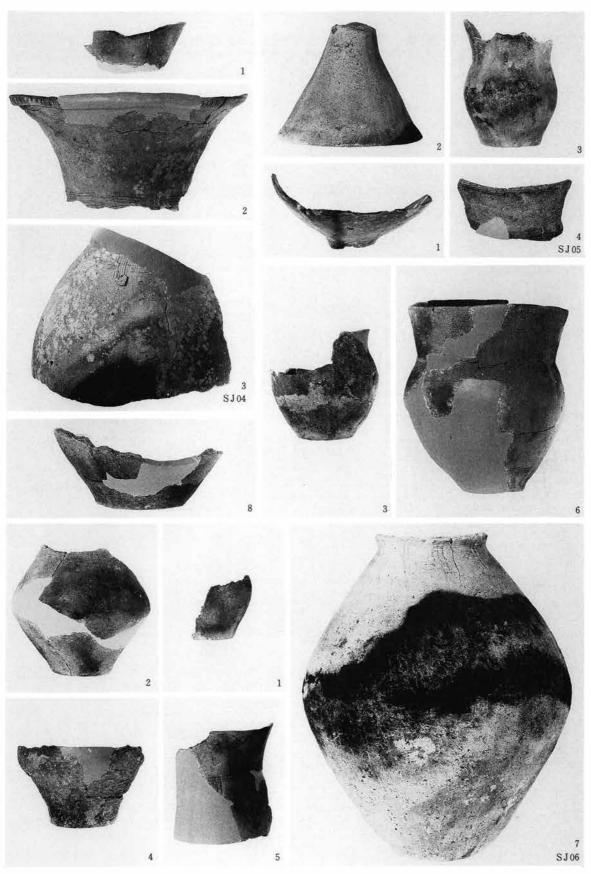




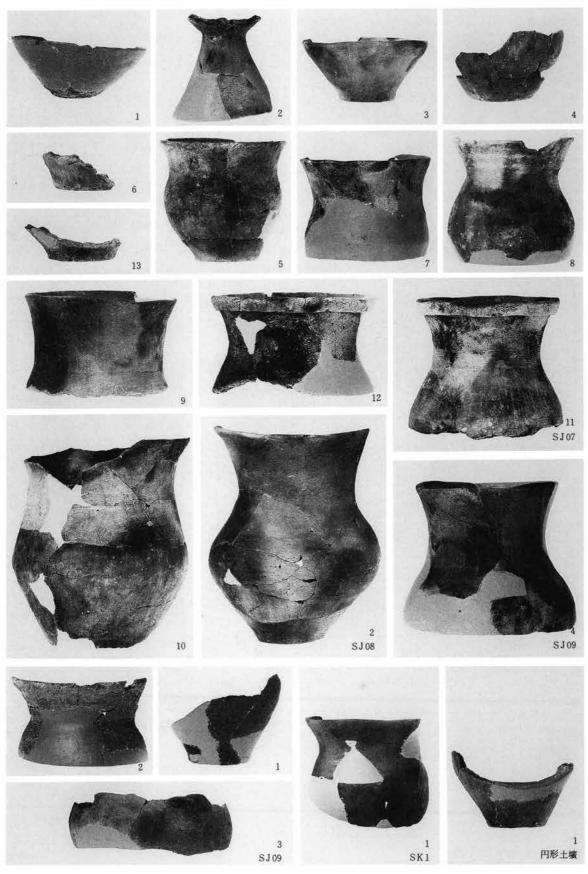
写真図版 48



SJ01・02・03遺物 1:4



S J 04 · 05 · 06遺物 1:4



S J 07 · 08 · 09 · S K 1 · 円形土壙遺物

1:4

一, 助群馬県埋蔵文化財調査事業団 調査報告書第96集— 一関越自動車(新潟線)地域埋藏 文化財発掘調査報告書第28集—

> 平成元年 9 月25日 印刷 平成元年 9 月29日 発行

編集・発行/群馬県教育委員会 前橋市大手町1丁目1番1号 電話 (0272) 23-1111

> (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 勢多郡北橘村下箱田784番地の2 電話 (0279) 52-2511

印刷/株式会社 前橋印刷所